

学生生活実態調査報告書

(詳細分析編)

2018年版

学生生活実態調査報告書 (詳細分析編)

二〇一八年版

北海道大学学務部

2018年版北海道大学学生生活実態調査報告書 (詳細分析版)

発行日 2019年3月
編集発行 北海道大学学務部学生支援課
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
TEL: 011-706-7469

北海道大学学務部

学生生活実態調査報告書

(詳細分析編)

2018年版

学生生活実態調査とは、本学学生の生活実態や本学に対する期待・要望などを把握し、学生の生活・修学・進路などの支援体制の充実を図るための基礎資料を得るとともに、入学前の学生への広報活動に活用することを目的として、4年に1回実施されているものです。この報告書は、平成29年11月に実施された調査結果をとりまとめたものです。

目次

I 調査の概要	
1 調査の目的	7
2 調査の組織	7
3 調査の対象	7
4 調査基準日	7
5 調査期間	7
6 調査方法	7
7 調査の回収状況	7
8 調査内容と集計の方法	9
9 これまでの調査の実施状況	10
10 報告書の構成と特徴	11
11 注意事項	11
II 学部学生編	
A 回答者の基本的特徴	
回答者の男女比	15
入学までの年数	16
B 家庭状況	
出身地	17
家計支持者の職業	18
家庭の年間収入	19
C 住居・通学・食事の状況	
住居形態と占有面積	20
学生寮入寮希望の有無とその理由	21
通学方法と通学時間	22
食事	23
学食の利用頻度	24
D 収入と支出の状況	
月間収入額の分布（住居形態別）	25
収入の内訳（住居形態別）	26
収入の内訳（月間収入額別）	27
月間支出額の分布（住居形態別）	28
支出の内訳（住居形態別）	29
支出の内訳（月間支出額別）	30
経済状態の実感	31
E アルバイトの状況	
アルバイトの頻度	32
アルバイトの職種	33
アルバイトの週平均就労時間	34
アルバイト収入の使いみち	35
アルバイトの理由	36
F 授業料免除と奨学金の利用状況	
授業料免除の状況	37
奨学金の利用状況と種類	38
G 課外活動とボランティア活動について	
課外活動団体への加入状況と週平均活動時間	39
ボランティア活動の状況と活動内容	40
ボランティア活動相談室の認知利用状況	41
H 北大の大学生活	
学生生活の満足度	42
一日の平均自習時間	43
自習を行う場所	44
アカデミック・サポートセンターの認知利用状況と入学後の学習意欲	45
授業への出席率	46
大学で過ごす一日の平均時間	47
対人関係	48
教員との関係	49

I	健康状態	
	身体の調子と通院状況	50
	悩み・不安	51
	カウンセリングサービスの認知状況	52
J	ハラスメント及びカルト宗教団体等の被害状況	
	自身のハラスメント等の被害経験	53
	他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験	54
	学生相談窓口の認知状況	55
K	進路の希望	
	卒業後の進路希望（全体）	56
	卒業後の進路希望（男子）	57
	卒業後の進路希望（女子）	58
	希望職種（全体）	59
	希望職種（男子）	60
	希望職種（女子）	61
	就職で重要視すること（全体）	62
	就職で重要視すること（男子）	63
	就職で重要視すること（女子）	64
	就職希望地域	65
	インターンシップへの参加経験	66
	キャリアセンターの利用状況	67
III	大学院学生編	
A	回答者の基本的特徴	
	回答者の男女比	71
	年齢	72
B	家庭状況	
	出身地	73
	主な家計支持者	74
	家計支持者の職業	75
	家庭の年間収入	76
C	住居・通学・食事の状況	
	住居形態と占有面積	77
	学生寮入寮希望の有無とその理由	78
	通学方法と通学時間	79
	食事	80
	学食の利用頻度	81
D	収入と支出の状況	
	月間収入額の分布（課程別）	82
	収入の内訳（課程別）	83
	収入の内訳（月間収入額別）	84
	月間支出額の分布（課程別）	85
	支出の内訳（課程別）	86
	支出の内訳（月間支出額別）	87
	年間の研究旅費	88
	経済状態の実感	89
E	アルバイトの状況	
	アルバイトの頻度	90
	アルバイトの職種	91
	アルバイトの週平均就労時間	92
	アルバイト収入の使いみち	93
	アルバイトの理由	94
F	授業料免除と奨学金の利用状況	
	授業料免除の状況	95
	奨学金の利用状況と種類	96
	日本学術振興会特別研究員の給与	97

G	大学院学生の研究活動	
	所属学会数（全体）	98
	日本の学会 所属学会数	99
	国際学会 所属学会数	100
	日本の研究集会・学会等の発表回数	101
	海外の研究集会・国際学会等の発表回数	102
	論文執筆数	103
	語学力	104
	海外での調査研究経験	105
	海外留学の経験	106
	海外留学の意向	107
	研究・学業を進める上で大学に要望すること	108
H	北大の大学生活	
	大学院入学の目的	109
	北大大学院の志望理由と志望順位	110
	出身大学等	111
	大学生活の満足度	112
	一日の平均研究・学習時間	113
	研究・学習を行う場所	114
	入学後の研究意欲	115
	大学で過ごす一日の平均時間	116
	対人関係	117
	教員との関係	118
I	健康状態	
	身体の調子と通院状況	119
	悩み・不安	120
	カウンセリングサービスの認知状況	121
J	ハラスメント及びカルト宗教団体等の被害状況	
	自身のハラスメント等の被害経験	122
	他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験	123
	学生相談窓口の認知状況	124
K	進路の希望	
	修了後の進路希望（全体）	125
	大学院（博士（後期）課程）に進学しない理由	126
	希望職種（修士課程）	127
	希望職種（博士（後期）課程／専門職学位課程）	128
	就職で重要視すること（全体）	129
	就職で重要視すること（修士課程）	130
	就職で重要視すること（博士（後期）課程／専門職学位課程）	131
	就職希望地域	132
	インターンシップへの参加経験	133
	キャリアセンターの利用状況	134
付録：学生生活実態調査調査項目		
	調査対象学生への協力依頼文書	137
	調査票（学部学生用）	138
	調査票（大学院学生用）	148

Ⅰ 調査の概要

調査の概要

1 調査の目的

本調査は、本学学生の生活実態や本学に対する期待・要望などを把握し、学生の生活・修学・進路などの支援体制の充実を図るための基礎資料を得ることとともに、入学前の学生への広報活動に活用することを目的とする。

2 調査の組織

上記の目的のために、北海道大学学生委員会学生生活専門委員会に、以下の構成員で学生生活実態調査ワーキング・グループを設け、作業にあたった。

学生生活実態調査ワーキング・グループ委員

(平成 29～30 年度)

座長 上田信太郎 (法学研究科・教授)

曾根 輝雄 (国際食資源学院・教授)

加藤千恵次 (医理工学院・教授)

石川 達也 (公共政策学教育部・教授)

3 調査の対象

平成 29 年 10 月 1 日現在、在籍している正規学生(休学者、外国人留学生、社会人学生を除く。)の中から、学部学生 25%、大学院学生 50%の割合で無作為抽出した学生を対象とする。

4 調査基準日

平成 29 年 11 月 1 日現在

5 調査期間

平成 29 年 11 月 1 日(水)～平成 29 年 12 月 13 日(水)

6 調査方法

インターネットを利用したウェブ・ベース方式で、抽出した調査対象学生に対し、原則として E-mail により調査依頼文書を送付し、調査対象学生が学内外のパソコンもしくは携帯電話から回答する

7 調査の回収状況

平成 29 年度学生生活実態調査の学部・研究科等別の回収・回答状況は次の表のとおりである。

調査回収・回答状況一覧

(学部別)

学 部	A	B	C	D	E	F
	調査対象学生数 算出基準数*	調査対象学生数	追加抽出学生数	調査回答数	回収率(%) (D/(B+C)×100)	回答率(%) (D/A×100)
文 学 部	592	148	88	52	22.03	8.78
教 育 学 部	184	46	23	17	24.64	9.24
法 学 部	656	164	112	55	19.93	8.38
経 済 学 部	608	152	127	53	19.00	8.72
理 学 部	960	240	208	78	17.41	8.13
医 学 部	1,124	281	277	75	13.44	6.67
歯 学 部	264	66	62	14	10.94	5.30
薬 学 部	300	75	42	34	29.06	11.33
工 学 部	2,180	545	0	246	45.14	11.28
農 学 部	688	172	112	54	19.01	7.85
獣 医 学 部	204	51	46	17	17.53	8.33
水 産 学 部	644	161	92	53	20.95	8.23
総 合 教 育 部	2,576	644	365	220	21.80	8.54
計	10,980	2,745	1,554	968	22.52	8.82

* 調査対象学生数算出基準数=在籍学生数-(休学者数+外国人留学生数)

(修士課程・研究科等別)

研 究 科 等 別	A	B	C	D	E	F
	調査対象学生数 算出基準数	調査対象学生数	追加抽出学生数	調査回答数	回収率(%) (D/(B+C)×100)	回答率(%) (D/A×100)
文 学 研 究 科	110	55	8	22	34.92	20.00
教 育 学 院	48	24	4	10	35.71	20.83
法 学 研 究 科	24	12	0	5	41.67	20.83
経 済 学 院、経 済 学 研 究 科	14	7	4	3	27.27	21.43
理 学 院	240	120	46	48	28.92	20.00
医 学 院、医 学 研 究 科	52	26	0	16	61.54	30.77
工 学 院、工 学 研 究 科	678	339	0	222	65.49	32.74
農 学 院	302	151	65	49	22.69	16.23
水 産 科 学 院	202	101	0	64	63.37	31.68
国際広報メディア・観光学院	24	12	11	3	13.04	12.50
情 報 科 学 研 究 科	326	163	0	91	55.83	27.91
環 境 科 学 院	240	120	0	70	58.33	29.17
生 命 科 学 院	230	115	0	57	49.57	24.78
保 健 科 学 院	82	41	4	18	40.00	21.95
総 合 化 学 院	274	137	0	75	54.74	27.37
国 際 食 資 源 学 院	14	7	4	2	18.18	14.29
医 理 工 学 院	16	8	0	4	50.00	25.00
計	2,876	1,438	146	759	47.92	26.39

(博士(後期)課程・研究科等別)

研 究 科 等 別	A	B	C	D	E	F
	調査対象学生数 算出基準数	調査対象学生数	追加抽出学生数	調査回答数	回収率(%) (D/(B+C)×100)	回答率(%) (D/A×100)
文 学 研 究 科	64	32	0	13	40.63	20.31
教 育 学 院	50	25	23	5	10.42	10.00
法 学 研 究 科	18	9	4	4	30.77	22.22
経 済 学 院、経 済 学 研 究 科	14	7	4	3	27.27	21.43
理 学 院	92	46	16	18	29.03	19.57
医 学 院、医 学 研 究 科	332	166	50	51	23.61	15.36
歯 学 院、歯 学 研 究 科	76	38	12	12	24.00	15.79
工 学 院、工 学 研 究 科	46	23	0	15	65.22	32.61
農 学 院	40	20	0	10	50.00	25.00
獣 医 学 院、獣 医 学 研 究 科	44	22	0	19	86.36	43.18
水 産 科 学 院	20	10	0	8	80.00	40.00
国 際 広 報 メ デ ィ ア ・ 観 光 学 院	16	8	4	3	25.00	18.75
情 報 科 学 研 究 科	52	26	0	16	61.54	30.77
環 境 科 学 院	68	34	0	17	50.00	25.00
生 命 科 学 院	94	47	0	20	42.55	21.28
保 健 科 学 院	20	10	4	7	50.00	35.00
総 合 化 学 院	94	47	0	30	63.83	31.91
医 理 工 学 院	6	3	0	1	33.33	16.67
国 際 感 染 症 学 院	8	4	0	3	75.00	37.50
計	1,154	577	117	255	36.74	22.10

(専門職学位課程・研究科等別)

研 究 科 等 別	A	B	C	D	E	F
	調査対象学生数 算出基準数	調査対象学生数	追加抽出学生数	調査回答数	回収率(%) (D/(B+C)×100)	回答率(%) (D/A×100)
法 学 研 究 科	82	41	8	15	30.61	18.29
経 済 学 研 究 科	30	15	4	5	26.32	16.67
公 共 政 策 学 教 育 部	34	17	0	7	41.18	20.59
計	146	73	12	27	31.76	18.49

8 調査内容と集計の方法

本調査の調査項目は巻末に添付したが、学部学生 80 項目、大学院学生 90 項目の設問（自由記述含む）について各単純集計並びにクロス集計解析を行った。

9 これまでの調査の実施状況

本調査は1949年7月の第1回調査以来15回目となる。第6回までは不定期に行われており、第7回以降第10回までは隔年で実施、第11回から4年毎の実施となった。大学院学生を対象に含めたのは第4回、第5回、第8～今回で、10回目である。

今回の回答率は、学部学生22.52%、大学院学生44.05%であった。

学生生活実態調査実施状況一覧

回数	調査年月	対象学生	抽出率	在籍者数	対象学生数	回収(答)数	回収(答)率	調査方法	
第1回	1949年7月	学部男女	1/3	3,352	1,352	568	50.99	配付自記	
第2回	1951年6月	学部男女	17.62	4,971	876	533	60.84	配付自記	
			養	2,282	330	210	63.64		
			専	2,689	546	323	59.16		
第3回	1954年6月	学部男女	15.59	4,990	828	565	68.12	配付自記	
			養文	470	80	56	70.00		
			養理	1,716	297	215	72.39		
			専門	2,804	451	294	65.19		
第4回	1959年12月	学部及び 大学院・ 男女	22.00	5,653	1,239	493	39.79	配付自記	
			養	2,398	385	170	44.04		
			専	2,720	417	230	55.15		
			院	535	93	93	21.28		
第5回	1968年11月	学部及び 大学院・ 男女	21.00	9,746	2,048	1,286	62.80	配付自記	
			養	4,364	870	422	48.51		
			専	4,076	806	632	78.41		
			院	1,306	371	232	62.53		
第6回	1981年11月	学部男女	25.00	9,678	2,422	1,481	62.60	配付自記	
			養	4,572	1,143	439	39.55		
			専	5,106	1,279	1,042	81.47		
第7回	1991年11月	学部男女	20.00	10,958	2,172 (2,091)	1,396 ()内は 配付数	66.70	配付自記	
第8回	1993年11月	学部男女	20.00	11,207	11,055	1,358	71.32	配付自記	
			修士・文	100.00	192	179	118		77.63
			修士・理	20.00	1,812	1,729	260		73.86
			博士・文	100.00	116	95	52		61.90
			博士・理	40.00	946	757	237		73.16
第9回	1995年11月	学部男女	20.00	11,216	11,061	1,431	68.80	配付自記	
			修士	20.00	2,575	2,429	345		70.99
			博士	20.00	1,501	1,256	189		72.97
第10回	1997年11月	学部	20.00	11,280	10,997	1,320	58.51	配付自記	
			修士	50.00	2,780	2,611	959		68.89
			博士	100.00	1,825	1,502	932		51.07
第11回	2001年11月	学部	20.00	10,621	10,274	1,185	57.64	配付自記	
			修士	50.00	3,204	2,896	776		53.44
			博士	50.00	2,393	1,774	495		55.56

回数	調査年月	対象学生	抽出率	在籍者数	対象学生数	回収(答)数	回収(答)率	調査方法
第12回	2005年11月	学部	20.00	11,111	10,701	1,033	48.25	ウェブ・ ベース方式
		修士	50.00	3,347	3,031	914	60.38	
		博士	50.00	2,359	1,828	429	46.68	
		専門職	50.00	258	240	47	38.84	
第13回	2009年11月	学部	25.00	11,570	11,239	1,182	42.03	ウェブ・ ベース方式
		修士	50.00	3,467	3,097	1,044	67.22	
		博士	50.00	2,331	1,637	379	46.05	
		専門職	50.00	372	360	71	39.44	
		大学院で課程等不明				(36)		
第14回	2013年11月	学部	25.00	11,340	11,051	1,008	28.43	ウェブ・ ベース方式
		修士	50.00	3,481	2,893	742	50.68	
		博士	50.00	2,312	1,216	244	33.52	
		専門職	50.00	305	237	49	30.82	
第15回	2017年11月	学部	25.00	11,368	10,980	968	22.52	ウェブ・ ベース方式
		修士	50.00	3,601	2,876	759	47.92	
		博士	50.00	2,255	1,154	255	36.74	
		専門職	50.00	208	146	27	31.76	

(注1) 対象学生には、休学者及び外国人留学生は含まない。第4・5・8～今回は大学院学生が含まれる。第14回から対象学生には、社会人学生を含まない。

(注2) 対象学生数の欄に記載されている数値は、第1回～第7回の調査では在籍者数に抽出率を掛けた調査対象の数、第8回～第13回は「在籍者数－(休学者数＋外国人留学生数)」、第14回以降は「在籍者数－(休学者数＋外国人留学生数＋日本人社会人学生数)」である。

(注3) 「配付日記」とは、調査対象者に調査票を手渡し、後に研究科・学部等の窓口で回収したもの。「ウェブ・ベース方式」とは、調査対象者にURL・ログインIDを知らせ、学内外のネットワーク端末から、インターネットを利用して調査対象項目に回答してもらう方法。

10 報告書の構成と特徴

- (1) 本報告書では、各設問に対する回答の集計結果を「学部学生編」と「大学院学生編」に分けて掲載した。また、巻末に本調査の調査項目を掲載した。
- (2) 本報告書では、学部・研究科等別、または男女別の集計を基本とし、調査項目によっては、出身地別等それ以外の区分による集計を行った。またできる限り、過去(2013年・2009年)の調査結果をあわせて掲載するようにした。
- (3) 編集に際しては、項目ごとに最もふさわしい指標によるクロス集計を心がけ、できる限り図表化した。解説の記述は基本的に事実の提示にとどめ、その解釈について、多くは読者の判断にゆだねることとした。
- (4) 「北海道大学に対する今後の期待・要望等」(自由記述)については、本報告書には掲載しないこととした。

11 注意事項

- (1) 本報告書では、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が100.0%になるとは限らない。
- (2) 複数選択の項目については、割合の総和は100%を超えるが、過去(2013年・2009年)の調査結果との比較のため、グラフの目盛は100%とした。

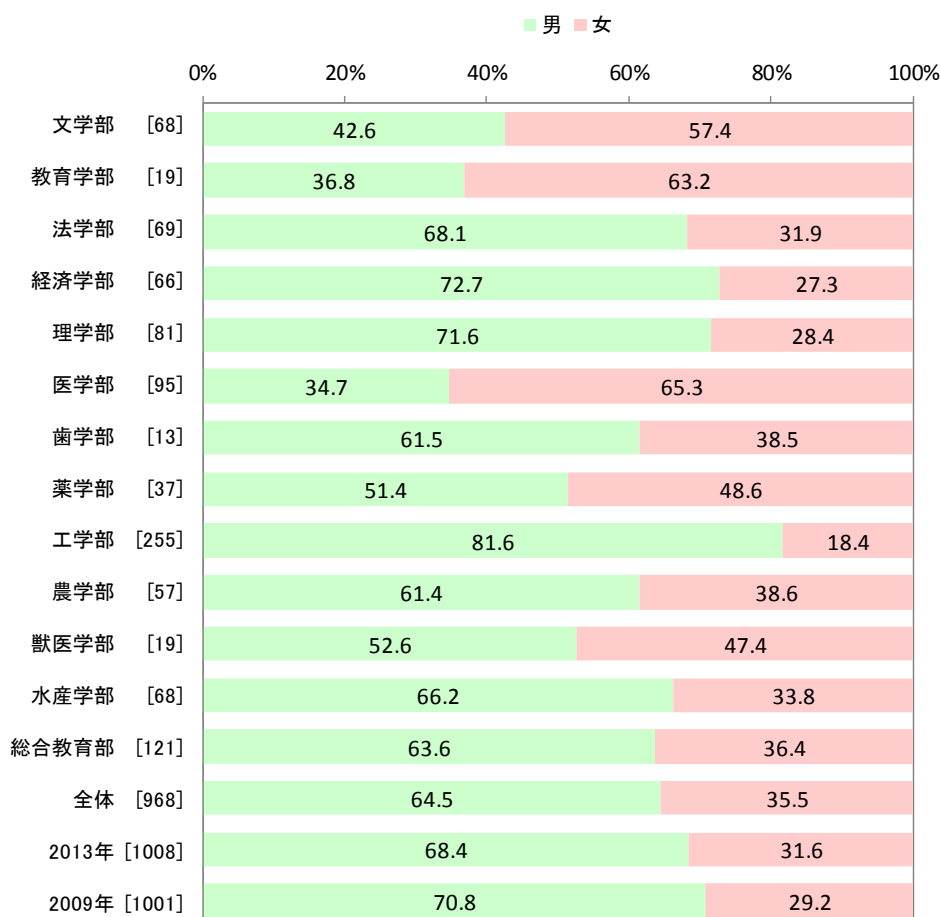
II 学部学生編

A 回答者の基本的特徴

回答者の男女比

- 回答者のうち男子学生が全体の64.5%、女子学生が35.5%であった。これは、本学の在籍学生数における女子の割合29.2%（平成30年3月1日現在）と概ね一致しており、サンプルとしては妥当である。
- 学部別の在籍学生数における男女比率では、各学部ともほぼ学部の在籍者の比率に対応している。その中で該当者数は少ないが教育学部の回答者数の比率が在籍者比率（女子学生の比率が47.4%）より16%程度高いのが目立つ程度である。

■ 回答者の男女比(学部別)



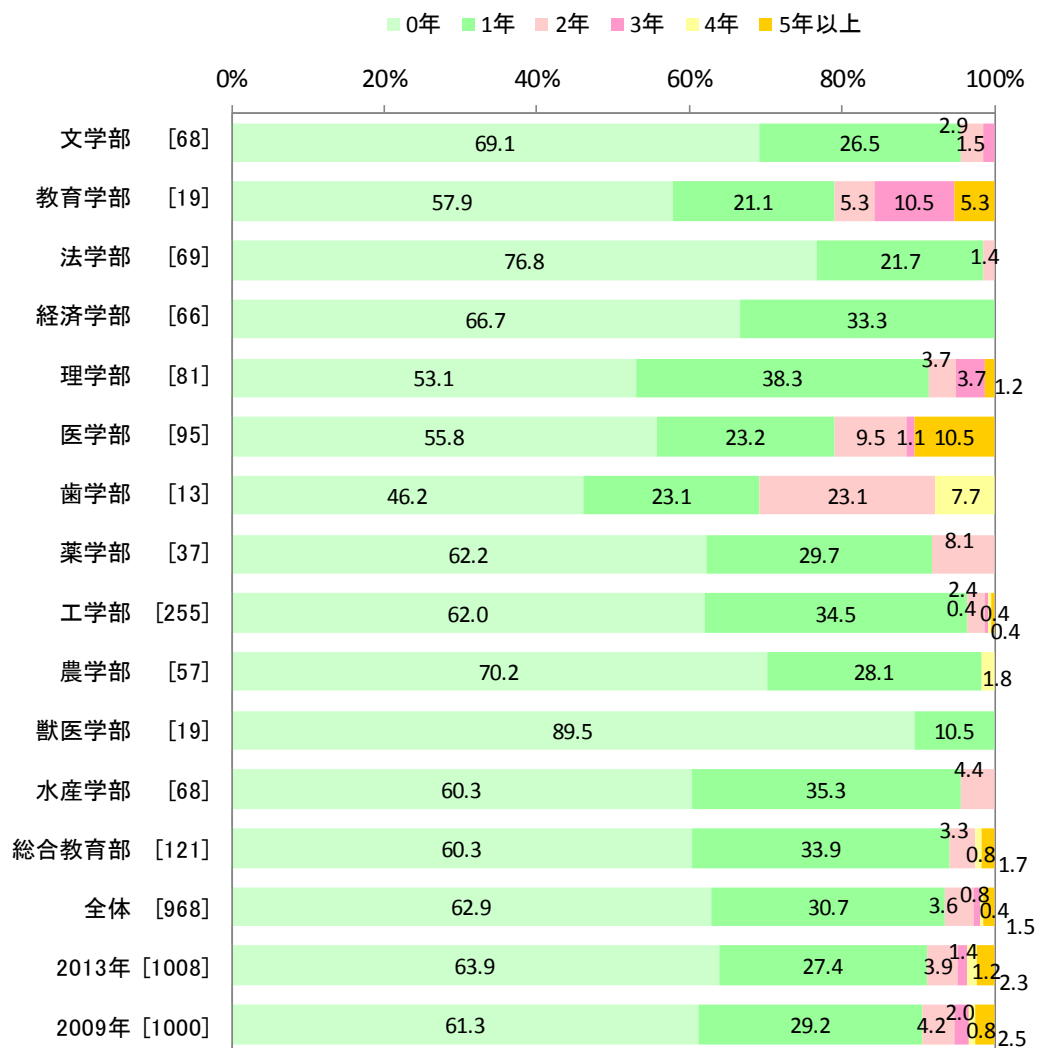
注) 本報告書では、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が100.0%になるとは限らない。

入学までの年数

- 現役入学者の比率は、今回の調査では 62.9% であり、2009 年調査 61.3%、2013 年調査 63.9 と大きな変化はない。現役・一浪を合わせた比率でみると今回 93.6% であり、2009 年調査の同 90.5%、2013 年調査の同 91.3% と、現役・一浪の人が増える傾向が見られる。
- 学部別では、全体と比べて現役入学者の比率が高いのは、獣医学部 (+26.6%)、法学部 (+13.9%)、農学部 (+7.3%)、文学部 (+6.2%) である。一方、比率が低いのは、歯学部 (-16.7%)、理学部 (-9.8%) である。

■ 入学までの年数(学部別)

(※回答数が少ない学部は参考程度)



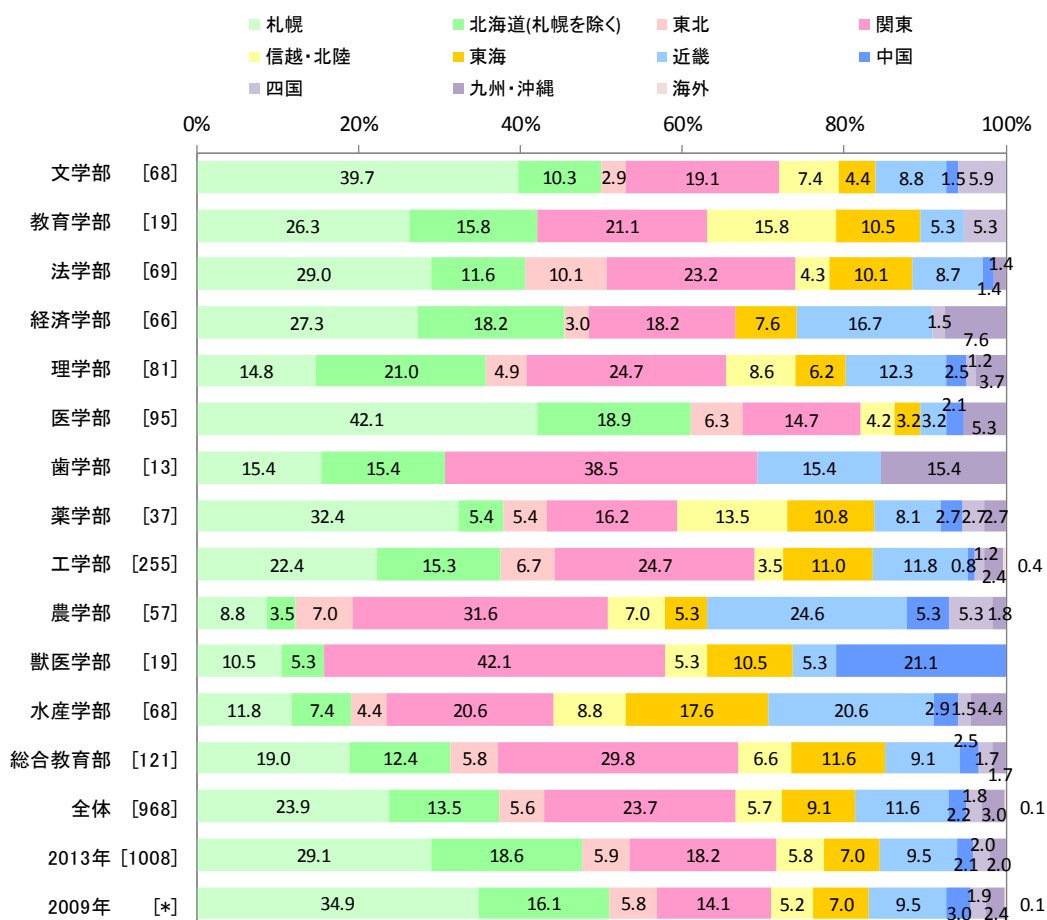
B 家庭状況

出身地

- 札幌出身者の比率は、今回の調査では 23.9%であり、2009 年調査（34.9%）、2013 年調査（29.1%）と比べると、減少しつつある。
- 札幌を含む道内出身者は、今回の調査では 37.4%であり、2009 年調査（51.0%）、2013 年調査（47.7%）と比べると、ここでも減少傾向がみられる。
- 道内出身者に次いで多いのは、関東（23.7%）で、2009 年調査（14.1%）、2013 年調査（18.2%）と徐々に増えている。
- 道内出身者の多い学部は、医学部、文学部、経済学部である。また、関東が多いのは、農学部、歯学部である。

■ 出身地(学部別)

(※回答数が少ない学部は参考程度)

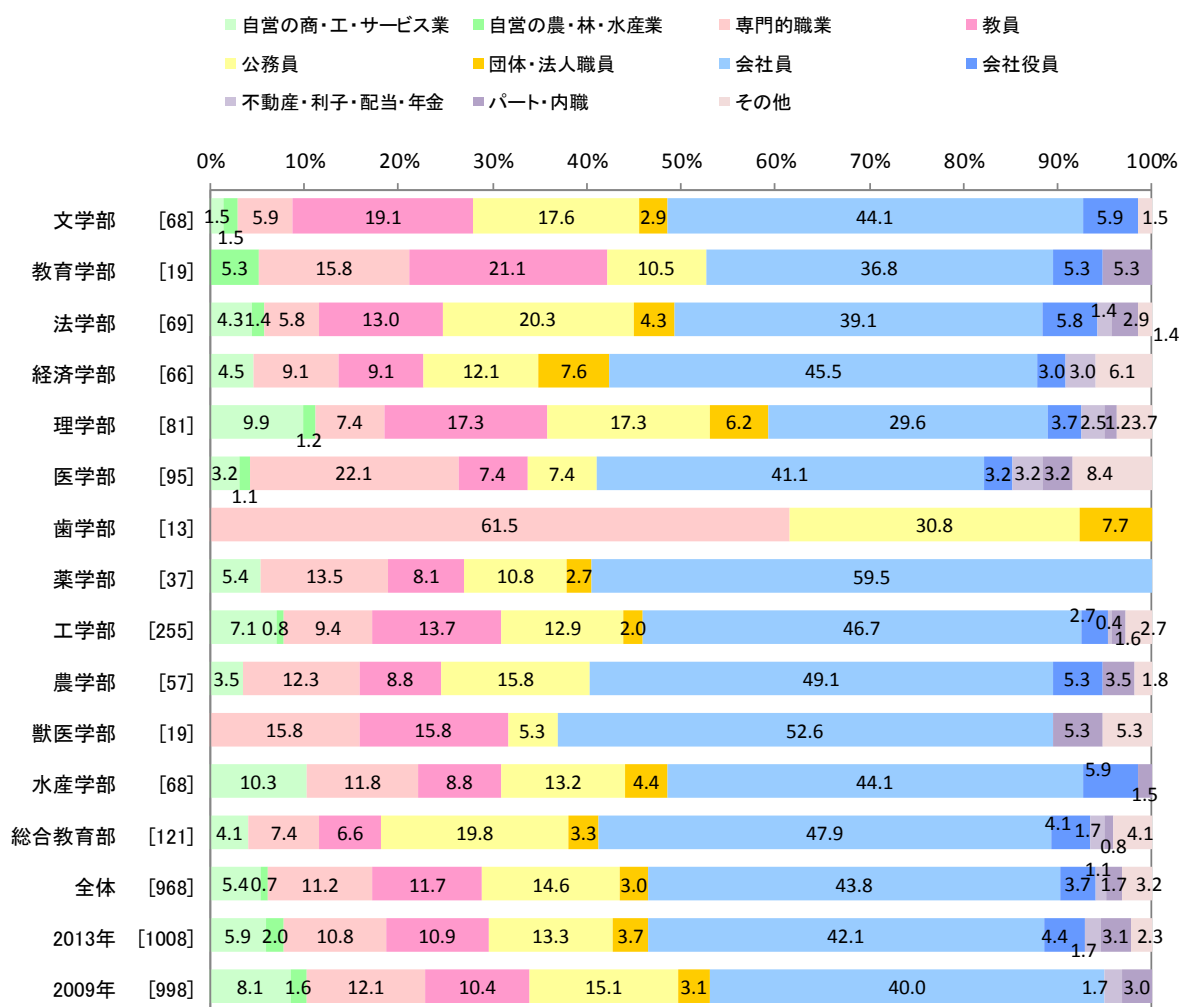


家計支持者の職業

- 家計支持者の職業において、全体で最も比率が高いのは、「会社員」(43.8%)であり、2009年調査(40.0%)、2013年調査(42.1%)と比べると、ほぼ変わらない。(2013年から会社役員を選択肢に追加したため、その解釈には注意が必要である。)
- 次いで高いのは「公務員」(14.6%)であるが、2009年調査(15.1%)、2013年調査(13.3%)と比べると、ほぼ横ばい傾向にある。
- 学部別では、「会社員」の比率が全体と比較して高いのは、薬学部(59.5%)、農学部(49.1%)である。医学部では「専門的職業」の比率が高く、教育学部では「教員」が、法学部では「公務員」の比率が高いのが特徴的である。

■ 家計支持者の職業(学部別)

(※回答数が少ない学部は参考程度)

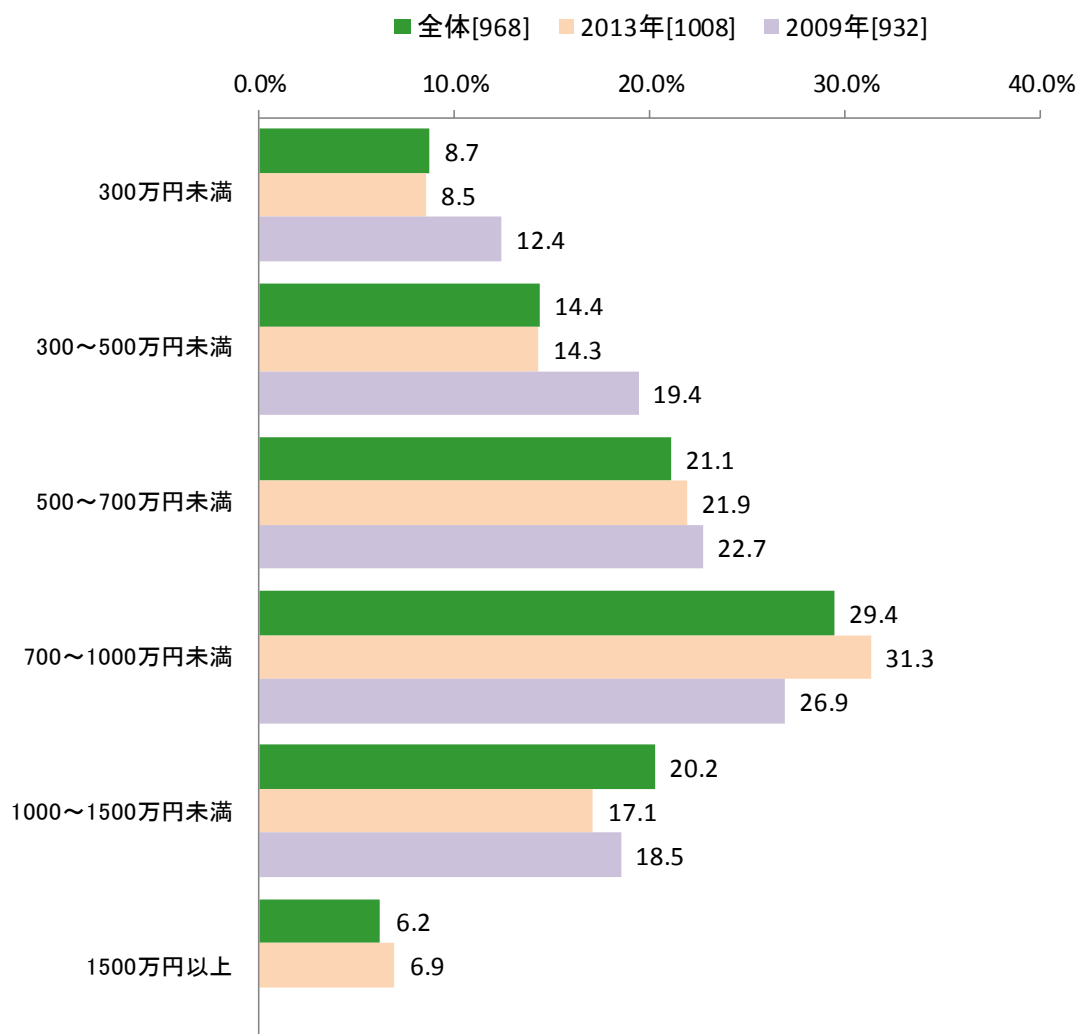


注)「会社役員」は、前回調査(2013年)からの選択肢である。

家庭の年間収入

- 家庭の年間収入の階層別分布について、分布が最も多いのは「700～1000万円未満」である。この「700～1000万円未満」が29.4%であり、2013年調査(31.3%)よりも減少した。一方「1000～1500万円未満」は2013年の17.1%から今回は20.2%に増加した。

■ 家庭の年間収入(収入階層別の分布)



注1) 「1500万円以上」は、前回調査(2013年)からの新選択肢である。

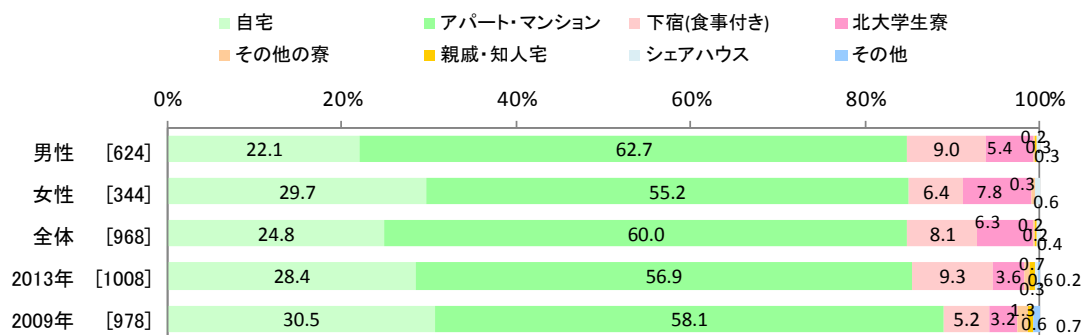
注2) 前回調査(2013年)から、設問項目を「家計支持者の収入」から「家庭の収入」に変更した。

C 住居・通学・食事の状況

住居形態と占有面積

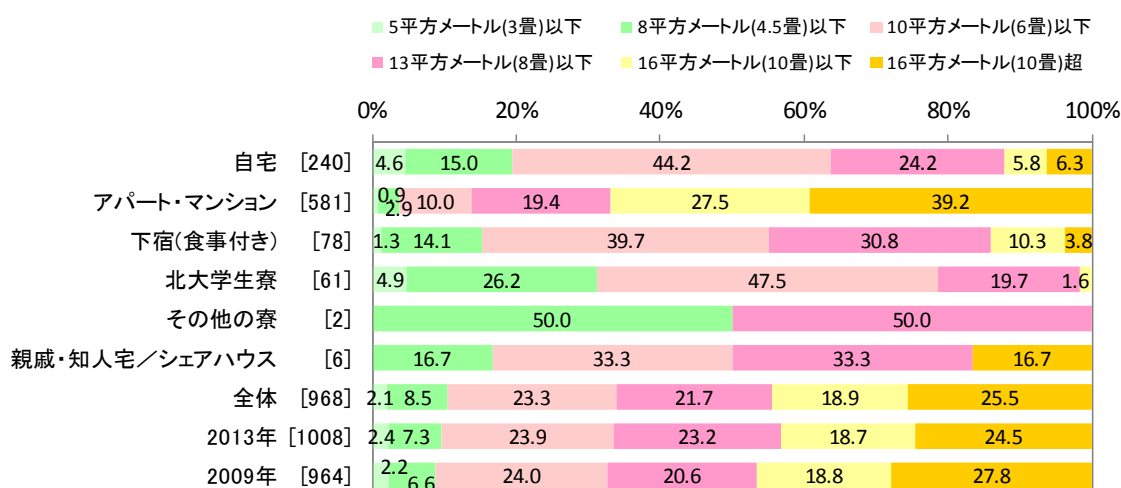
- 住居形態における「アパート・マンション」の比率が60.0%で、2009年調査（58.1%）→2013年調査（56.9%）→今回（60.0%）とほぼ6割前後である。男女別では、女性は「自宅」（29.7%）が若干多くなる。
- 専有面積は、2009年調査から今回調査において、大きな変化はみられない。
- 「アパート・マンション」は「16平方メートル（10畳）超」（39.2%）が多く、寮では「8平方メートル（4.5畳）以下」（4.5畳）以下」が多くなっている。

住居形態(男女別)



注) 2009年調査までは、「貸間・アパート」と「マンション・学生ハイツ」の項目を分けていたが、前回調査（2013年）から、「アパート・マンション」の1項目とした。

専有面積(住居形態別)



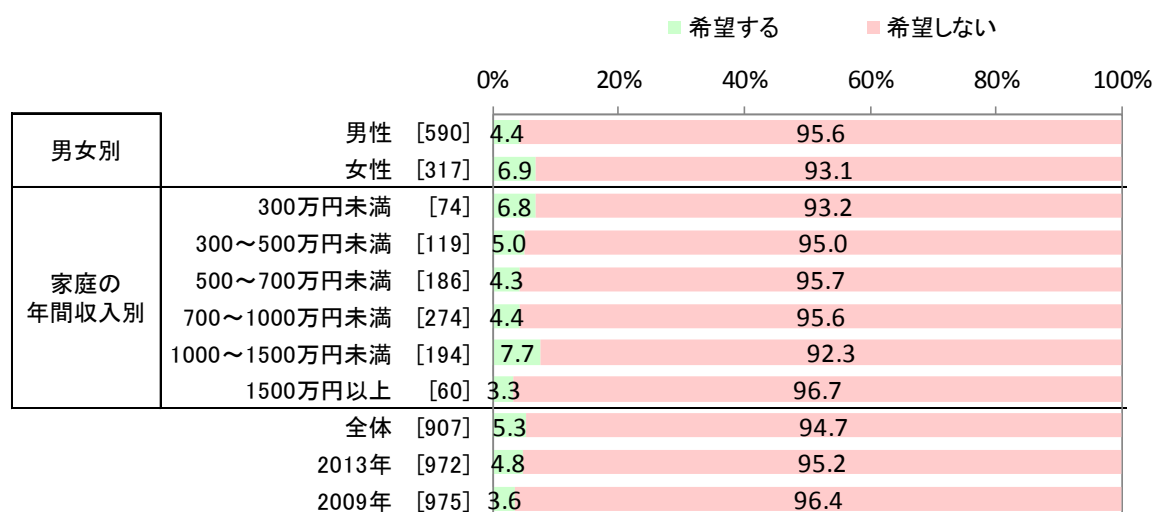
注) 「シェアハウス」は、前回調査（2013年）からの新選択肢である。

学生寮入寮希望の有無とその理由

- 入寮希望の比率は5.3%であり、2009年(3.6%)、2013年調査(4.8%)と比べると増加傾向にある。
- 入寮の希望理由は、男女とも「経済的理由」(全体:43.8%)と「寮の雰囲気にあこがれる」(同47.9%)が多く、入寮を希望しない理由は、「集団生活がわずらわしい」(同62.9%)が最も多い。

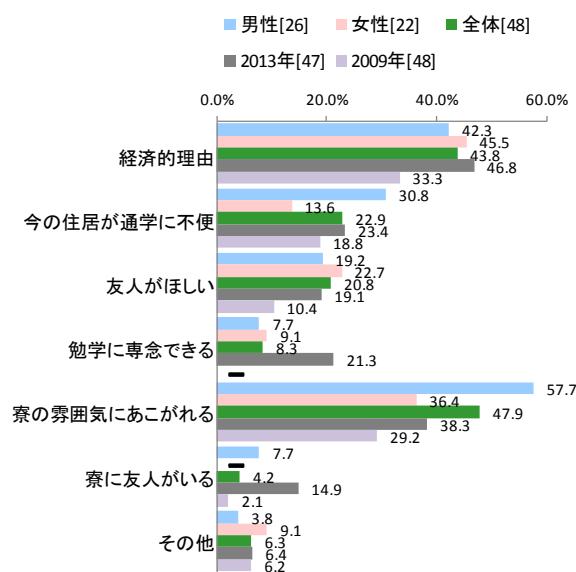
■ 入寮希望者の割合(男女別/家庭の年間収入別)

※学生寮非入寮者ベース



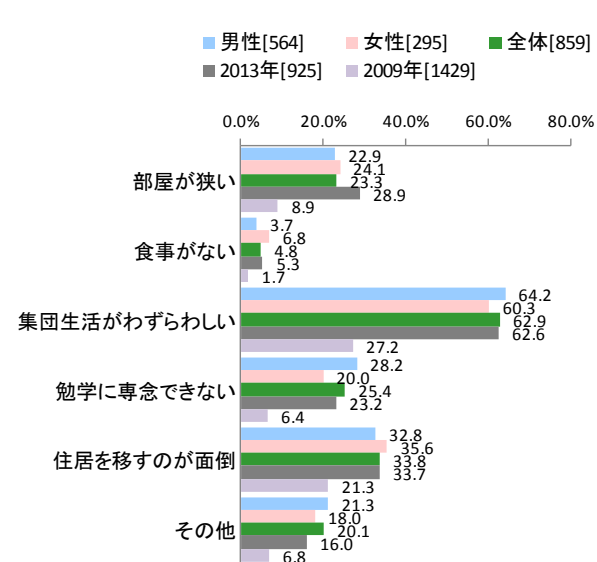
■ 入寮希望の理由(男女別・2つまで)

※入寮希望者ベース



■ 入寮を希望しない理由(男女別・2つまで)

※入寮非希望者ベース

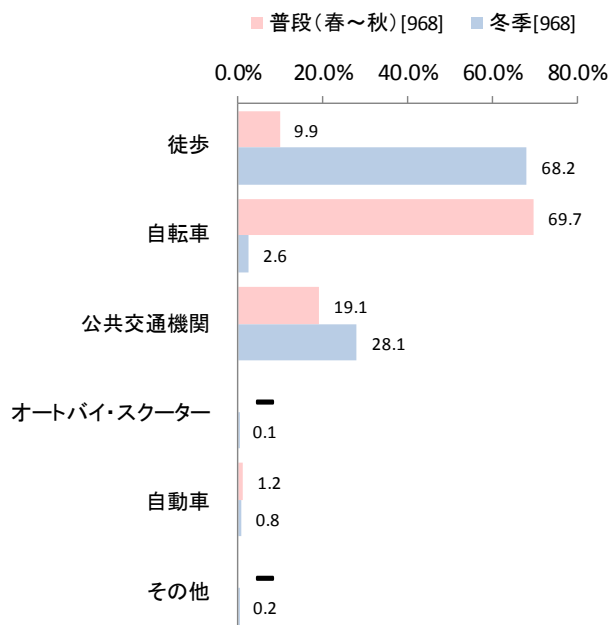


注) 過去調査のうち2009年のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

通学方法と通学時間

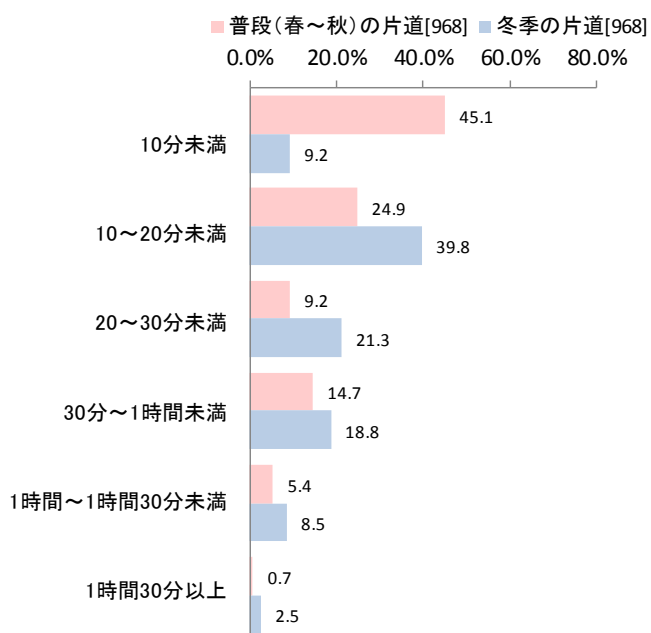
- 通学方法は、普段（春～秋）は「自転車」が69.7%、冬季は「徒歩」が68.2%を占めている。季節（雪）が通学方法に影響を及ぼしている。

■ 通学方法 [(普段(春～秋)／冬季)]



- 通学時間は、普段（春～秋）は、「10分未満」が45.1%、冬季は「10～20分未満」が39.8%と最も多く、大学周辺に住んでいる学生が多いことを示している。

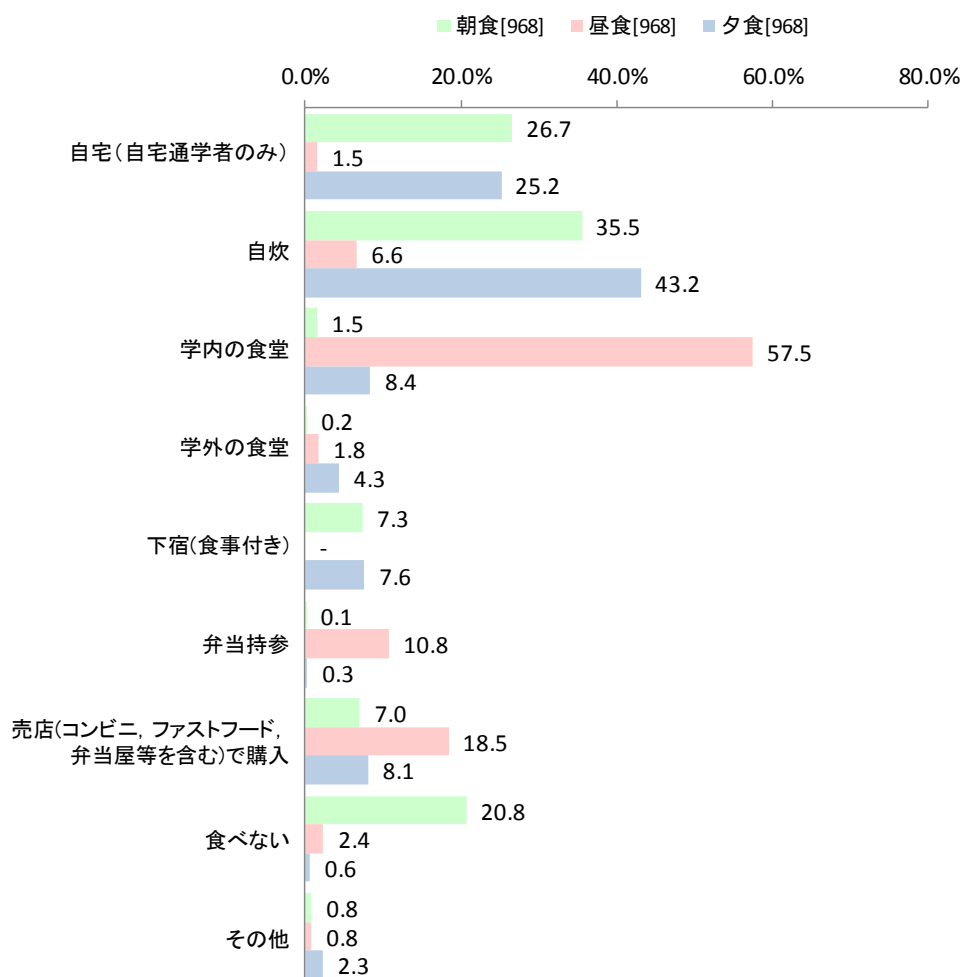
■ 通学時間[(普段(春～秋)／冬季)]



食事

- 朝食は、「食べない」学生が 20.8%である。食べている学生は、「自炊」(35.5%)や「自宅(自宅通学者)」(26.7%)が中心で、外食は少数である。
- 昼食は、「学内の食堂」で摂っている学生が 57.5%と半数強を占める。他に「売店(コンビニ、ファストフード、弁当等)」(18.5%)や「弁当持参」(10.8%)の学生が多くみられる。
- 夕食は、「自炊」している学生が 43.2%であり、「自宅(自宅通学者)」の学生(25.2%)を合わせると自宅で摂っている学生が 68.4%を占める。自宅と下宿(食事付き)(7.6%)を除く 24%の学生が外食を利用している。

■ 食事

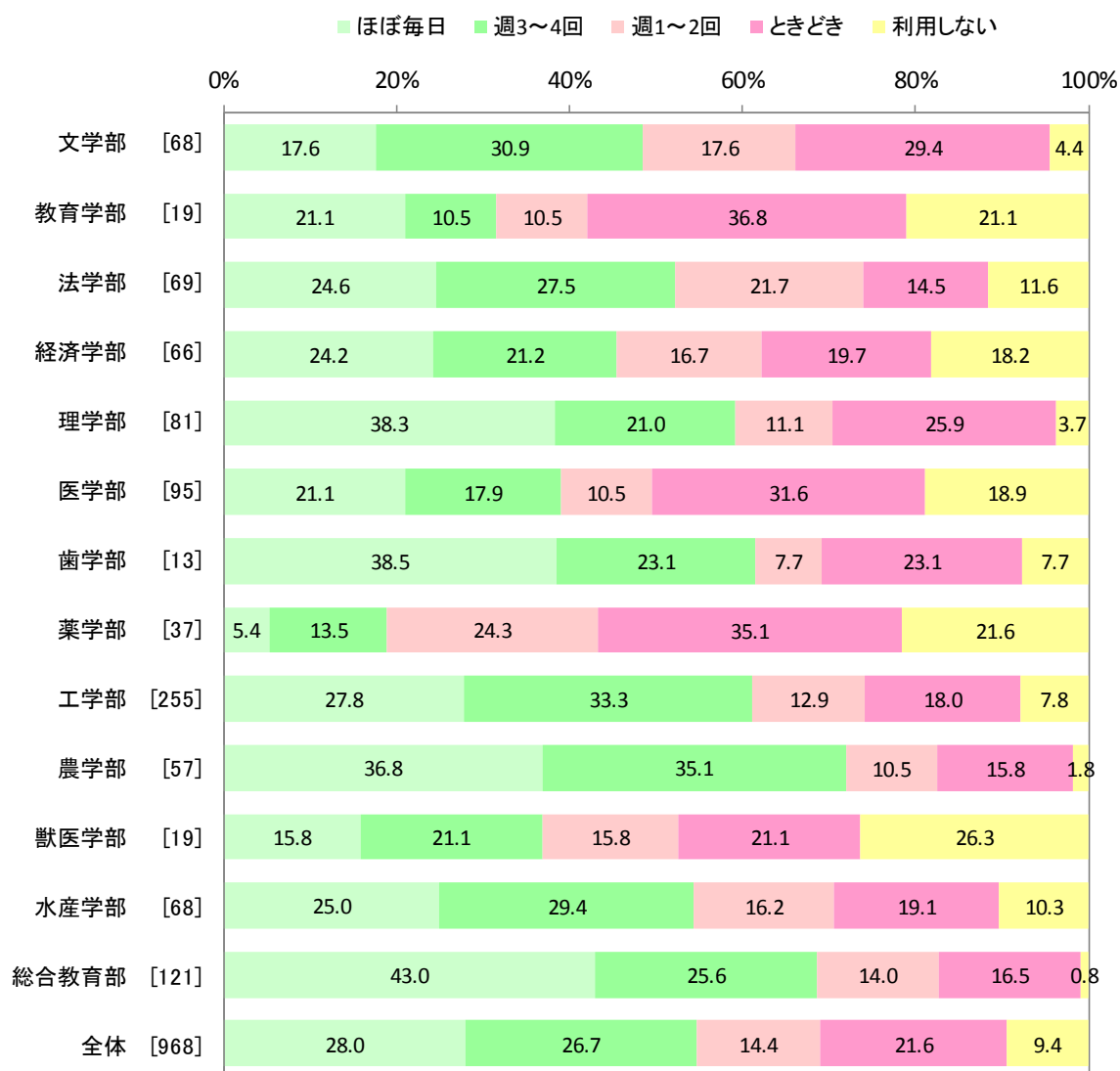


学食の利用頻度

- 学食の利用頻度は、「ほぼ毎日」が28.0%と全体の四分の一を占めている。次いで、「週3~4回」(26.7%)、「ときどき」(21.6%)、「週1~2回」(14.4%)と続く。一方、「利用しない」学生は9.4%で、ほとんどの学生は学食を利用していることがわかる。
- 学部別では、学食を「ほぼ毎日」利用している比率が高いのは、総合教育部(43.0%)、理学部(38.3%)、農学部(36.8%)である。一方、学食を「利用しない」比率が高いのは、獣医学部(26.3%)、薬学部(21.6%)、教育学部(21.1%)である。

■ 学食の利用頻度(学部別)

(※回答数が少ない学部は参考程度)

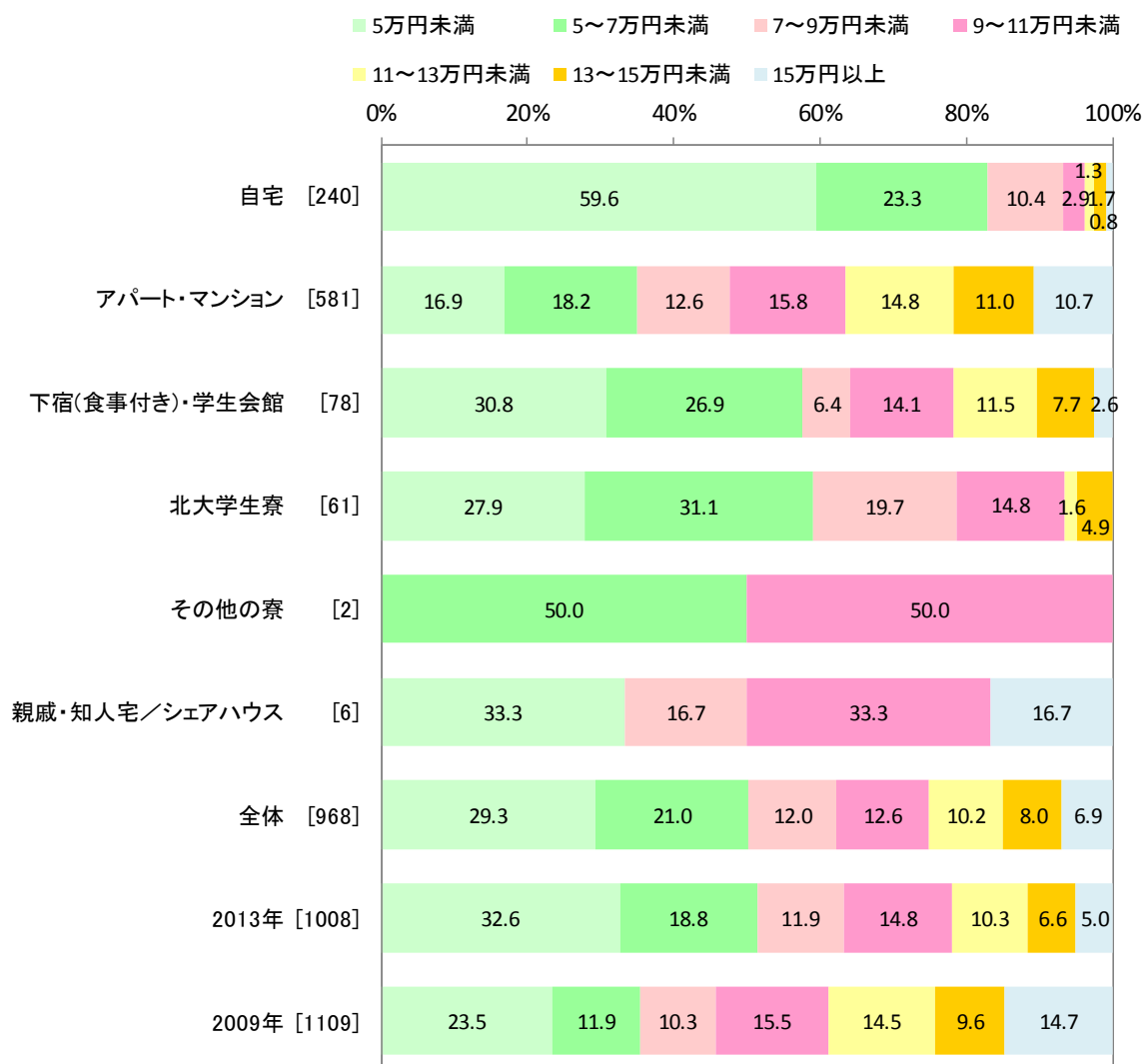


D 収入と支出の状況

月間収入額の分布(住居形態別)

- 月間収入額の分布は、「5万円未満」(29.3%)が最も多く、次いで「5~7万円未満」(21.0%)と続く。2013年調査と比べると「5万円未満」(32.6%)は減少している。住居形態別では、「アパート・マンション」は、「自宅」「北大学生寮」「下宿(食事付き)・学生会館」よりも収入が多い。

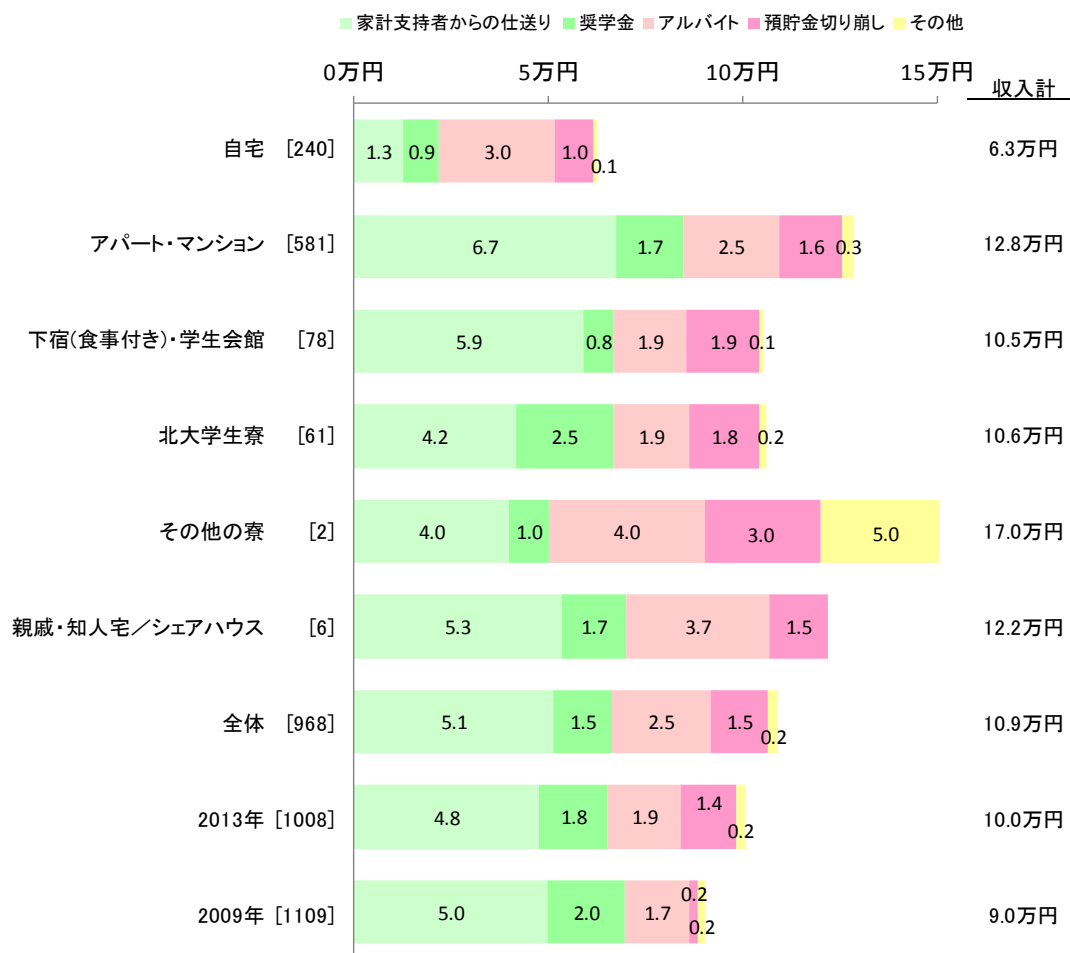
■ 月間収入額の分布(住居形態別)



収入の内訳(住居形態別)

- 平均月間収入額は 10.9 万円で、2009 年調査 (9.0 万円)、2013 年調査 (10.0 万円) と比べると、増加している。
- 住居形態別では、「家計支持者からの仕送り」が多いのは、「アパート・マンション」(平均 6.7 万円)や「下宿(食事付き)・学生会館」(同 5.9 万円)で暮らす学生で、平均月間収入額も全体よりも高い。「北大学生寮」に入居している学生は、収入に占める「奨学金」(同 2.5 万円)の割合が高いのが特徴的である。一方、「自宅」の場合、アルバイトによる収入が、比率だけではなく金額的にも全体の平均よりも高いのが特徴的である。

■ 収入の内訳(住居形態別)



注 1) 前回調査から、金額を選択肢に変更し、平均値は中央値を用いて計算した。

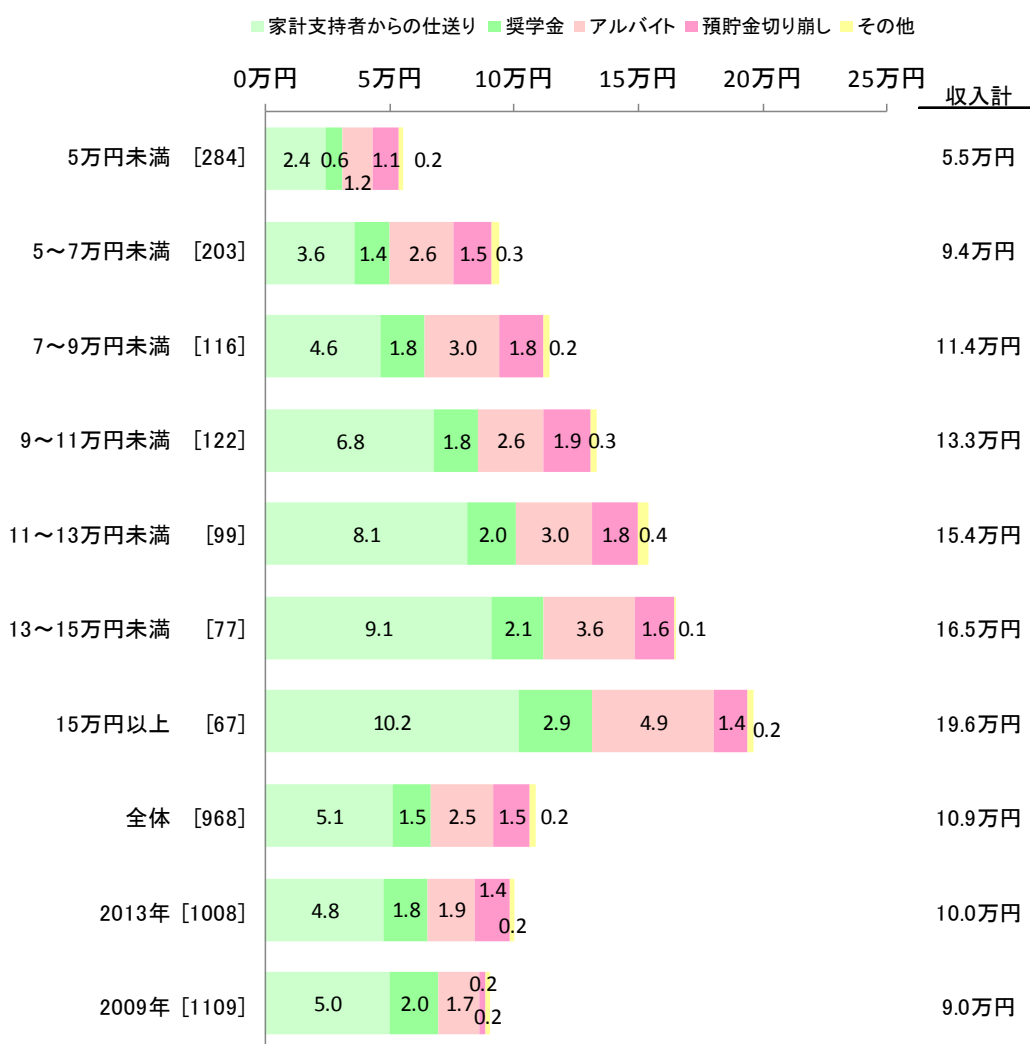
例：3～5 万円未満の場合は 4 万円、5 千円未満は 2,500 円、15 万円以上は 16 万円として計算。

注 2) 千円未満を四捨五入しているため、収入内訳の合計額と「収入計」が一致しない場合がある。

収入の内訳(月間収入額別)

- 月間収入額の分布をみると、仕送りには月額2万円から10万円程度まで大きな開きがあり、これが収入差となっている。なお、仕送り不要の自宅通学者が混ざった統計のため、その解釈には注意が必要である。
- 収入額が高いほど「家計支持者からの仕送り」以外に「奨学金」や「アルバイト」の収入が多い傾向にある。

■ 収入の内訳(月間収入額別)



注1) 前回調査から、金額を選択肢に変更し、平均値は中央値を用いて計算した。

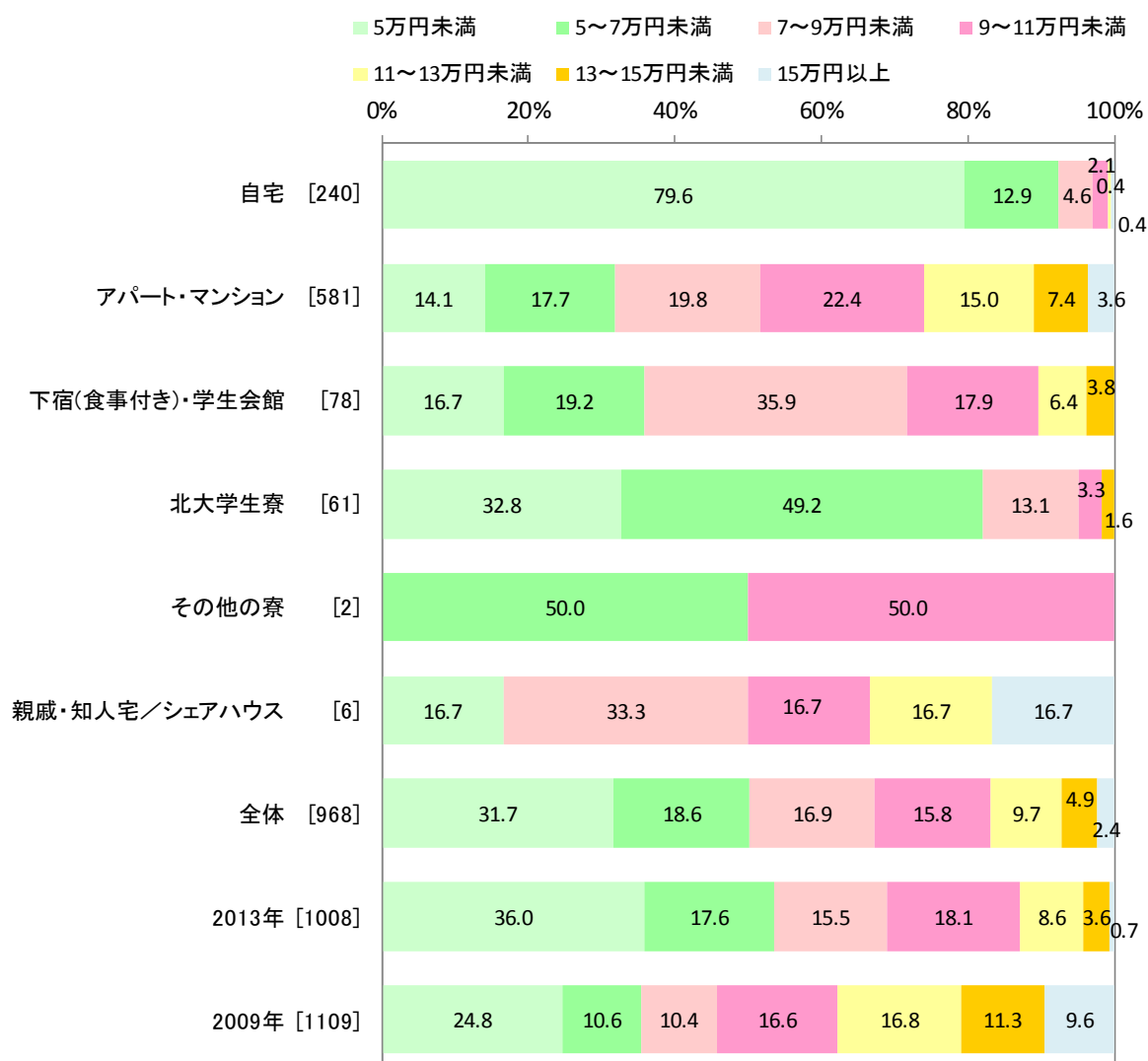
例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算。

注2) 千円未満を四捨五入しているため、収入内訳の合計額と「収入計」が一致しない場合がある。

月間支出額の分布(住居形態別)

- 月間支出額の分布は、「5万円未満」が31.7%、「5～7万円未満」が18.6%、「7～9万円」が16.9%で、「9万円」未満の月間支出の比率が67.2%を占めている。2013年調査の「9万円」未満の支出(69.1%)と比べてほとんど変わっていない。
- 住居形態別では、「アパート・マンション」「下宿(食事付き)・学生会館」で暮らす学生は、「自宅」「北大学生寮」で暮らす学生よりも支出が多い傾向にある。

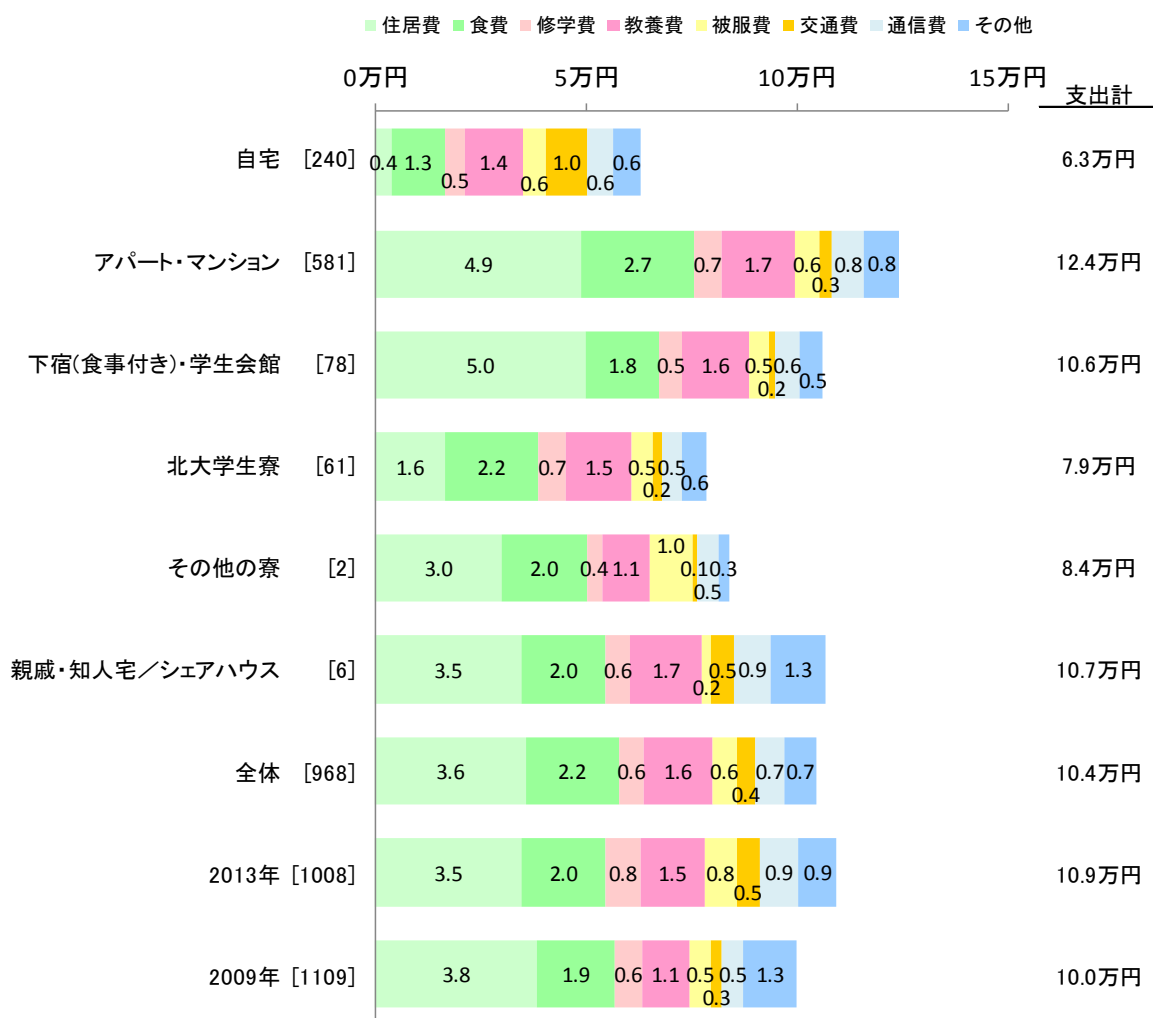
■ 月間支出額の分布(住居形態別)



支出の内訳(住居形態別)

- 平均月間支出額は10.4万円で、「住居費」(平均3.6万円)が最大の支出項目であり、次に「食費」(2.2万円)と続く。また、2013年調査(10.9万円)と比べて、支出全体の平均金額は、ほとんど変わらない。
- 住居形態別では、「アパート・マンション」や「下宿(食事付き)・学生会館」で暮らす学生は「住居費」の比率が大きく、「北大学生寮」で暮らす学生の「住居費」(1.6万円)と比べると、3倍近くになる。

■ 支出の内訳(住居形態別)



注1) 前回調査から、金額を選択肢に変更し、平均値は中央値を用いて計算した。

例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算。

注2) 千円未満を四捨五入しているため、支出の内訳の合計額と「支出計」が一致しない場合がある。

支出の内訳(月間支出額別)

- 支出の内訳を支出額の階層別にみると、支出額が多い学生ほど「住居費」の占める比率が高い。ただし、自宅通学者が混ざっているために、その解釈には注意が必要である。
- 月額 13 万円未満の階層では、「住居費」と「食費」を除くと、支出額にほとんど差がみられない。

■ 支出の内訳(月間支出額別)



注 1) 前回調査から、金額を選択肢に変更し、平均値は中央値を用いて計算した。

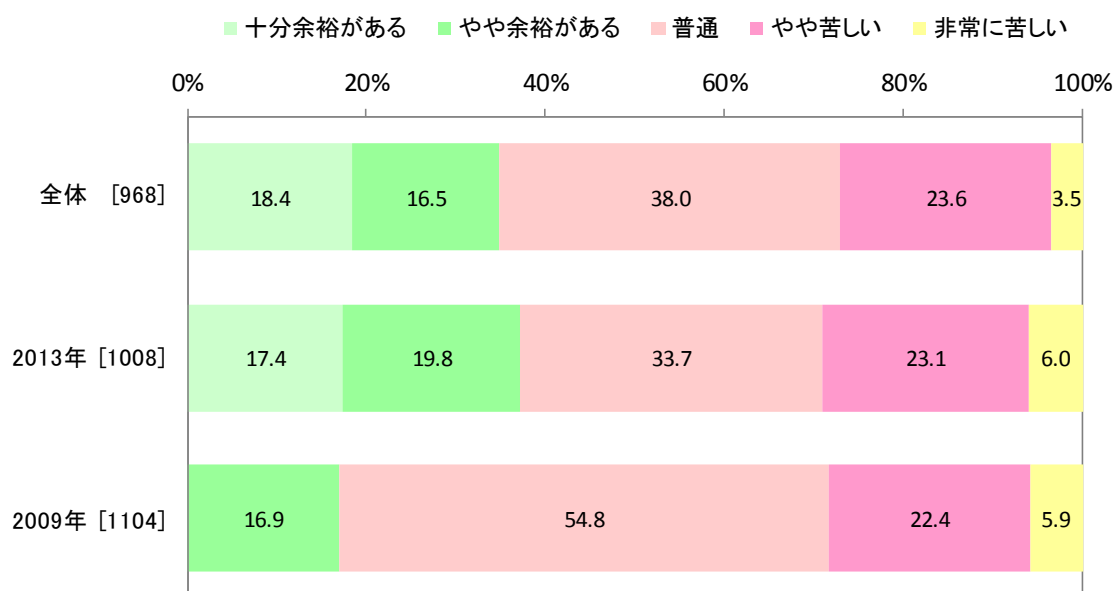
例：3~5 万円未満の場合は 4 万円、5 千円未満は 2,500 円、15 万円以上は 16 万円として計算。

注 2) 千円未満を四捨五入しているため、支出の内訳の合計額と「支出計」が一致しない場合がある。

経済状態の実感

- 現在の経済状態について、「十分余裕がある」(18.4%)、「やや余裕がある」(16.5%)を合わせると、「余裕がある」と回答した学生は34.9%である。一方、「やや苦しい」(23.6%)、「非常に苦しい」(3.5%)を合わせると、「苦しい」と回答した学生は27.1%である。過去の調査と比べても、経済状態が苦しいと回答する学生が3割弱ほどいることがわかる。

■ 経済状態の実態



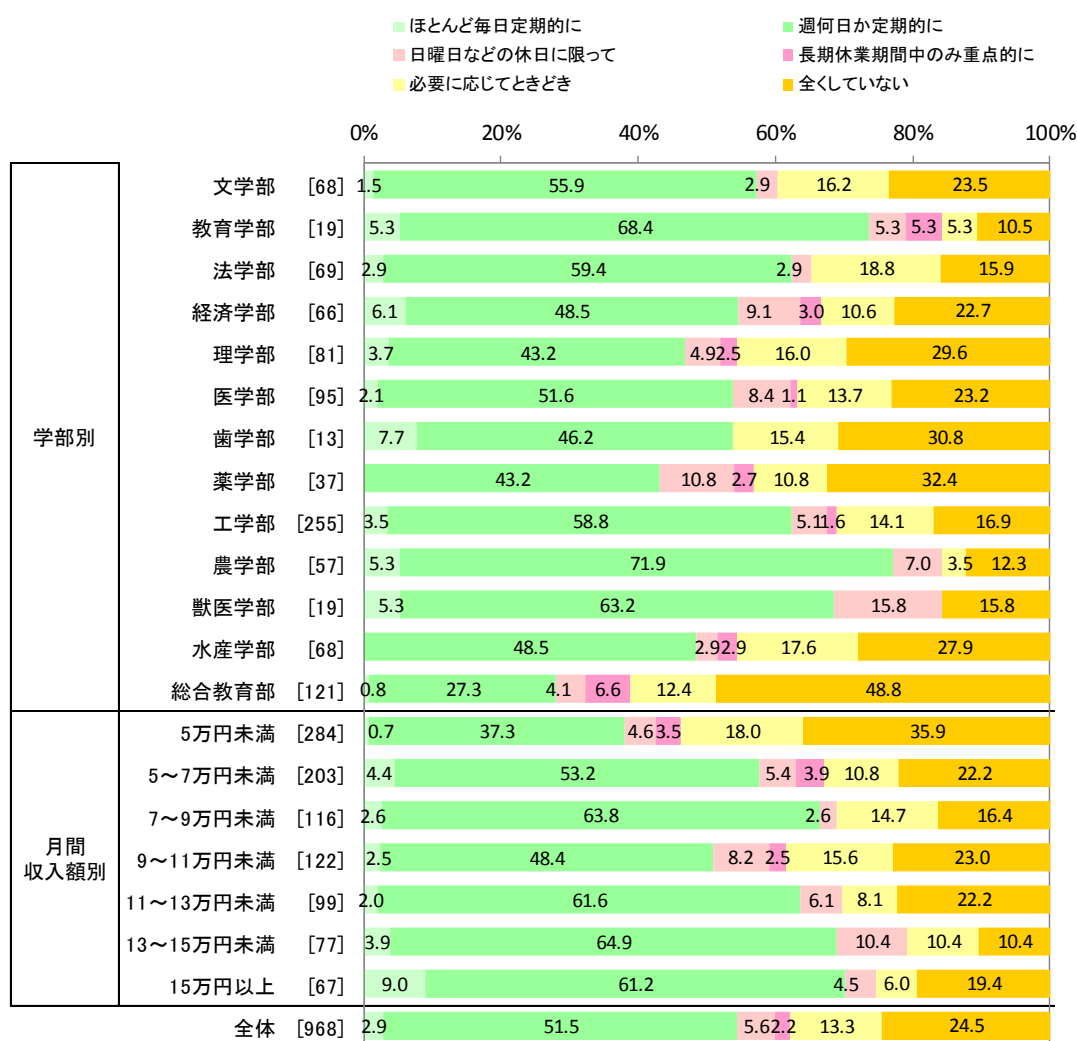
注) 過去調査時(2009年)の選択肢項目は、左から「楽である」「普通」「苦しい」「大変苦しい」の4段階。

E アルバイトの状況

アルバイトの頻度

- アルバイトを「全くしていない」学生が 24.5%、アルバイトをしている学生が 75.5%を占めている。アルバイトの頻度は、「週何日か定期的に」が全体の 51.5%を占めている。
- 学部別では、アルバイトを「全くしていない」比率が高いのは、総合教育部(48.8%)、薬学部(32.4%)である。
- 月間収入額別では、アルバイトを「全くしていない」比率が高いのは、「5万円未満」層で 35.9%、一方、アルバイトをしている学生が多いのは、「7～9万円未満」と「13万円」以上の層である。

■ アルバイトの頻度(学部別／月間収入額別) (※回答数が少ない学部は参考程度)

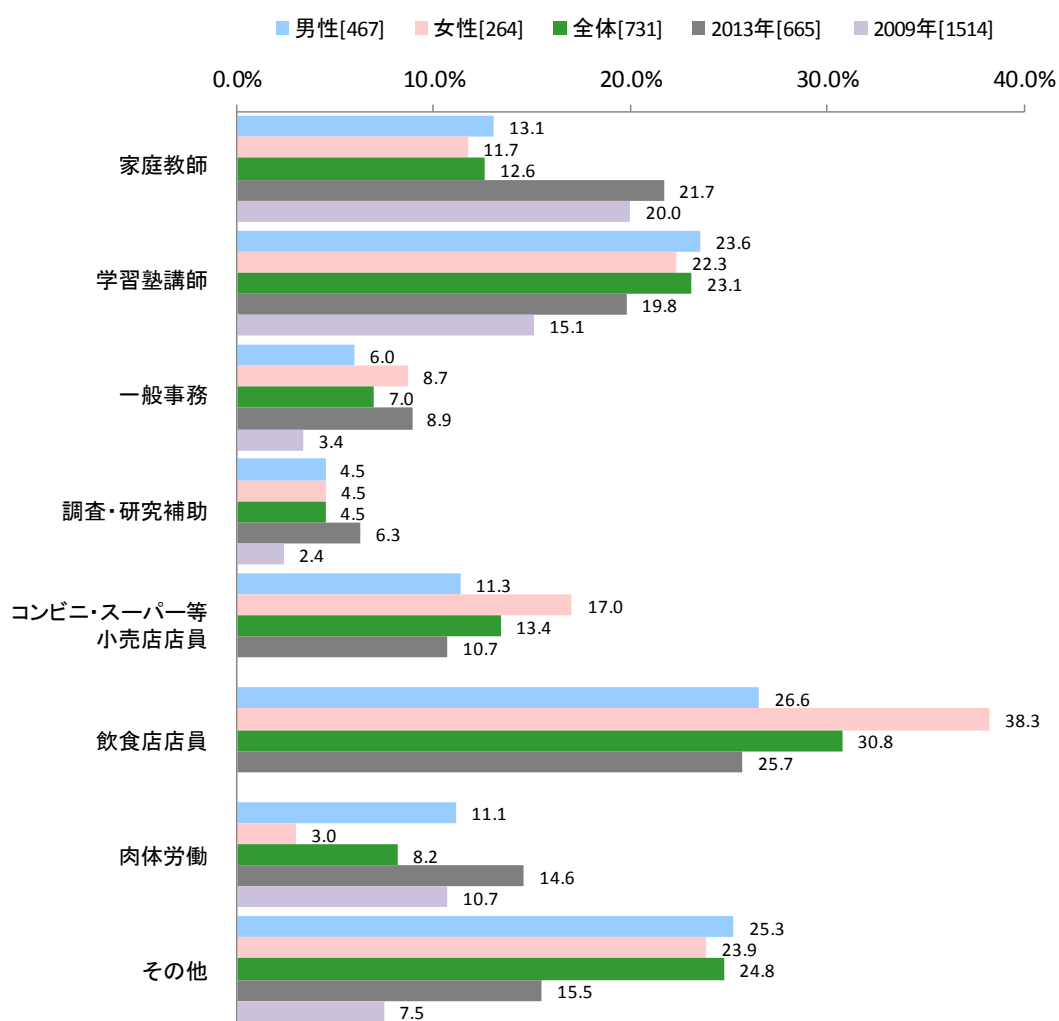


アルバイトの職種

- アルバイトの職種は、「飲食店店員」が30.8%と最も多い。次いで、「学習塾講師」(23.1%)、「コンビニ・スーパー等小売店店員」(13.4%)、「家庭教師」(12.6%)と続く。
- 男女別にみると、男子学生は「飲食店店員」(26.6%)、「学習塾講師」(23.6%)が、女子学生は「飲食店店員」(38.3%)が最も多い。「飲食店店員」は、男女ともに人気が高いのが特徴的である。

■ アルバイトの職種(男女別・2つまで)

※ アルバイト従事者ベース



注1) 「コンビニ・スーパー等小売店店員」「飲食店店員」は、前回調査(2013年)からの新選択肢である。

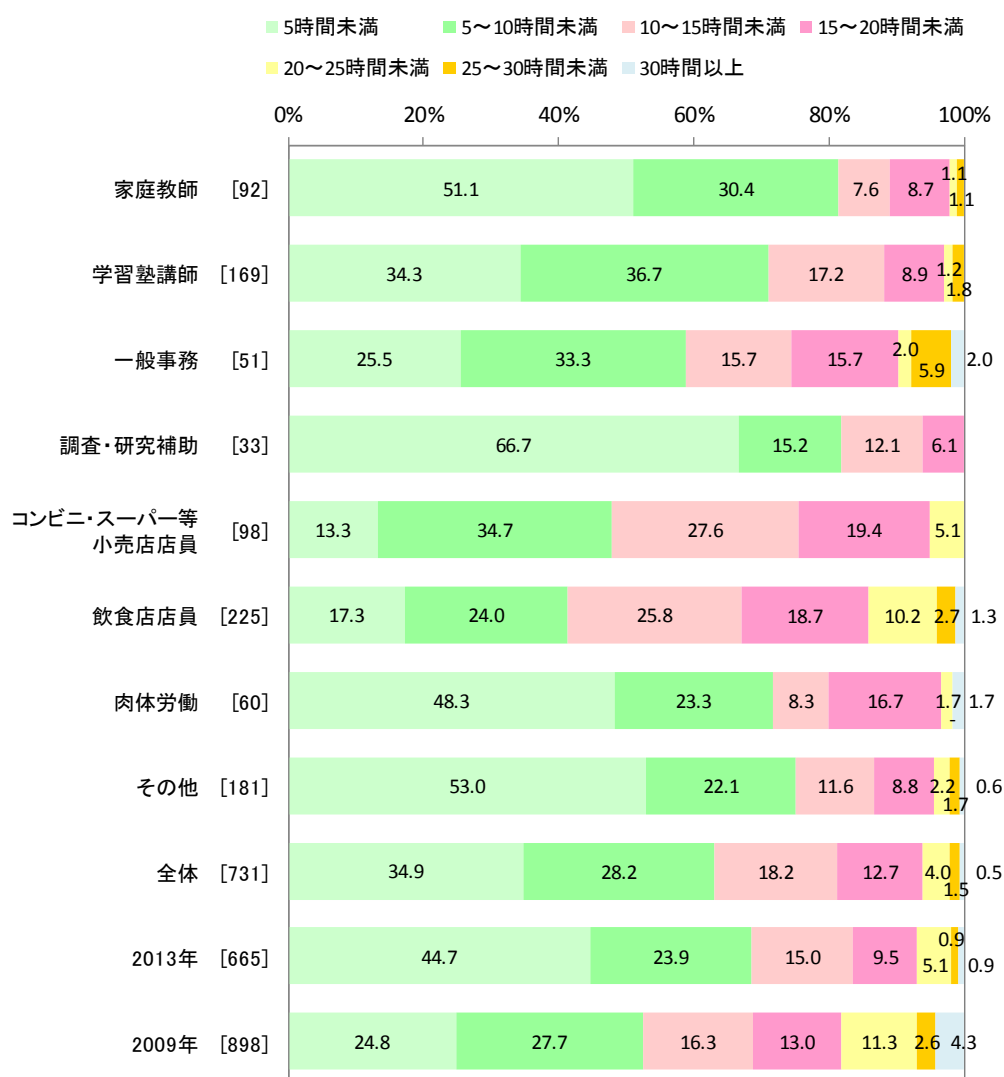
注2) 過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

アルバイトの週平均就労時間

- アルバイトの週平均就労時間は、「5時間未満」が最も多く全体の34.9%を占めている。2013年調査（44.7%）時に約20%上昇していたが、また約10%減少しており、再び週平均就労時間は増加傾向にある。
- 職種別では、「調査・研究補助」「家庭教師」「肉体労働」で「5時間未満」の割合が高い。一方、「コンビニ・スーパー等小売店店員」「飲食店店員」は「10時間～15時間未満」「15時間～20時間未満」の割合が高いのが特徴的である。

■ アルバイトの週平均就労時間(職種別)

※ アルバイト従事者ベース



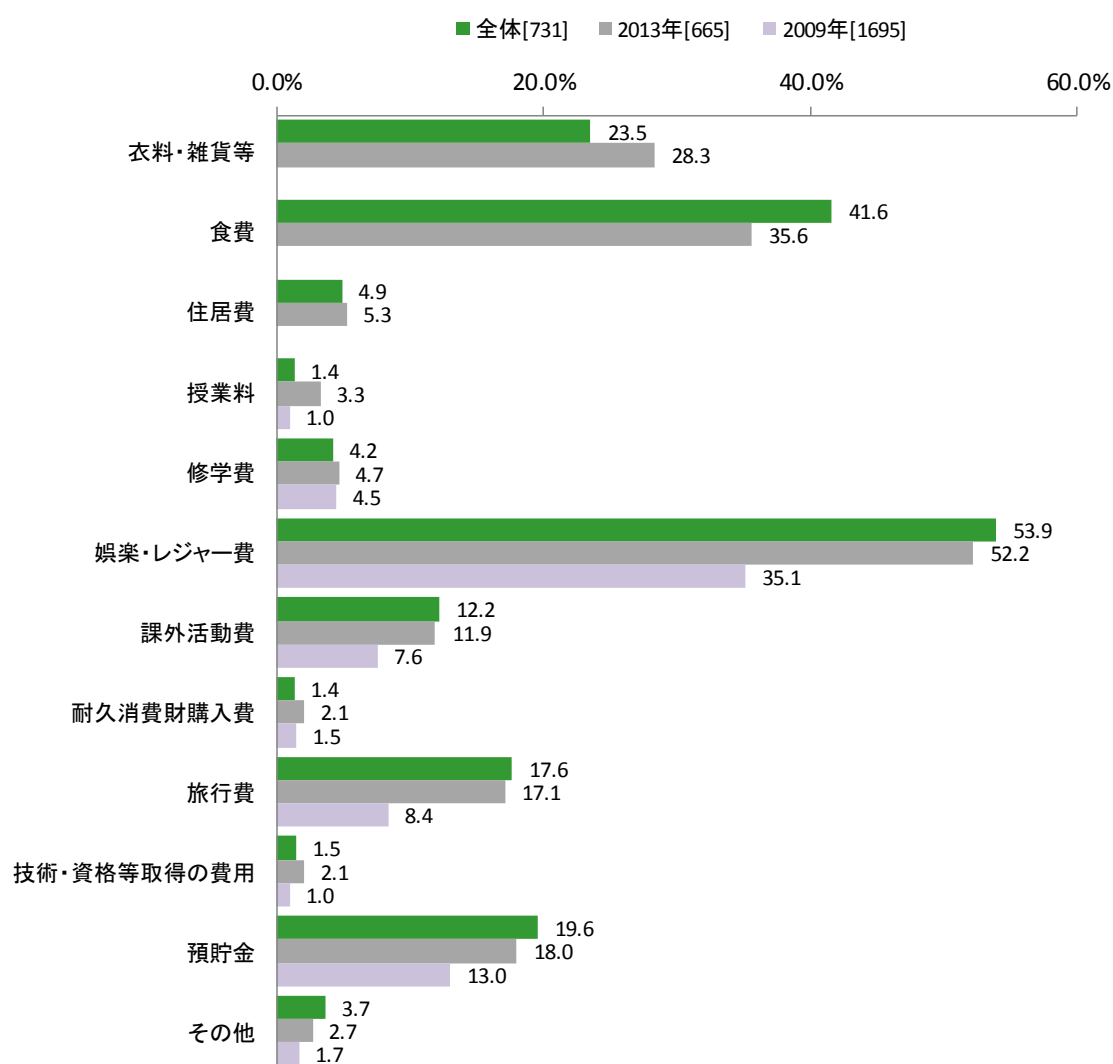
注) アルバイトの週平均就労時間は、2009年調査時からの新規設問である。

アルバイト収入の使いみち

- アルバイト収入の使いみちは、「娯楽・レジャー費」が 53.9%で最も多く、次いで「食費」(41.6%)、「衣料・雑貨等」(23.5%)と続く。また、「預貯金」に充てる学生も 19.6%みられる。一方、「住居費」「授業料」「修学費」は 5%以内に留まっており、アルバイト収入の主な使いみちには挙げられない。

■ アルバイト収入の使いみち(2 つまで)

※アルバイト従事者ベース



注 1) 「衣料・雑貨等」「食費」「住居費」は、前回調査(2013年)からの新選択肢である(過去調査(2009年)までは「衣食住の費用」の1項目だったものを前回調査から2項目に分けたもの)。

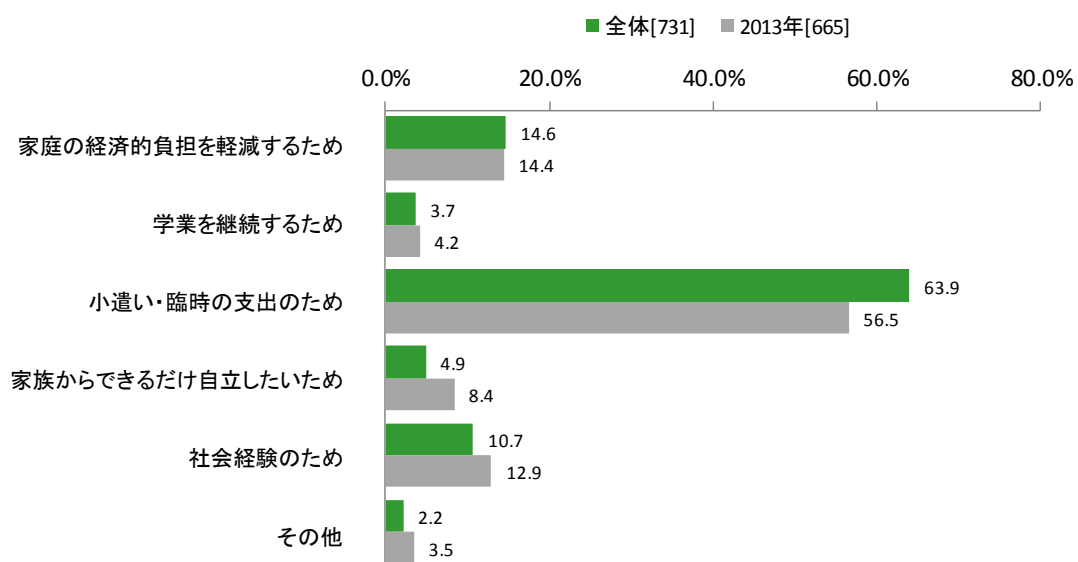
注 2) 過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

アルバイトの理由

- アルバイトをする主な理由として、「小遣い・臨時の支出のため」が63.9%で最も多い。次いで、「家庭の経済的負担を軽減するため」(14.6%)、「社会経験のため」(10.7%)と続く。全体の傾向は2013年調査と大きくは変わらないが、「小遣い・臨時の支出のため」が増加した。
- アルバイトをしない主な理由として、「やりたいが、時間的余裕がない」と回答した学生が49.8%で最も多い。他に「必要がない(経済的に余裕がある)」は27.4%であった。

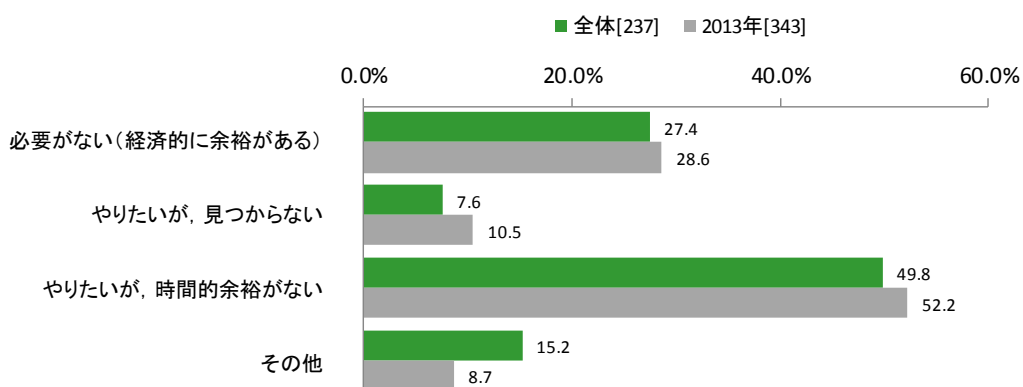
■ アルバイトをする主な理由

※アルバイト従事者ベース



■ アルバイトをしない主な理由

※アルバイト非従事者ベース

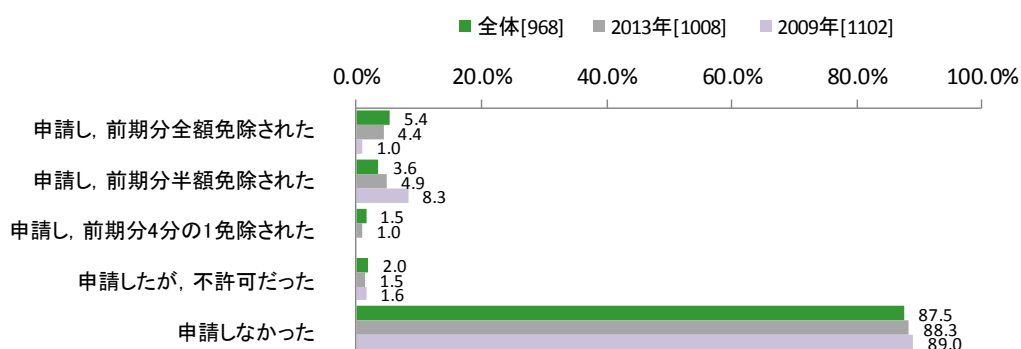


F 授業料免除と奨学金の利用状況

授業料免除の状況

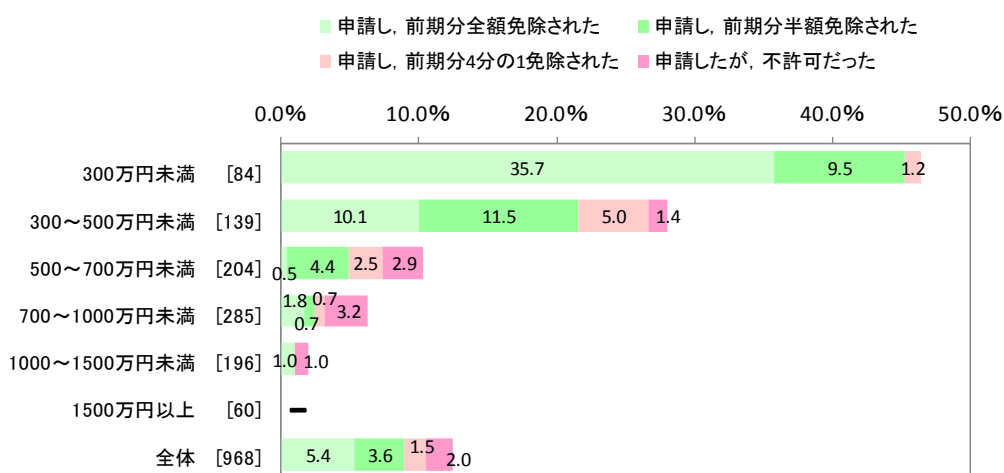
- 授業料免除の状況をみると、「前期分全額免除された」割合は2009年調査（1.0%）から比較すると、2013年は4.4%、今回調査では5.4%と増加している。一方、「前期分半額免除された」割合は2009年調査（8.3%）から減少している（2013年4.9%→今回3.6%）。また、「申請しなかった」割合は2009年（89.0%）→2013年（88.3%）→今回87.5%と僅かずつではあるが減少傾向を示している。
- 家庭の年間収入別では、「300万円未満」「300～500万円未満」の世帯の申請比率が高く、特に、「300万円未満」の世帯は46.4%が授業料免除を申請している。

■ 授業料免除の状況



注) 「申請し、前期分4分の1免除された」は、前回調査（2013年）からの新選択肢である。

■ 授業料免除の状況(家庭の年間収入別)

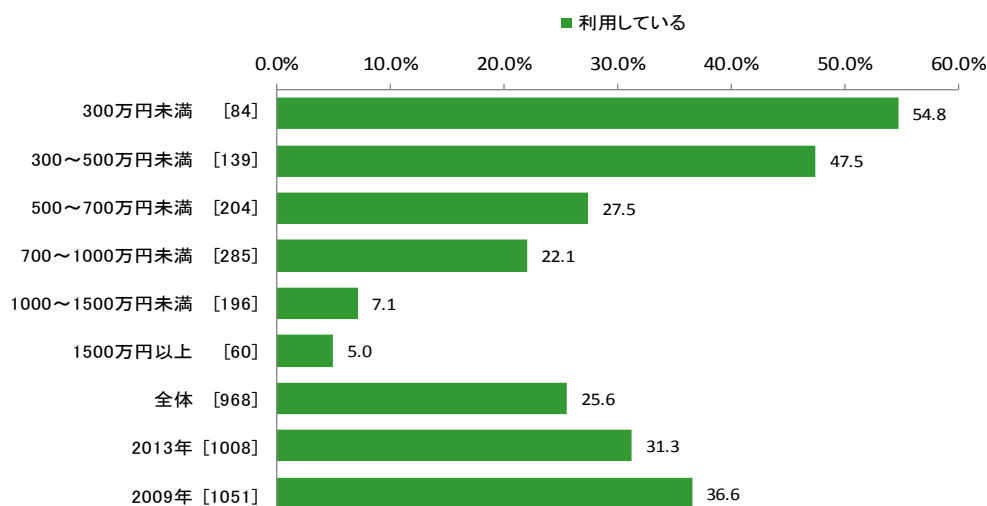


注) 「申請しなかった」のグラフ表示を省略した。

奨学金の利用状況と種類

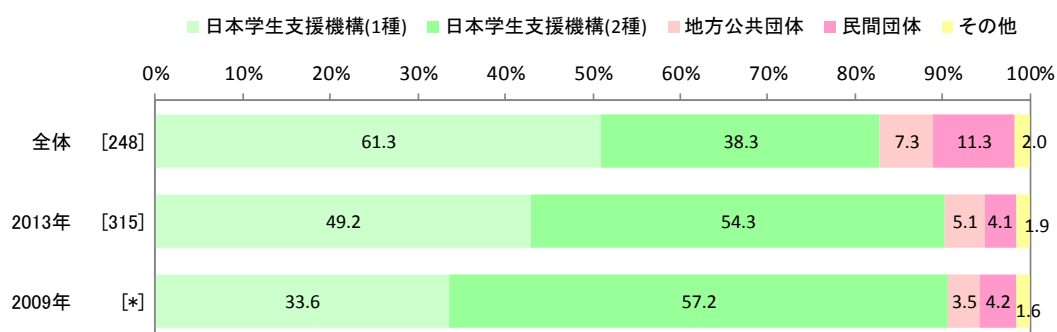
- 奨学金の利用状況については、全体の25.6%が奨学金を利用しているが、2009年(36.6%) → 2013年(31.3%)と利用比率が減少している。
- 家庭の年間収入別では、収入が低い世帯ほど、奨学金の利用比率が高くなる。特に、「300万円未満」の世帯では54.8%に昇る。
- 利用している奨学金の種類は、「日本学生支援機構(1種)」の比率が61.3%と最も高く、次いで「日本学生支援機構(2種)」(38.3%)である。日本学生支援機構(1種)の比率が増加し、その分「日本学生支援機構(2種)」の比率が減少している。
- 「地方公共団体」「民間団体」の利用比率は、2013年調査と比べると増加している。

■ 奨学金の利用状況(家庭の年間収入別)



■ 奨学金の種類(複数回答可)

※奨学金受給者ベース



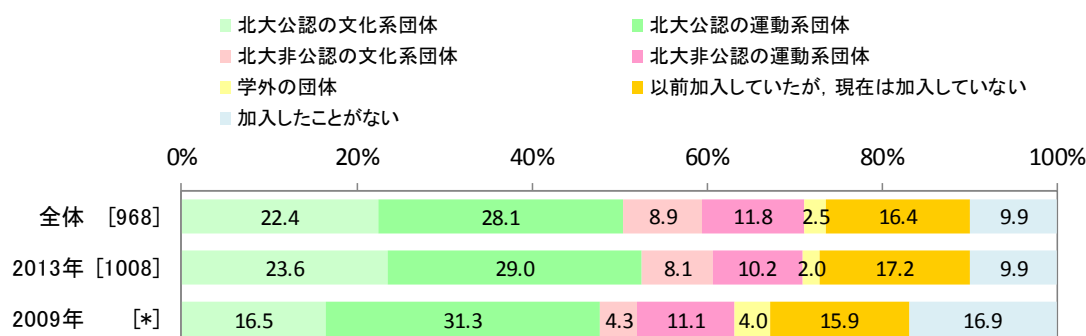
注) 複数回答のため、割合の総和は100%を超える。
過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

G 課外活動とボランティア活動について

課外活動団体への加入状況と週平均活動時間

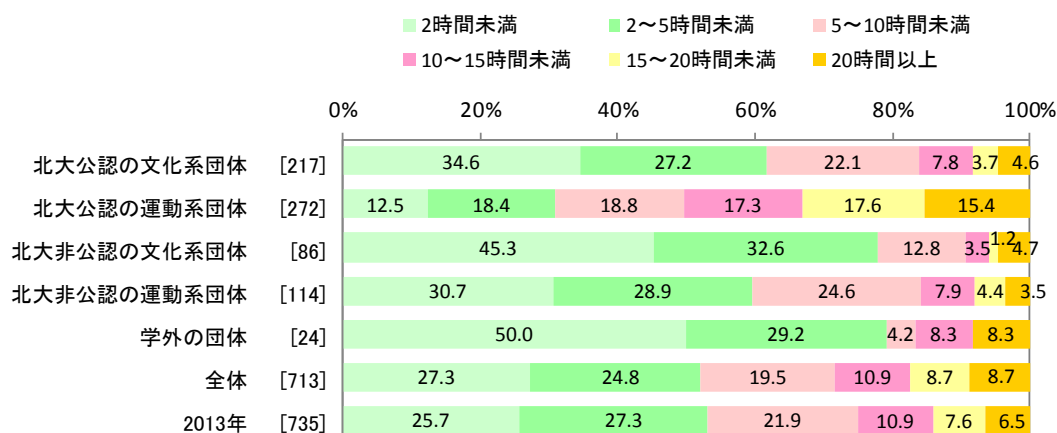
- 課外活動団体に加入している学生は73.7%で、加入者のうちの68.5%が本学公認団体に所属している。課外活動団体に加入している学生は2009年調査(67.2%)→2013年(72.9%)と増加し、今回調査は前回水準で推移している。
- 課外活動団体に加入している学生の週平均活動時間は、「2時間未満」が27.3%、「2～5時間未満」が24.8%で「5時間未満」と「5時間以上」がほぼ同比率である。
- 課外活動団体の種類別では、「5時間未満」の回答が多いのは、「北大公認の文化系団体」「北大非公認の文化系団体」「学外の団体」である。一方、「北大公認の運動系団体」は「5時間以上」の比率が69.1%で、活動時間が最も長い。

課外活動団体への加入の有無



課外活動の週平均活動時間(課外活動の種類別)

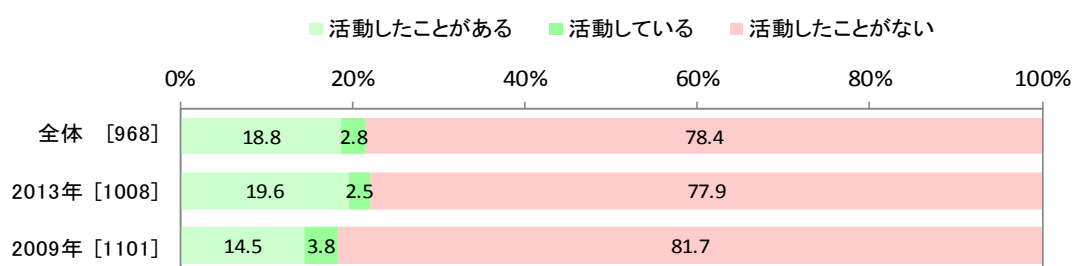
※課外活動加入者ベース



ボランティア活動経験の状況と活動内容

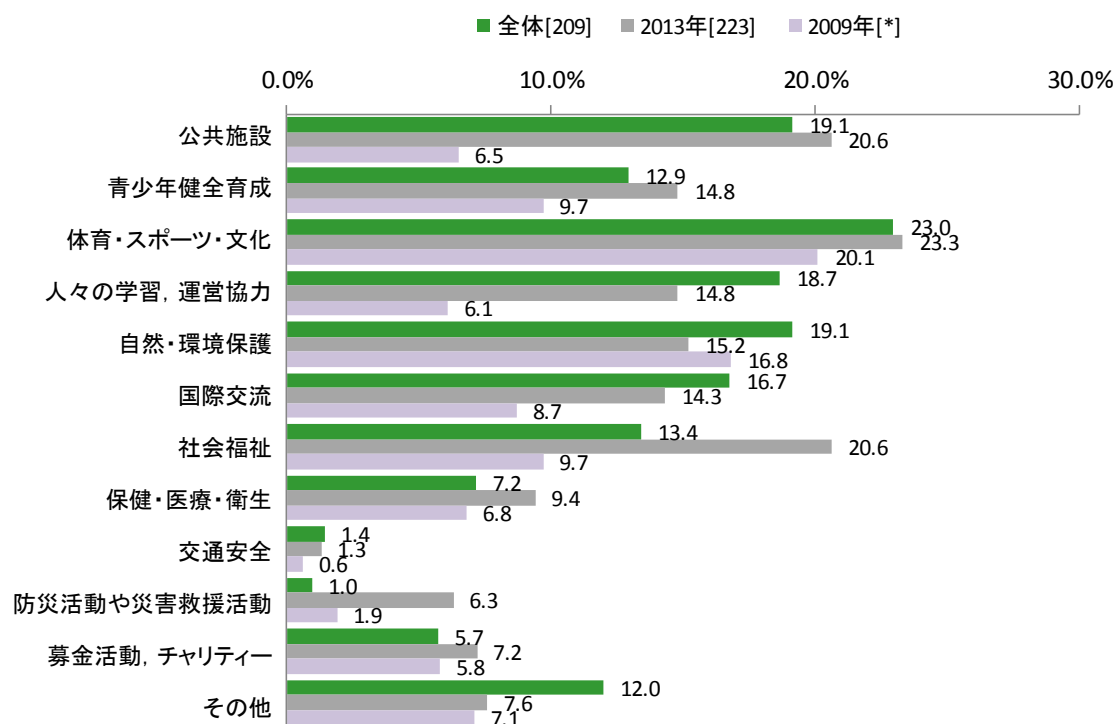
- 現在ボランティア活動を行っている学生は2.8%である。過去に「活動したことがある」割合を含めると、2009年調査（18.3%）→2013年調査（22.1%）→今回（21.6%）と2割程度で推移している。
- 活動内容は、「体育・スポーツ・文化」「公共施設」「自然・環境保護」が2割前後と多い。2013年調査から「社会福祉」が減少し、「自然・環境保護」「国際交流」が増加している。

ボランティア活動経験の有無



ボランティア活動内容(3 つまで)

※ボランティア経験者ベース



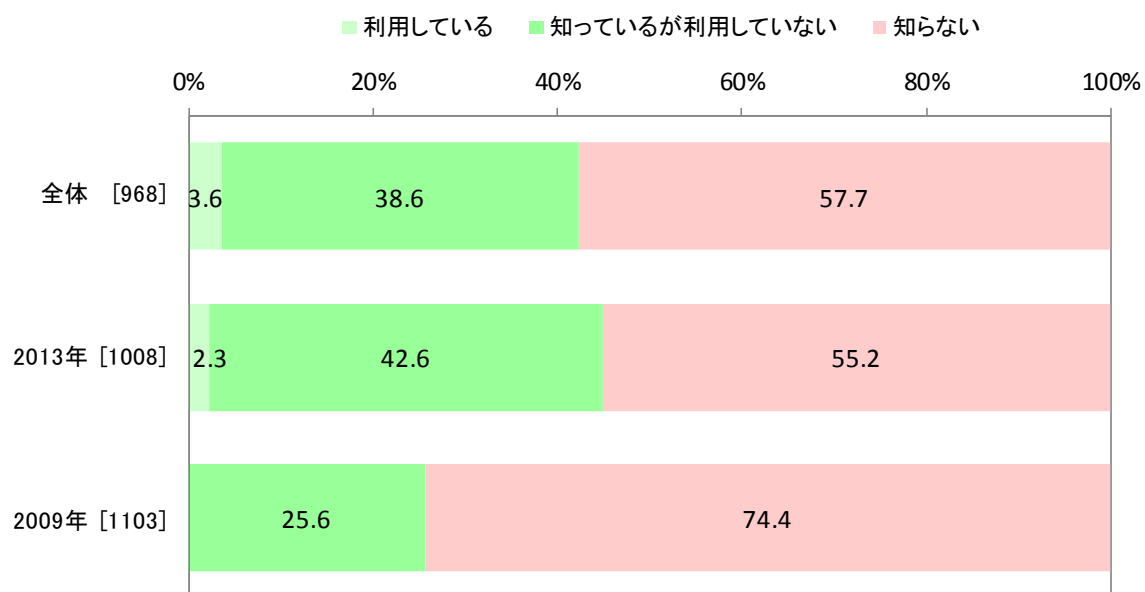
注1) 「防災活動や災害救援活動」は、2009年調査時からの新選択肢である。

注2) 過去調査時（2009年）のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

ボランティア活動相談室の認知利用状況

- ボランティア活動相談室の利用状況は、「利用している」学生は3.6%に留まるが、「知っているが利用していない」割合を含めた認知率は42.2%である。2013年調査と比べると、「知っているが利用していない」は低下傾向を示している。

■ ボランティア活動相談室の認知利用状況



注) 過去調査時(2009年)の選択肢項目は、「ボランティア活動室を知っているか」の設問に対し、左から「はい」「いいえ」であった。

H 北大の大学生活

学生生活の満足度

- 学生生活の満足度については、全体の平均満足度は3.6点（最大5点満点）で、2013年調査と同等の評価であった。満足度が高いのは「北大・札幌の生活環境」（4.1点）や「図書館」（3.9点）であり、低いのは「窓口の対応」（3.3点）である。
- 学部別では、教育学部が平均3.9点と最も高く、次いで、獣医学部が3.8点であった。その教育学部と獣医学部で満足度が高いのが「北大・札幌の生活環境」「授業」「教育研究用施設・設備」であった。
- 一方平均満足度が低いのは歯学部の3.2点、薬学部の3.3点である。この両者は「食堂・売店などのサービス」や「窓口の対応」に対する満足度が低い。

■ 学生生活の満足度(学部別)

(※回答数が少ない学部は参考程度)

	授業	教育研究用 施設・設備	その他の 施設・設備	北大・札幌の 生活環境	食堂・売店 等のサービス	図書館	教員との 関係	窓口の 対応	平均
文学部 [68]	3.8	3.5	3.5	4.2	3.5	3.7	3.7	2.9	3.6
教育学部 [19]	3.8	4.0	3.7	4.3	3.5	4.1	3.9	3.5	3.9
法学部 [69]	3.7	3.3	3.3	4.2	3.5	4.0	3.5	3.6	3.6
経済学部 [66]	3.3	3.3	3.1	4.1	3.5	4.1	3.3	3.3	3.5
理学部 [81]	3.6	3.7	3.4	4.2	3.5	4.1	3.7	3.3	3.7
医学部 [95]	3.5	3.5	3.4	4.1	3.5	3.8	3.4	3.1	3.5
歯学部 [13]	3.5	3.0	2.9	4.1	2.8	3.2	3.3	2.8	3.2
薬学部 [37]	3.1	3.4	3.2	3.9	2.8	3.7	3.4	3.1	3.3
工学部 [255]	3.5	3.7	3.4	4.1	3.4	3.9	3.5	3.2	3.6
農学部 [57]	3.7	3.5	3.3	4.2	3.4	3.8	3.6	3.2	3.6
獣医学部 [19]	4.2	4.1	3.5	4.3	3.5	3.9	3.7	3.4	3.8
水産学部 [68]	3.5	3.7	3.4	4.2	3.5	4.0	3.6	3.6	3.7
総合教育部 [121]	3.4	3.8	3.6	4.2	3.7	4.1	3.2	3.5	3.7
全体 [968]	3.5	3.6	3.4	4.1	3.5	3.9	3.5	3.3	3.6
2013年 [1008]	3.5	3.7	3.6	4.2	3.5	4.0	3.4	3.1	3.6
2009年 [6870]	3.0	3.1	2.9	3.6	*	*	3.3	2.9	3.1

(点)

注1) 「大学生活の満足度」は、2009年調査時からの新規設問である。

注2) 単位：加重平均値の算出は、5：満足 4：まあまあ満足 3：普通 2：少し不満 1：不満

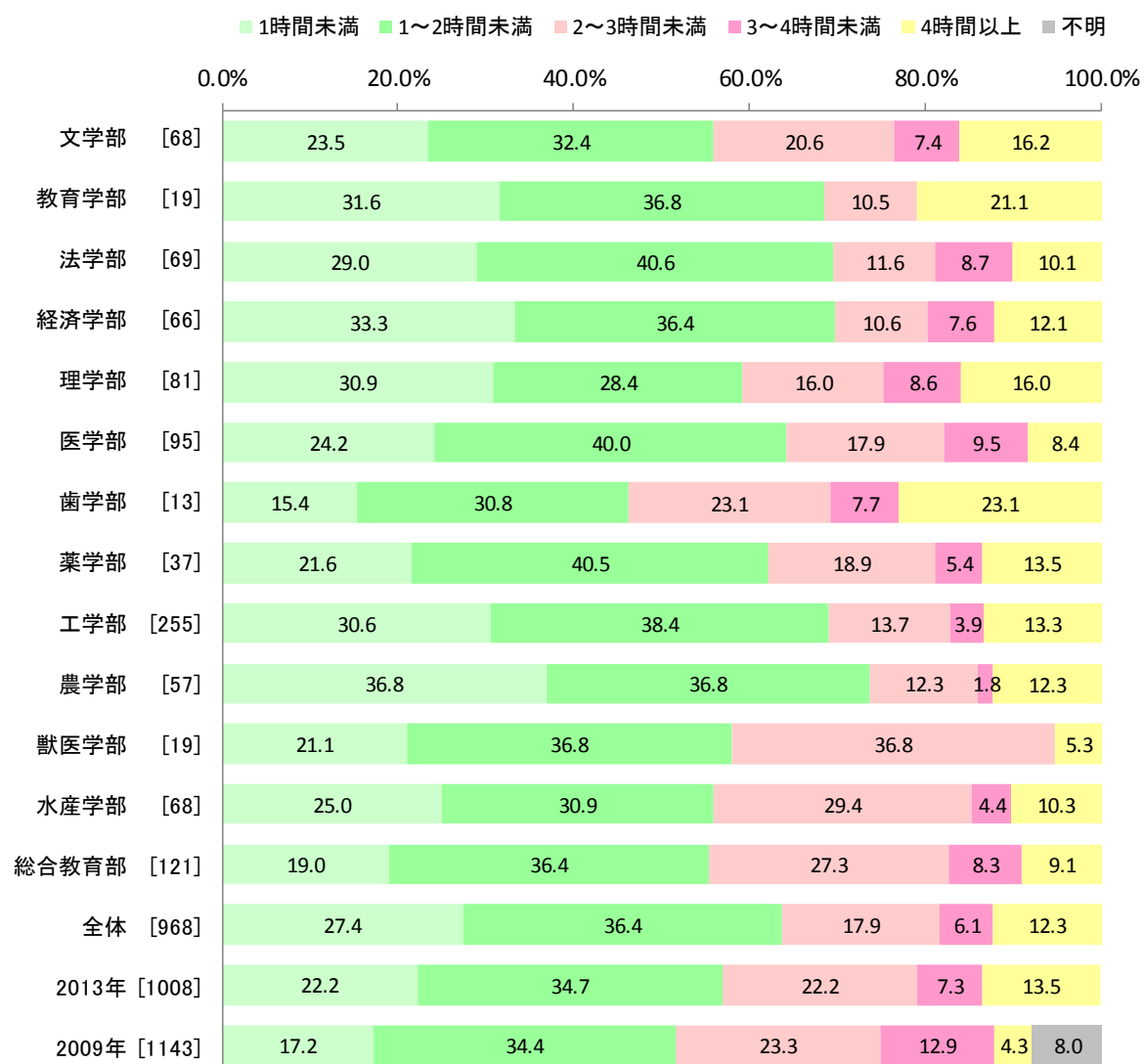
注3) 「食堂・売店等のサービス」「図書館」は、前回調査（2013年）からの新選択肢である。

一日の平均自習時間

- 一日の平均自習時間は、「1～2時間未満」が36.4%で最も多い。次いで、「1時間未満」(27.4%)、「2～3時間未満」(17.9%)である。「2時間以上」の比率が徐々に減少し、自習時間が短くなっている。
- 学部別では、一日の平均自習時間が短いのは農学部、経済学部、工学部、法学部である。一方自習時間が長いのは、総合教育部、文学部、水産学部である。

■ 一日の平均自習時間(学部別)

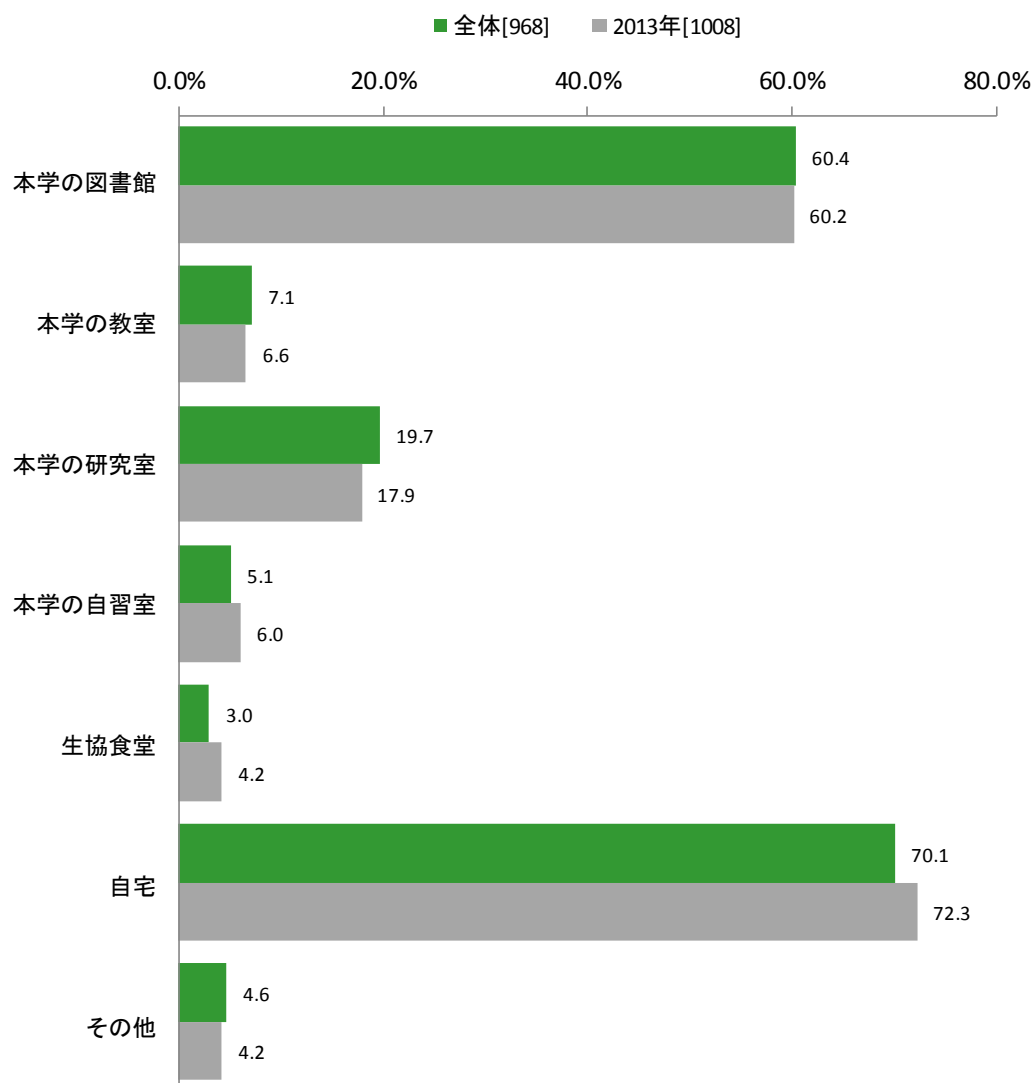
(※回答数が少ない学部は参考程度)



自習を行う場所

- 自習を行う場所は、「自宅」が70.1%と最も多く、次いで、「本学の図書館」が60.4%である。その比率は2013年調査とほとんど変わらない。「図書館」は自習の場所として広く活用されている。

■ 自習を行う場所(2つまで)



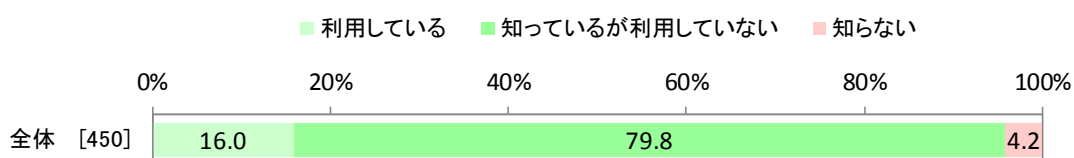
注) 「生協食堂」は、前回調査(2013年)からの新規選択項目である。

アカデミック・サポートセンターの認知利用状況と入学後の学習意欲

- 1～2年次の学生におけるアカデミック・サポートセンター認知状況は、「利用している」学生が16.0%と少ないが、「知っているが利用していない」(79.8%)を合わせると認知率は95.8%に達する。
- 入学後の学習意欲は、「高まっている」と回答した学生は全体の31.2%で、「変わらない」が39.0%、「減退している」が29.8%である。
- 学部別では、学習意欲が「高まっている」と回答した割合が最も高いのは教育学部(57.9%)、次いで理学部(42.0%)である。一方、「減退している」と回答した割合が最も高いのは経済学部(39.4%)、次いで総合教育部(38.0%)である。
- 学年別では、年次が上がるほど学習意欲が高まっている傾向にある。

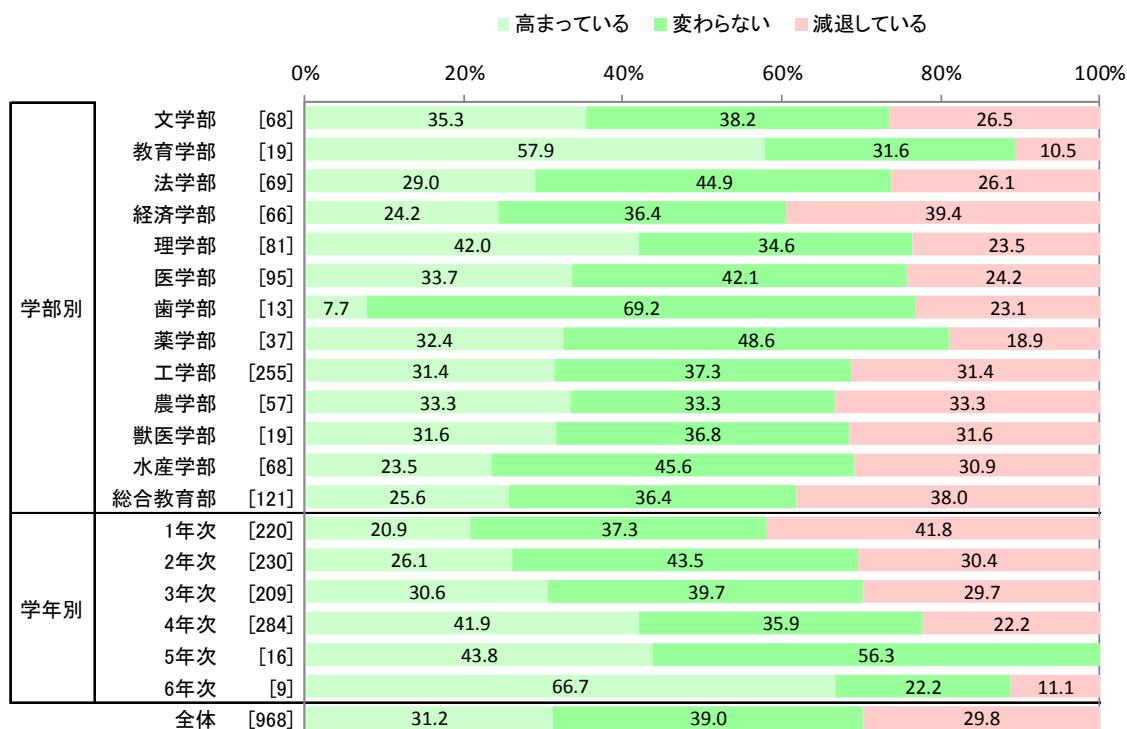
アカデミック・サポートセンターの認知利用状況

※1-2年次学生ベース



入学後の学習意欲(学部別/学年別)

(※回答数が少ない学部は参考程度)



授業への出席率

- 授業への出席率は、「90%以上」と回答した学生の割合は全体の77.0%で、平均出席率は86.0%である。
- 学部別では、総合教育部で「90%以上」の比率が92.6%で、最も出席率が高い。一方、「90%以上」と回答した比率が5割台で平均出席率も低い学部は、経済学部、法学部である。
- 学年別では、1年次と5年次の出席率は高めである。

■ 授業への出席率(学部別／学年別)

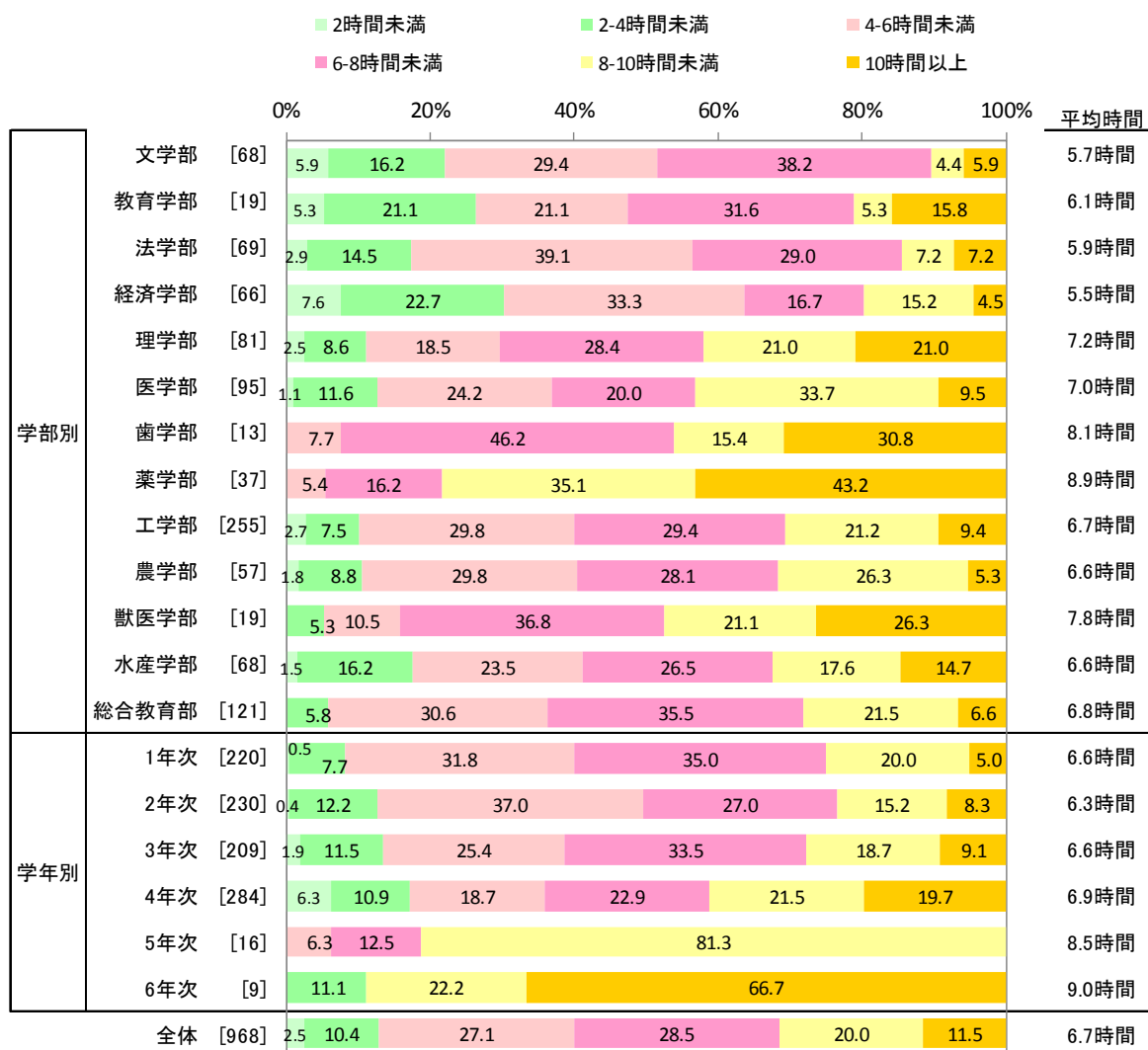
(※回答数が少ない学部は参考程度)



大学で過ごす一日の平均時間

- 大学で過ごす一日の平均時間は 6.7 時間で、「4～8 時間未満」の割合が 55.6%を占めている。
- 学部別の平均時間は、薬学部が 8.9 時間と最も長い。一方、経済学部や法学部の平均時間は短い。これは、授業への出席率と同様の傾向を示している。
- 学年別では、1 年次の平均時間は 6.6 時間、2 年次は 6.3 時間と、1 年次から 2 年次にかけて大学で過ごす時間が減少するが、3 年次は 6.6 時間、4 年次は 6.9 時間と、3 年次以降は学年が上がるにつれて再び増加に転じる。

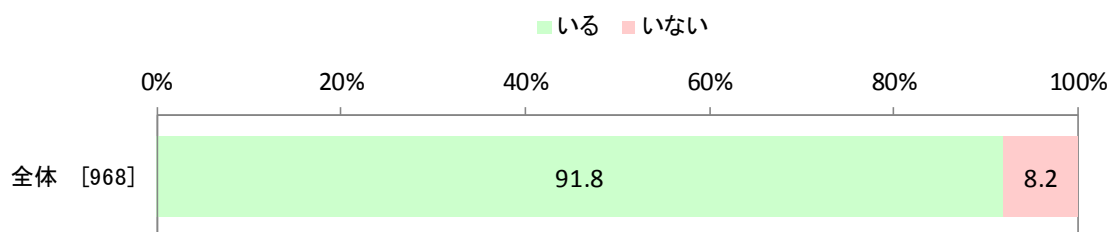
■ 大学で過ごす一日の平均時間(学部別／学年別) (※回答数が少ない学部は参考程度)



対人関係

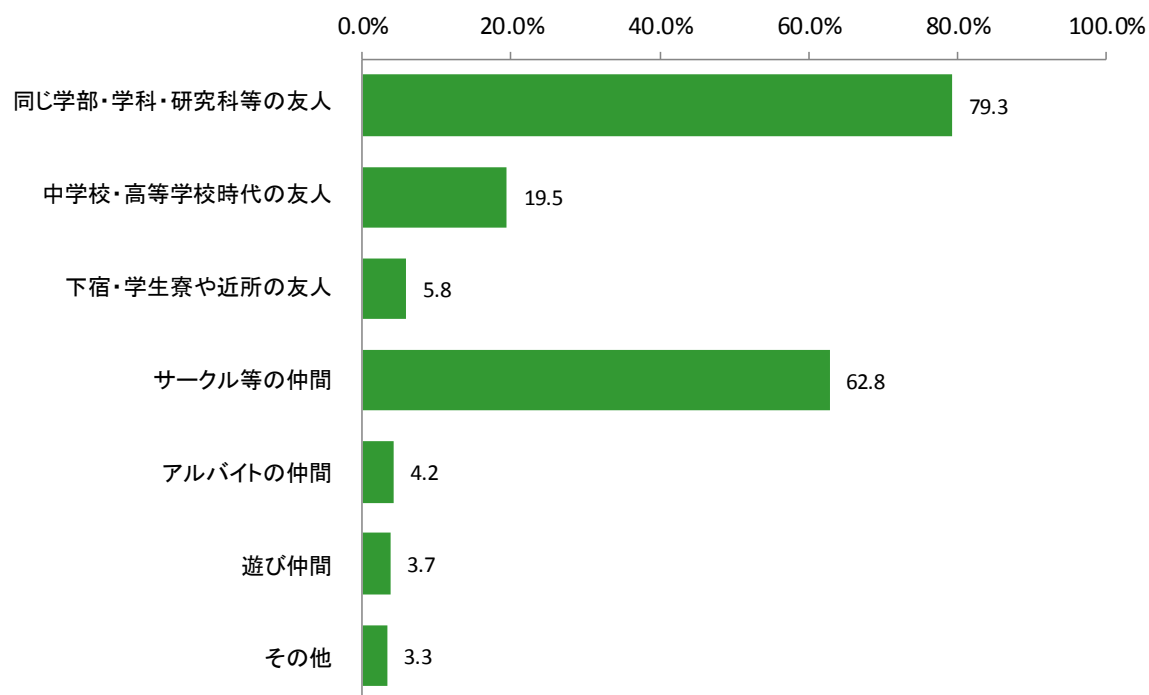
- 全体の91.8%の学生が仲の良い友人が「いる」と回答している。
- その友人との関係は、「同じ学部・学科・研究科等の友人」が79.3%と最も高く、次いで、「サークル等の仲間」が62.8%である。

■ 仲の良い友人の有無



■ 友人との関係(2 つまで) [889]

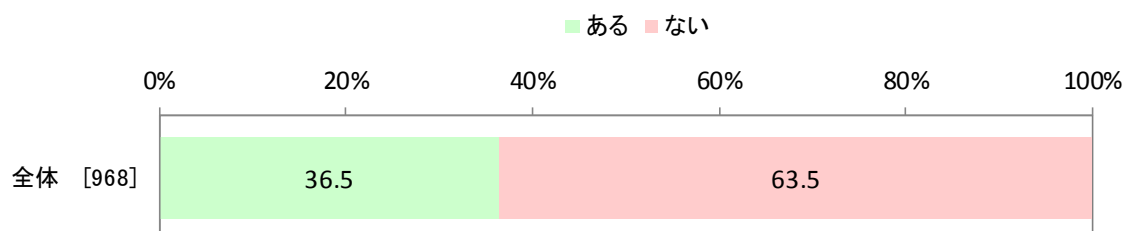
※仲の良い友人がいる者ベース



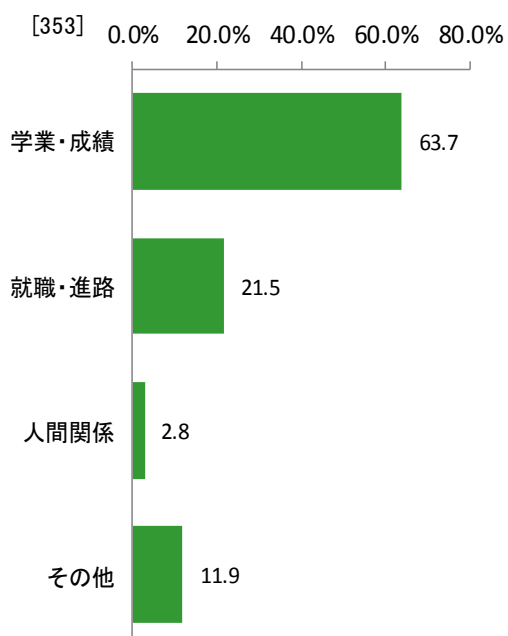
教員との関係

- 教員との会話・相談機会については、全体の36.5%の学生が「ある」と回答している。一方、会話・相談機会が「ない」と回答した学生の割合は63.5%である。
- 教員との会話・相談機会が「ある」と回答した学生の教員との相談内容をみると、「学業・成績」(63.7%)が最も多く、次いで「就職・進路」(21.5%)である。
- 一方、教員との会話・相談機会が「ない」と回答した学生が教員に相談しない理由は、「必要がない」(39.2%)が最も多く、「なんとなく話しにくい」(36.9%)と続く。

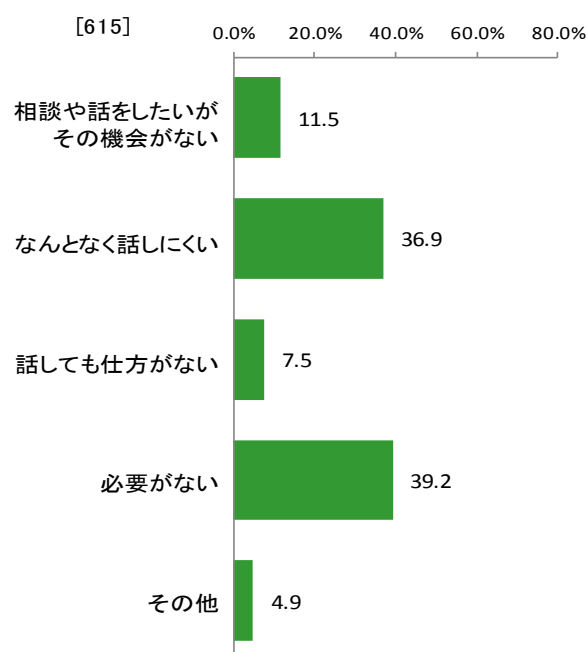
■ 教員との会話・相談機会



■ 教員との相談内容 ※教員との相談者ベース



■ 教員に相談しない理由 教員との非相談者ベース

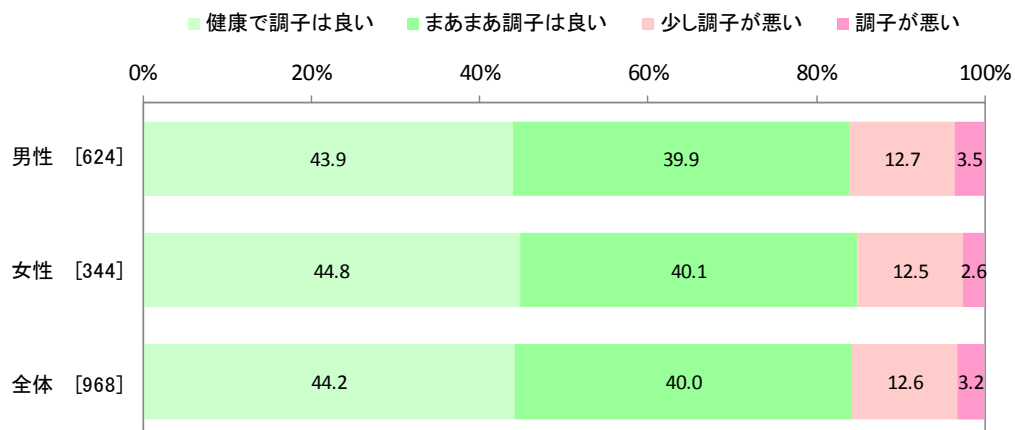


健康状態

身体の調子と通院状況

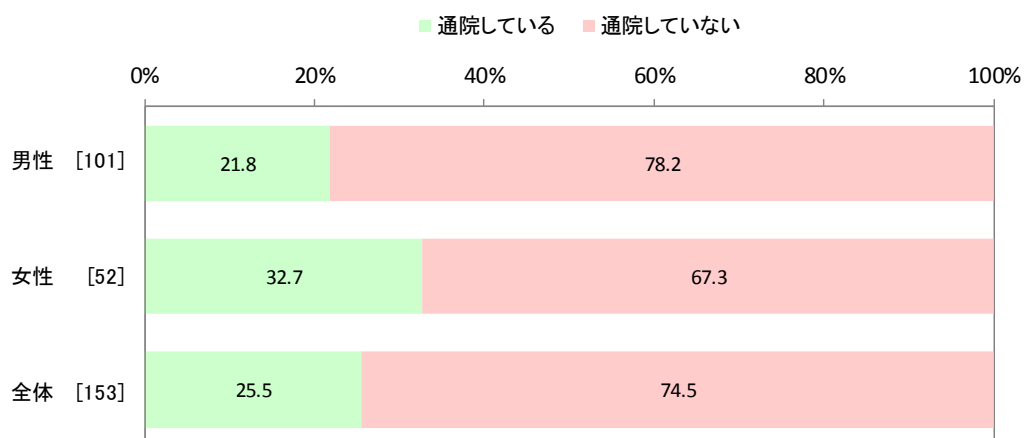
- 「健康で調子は良い」が44.2%、「まあまあ調子は良い」の40.0%を合わせると、「調子は良い」と回答した学生は84.2%である。
- 男女で、大きな差異はない。
- 身体の調子が悪い学生のうち、通院している学生は25.5%で4人に1人が通院している。
- 男女別では、通院率が高いのは女子学生（32.7%）であり、男子学生（21.8%）を上回る。

■ 身体の調子(男女別)



■ 通院状況(男女別)

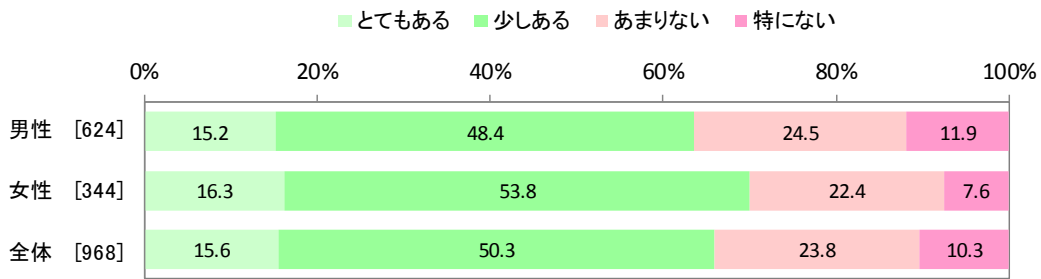
※身体の調子が悪い者ベース



悩み・不安

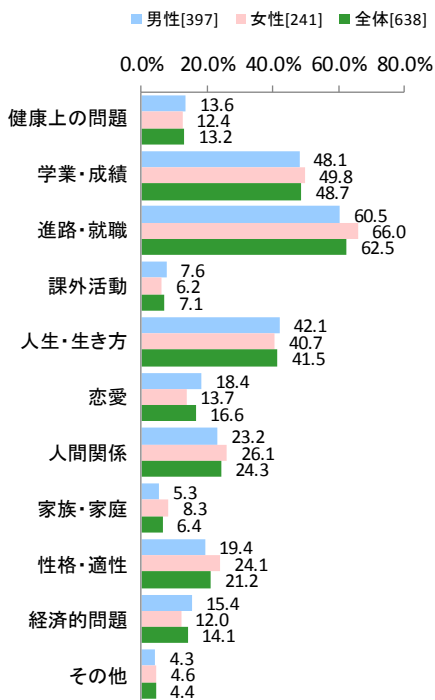
- 悩み・不安が「とてもある」と回答した学生は15.6%、「少しある」(50.3%)を合わせると、悩み・不安が「ある」学生は65.9%である。一方、「あまりない」(23.8%)、「特にない」(10.3%)を合わせた悩み・不安が「ない」学生は34.1%である。
- 悩み・不安が「ある」と回答した学生の原因は、「進路・就職」が62.5%で最も多く、次いで「学業・成績」(48.7%)や「人生・生き方」(41.5%)と続く。
- 悩み・不安の相談相手は、「北大の友人・先輩」(55.6%)が最も多く、次いで「家族」(42.5%)と続く。女子学生は男子学生よりも「北大の友人・先輩」「家族」に相談する比率が高い。一方男子学生は「相談できる相手はいない」「相談相手は不要(自分で解決)」が多い。

■ 悩み・不安の有無(男女別)



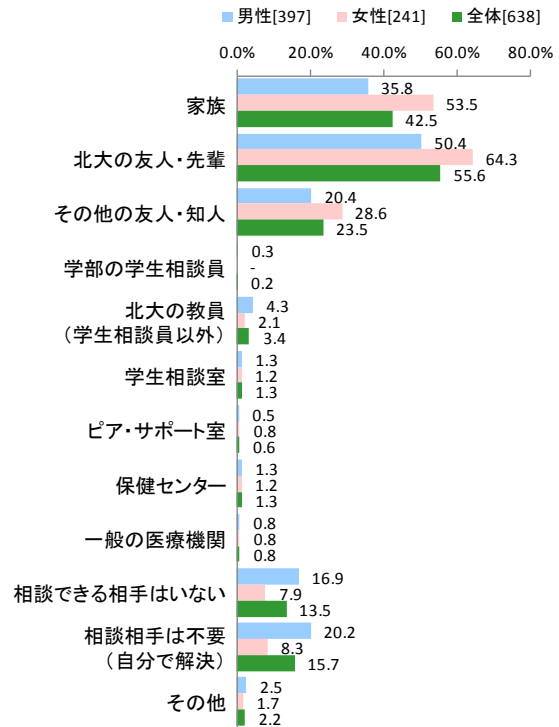
■ 悩み・不安の原因(男女別・3つまで)

※悩み・不安がある者ベース



■ 悩み・不安の相談相手(男女別・2つまで)

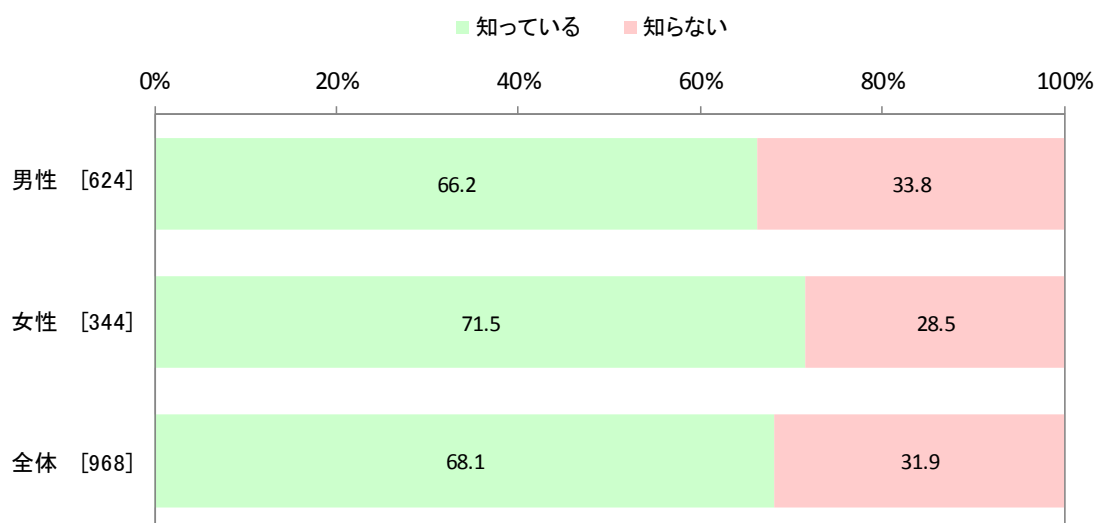
※悩み・不安がある者ベース



カウンセリングサービスの認知状況

- カウンセリングサービスの認知率は68.1%である。
- 男女別では、男子学生より女子学生の方が認知率が高い。

■ カウンセリングサービスの認知状況(男女別)

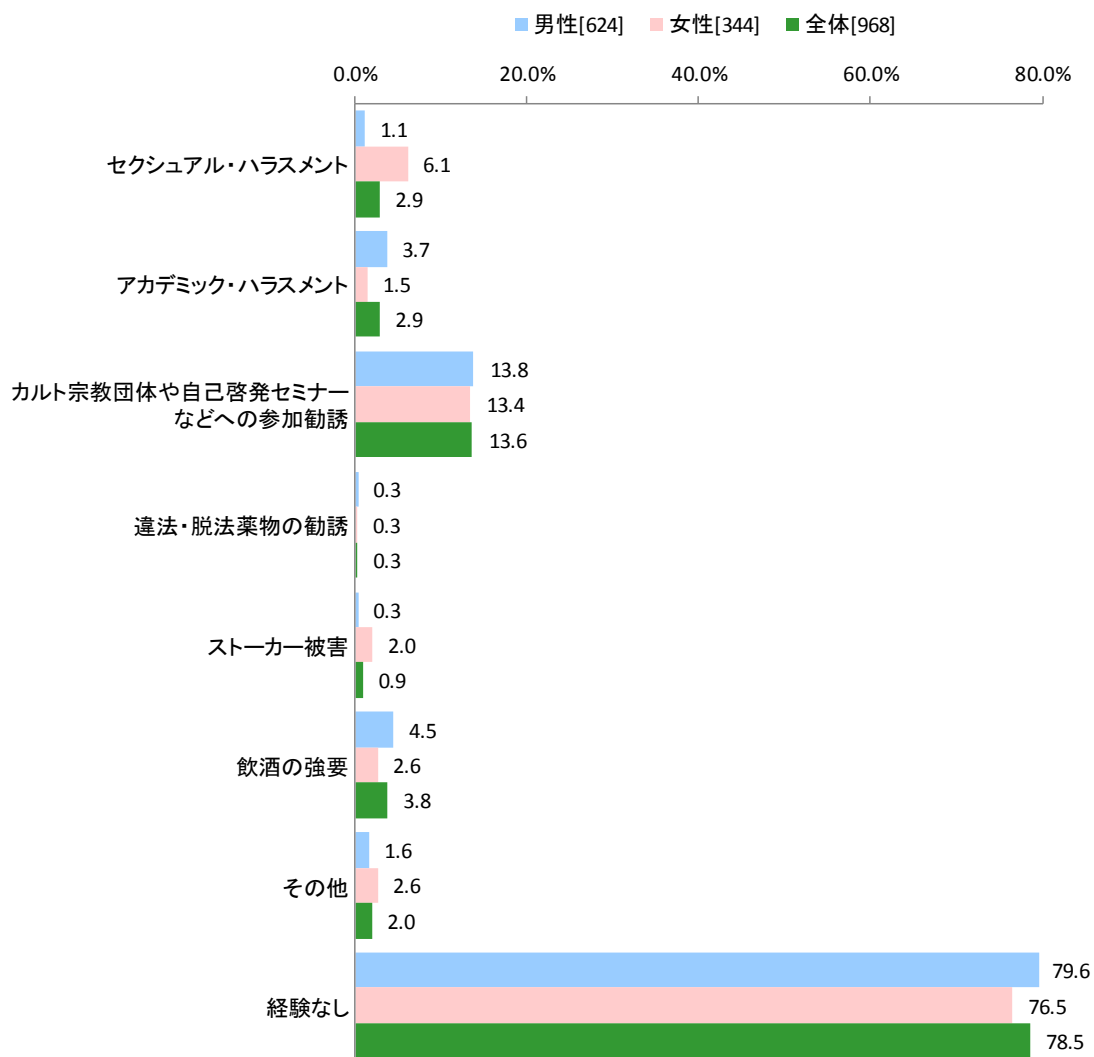


J ハラスメント及びカルト宗教団体等の被害状況

自身のハラスメント等の被害経験

- 学生の21.5%はハラスメント等の被害を経験している。その被害経験として、13.6%が「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」をあげている。
- セクシュアルハラスメントの被害は、女子学生の6.1%が経験している。

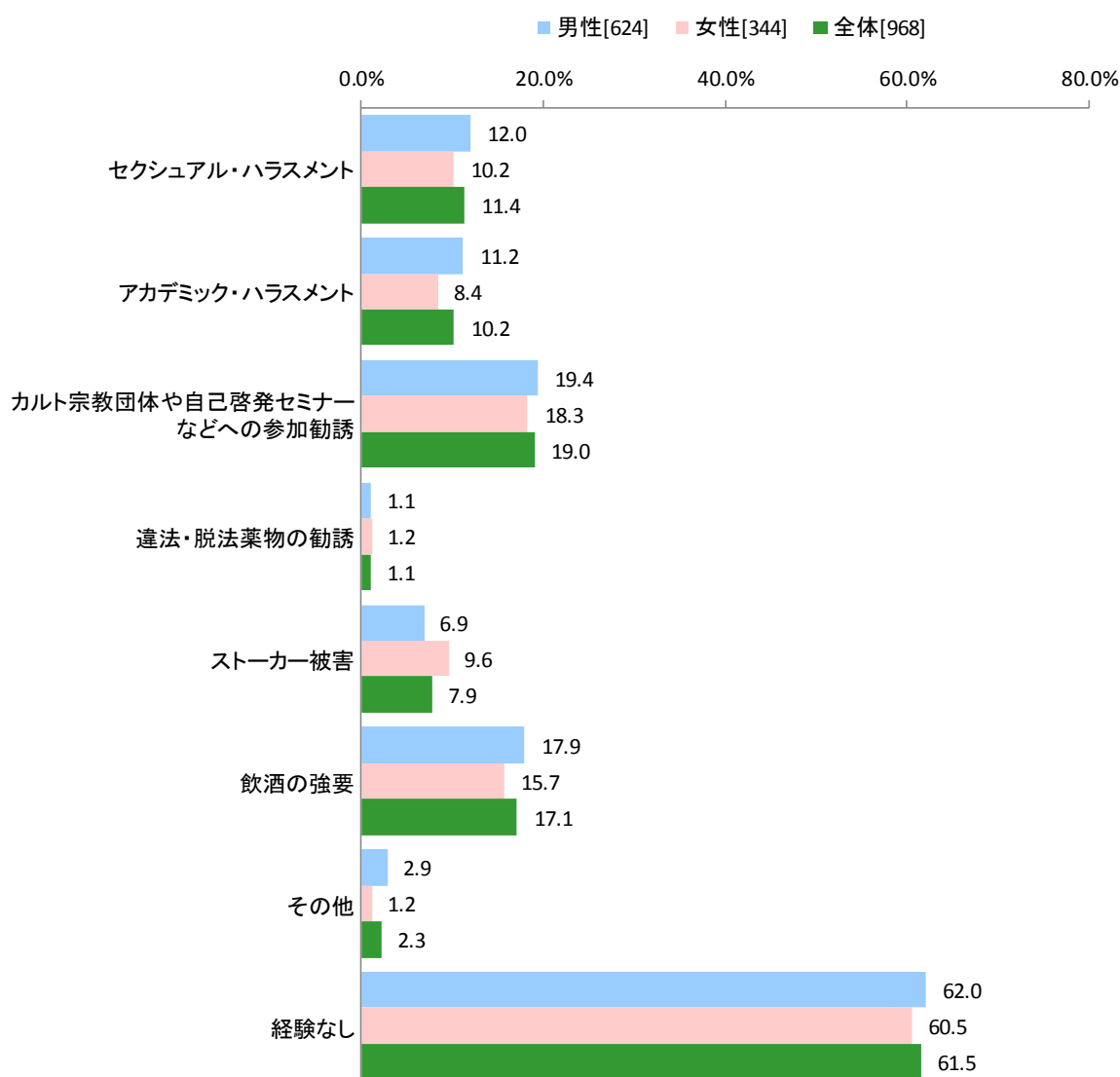
■ 自身のハラスメント等の被害経験(男女別・複数回答可)



他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験

- 学生の 38.5%は他人のハラスメント等を見聞きした経験を持つ。その経験として、「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」が 19.0%、「飲酒の強要」が 17.1%などである。
- 男女別では、男子学生の比率が高いのは「セクシュアル・ハラスメント」「アカデミック・ハラスメント」「飲酒の強要」である。一方女子学生の比率が高いのは「ストーカー被害」である。

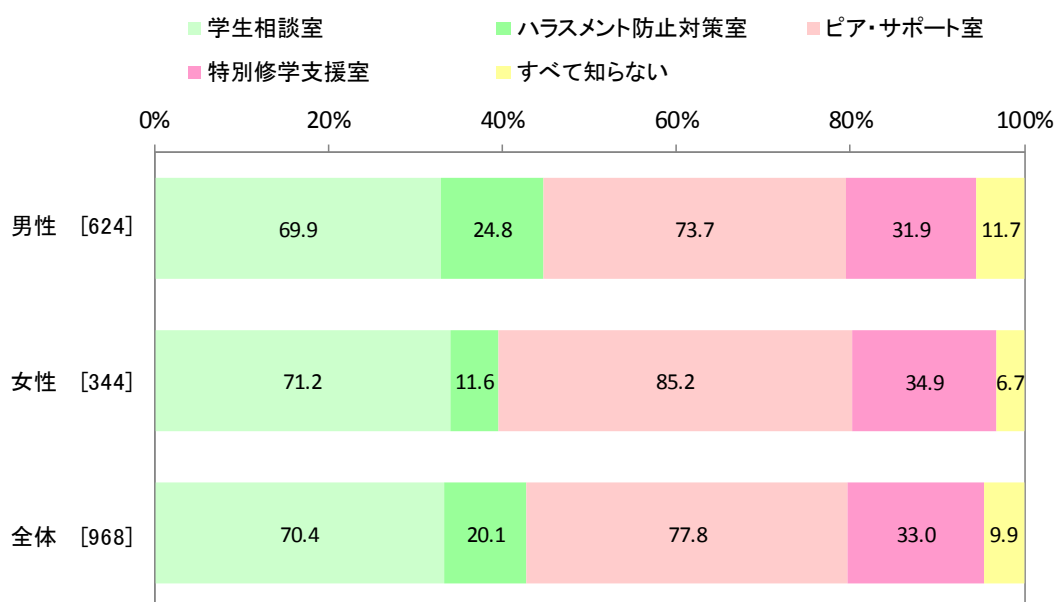
■ 他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験(男女別・複数回答可)



学生相談窓口の認知状況

- 学生相談窓口の認知状況として、「ピア・サポート室」や「学生相談室」は7割以上の学生が認知している。一方「ハラスメント防止対策室」が20.1%、「特別修学支援室」が33.0%で認知率は低い。
- 男女別では、「ピア・サポート室」の認知率は、女子学生が85.2%であるのに対して、男子学生は73.7%である。一方「ハラスメント防止対策室」は男子学生が24.8%に対して、女子学生は11.6%と差が生じている。

■ 学生相談窓口の認知状況(男女別・複数回答可)

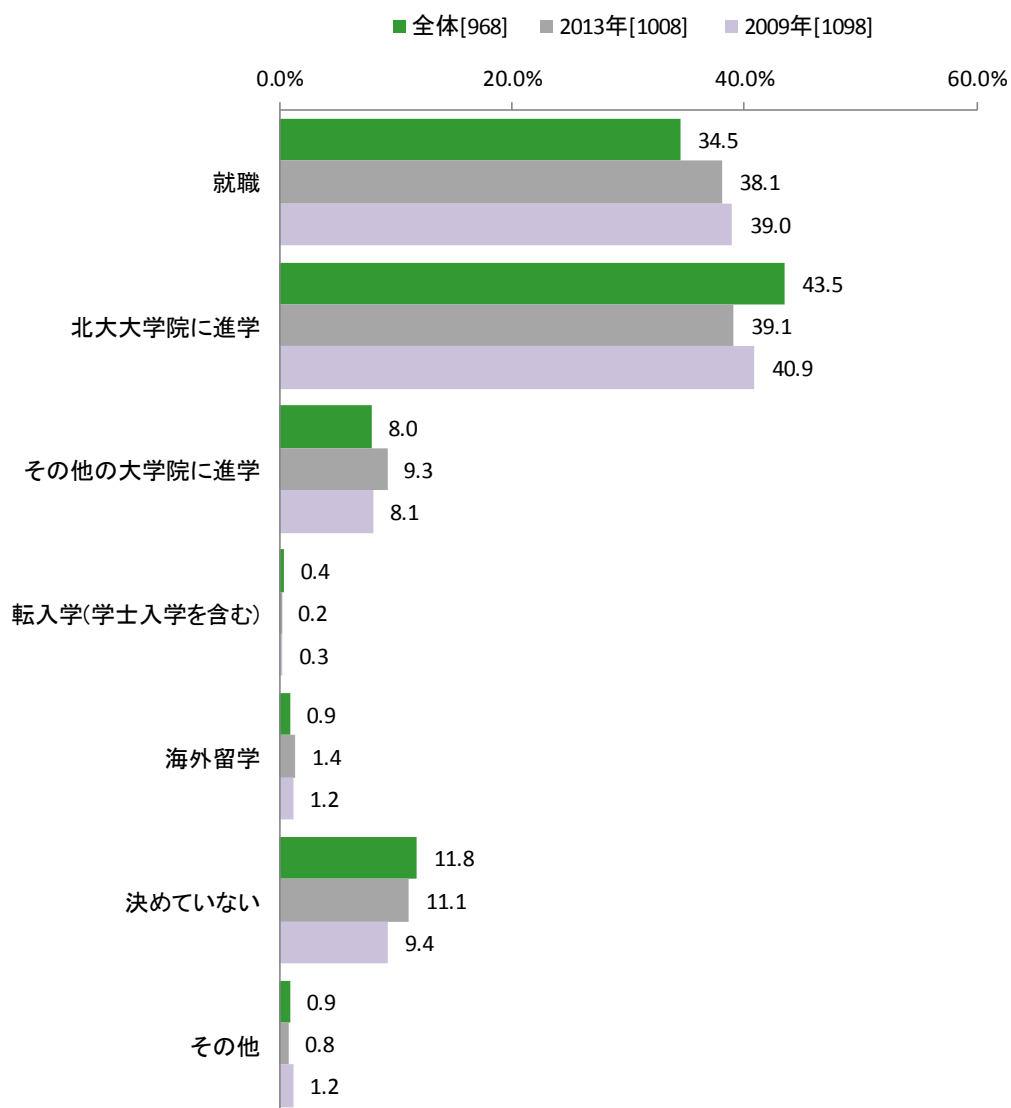


K 進路の希望

卒業後の進路希望(全体)

- 卒業後の進路希望は、「北大大学院に進学」が43.5%、「その他の大学院に進学」は8.0%で、「大学院への進学」を希望する学生は51.5%とほぼ半数を占める。過去調査においても「大学院への進学」の割合が高いが、今回調査では更に高くなった。一方「就職」は34.5%であり、2009年調査、2013年調査よりも減少している。

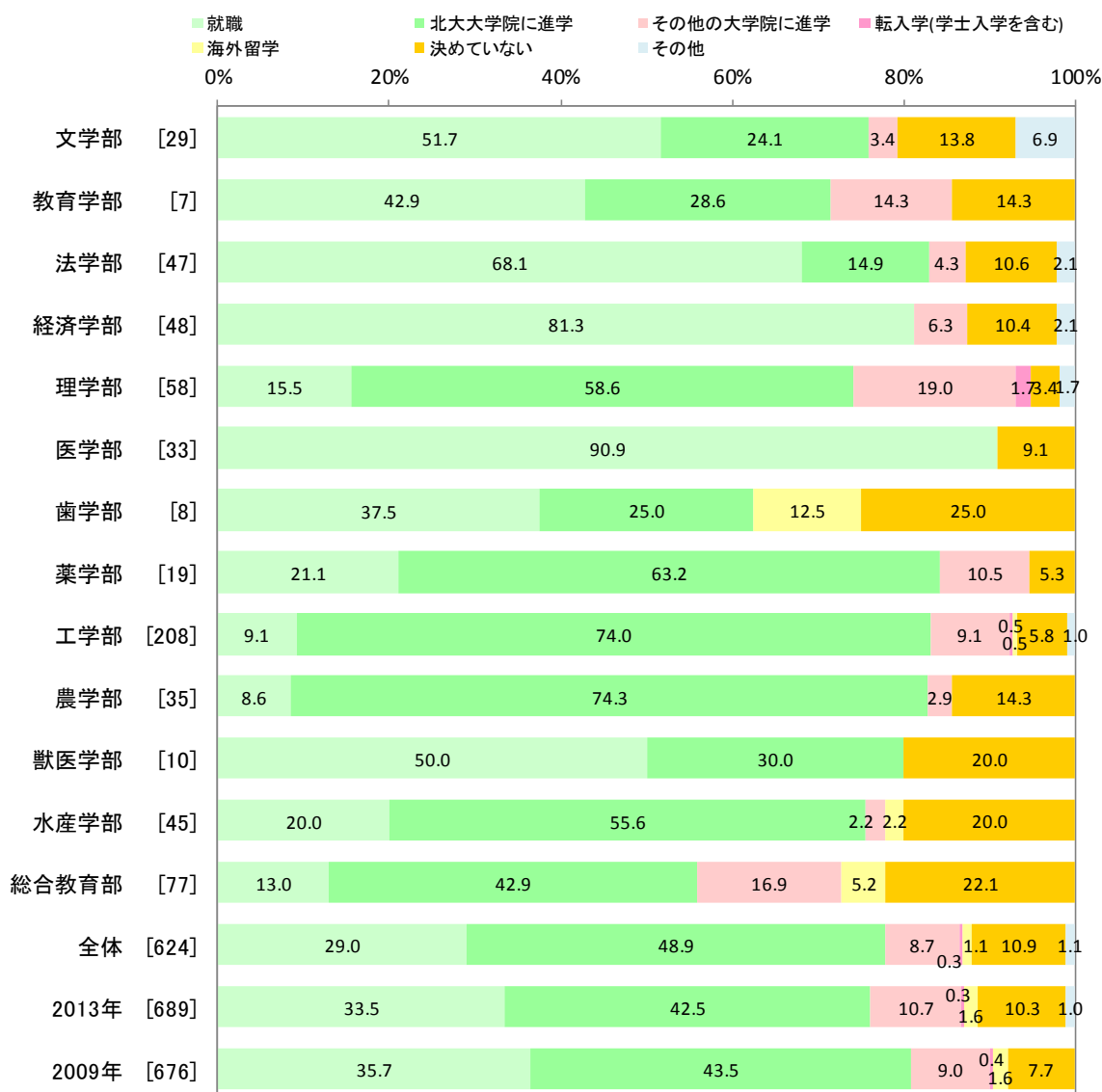
■ 卒業後の進路希望(全体)



卒業後の進路希望(男子)

- 男子学生の卒業後の進路希望は、「北大大学院に進学」が48.9%、「その他の大学院に進学」は8.7%で、合わせると「大学院への進学」が57.6%と6割近くを占める。一方、「就職」は29.0%である。2009年調査、2013年調査から「就職」の比率が低下している。
- 学部別では、「北大大学院に進学」を希望する男子学生が多いのは、農学部、工学部、薬学部、理学部、水産学部である。一方、「就職」を希望する男子学生が多いのは、医学部、経済学部、法学部、文学部である。

■ 卒業後の進路希望(男子・学部別) (※回答数が少ない学部は参考程度)

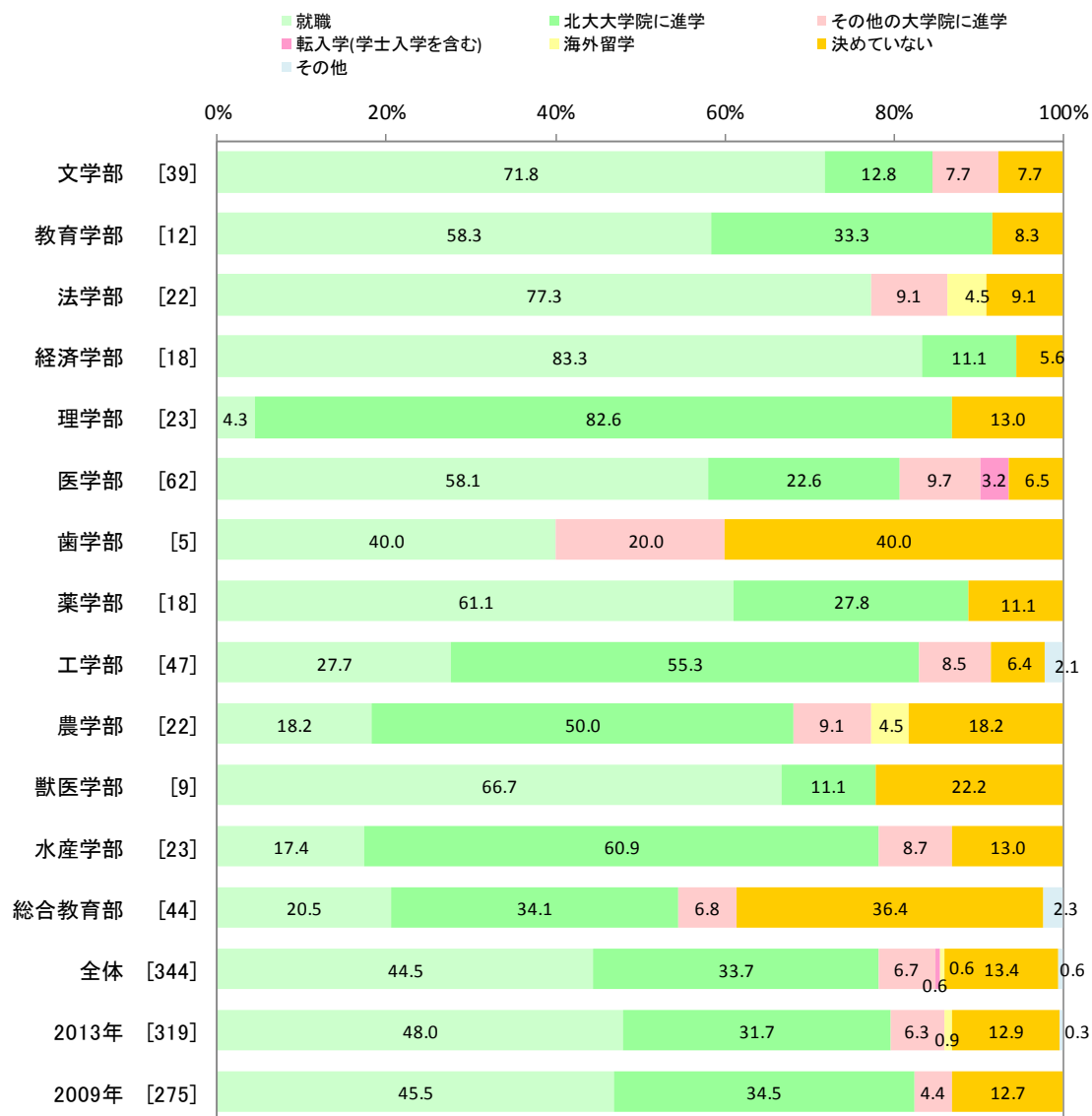


卒業後の進路希望(女子)

- 女子学生の卒業後の進路希望は、「北大大学院に進学」が33.7%、「その他の大学院に進学」は6.7%で、「大学院への進学」は合わせて40.4%であった。「就職」は44.5%で、「大学院への進学」より「就職」希望者が若干多い。
- 学部別では、「北大大学院に進学」を希望する女子学生が多いのは、理学部、水産学部、農学部、工学部である。一方、「就職」を希望する女子学生が多いのは、法学部、文学部、医学部である。

■ 卒業後の進路希望(女子・学部別)

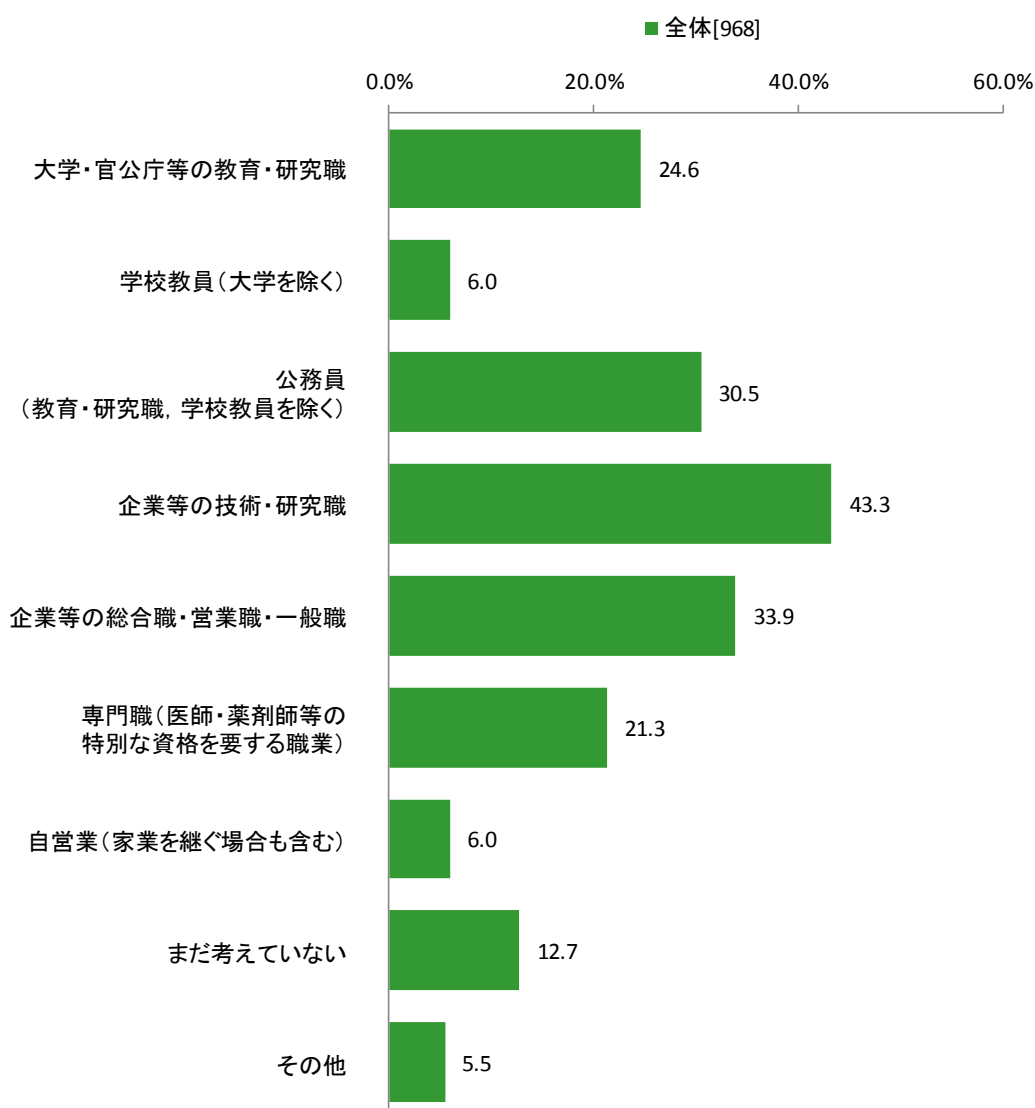
(※回答数が少ない学部は参考程度)



希望職種(全体)

- 希望職種は、「企業等の技術・研究職」(43.3%)が最も多く、次いで、「企業等の総合職・営業職・一般職」(33.9%)、「公務員(教育・研究職、学校教員を除く)」(30.5%)、「大学・官公庁等の教育・研究職」(24.6%)、「専門職(医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業)」(21.3%)と続く。

■ 希望職種(全体・3つまで)

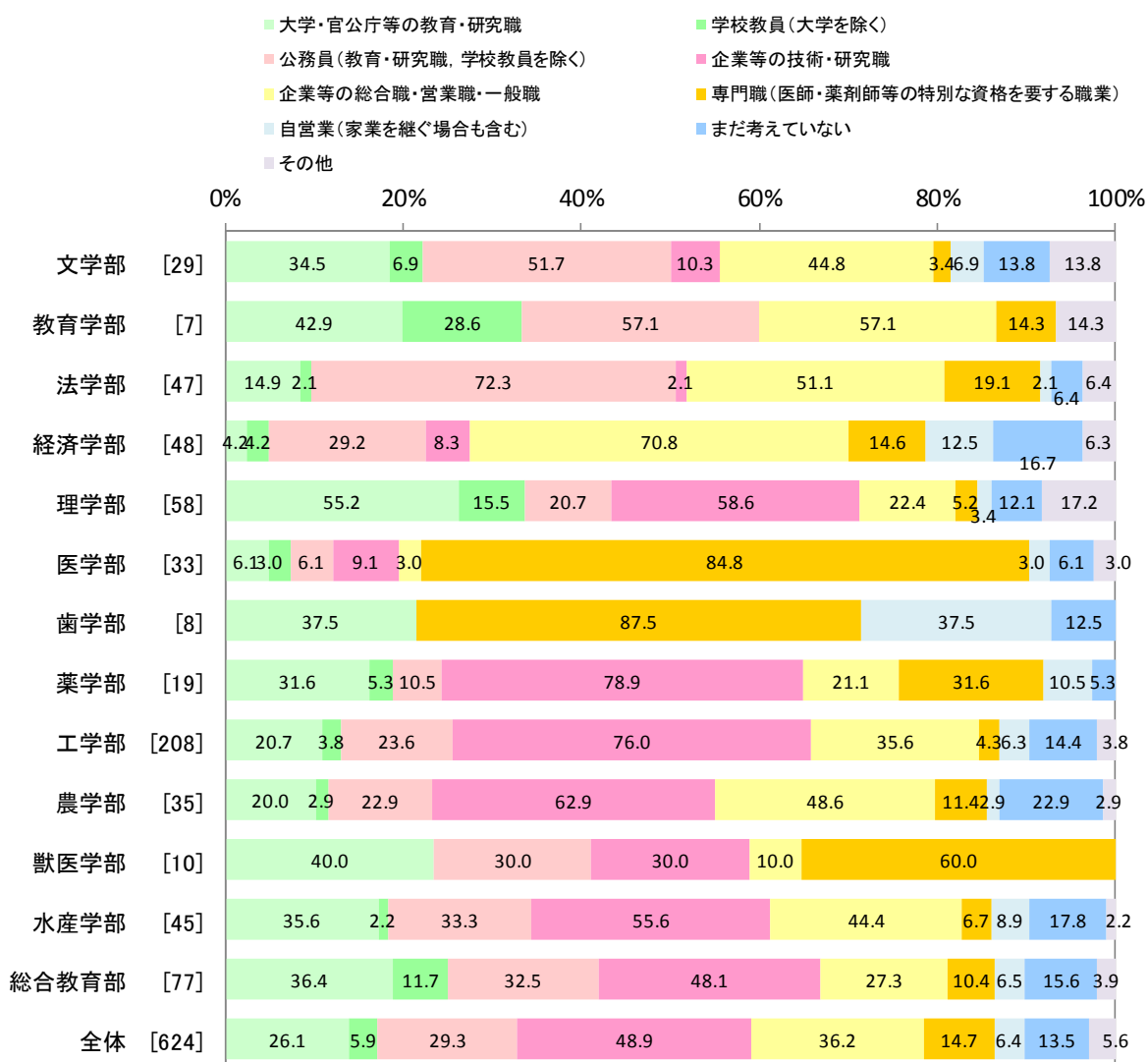


希望職種(男子)

- 男子学生の卒業後の希望職種は、「企業等の技術・研究職」(48.9%)が最も多く、次いで、「企業等の総合職・営業職・一般職」(36.2%)、「公務員(教育・研究職、学校教員を除く)」(29.3%)、「大学・官公庁等の教育・研究職」(26.1%)と続く。
- 学部別では、学部の専門性を反映した希望職種となっている。特に、医学部は「専門職」、工学部、農学部、理学部、水産学部は「企業等の技術・研究職」を希望する割合が高い。

希望職種(男子・学部別・3つまで)

(※回答数が少ない学部は参考程度)



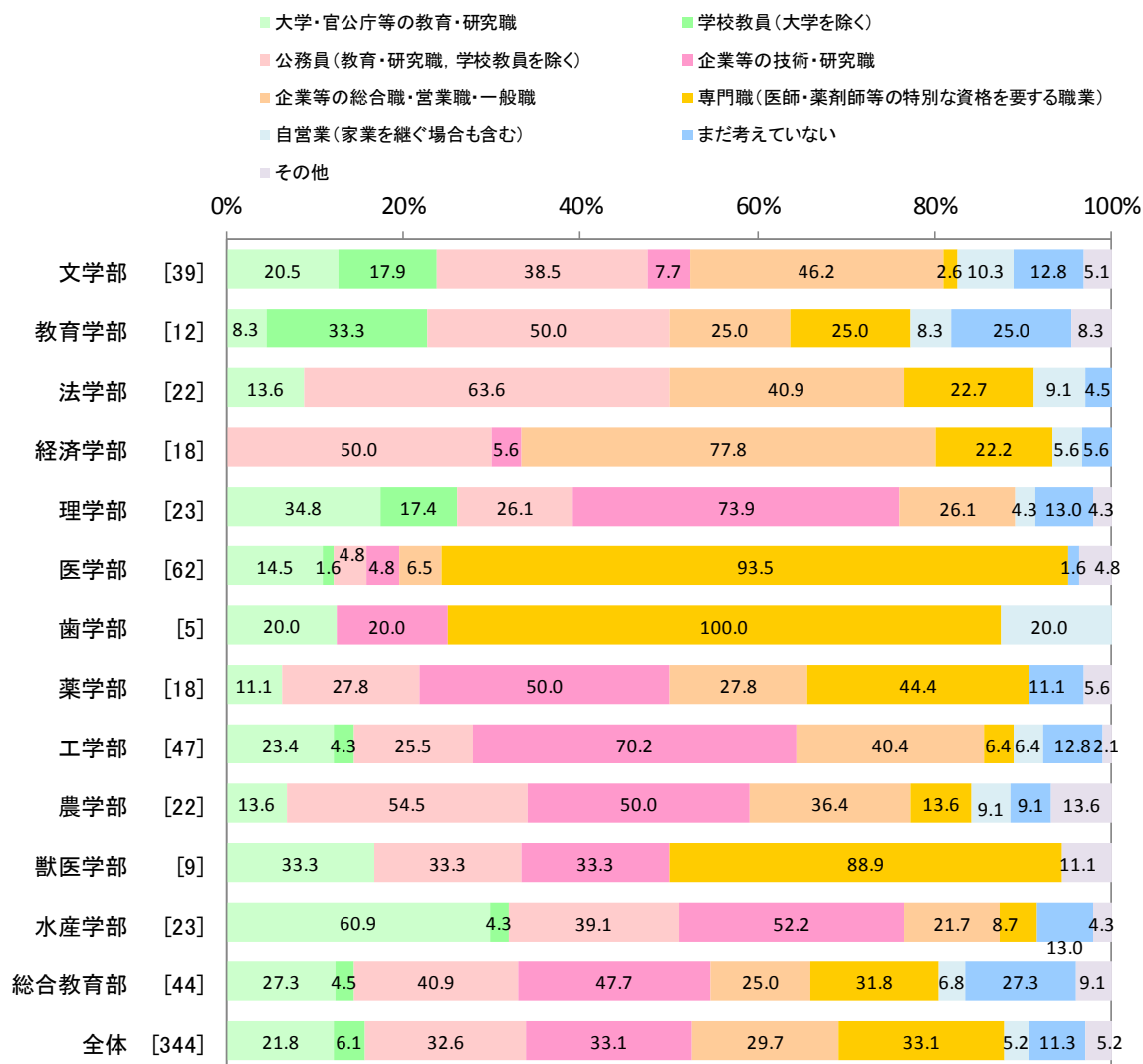
注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

希望職種(女子)

- 女子学生の卒業後の希望職種は、「企業等の技術・研究職」(33.1%)、「専門職(医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業)」(33.1%)が多く、次いで、「公務員(教育・研究職、学校教員を除く)」(32.6%)と続く。
- 学部別では、学部の専門性を反映した希望職種となっている。特に、医学部は、「専門職」、理学部、工学部、水産学部、農学部は「企業等の技術・研究職」、経済学部は「企業等の総合職・営業職・一般職」を希望する割合が高い。

希望職種(女子・学部別・3つまで)

(※回答数が少ない学部は参考程度)

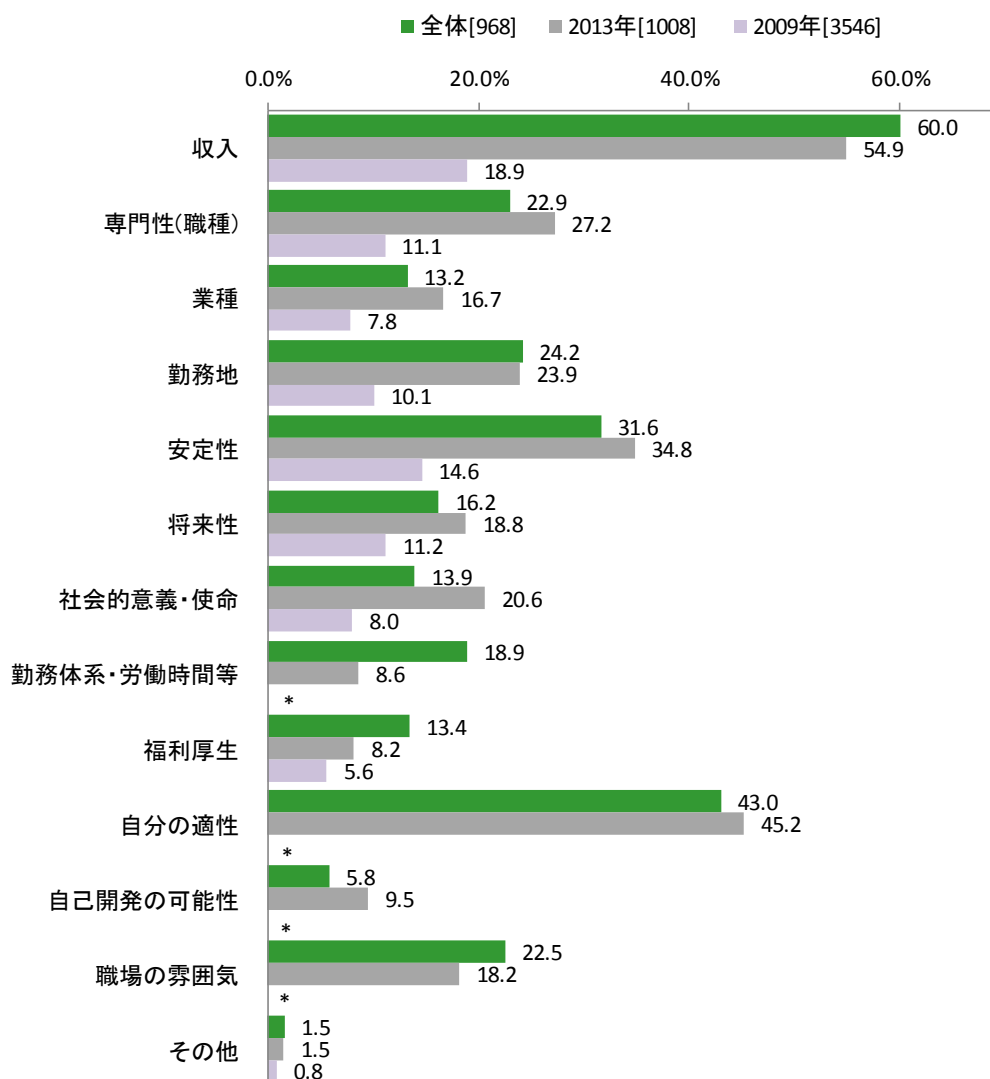


注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

就職で重要視すること(全体)

- 就職で重要視することは、「収入」が60.0%で最も多く、次いで「自分の適性」(43.0%)、「安定性」(31.6%)、「勤務地」(24.2%)、「専門性(職種)」(22.9%)、「職場の雰囲気」(22.5%)と続く。

■ 就職で重要視すること(全体・3つまで)



注1) 過去調査時(2009年)は、1-5位の累計を掲載。「*」印は前回調査(2013年)からの新選択肢である。

注2) 過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

就職で重要視すること(男子)

- 男子学生の就職で重要視することは、「収入」(62.5%)が最も多く、次いで「自分の適性」(39.9%)、「安定性」(32.2%)、「勤務地」(23.1%)、「専門性(職種)」(22.3%)と続く。
- 学部別では、「収入」を重視する傾向がみられるのは、薬学部、工学部である。

■ 就職で重要視すること(男子・学部別・3つまで) (※回答数が少ない学部は参考程度)



注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。
過去調査時(2009年)のデータは、1-3位の累計であり、回答の合計を100%とする延べ数値である。

就職で重要視すること(女子)

- 女子学生の就職で重要視することは、「収入」(55.5%)が最も多く、次いで「自分の適性」(48.5%)、「安定性」(30.5%)、「勤務地」(26.2%)、「専門性(職種)」(24.1%)と続く。
- 学部別では、「自分の適性」を重視する傾向がみられるのは、文学部、農学部、総合教育部である。

■ 就職で重要視すること(女子・学部別・3つまで) (※回答数が少ない学部は参考程度)

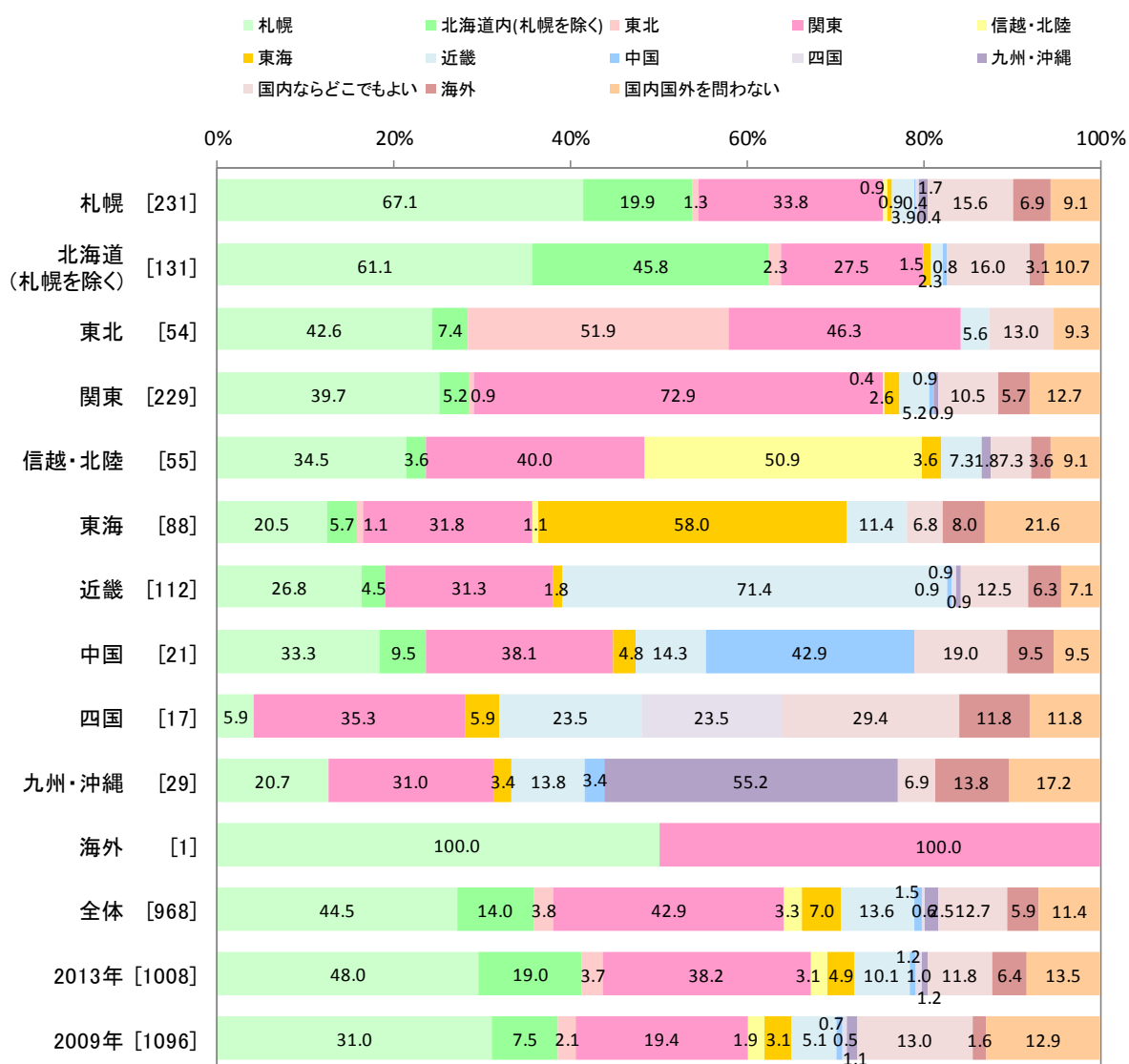


注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。
過去調査時(2009年)のデータは、1-3位の累計であり、回答の合計を100%とする延べ数値である。

就職希望地域

- 就職希望地域は、全体では「札幌」(44.5%)と「関東」(42.9%)が上位を占める。次いで「北海道内(札幌を除く)」(14.0%)、「近畿」(13.6%)である。
- 出身地別では、全般的に地元志向が強い。その中で「中国」「四国」の出身者は他の地域の出身者ほど地元志向が強くない。

■ 就職希望地域(出身地別・2つまで)

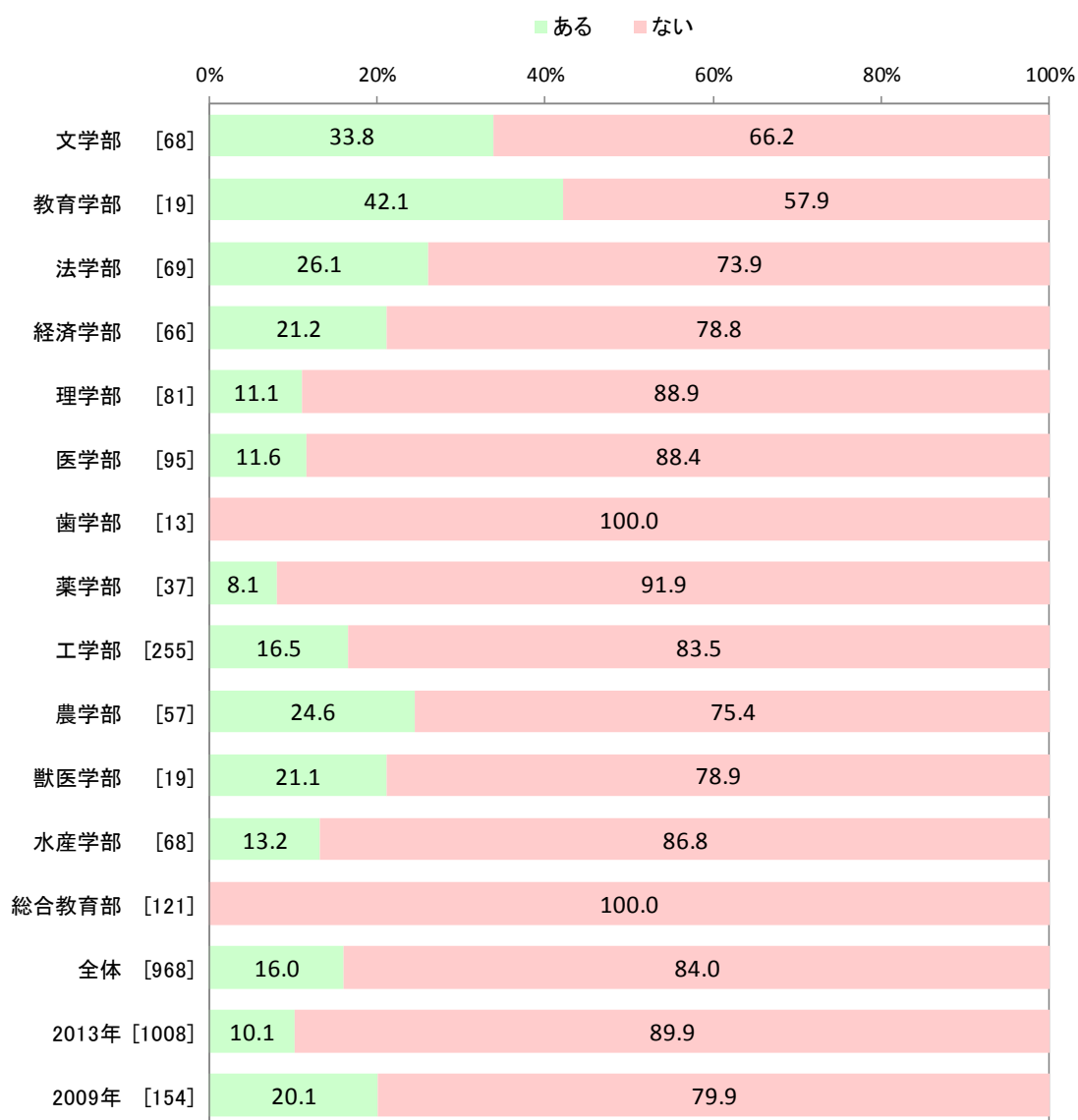


注) 過去調査時(2009年)は単一選択であったが、前回調査から複数選択としたため、割合の総和は100%を超える。

インターンシップへの参加経験

- 全体の 16.0%がインターンシップへの参加経験が「ある」と回答している。2013 年調査 (10.1%) に参加率が低下したが今回再び増加した。
- 学部別では、教育学部、文学部、法学部、農学部が参加経験の比率が高い。

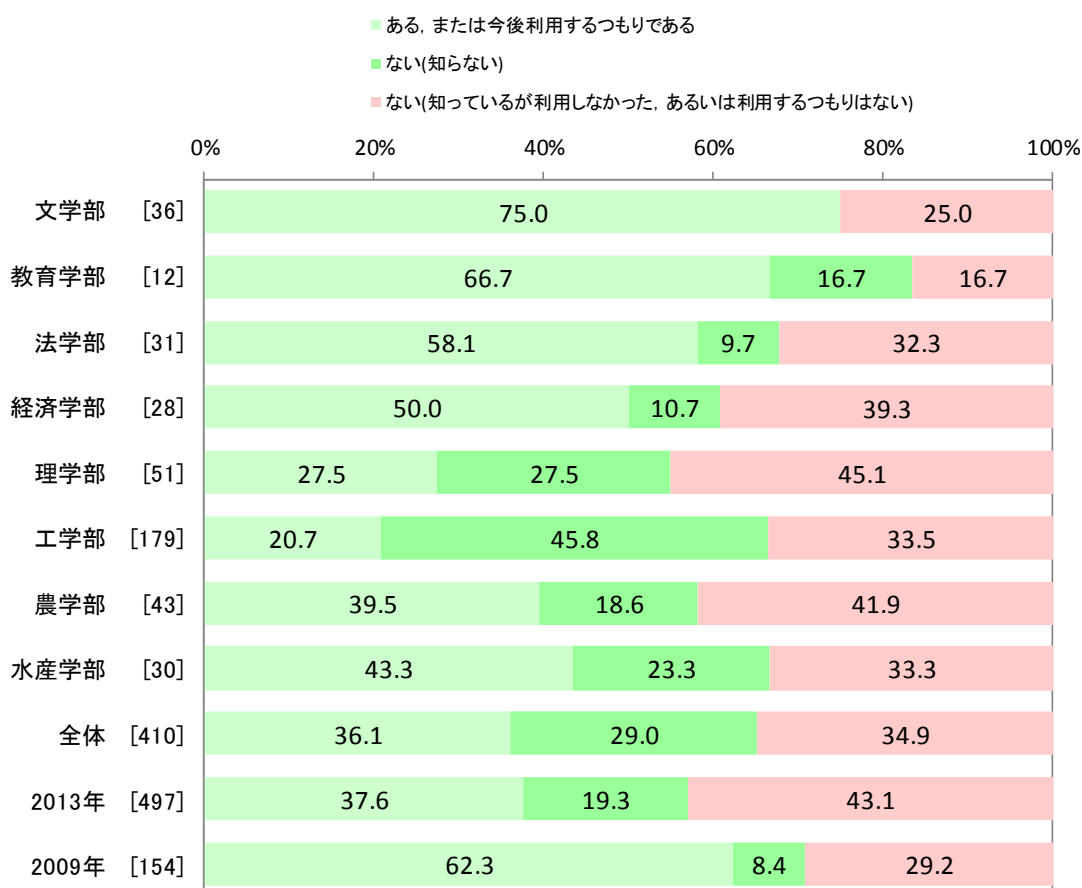
■ インターンシップへの参加経験(学部別) (※回答数が少ない学部は参考程度)



キャリアセンターの利用状況

- 3～4年次の学生におけるキャリアセンター利用状況について、「ある、または今後利用するつもりである」が36.1%、「ない（知っているが利用しなかった、あるいは利用するつもりはない）」（34.9%）を含めた認知率は71.0%である。2013年調査と比べると、「ない（知らない）」の比率が増加している。
- 学部別で、キャリアセンターの利用経験が「ある、または今後利用するつもりである」の比率が多いのは、文学部、法学部である。一方、工学部、理学部は「ある、または今後利用するつもりである」の比率が低い。

■ キャリアセンターの利用経験(学部別) ※3・4年次ベース (※回答数が少ない学部は参考程度)



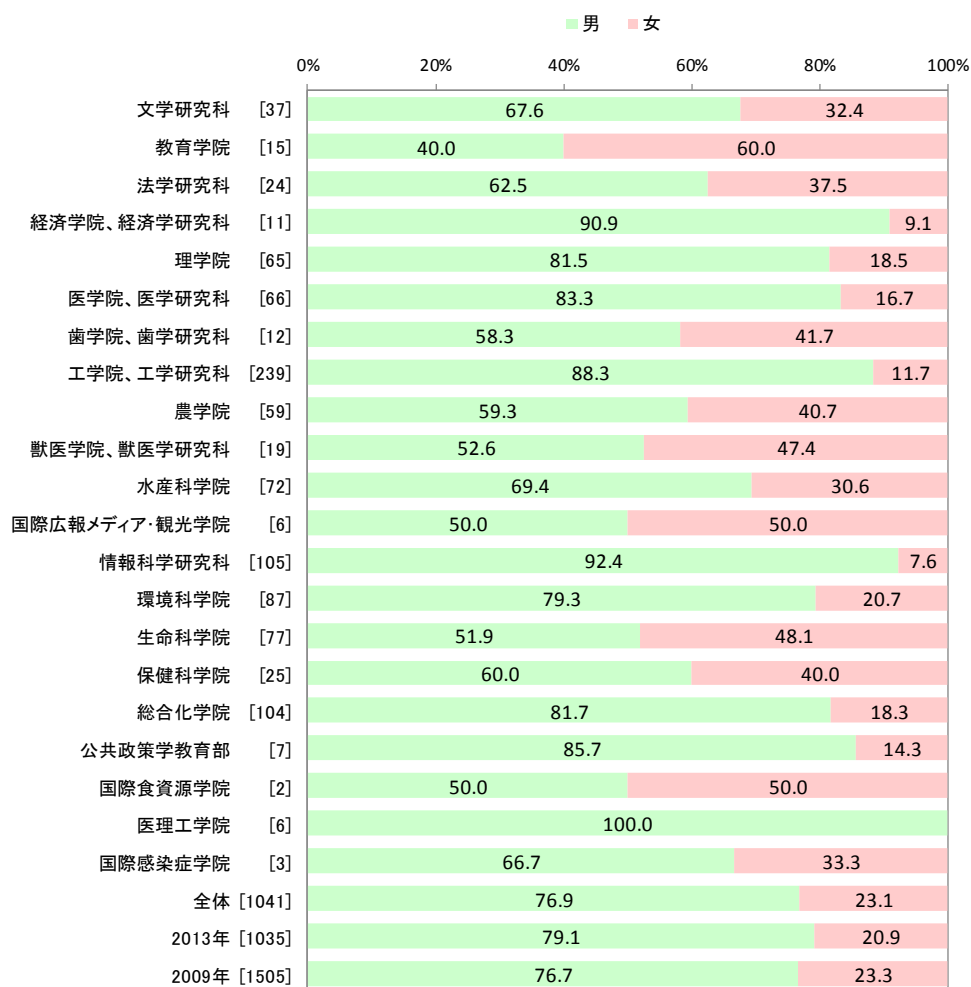
III 大学院学生編

A 回答者の基本的特徴

回答者の男女比

- 回答者のうち男子学生が全体の76.9%、女子学生が23.1%を占めている。これは本学の在籍学生数における女子の割合29.2%（平成30年3月1日現在）と概ね一致しており、サンプルとしては妥当である。
- 研究科等別の在籍学生数における男女比率では、各研究科ともほぼ研究科等の在籍者の比率に対応しており、その中で経済学院・経済学研究科の回答者数の比率が在籍者比率（女子学生の比率が45.8%）より37%程度少ないことが目立つ程度である。

■ 回答者の男女比(研究科等別)



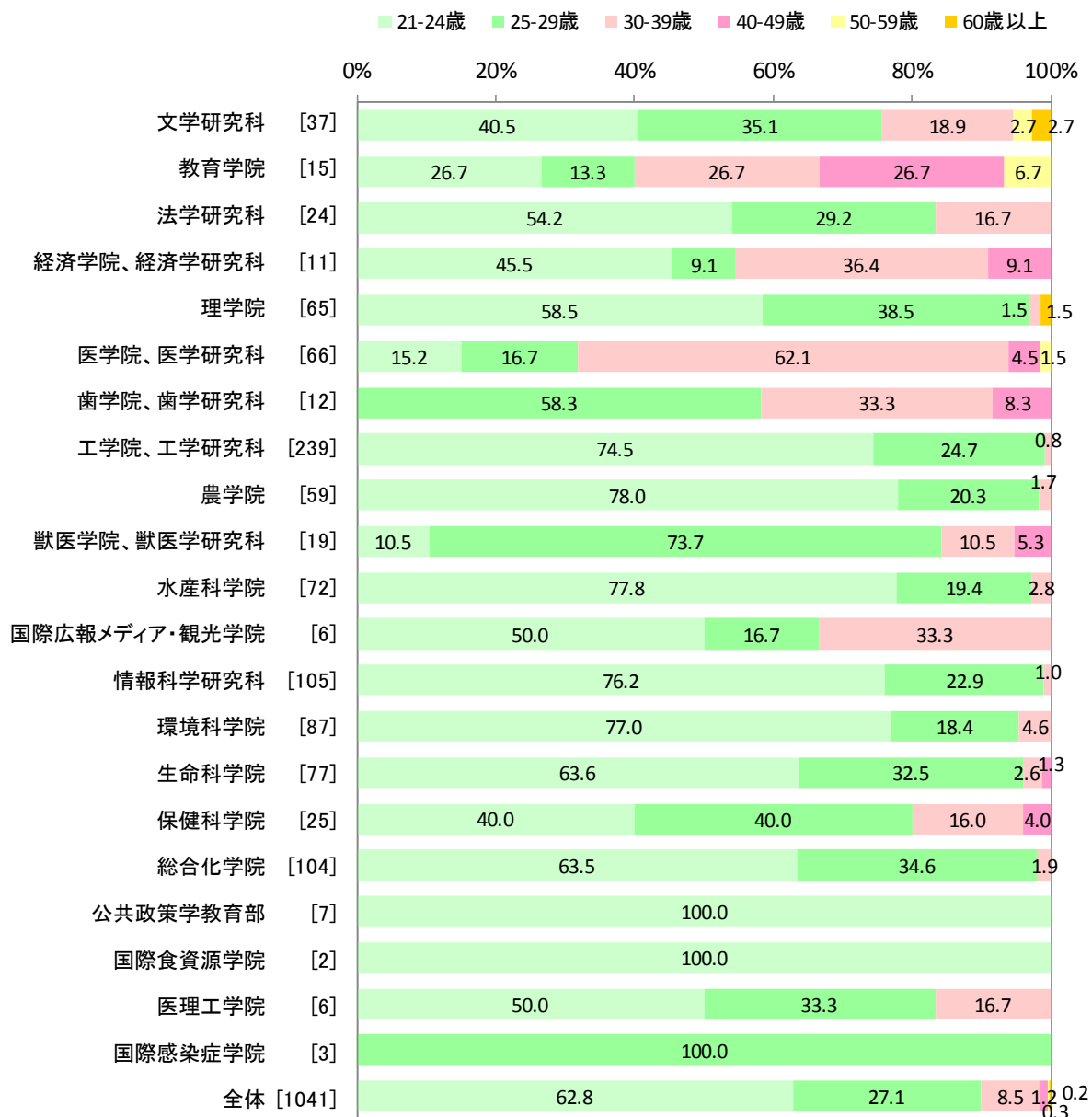
注) 本報告書では、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が100.0%になるとは限らない。

年齢

- 年齢は、「21-24歳」が62.8%、「25-29歳」(27.1%)を合わせた20代が9割(89.9%)を占める。
- 研究科等別では、30代以上の割合が高いのが、医学院・医学研究科である。

■ 年齢(研究科等別)

(※回答数が少ない研究科等は参考程度)



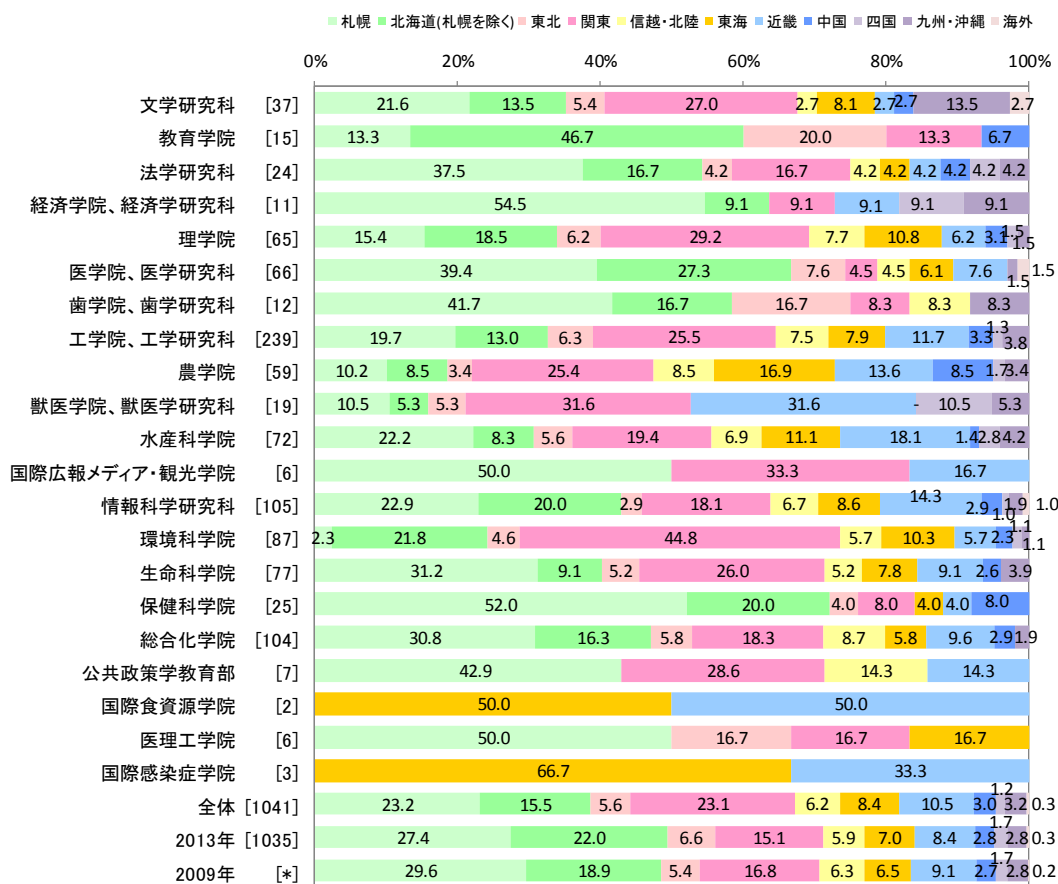
B 家庭状況

出身地

- 札幌出身者の比率は、今回の調査が 23.2% であり、2009 年調査 (29.6%)、2013 年調査 (27.4%) と比べると、減少傾向である。
- 札幌を含む道内出身者の割合は、今回の調査が 38.7% であり、2009 年調査 (48.5%)、2013 年調査 (49.4%) と比べると、減少している。
- 道内出身者に次いで多いのは、関東 (23.1%) で 2009 年調査 (16.8%)、2013 年調査 (15.1%) と比べると、増加傾向にある。出身地が北海道以外の学生が多いのが、農学院、獣医学院・獣医学研究科、環境科学院である。
- 逆に、道内出身が多いのが、保健科学院、医学院・医学研究科である。

■ 出身地(研究科等別)

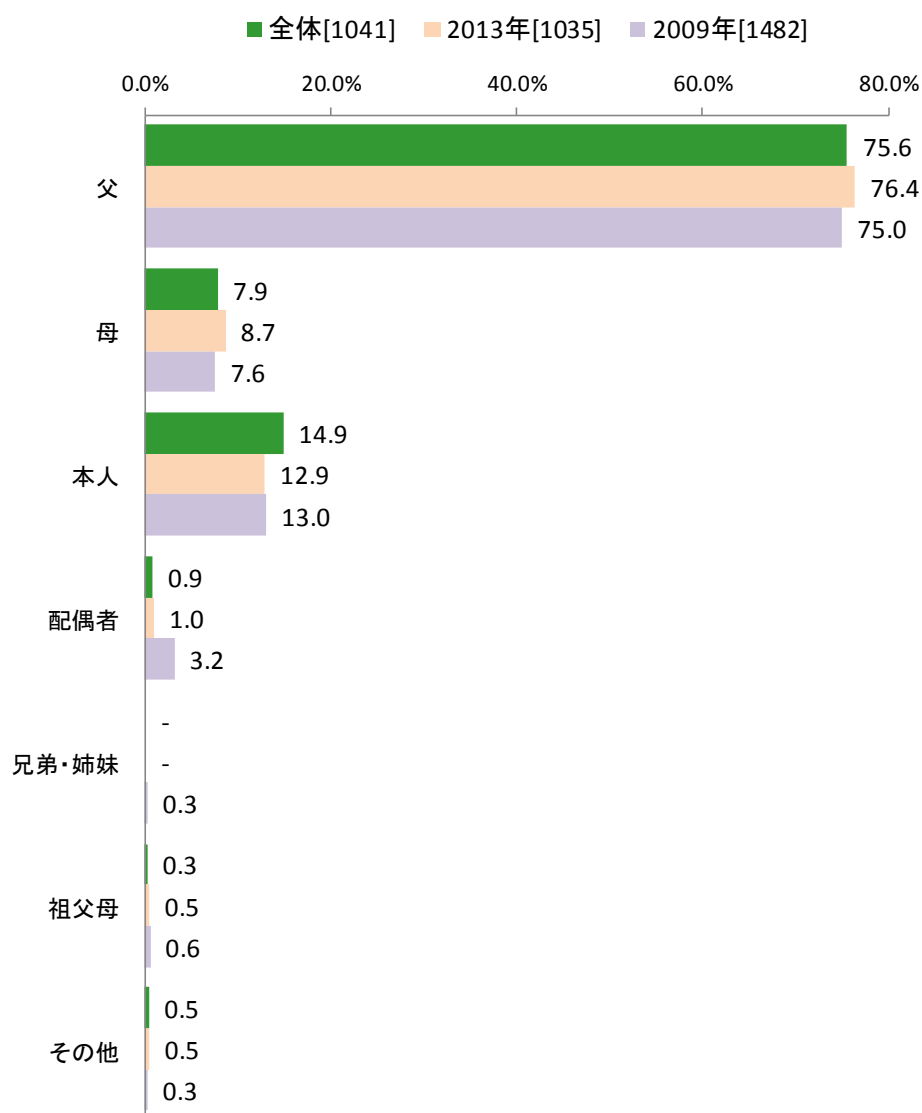
(※回答数が少ない研究科等は参考程度)



主な家計支持者

- 主な家計支持者は、「父」(75.6%)が最も多く、「母」(7.9%)と合わせた「両親」が83.5%を占める。この傾向は2009年調査(82.6%)、2013年調査(85.1%)と大きな変化はみられない。なお「本人」は14.9%である。

■ 主な家計支持者

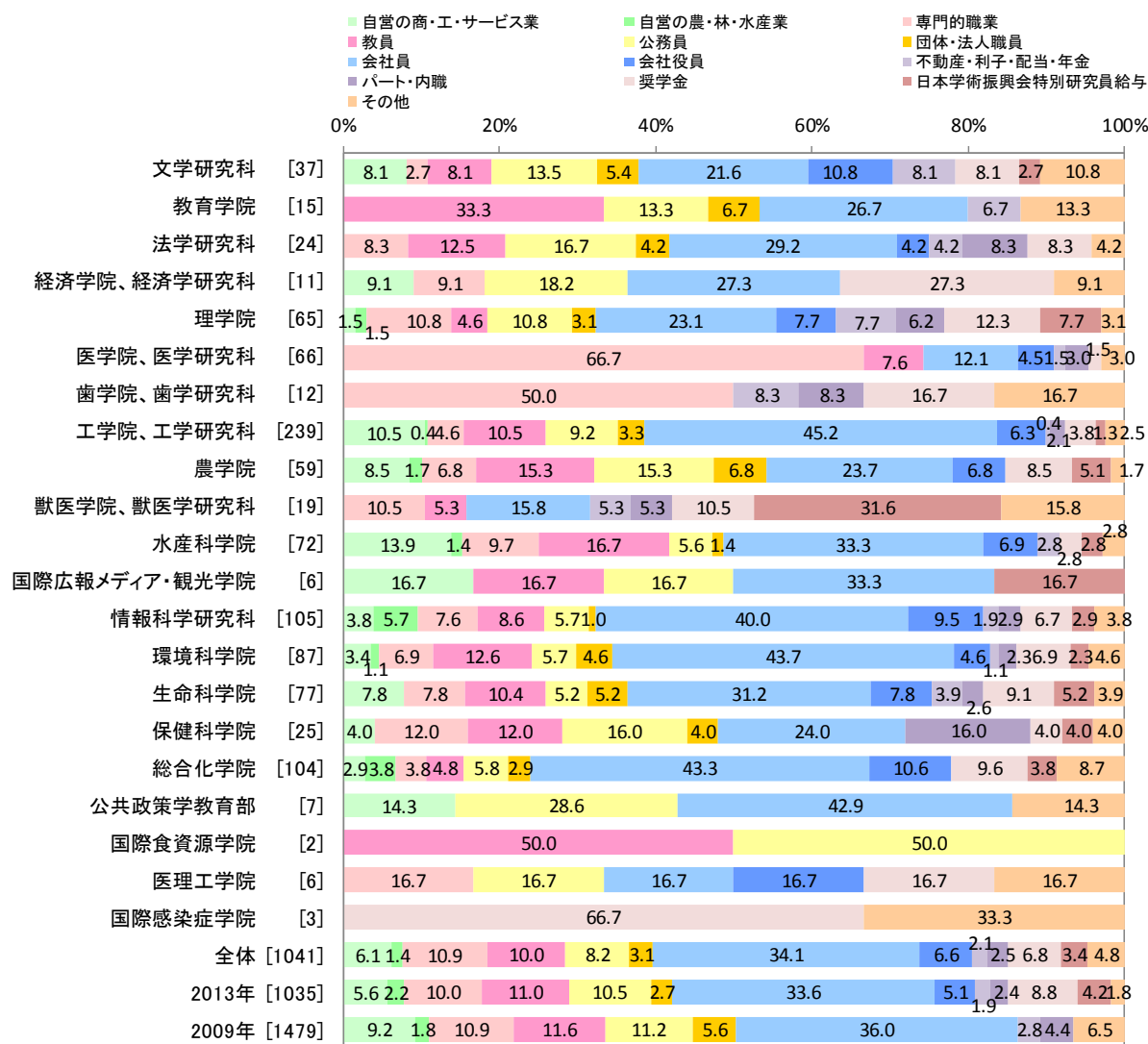


家計支持者の職業

- 家計支持者の職業として、全体で最も比率が高いのは、「会社員」(34.1%)であり、2009年調査(36.0%)、2013年調査(33.6%)と比べても毎回3分の1程度を占めている。ただし、前回から会社役員を選択肢に追加したため、その解釈には注意が必要である。
- 次いで高いのは「専門的職業」(10.9%)である。2009年調査(10.9%)、2013年調査(10.0%)と、ほぼ横ばい傾向である。3番目に高いのは「教員」(10.0%)である。
- 研究科等別では、医学院・医学研究科は「専門的職業」の比率が高いこと、教育学院は「教員」の比率が高いことが特徴的である。

■ 家計支持者の職業(研究科等別)

(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

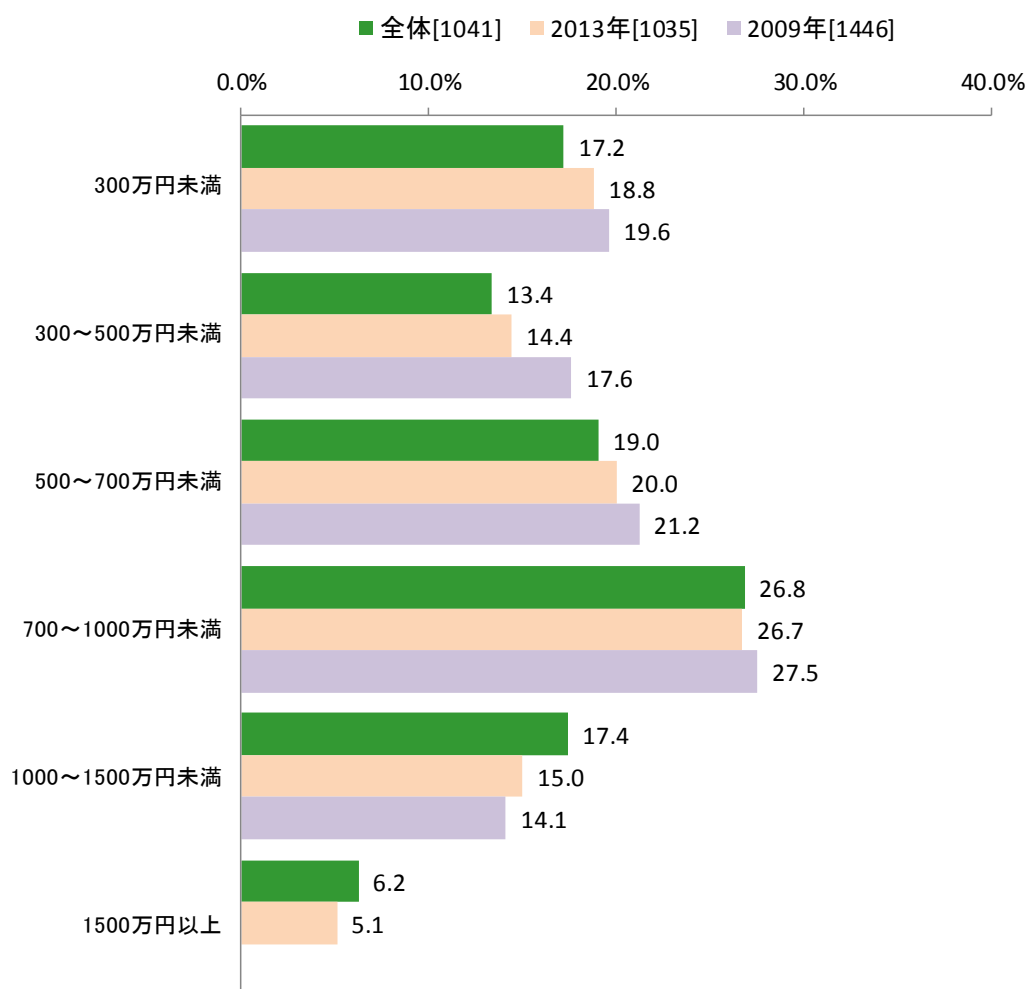


注) 「会社役員」「奨学金」「日本学術振興会特別研究員給与」は、前回調査(2013年)からの新選択肢である。

家庭の年間収入

- 家庭の年間収入の階層分布図について、2013年と比べると、「300～500万円未満」、「500～700万円未満」、「300万円未満」は減少傾向を示し、「1000～1500万円未満」「1500万円以上」は増加傾向を示している。

■ 家庭の年間収入



注1) 「1500万円以上」は、前回調査（2013年）からの新選択肢である。2009年調査の結果は、「1000万円以上」を「1000～1500万円未満」と読み替えた。

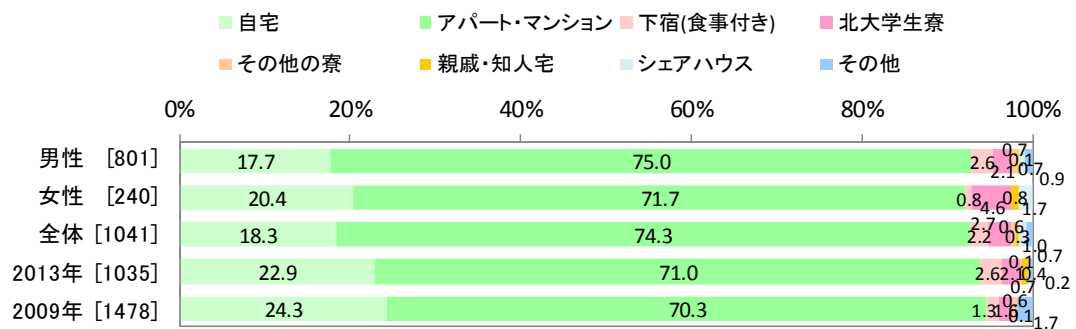
注2) 前回調査（2013年）から、設問項目を「家計支持者の収入」から「家庭の収入」に変更した。

C 住居・通学・食事の状況

住居形態と占有面積

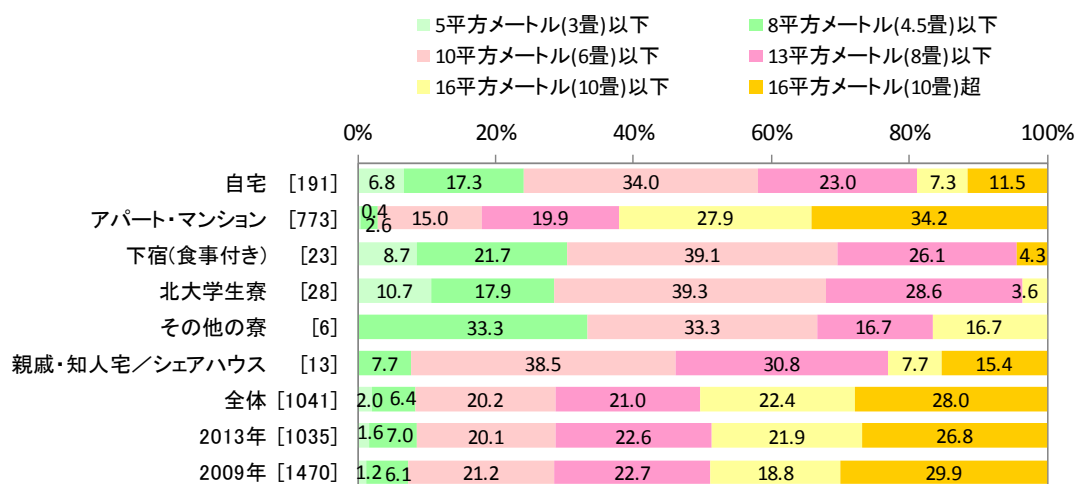
- 住居形態は、「アパート・マンション」(74.3%)が最も多い。2013年と比べると、「アパート・マンション」は増加、「自宅」は減少している。男女別においても、「アパート・マンション」が中心であり全体と同様の傾向を示しているが、女性は若干「自宅」(20.4%)の比率が高い。
- 専有面積は、「16平方メートル(10畳)超」(28.0%)、「16平方メートル(10畳)以下」(22.4%)、「13平方メートル(8畳)以下」(21.0%)、「10平方メートル(6畳)以下」(20.2%)が多く、大きな変化はみられない。
- 住居形態別では、「アパート・マンション」の占有面積が比較的広い。

住居形態(男女別)



注) 「シェアハウス」は、前回調査(2013年)からの新選択肢である。
2009年調査までは、「貸間・アパート」と「マンション・学生ハイツ」の項目を分けていたが、前回調査(2013年)から、「アパート・マンション」の1項目とした。

占有面積(住居形態別)

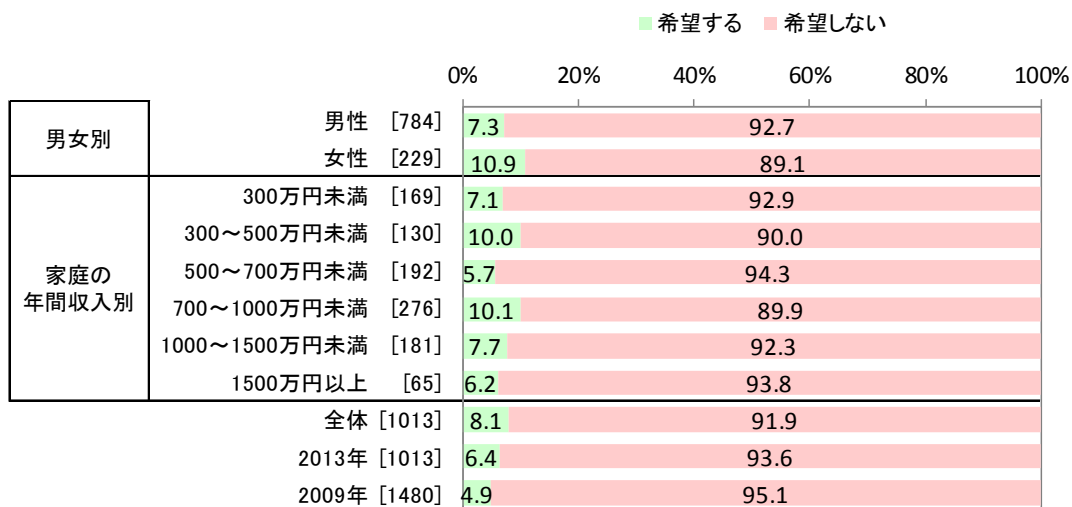


学生寮入寮希望の有無とその理由

- 入寮希望の比率は8.1%であり、2009年調査(4.9%)→2013年(6.4%)と徐々に増加している。
- 入寮の理由は、「経済的理由」(78.0%)が多く、次いで「寮の雰囲気にあこがれる」(22.0%)である。「経済的理由」の比率は増加している。また、女子は「今の住居が通学に不便」(16.0%)が多い。一方、入寮を希望しない理由は、「集団生活がわずらわしい」(60.0%)が最も多く、次いで「住居を移すのが面倒」(33.6%)と続く。

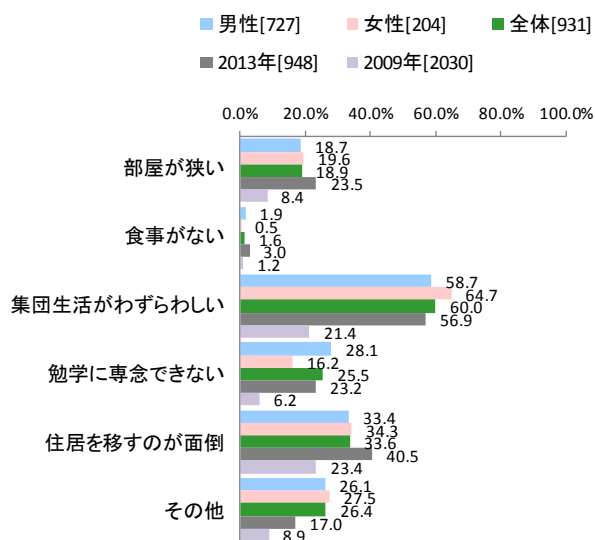
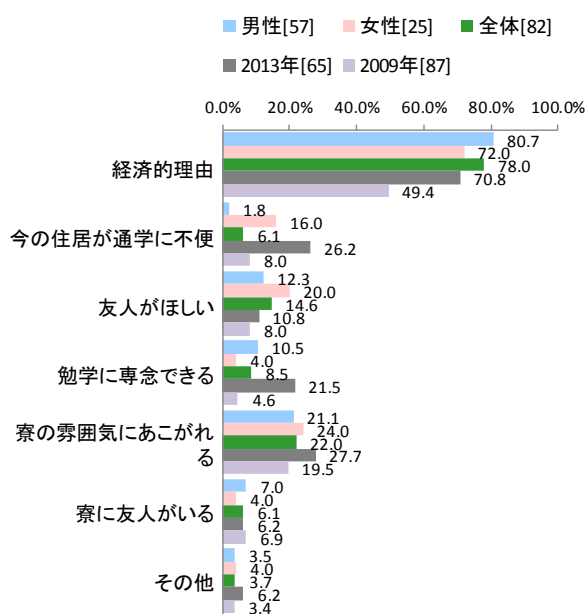
■ 入寮希望者の割合(男女別/家庭の年間収入別)

※学生寮非入寮者ベース



■ 入寮を希望する理由(男女別・2つまで)

■ 入寮を希望しない理由(男女別・2つまで)

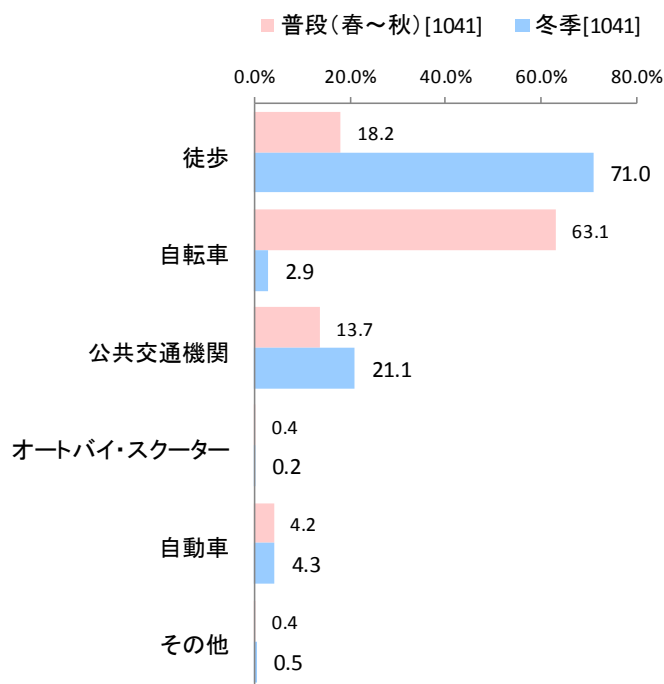


注) 過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

通学方法と通学時間

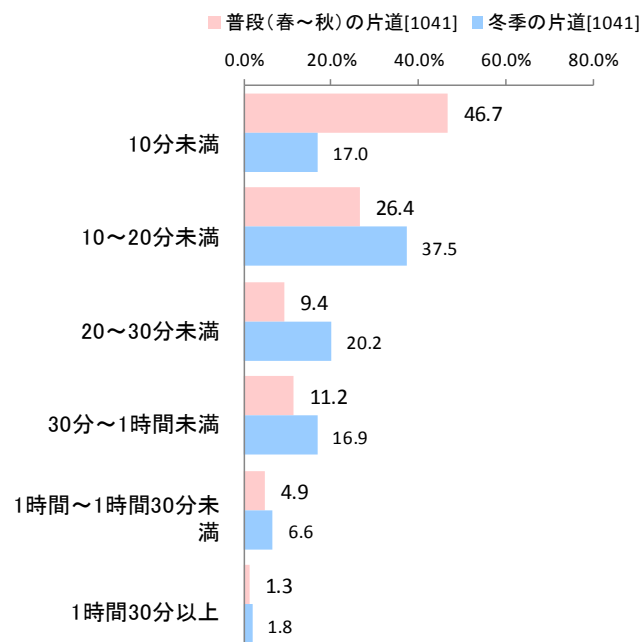
- 通学方法は、普段（春～秋）は「自転車」が63.1%、冬季は「徒歩」が71.0%を占めている。

■ 通学方法〔普段(春～秋)／冬季〕



- 通学時間は、普段（春～秋）は「10分未満」が46.7%、冬季は「10～20分未満」が37.5%と最も多く、大学周辺に住んでいる学生が多いことを示している。

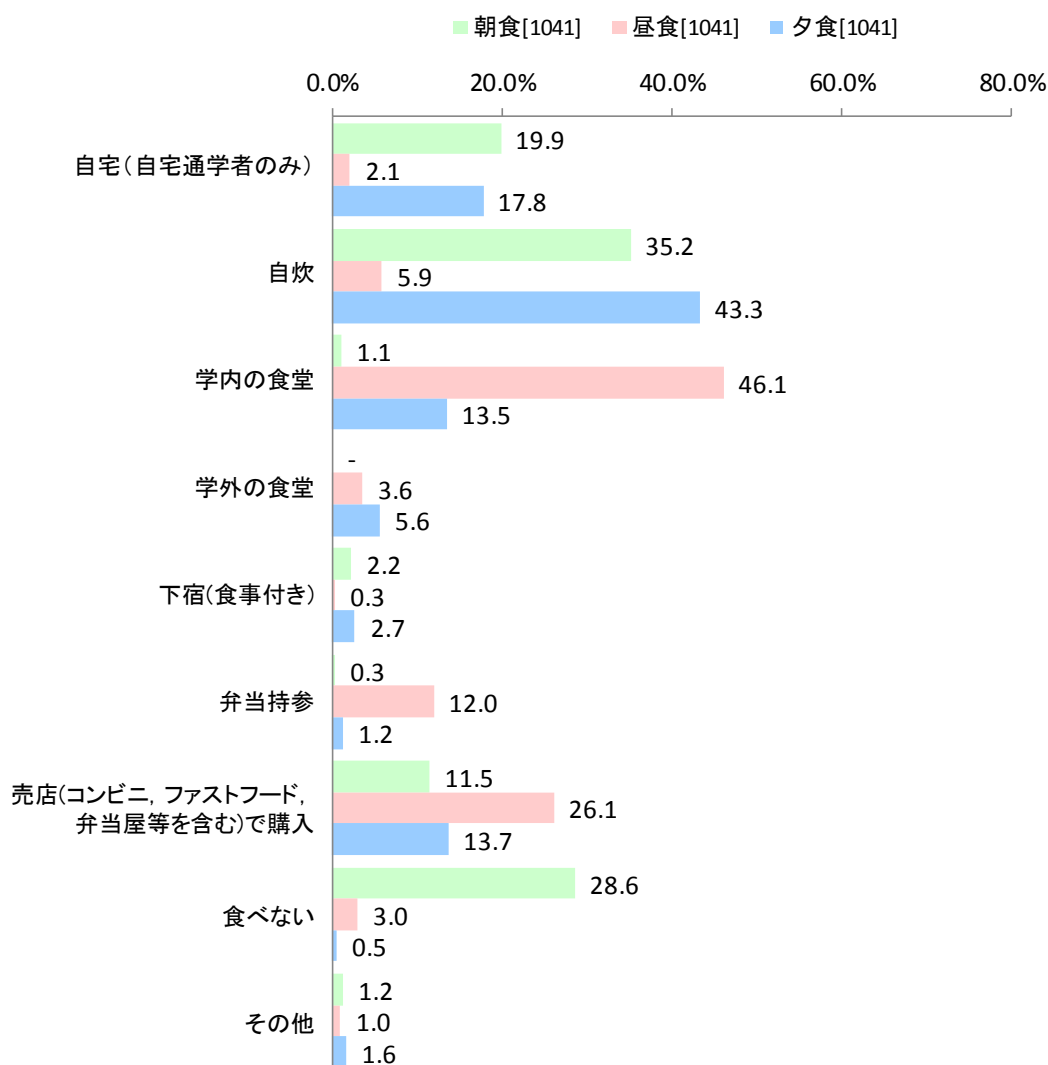
■ 通学時間〔普段(春～秋)／冬季〕



食事

- 朝食は、「食べない」学生が28.6%いる。一方、「自炊」している学生が35.2%であり、「自宅（自宅通学者）」19.9%を合わせると「自宅」で摂っている学生が55.1%を占める。
- 昼食は、「学内の食堂」で摂っている学生が46.1%と半数近くを占める。
- 夕食は、「自炊」している学生が43.3%であり、「自宅（自宅通学者）」で摂っている学生（17.8%）を合わせると「自宅」で摂っている学生が61.1%である。一方、自宅以外では「学内の食堂」（13.5%）や「売店（コンビニ、ファストフード、弁当屋等を含む）で購入」（13.7%）を利用している。

■ 食事



学食の利用頻度

- 学食の利用頻度は、「ほぼ毎日」(24.9%) が全体の4分の1を占めている。次いで、「ときどき」(24.4%)、「週3~4回」(21.6%)、「週1~2回」(13.9%)と続く。一方、「利用しない」学生は15.2%である。
- 研究科等別では、学食を「ほぼ毎日」利用している割合が高いのは、総合化学院(46.2%)、農学院(35.6%)、理学院(33.8%)、工学院・工学研究科(32.6%)、情報科学研究科(32.4%)である。
- 一方、学食を「利用しない」割合が高いのは、保健科学院(60.0%)であった。

■ 学食の利用頻度(研究科等別)

(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

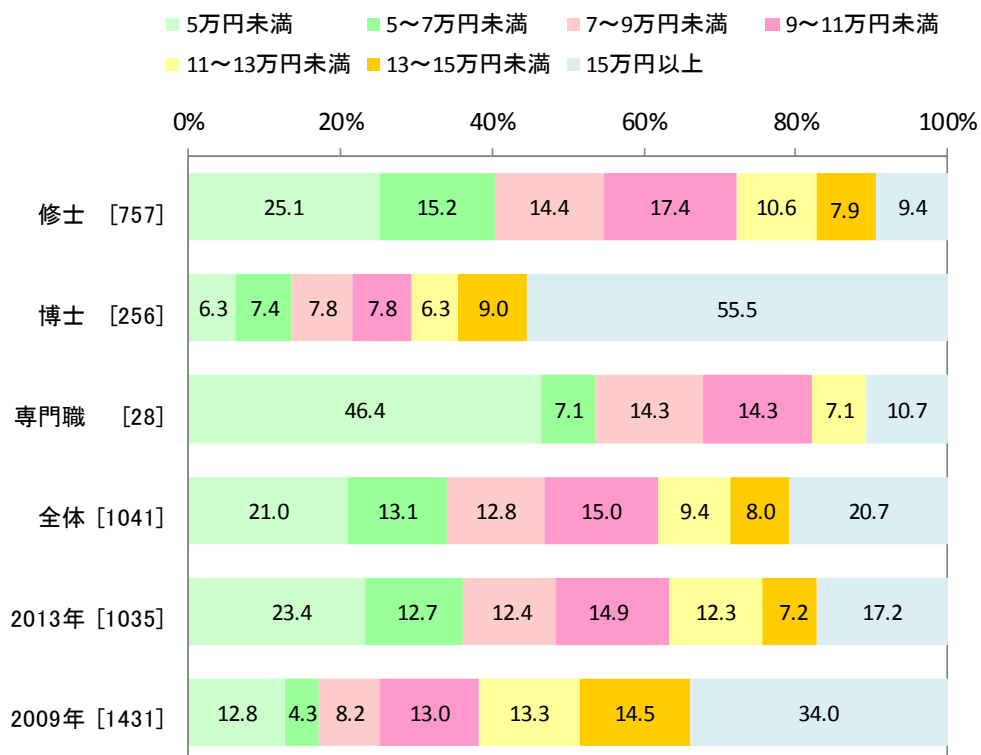


D 収入と支出の状況

月間収入額の分布(課程別)

- 月間収入額の分布は、「5万円未満」が21.0%、「15万円以上」が20.7%で、2013年と比べると、「5万円未満」が減少傾向、「15万円以上」が増加傾向を示した。
- 修士課程、博士(後期)課程、専門職学位課程では収入額の分布が大きく異なる。博士は「15万円以上」が55.5%、専門職は「5万円未満」が46.4%を占めている。
- 前回調査から、金額を選択肢から選ぶ方式に変更したため、解釈には注意が必要である。

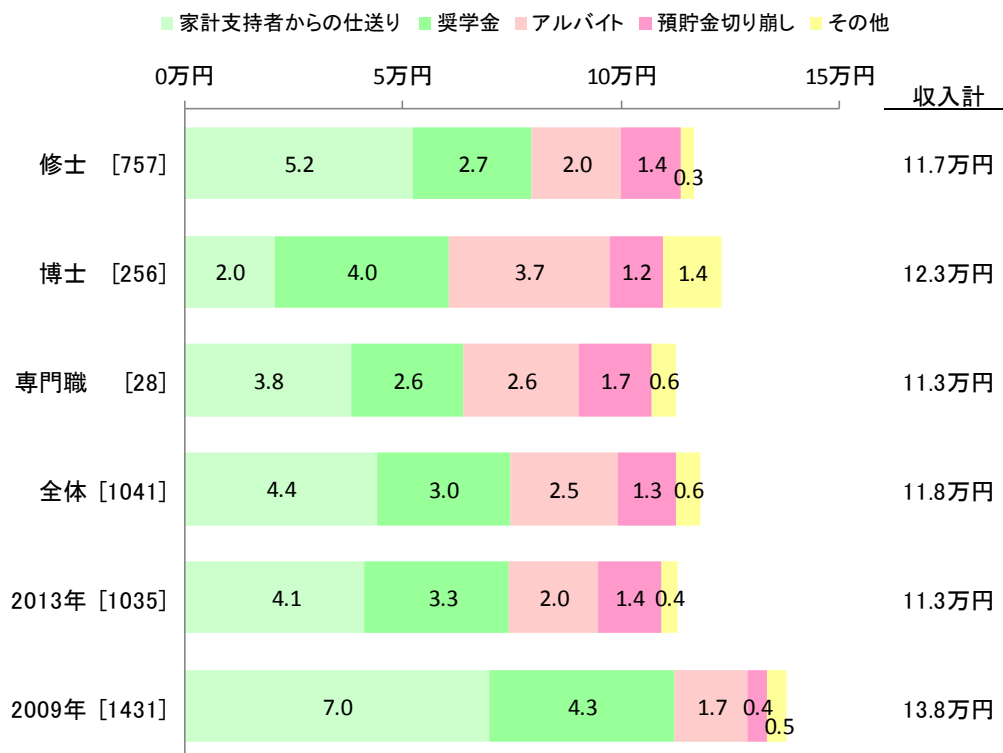
■ 月間収入額の分布(課程別)



収入の内訳(課程別)

- 平均月間収入額は11.8万円です、2013年調査(11.3万円)と比べても、横ばい傾向です。
- 前回調査から、金額を選択肢から選ぶ方式に変更したため、解釈には注意が必要です。

■ 月間収入の内訳(課程別)



注1) 前回調査から、金額を選択肢に変更し、平均値は中央値を用いて計算した。

例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算。

注2) 千円未満を四捨五入しているため、収入内訳の合計額と「収入計」が一致しない場合がある。

収入の内訳(月間収入額別)

- 月間収入が9万円未満と9万円～15万円未満を比較すると、9万円～15万円未満は「家計支持者からの仕送り」の金額が高い。15万円以上では「アルバイト」の収入が増えて「家計支持者からの仕送り」が減っている。ただし、月間収入分布が3つの課程の平均であることを注意が必要である。
- 前回調査から金額を選択肢から選ぶ方式に変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 月間収入の内訳(月間収入額別)

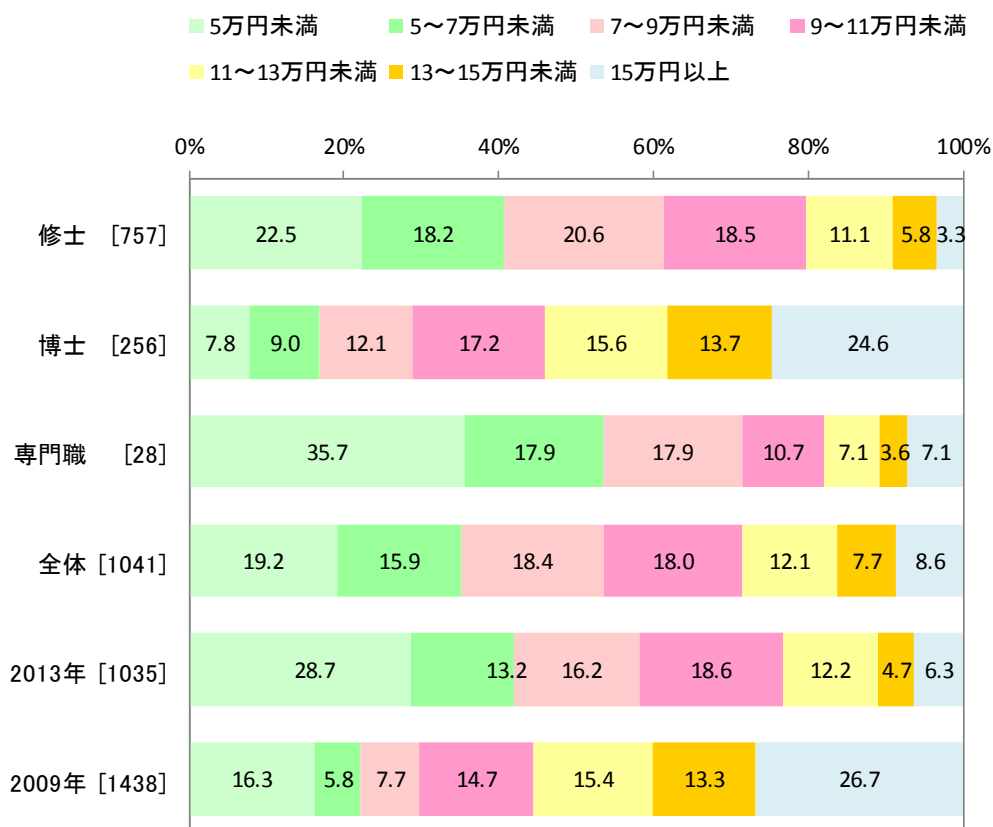


注1) 前回調査から、月間収入額と個別の収入額は金額を選択肢に変更し、平均値は中央値を用いて計算した。
 例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算。
 注2) 千円未満を四捨五入しているため、収入内訳の合計額と「収入計」が一致しない場合がある。

月間支出額の分布(課程別)

- 収入と同様、支出においてもその金額分布は修士課程、博士（後期）課程、専門職学位課程で大きく異なる。「5万円未満」の階層は、修士課程と専門職学位課程で20～35%を占めるが、博士（後期）課程は7.8%とその約半分以下である。一方で「15万円以上」は、博士（後期）課程は24.6%を占めるが、修士課程は3.3%、専門職学位課程は7.1%である。
- 月間支出額の分布を全体で見ると、2013年と比べると、「5万円未満」(19.2%)が減少し、13万円以上が増加している。
- 前回調査から、金額を選択肢から選ぶ方式に変更したため、解釈には注意が必要である。

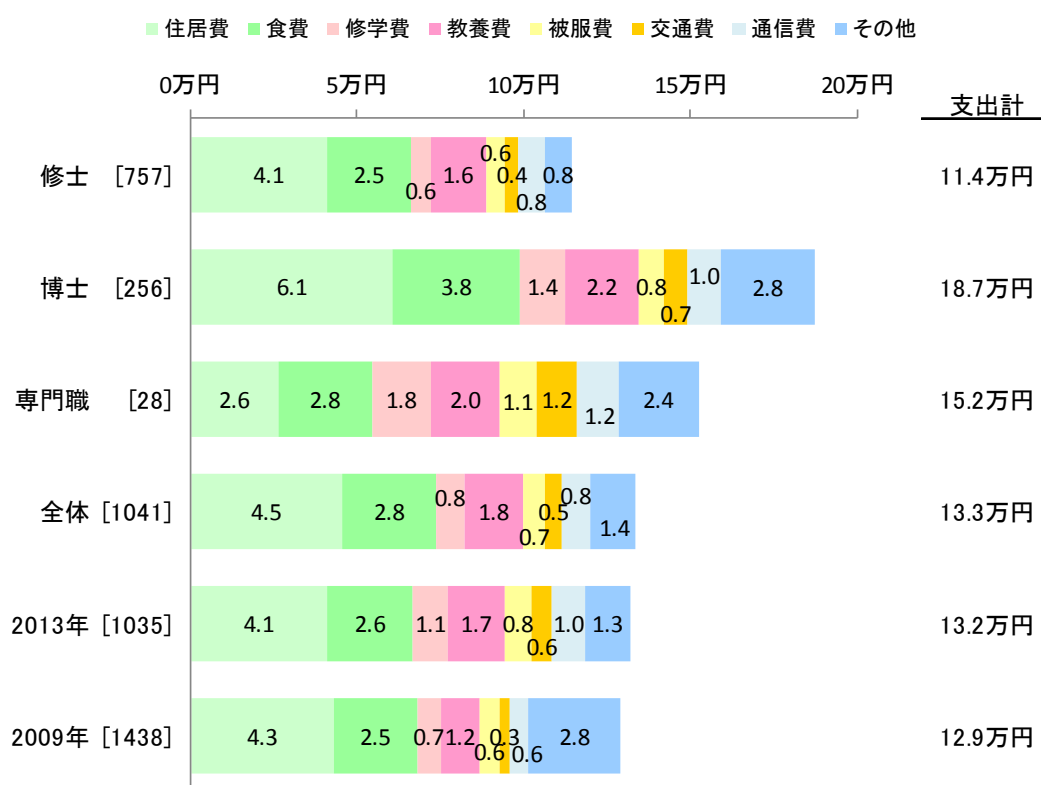
■ 月間支出額の分布(課程別)



支出の内訳(課程別)

- 前回調査と比較して、全体の支出額に大幅な変動はない。
- 課程別に比較すると、博士（後期）課程が最も支出額が最も大きく、次いで専門職、修士の順番である。特に博士（後期）課程の支出額が大きいのは「住居費」「食費」である。
- 前回調査から、金額を選択肢から選ぶ方式に変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 月間支出額の内訳(課程別)



注1) 前回調査から、金額を選択肢に変更し、平均値は中央値を用いて計算した。

例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算。

注2) 千円未満を四捨五入しているため、支出の内訳の合計額と「支出計」が一致しない場合がある。

支出の内訳(月間支出額別)

- 月間支出額が大きくなるに従って、支出内訳の比率が大きな「食費」と「修学費」の金額が大きくなる。ただし、経済的状況が大きく異なる3つの課程を区別しない統計であることに注意が必要である。
- 前回調査から、金額を選択肢から選ぶ方式に変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 月間支出の内訳(月間支出額別)



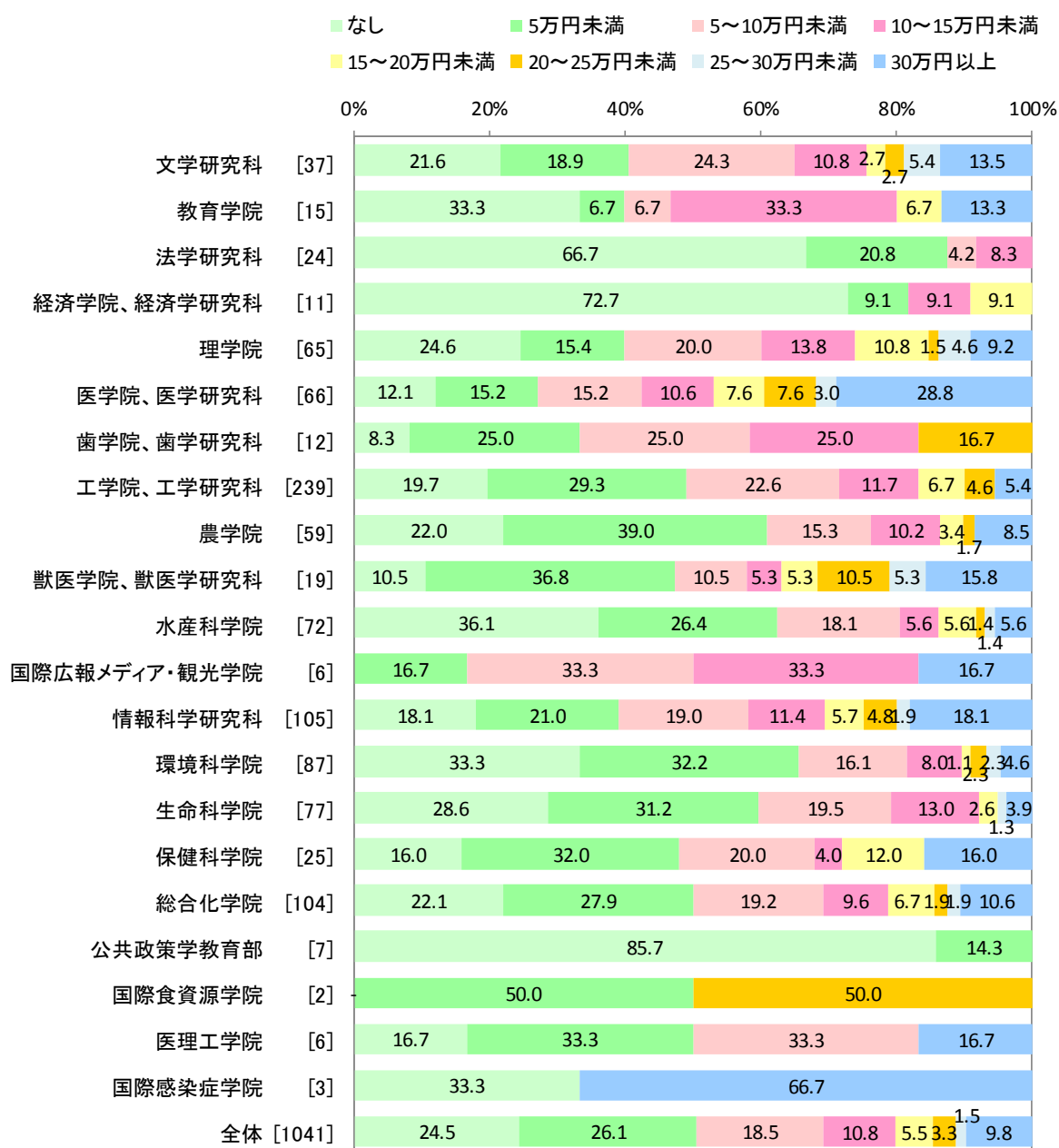
注1) 前回調査から、月間支出額と個別の支出額は金額を選択肢に変更し、平均値は中央値を用いて計算した。
 例：3~5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算。
 注2) 千円未満を四捨五入しているため、支出の内訳の合計額と「支出計」が一致しない場合がある。

年間の研究旅費

- 年間の研究旅費は、「5万円未満」(26.1%)が最も多く、次いで、「5～10万円未満」(18.5%)、「10～15万円未満」(10.8%)と続く。一方「なし」が24.5%であった。
- 研究科等別では、「なし」の比率が少ないのは医学院・医学研究科(12.1%)で、多いのは、法学研究科(66.7%)である。

■ 年間の研究旅費(研究科等別)

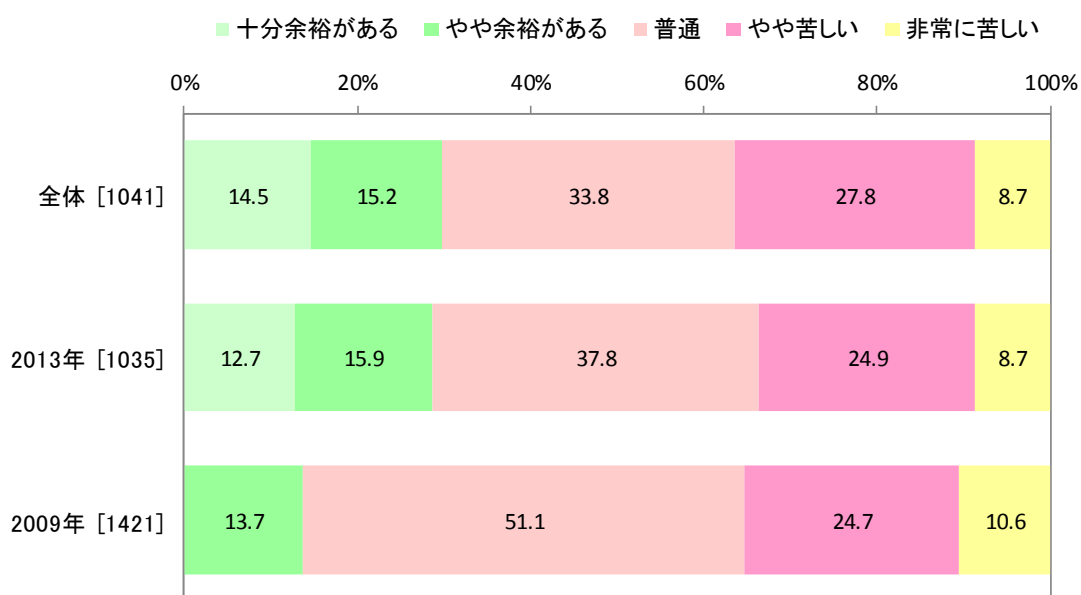
(※回答数が少ない研究科等は参考程度)



経済状態の実感

- 現在の経済状態は、「十分余裕がある」(14.5%)、「やや余裕がある」(15.2%)を合わせた「余裕がある」と回答した学生は29.7%である。一方、「やや苦しい」(27.8%)、「非常に苦しい」(8.7%)を合わせた「苦しい」と回答した学生は36.5%である。前回(2013年)調査と比べて大きくは変わらない。

■ 経済状態の実感



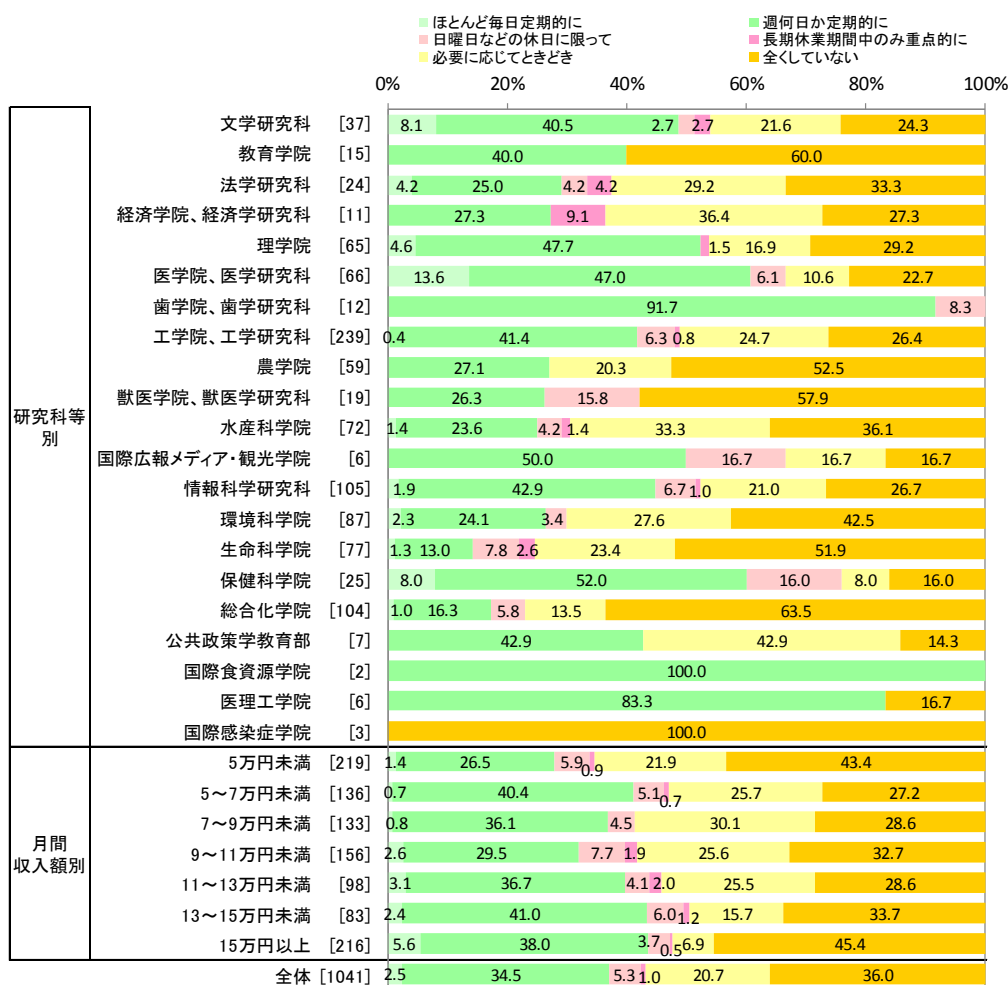
注) 過去調査時(2009年)の選択肢項目は、左から「楽である」「普通」「苦しい」「大変苦しい」の4段階。

E アルバイトの状況

アルバイトの頻度

- アルバイトを「全くしていない」学生が36.0%で、64.0%がアルバイトをしている。アルバイト頻度は、「週何日か定期的に」が全体の34.5%を占め最も多い。
- 研究科等別では、アルバイトを「全くしていない」比率が高いのは、総合化学院（63.5%）、獣医学院・獣医学研究科（57.9%）、農学院（52.5%）、生命科学院（51.9%）である。
- 月間収入額別では、アルバイトを「全くしていない」比率が高いのは、「5万円未満」（43.4%）と「15万円以上」（45.4%）である。一方、アルバイトをしている学生が多いのは、9～11万円未満、13～15万円未満である。

■ アルバイトの頻度(研究科等別/月間収入額別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)

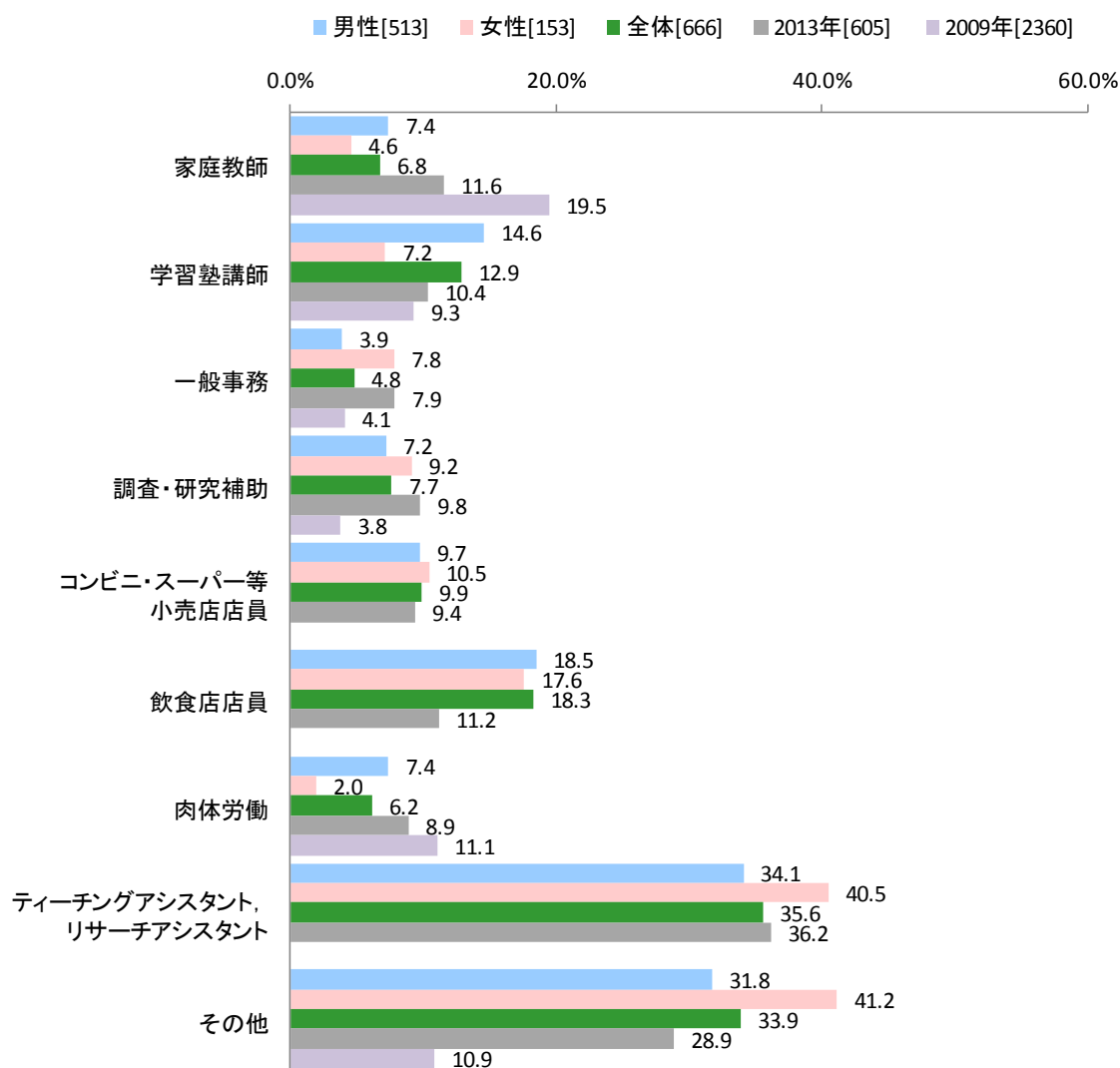


アルバイトの職種

- アルバイトの職種は、「ティーチングアシスタント，リサーチアシスタント」が35.6%と最も多く、次いで、「飲食店店員」（18.3%）、「学習塾講師」（12.9%）、「コンビニ・スーパー等・小売店店員」（9.9%）、「家庭教師」（6.8%）と続く。「家庭教師」は減少傾向が続いている。

■ アルバイトの職種(男女別・2つまで)

※アルバイト従事者ベース



注 1) 「コンビニ・スーパー等小売店店員」「飲食店店員」は、前回調査からの新選択肢である（過去調査（2009年）までは「販売・サービス」の1項目だったものを前回調査から2項目に分けたもの）。「ティーチングアシスタント，リサーチアシスタント」は、前回調査からの新選択肢である。

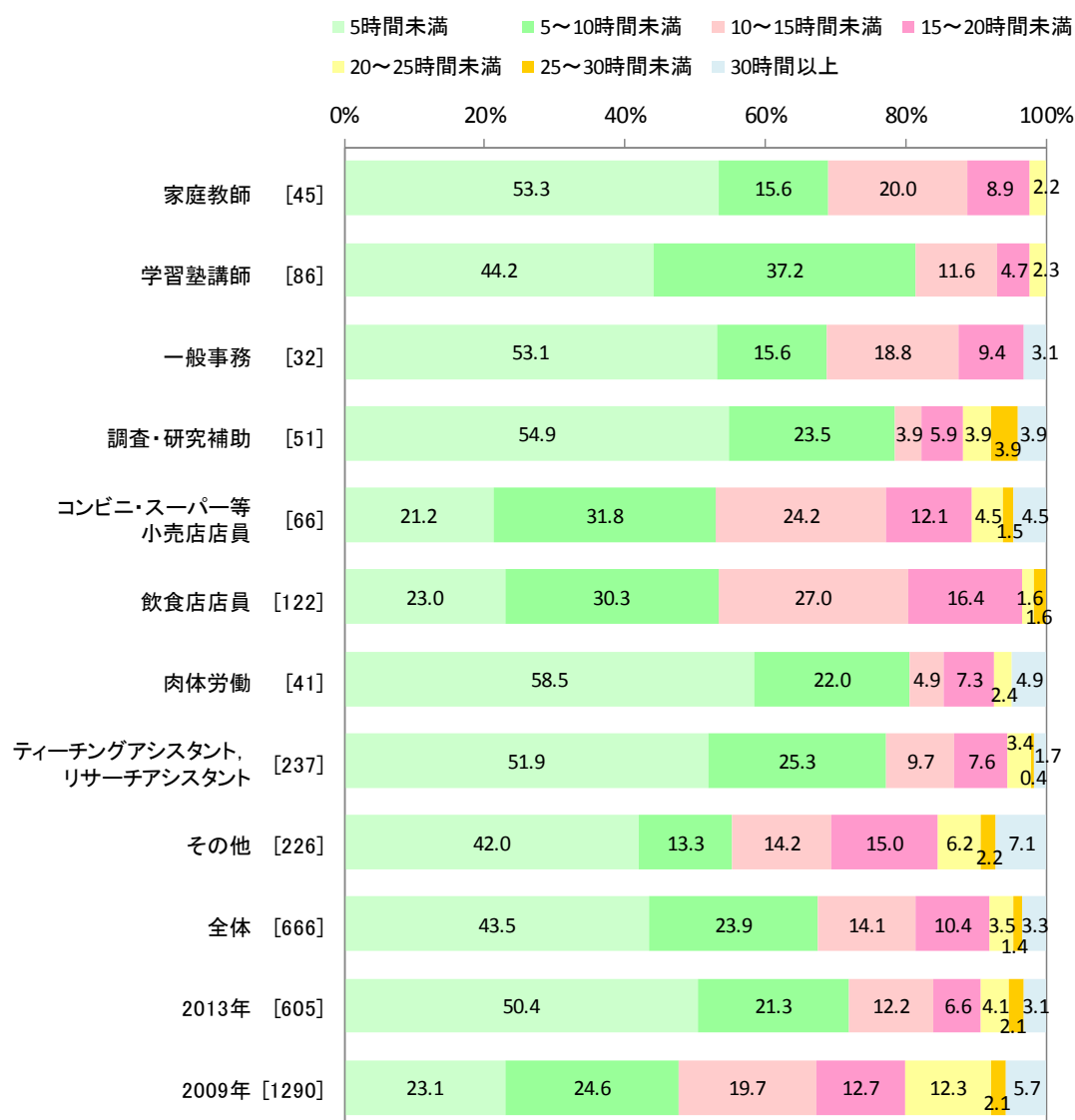
注 2) 過去調査時（2009年）のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

アルバイトの週平均就労時間

- アルバイトの週平均就労時間は、「5時間未満」(43.5%)が最も多いが、2013年調査(50.4%)と比べると、「5時間未満」の比率が減少し、週平均労働時間は増加傾向にある。
- 職種別にみると、「5時間未満」の割合が多いのは、「家庭教師」「学習塾講師」「一般事務」「調査・研究補助」「肉体労働」「ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント」である。一方「10時間～20時間未満」の比率が多いのは「コンビニ・スーパー等小売店店員」「飲食店店員」である。

■ アルバイトの週平均就労時間(職種別)

※アルバイト従事者ベース

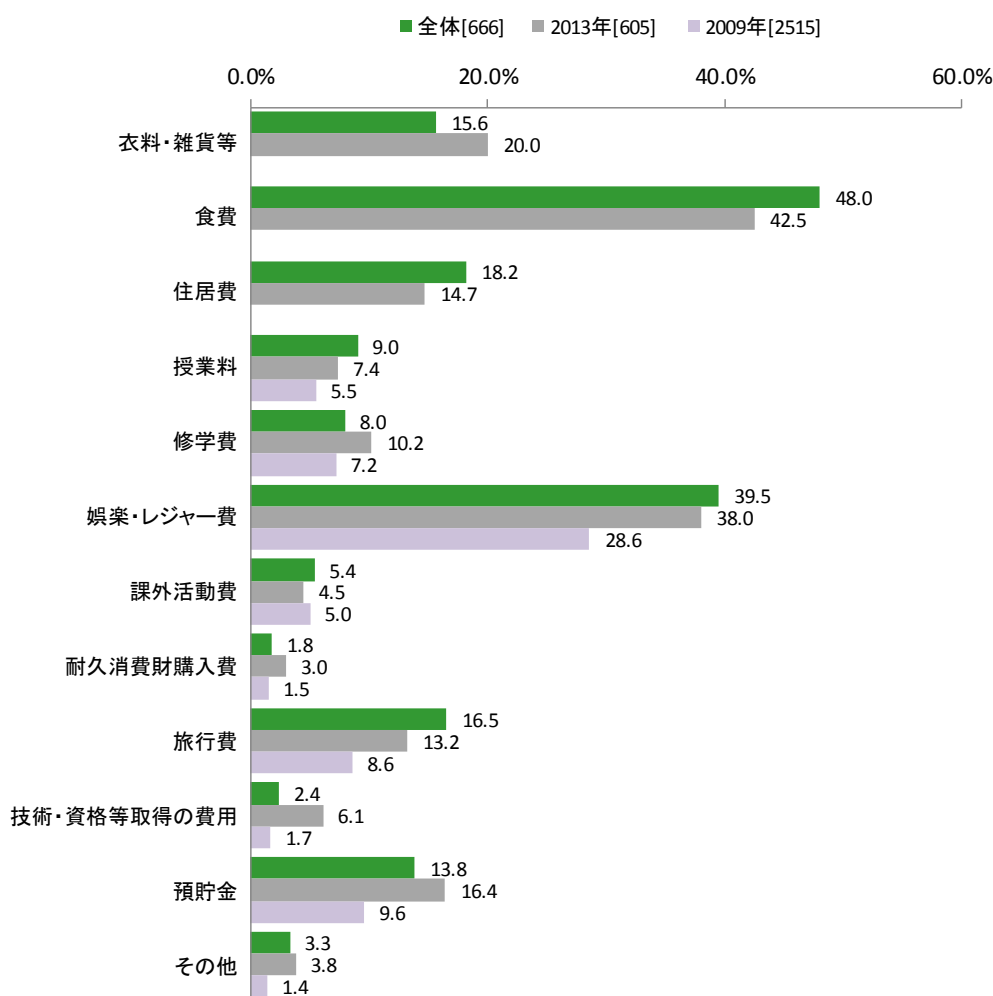


アルバイト収入の使いみち

- アルバイト収入の使いみちは、「食費」(48.0%)が最も多く、次いで「娯楽・レジャー費」(39.5%)、「旅行費」(16.5%)、「衣料・雑貨等」(15.6%)と続く。また、「預貯金」に充てる学生も13.8%いる。
- アルバイト収入の使い道で伸びているのは、上位3つの「食費」、「娯楽・レジャー費」、「旅行費」や「住居費」、「授業料」である。

■ アルバイト収入の使いみち(2つまで)

※アルバイト従事者ベース



注1) 「衣料・雑貨等」「食費」「住居費」は、前回調査からの新選択肢である(過去(2009年)調査までは「衣食住の費用」の1項目だったものを前回調査から2項目に分けたもの)。

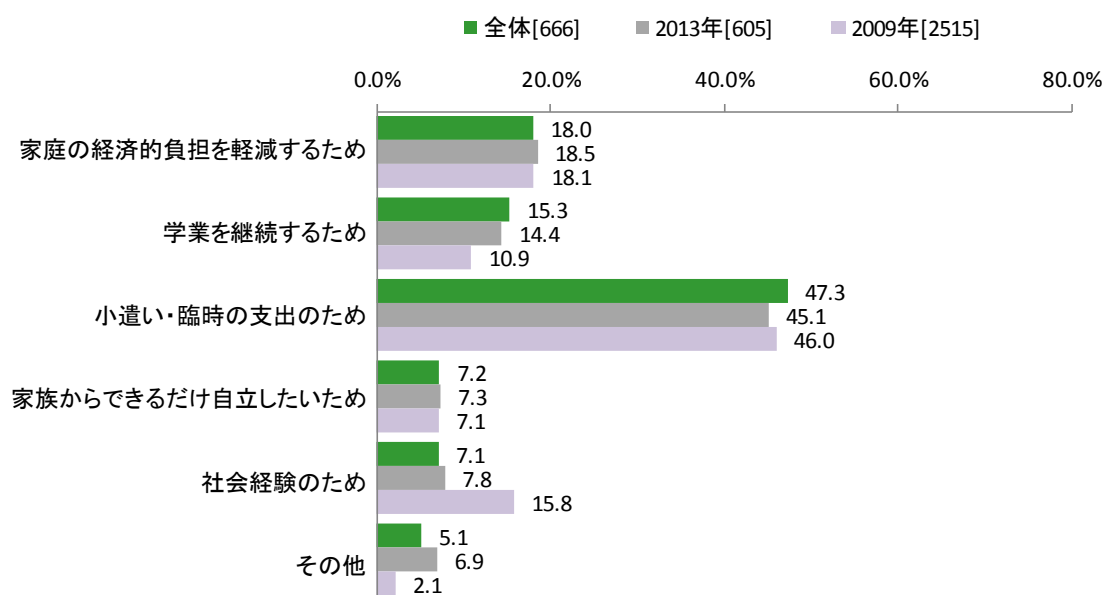
注2) 過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

アルバイトの理由

- アルバイトをする主な理由として、「小遣い・臨時の支出のため」(47.3%)が最も多く、次いで「家庭の経済的負担を軽減するため」(18.0%)、「学業を継続するため」(15.3%)と続く。「学業を継続するため」が増加傾向を示している。
- アルバイトをしない主な理由として、「やりたいが、時間的余裕がない」(50.9%)が最も多く、次いで、「必要がない(経済的に余裕がある)」(28.3%)であった。

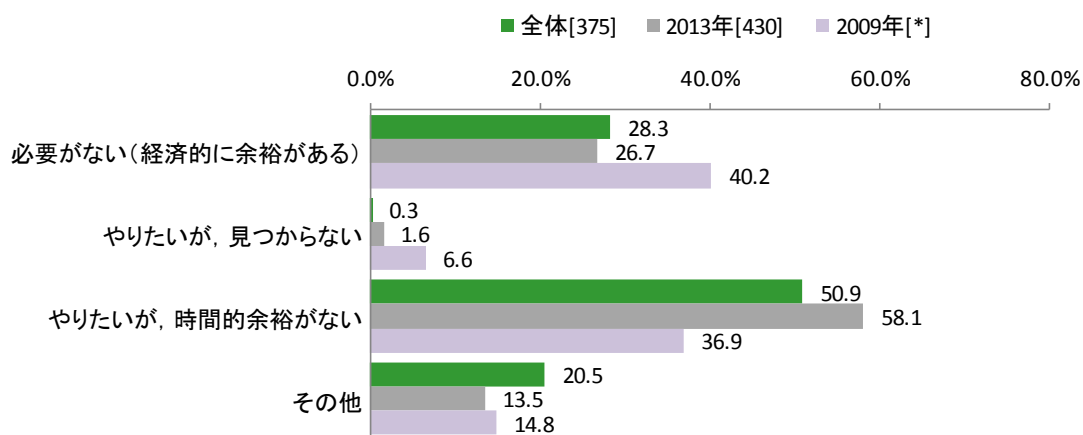
■ アルバイトをする主な理由

※アルバイト従事者ベース



■ アルバイトをしない主な理由

※アルバイト非従事者ベース

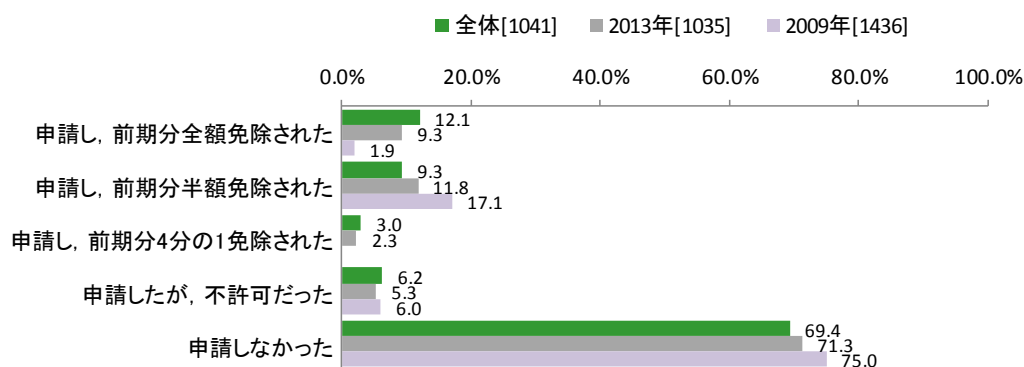


F 授業料免除と奨学金の利用状況

授業料免除の状況

- 授業料免除の状況を見ると、「前期分全額免除された」割合は12.1%で、2009年調査（1.9%）、2013年調査（9.3%）と次第に増加している。一方、「前期分半額免除された」の比率は減少している。また、「申請しなかった」が2009年調査（75.0%）→2013年調査（71.3%）→今回調査（69.4%）と年々減少傾向にある。

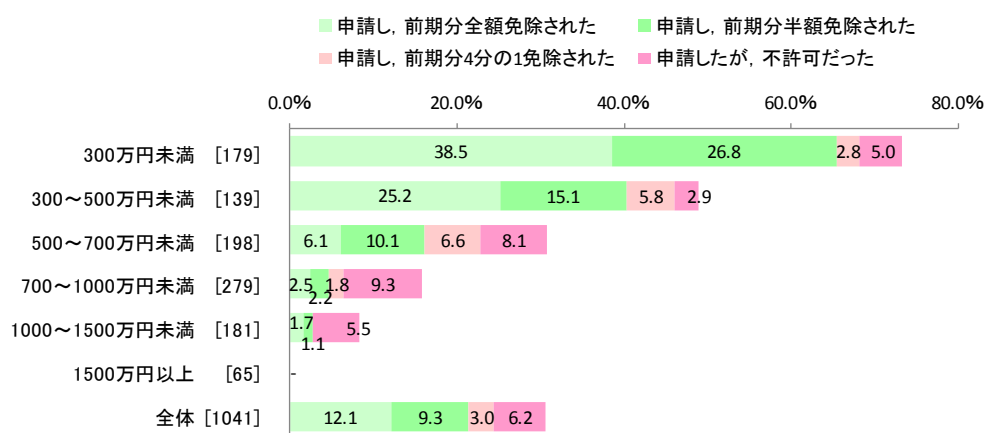
■ 授業料免除の状況



注) 「申請し、前期分4分の1免除された」は、今回調査（2013年）からの新選択肢である。

- 年間収入500万円以下の授業料免除の比率が高く、特に300万円未満では68.1%の学生が授業料を免除されている。

■ 授業料免除の状況(家庭の年間収入別)

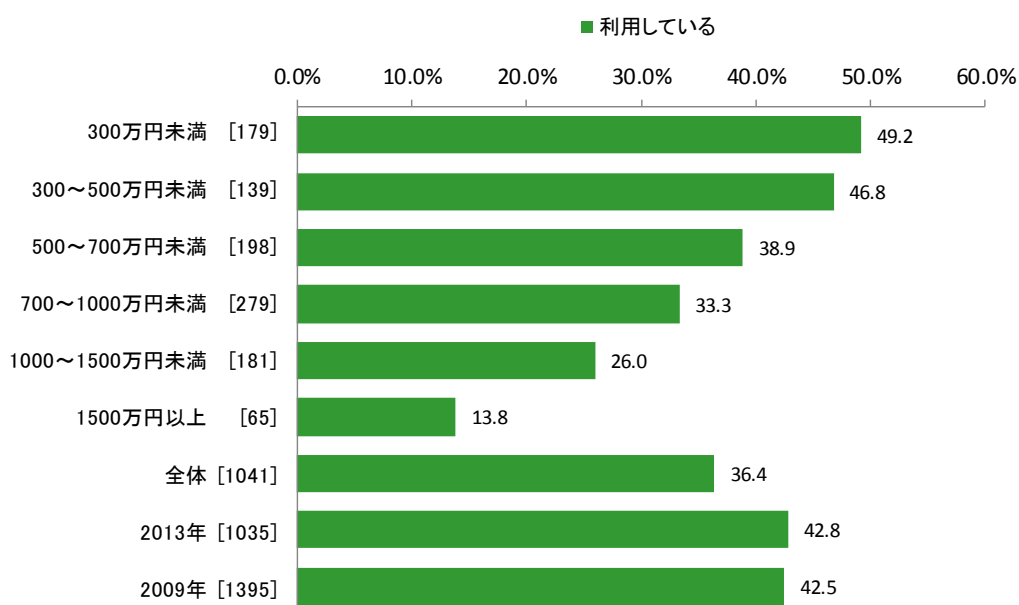


注) 「申請しなかった」のグラフ表示を省略した。

奨学金の利用状況と種類

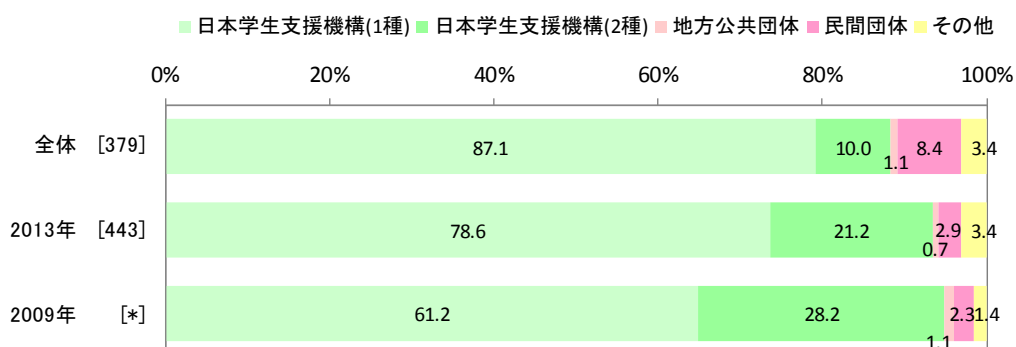
- 大学院学生の 36.4%が奨学金を利用しているが、2009年調査(42.5%)、2013年調査(42.8%)と比べると、減少している。
- 家計の年間収入別では、家庭の年間収入が低くなるほど、奨学金の利用が増加する。
- 奨学金の種類は、「日本学生支援機構(1種)」(87.1%)を利用している学生が最も多い。次いで、「日本学生支援機構(2種)」(10.0%)と続く。全体では、「日本学生支援機構(1種)」の比率が増加している。

■ 奨学金の利用状況(家庭の年間収入別)



■ 奨学金の種類(複数回答可)

※アルバイト非従事者ベース



注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

日本学術振興会特別研究員の給与

- 日本学術振興会特別研究員の給与を「受けている」学生は全体の4.8%で、「応募したが受けられなかった」(11.1%)を合すると博士(後期)課程の学生の15.9%が日本学術振興会特別研究員に応募している。
- 日本学術振興会特別研究員の給与を受けているのは、総合化学院などである。

■ 日本学術振興会特別研究員の給与(博士(後期)課程のみ・研究科等別)

(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

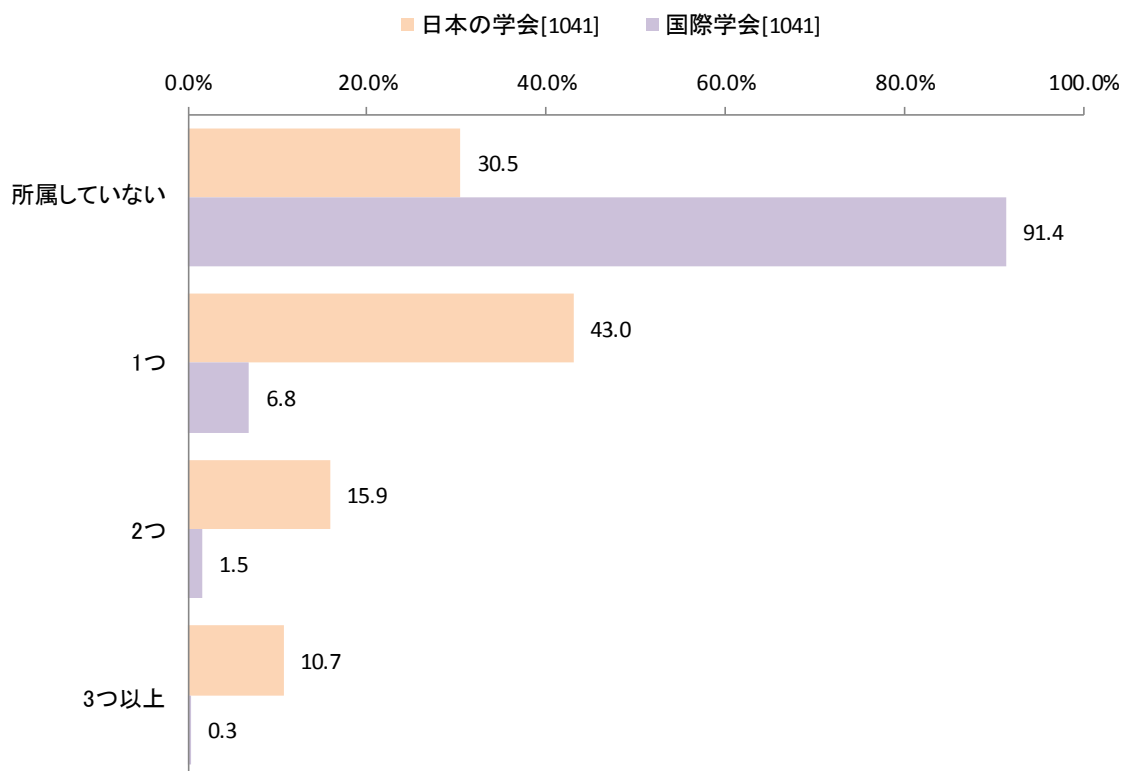


G 大学院学生の研究活動

所属学会数(全体)

- 所属学会については、「日本の学会」に所属している学生が全体の69.6%、「国際学会」に所属している学生は8.6%である。

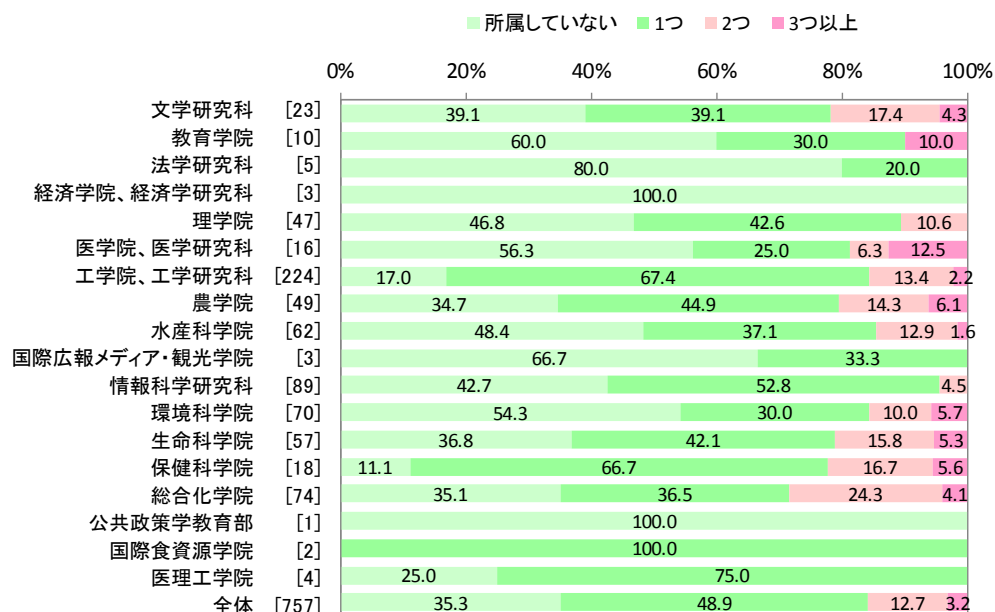
■ 所属学会数(全体)



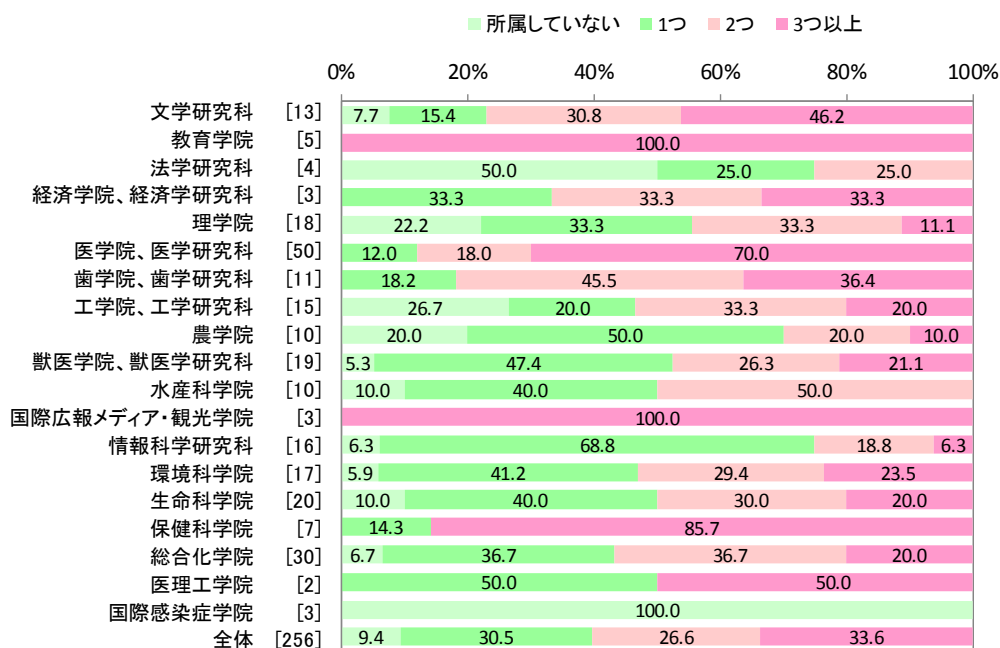
日本の学会 所属学会数

- 日本の学会に所属している比率は、修士課程が 64.8%、博士（後期）課程が 90.7%である。博士（後期）課程は日本の学会の所属率が高く、さらに複数の学会に所属する比率が高い。

日本の学会 所属学会数(修士課程／研究科等別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



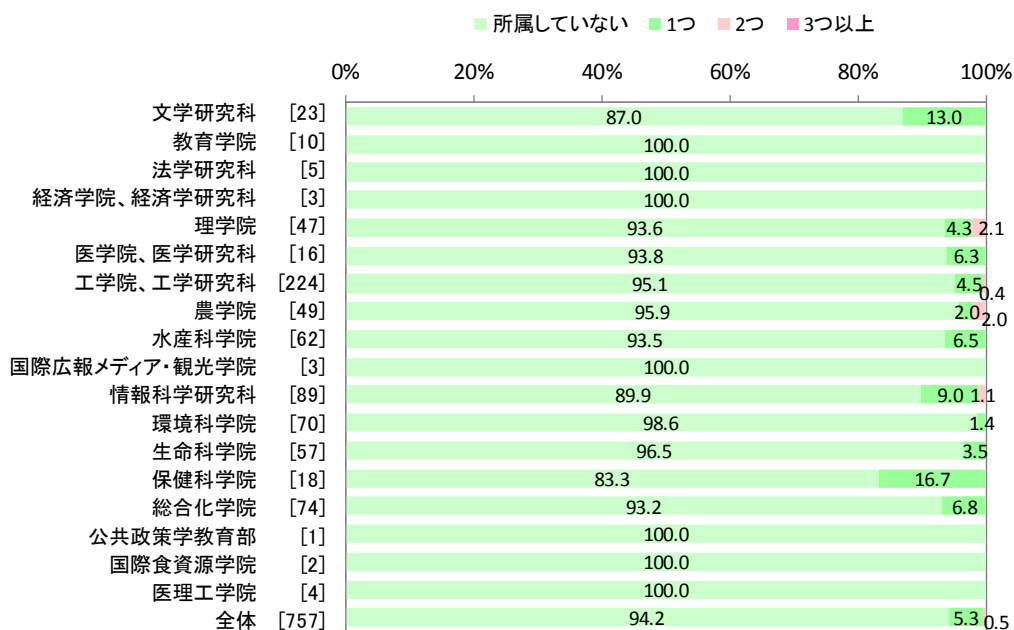
日本の学会 所属学会数(博士(後期)課程／研究科等別)



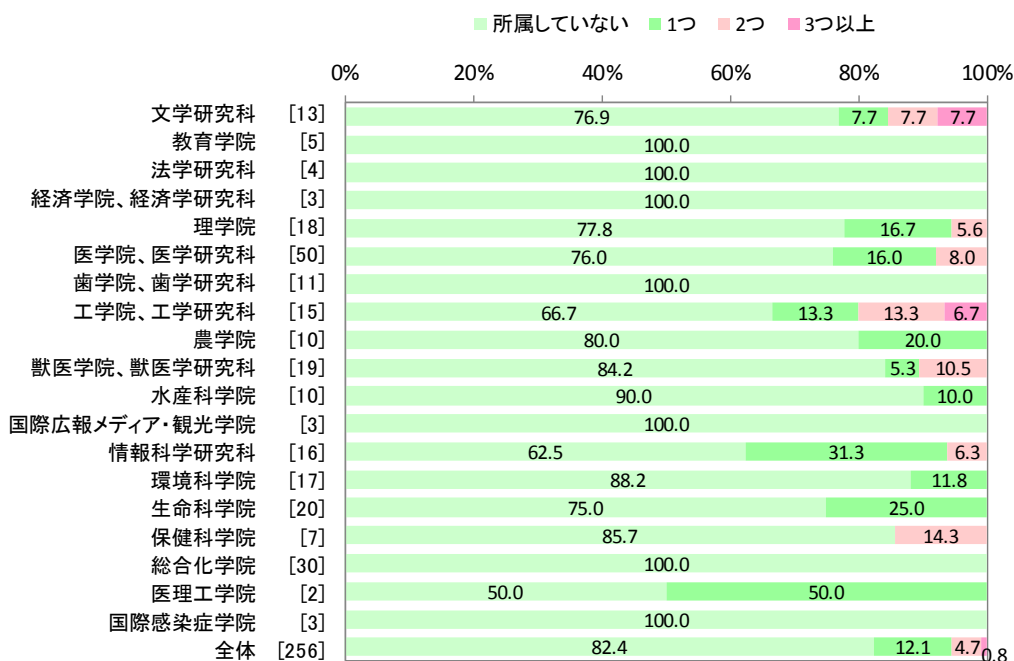
国際学会 所属学会数

- 国際学会に所属している比率は、修士課程が 5.8%、博士（後期）課程が 17.6%である。博士（後期）課程は日本の学会同様所属率が高く、さらに複数の学会に所属する比率が高い。

■ 国際学会 所属学会数(修士課程／研究科等別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



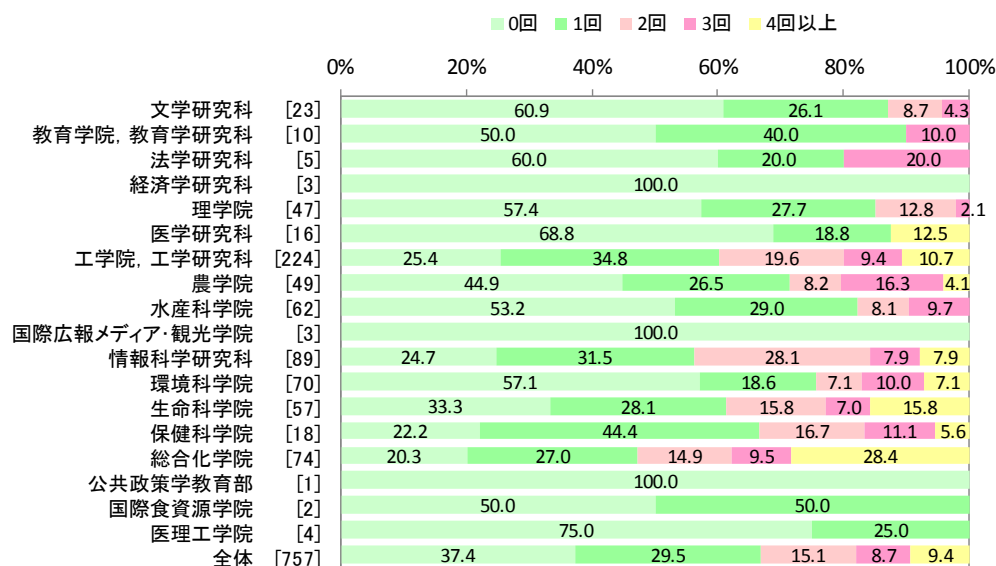
■ 国際学会 所属学会数(博士(後期)課程／研究科等別)



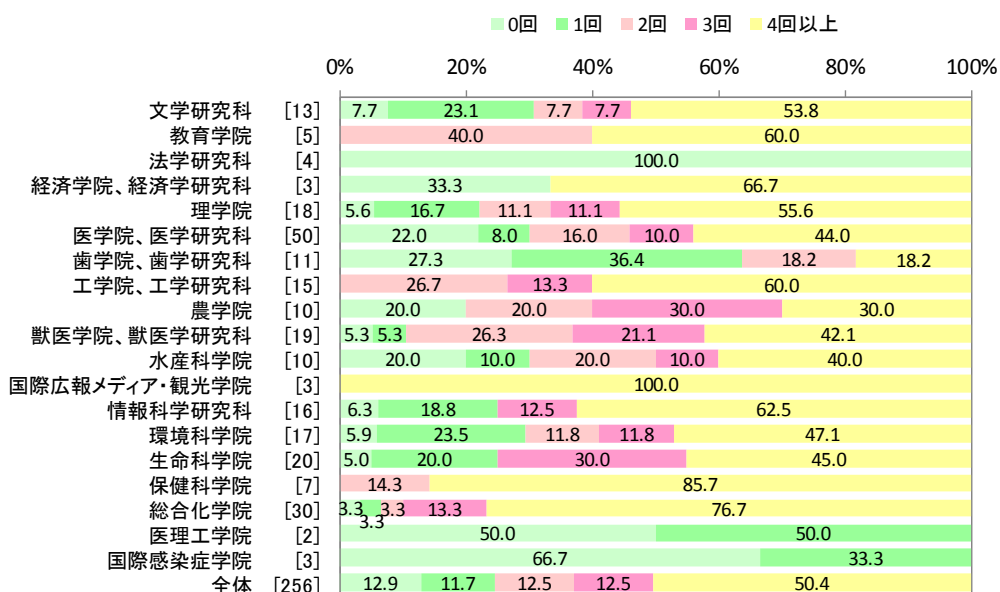
日本の研究集会・学会等の発表回数

- 日本の研究集会・学会等での発表をした比率は、修士課程が 62.7%、博士（後期）課程が 87.1% である。また、博士（後期）課程は発表回数が「4 回以上」が全体の 50.4% を占める。
- 修士課程で発表している比率が多いのは、総合化学院、工学院・工学研究科、情報科学研究科 である。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）

日本の研究集会・学会等の発表回数(修士課程／研究科等別)



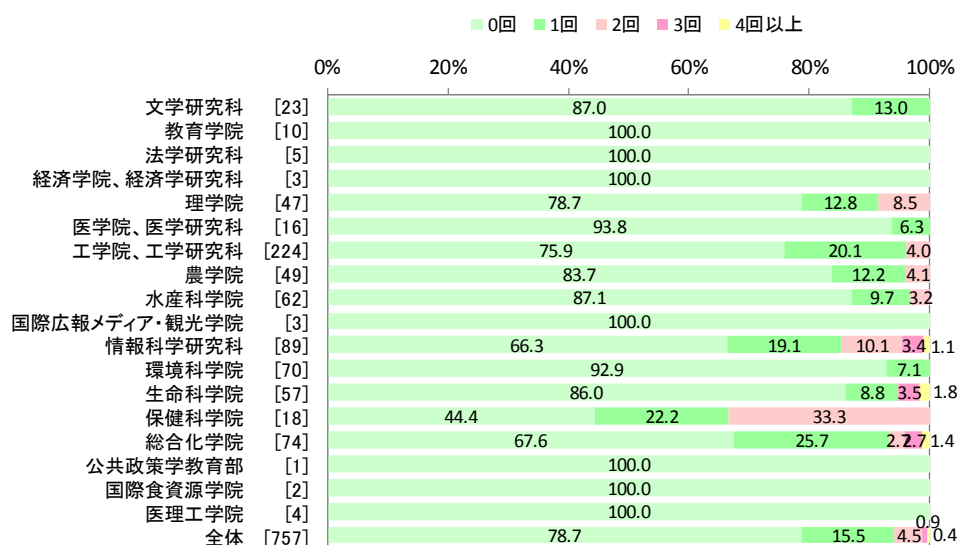
日本の研究集会・学会等の発表回数(博士(後期)課程／研究科等別)



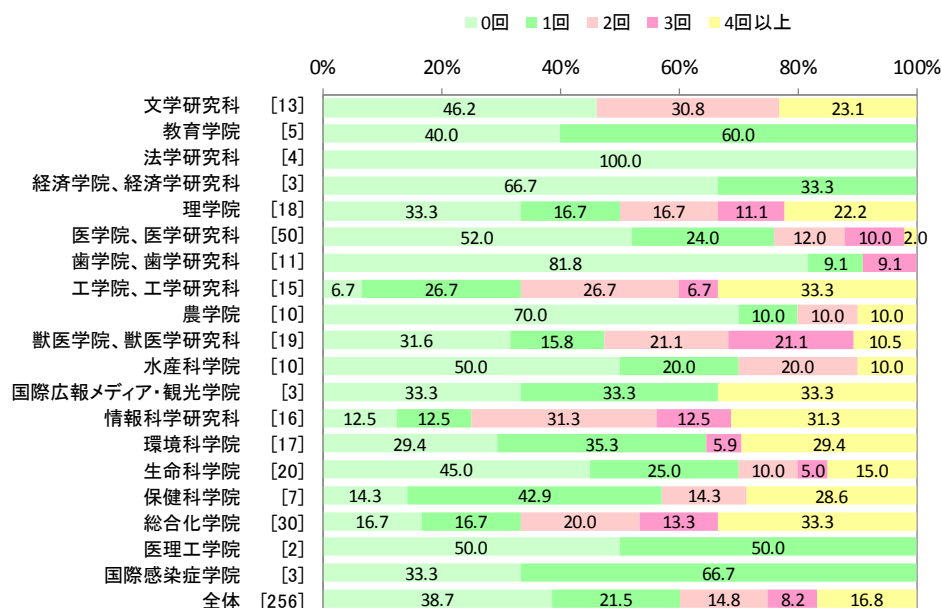
海外の研究集会・国際学会等の発表回数

- 海外の研究集会・学会等での発表をした比率は、修士課程が 21.3%、博士（後期）課程が 61.3% である。また、博士（後期）課程は修士課程よりも複数回発表した比率が多い。
- 文系は、修士課程では未発表がほとんどであるが、博士（後期）課程になると発表回数が増加する傾向がある。
(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

海外の研究集会・国際学会等の発表回数(修士課程／研究科等別)



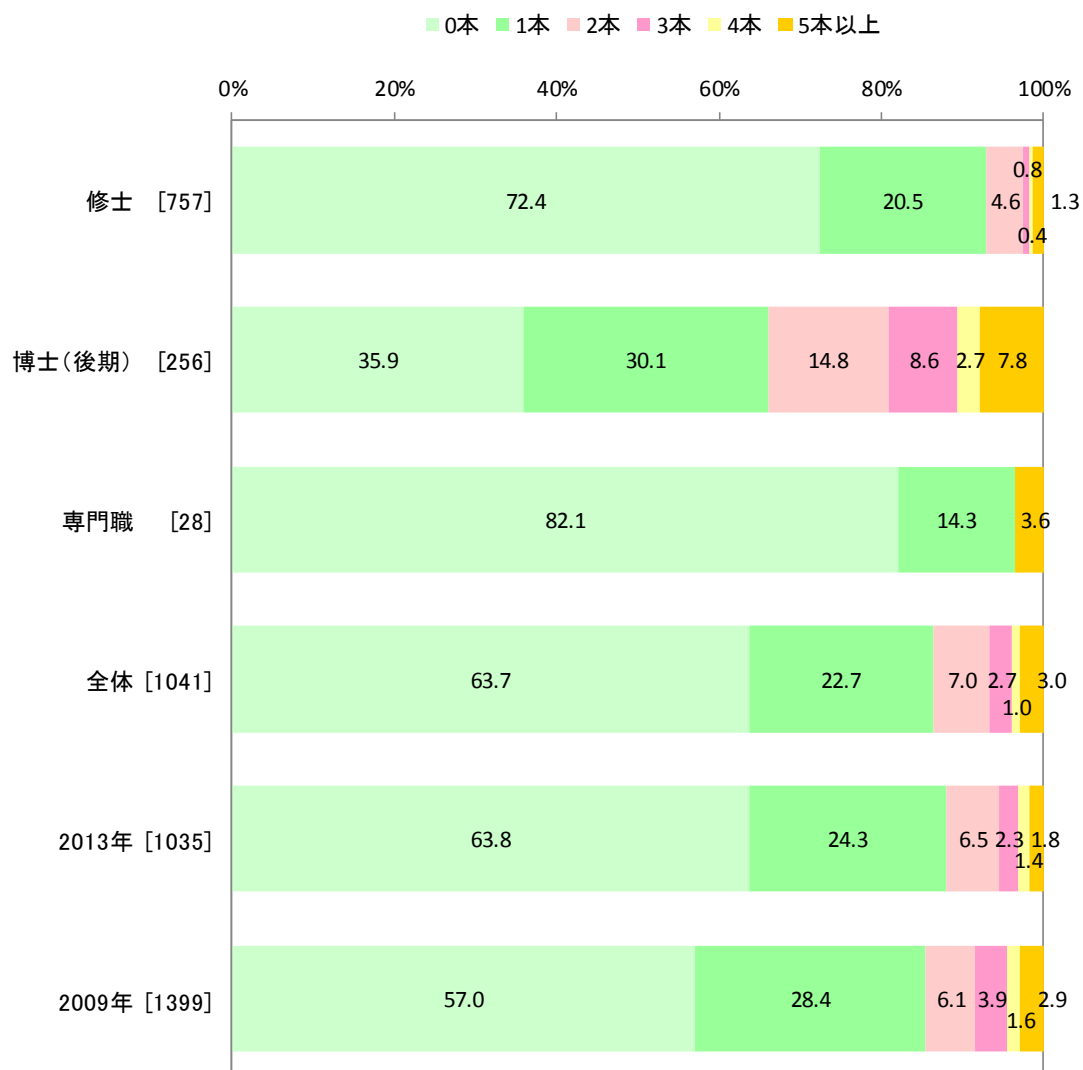
海外の研究集会・国際学会等の発表回数(博士(後期)課程／研究科等別)



論文執筆数

- 論文執筆数は、「0本」の割合が2009年調査(57.0%)→2013年調査(63.8%)→今回調査(63.7%)と2013年とはほぼ変わらないが、2009年と比べると上昇している。
- 課程別では、博士(後期)課程は64.0%の学生が執筆経験があるのに対して、修士課程は27.6%で、その差は大きい。

■ 論文執筆数(課程別)



語学力

- 外国語の使用能力については、「読むのはなんとかできるが、作文と会話が苦手である」が52.2%を占めている。「読み書きには不自由しないが、会話は苦手である」(21.2%)、「すべてが苦手」(15.7%)を合すると、「会話が苦手である」学生の割合が9割近くに達する。その傾向は2009年調査、2013年調査から大きく変わらない。
- 研究科等別にみると、「すべてが苦手である」の比率が高いのは、法学研究科である。

■ 語学力(研究科等別)

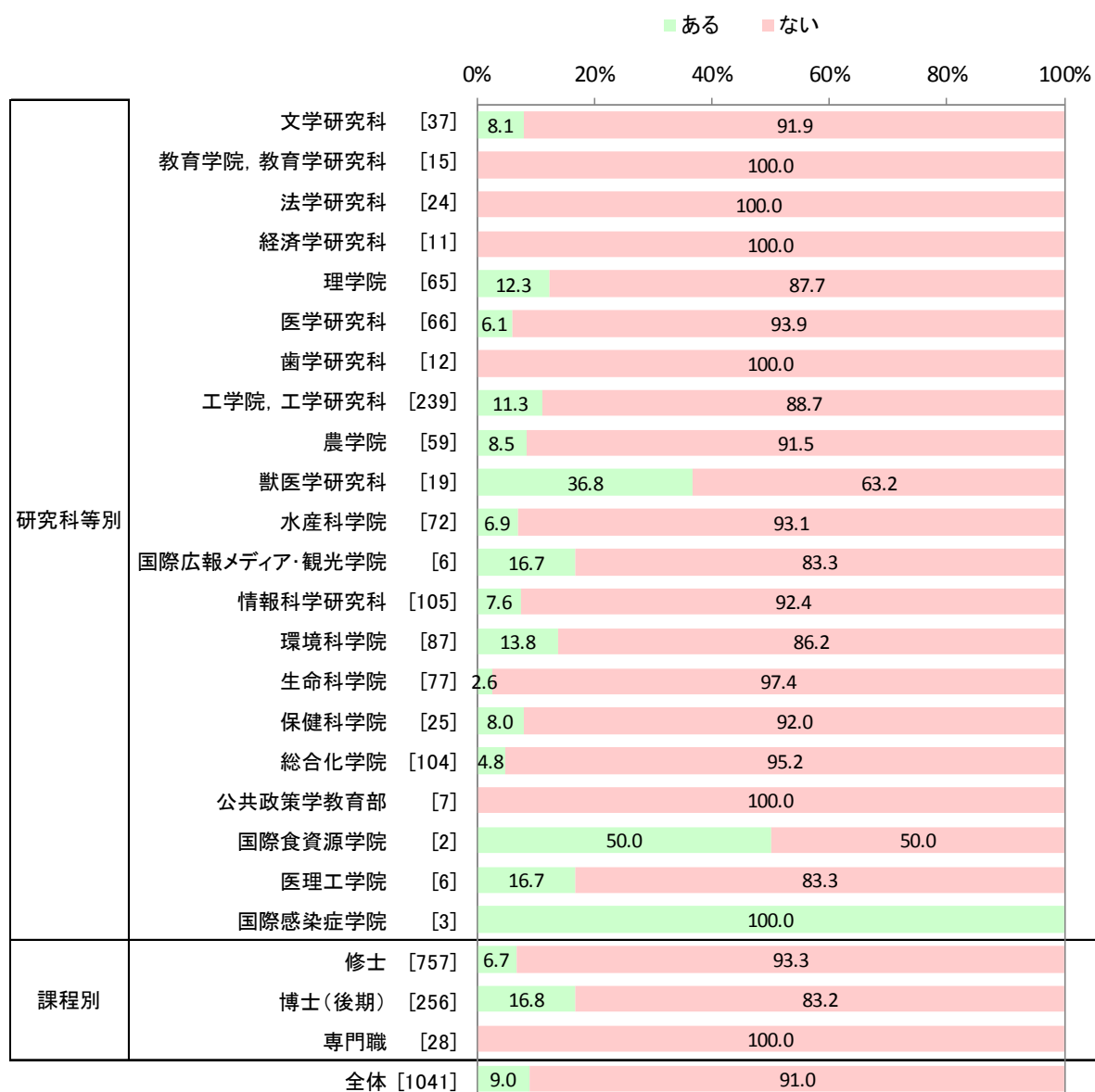
(※回答数が少ない研究科等は参考程度)



海外での調査研究経験

- 海外での調査研究経験が「ある」と回答した学生は9.0%である。
- 研究科等別では、研究経験が「ある」の比率が高いのは、獣医学研究科（36.8%）である。
- 課程別では、博士（後期）課程が16.8%と、修士の6.7%を大きく上回っている。

海外での調査研究経験(研究科等別／課程別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



海外留学の経験

- 海外留学の経験が「ある」と回答した学生の割合は8.9%である。
- 研究科等別では、海外での調査研究経験が比較的あるのは、保健科学院（16.0%）、工学院・工学研究科（13.8%）、教育学院、教育学研究科（13.3%）である。
- 課程別では、修士課程が8.2%、博士（後期）課程が12.1%である。

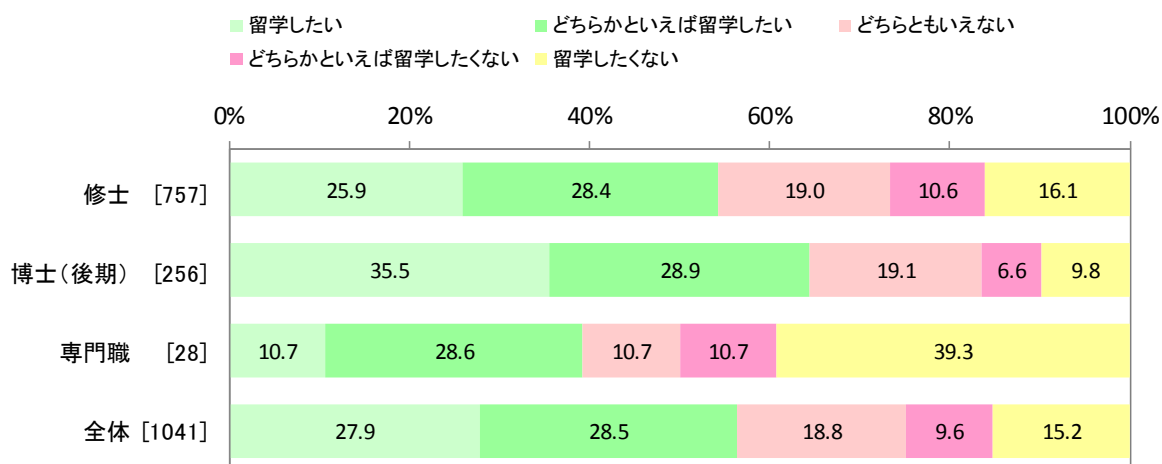
■ 海外留学の経験(研究科等別／課程別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



海外留学の意向

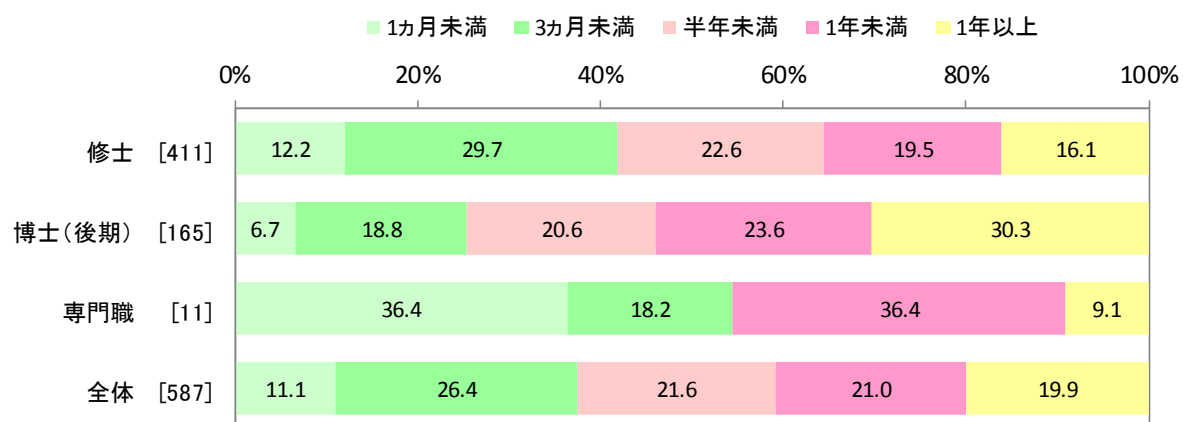
- 海外への留学意向については、「留学したい」割合が27.9%。「どちらかといえば留学したい」(28.5%)を合わせて、留学意向がある学生は56.4%と半数を超える。
- 課程別にみると、留学意向が高いのは博士(後期)課程で、その割合は64.4%である。
- 希望する留学期間では、「3ヵ月未満」(26.4%)、「半年未満」(21.6%)、「1年未満」(21.0%)、「1年以上」(19.9%)と短期から長期まで様々である。
- 課程別では、博士(後期)課程で「半年以上」の割合が53.9%と、他の課程よりも長期を考える学生が多いことがわかる。

海外留学の意向(課程別)



希望する留学期間(課程別)

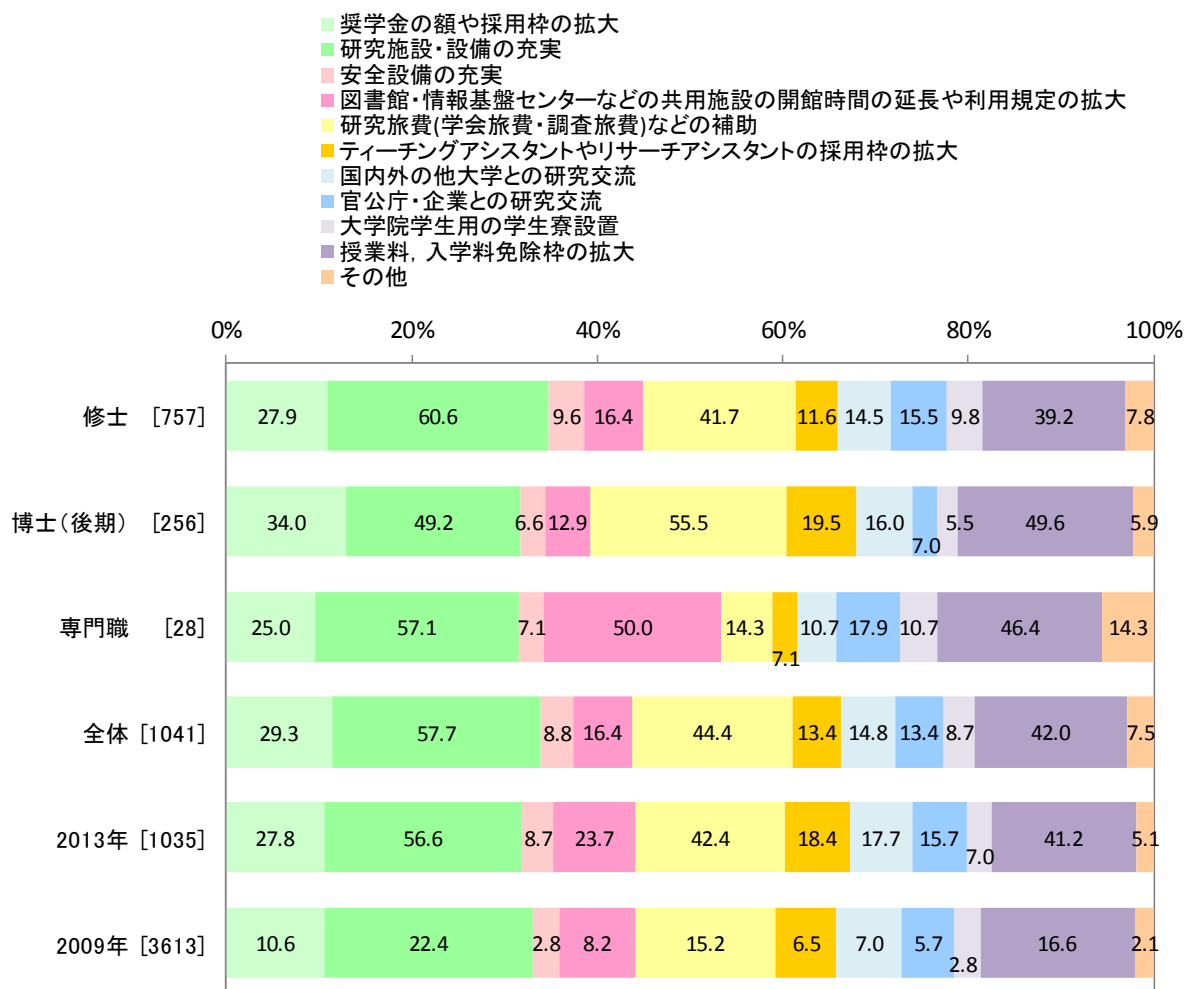
※海外への留学希望者ベース



研究・学業を進める上で大学に要望すること

- 各課程に共通して「研究施設・設備の充実」、「授業料，入学料免除枠の拡大」の比率が高い。それ以外に、修士課程や博士（後期）課程は「研究旅費(学会旅費・調査旅費)などの補助」、専門職学位課程は「図書館・情報基盤センターなどの共用施設の開館時間の延長や利用規定の拡大」を求める学生が多いのが特徴的である。

■ 研究・学業を進める上で大学に要望すること(課程別・3 つまで)



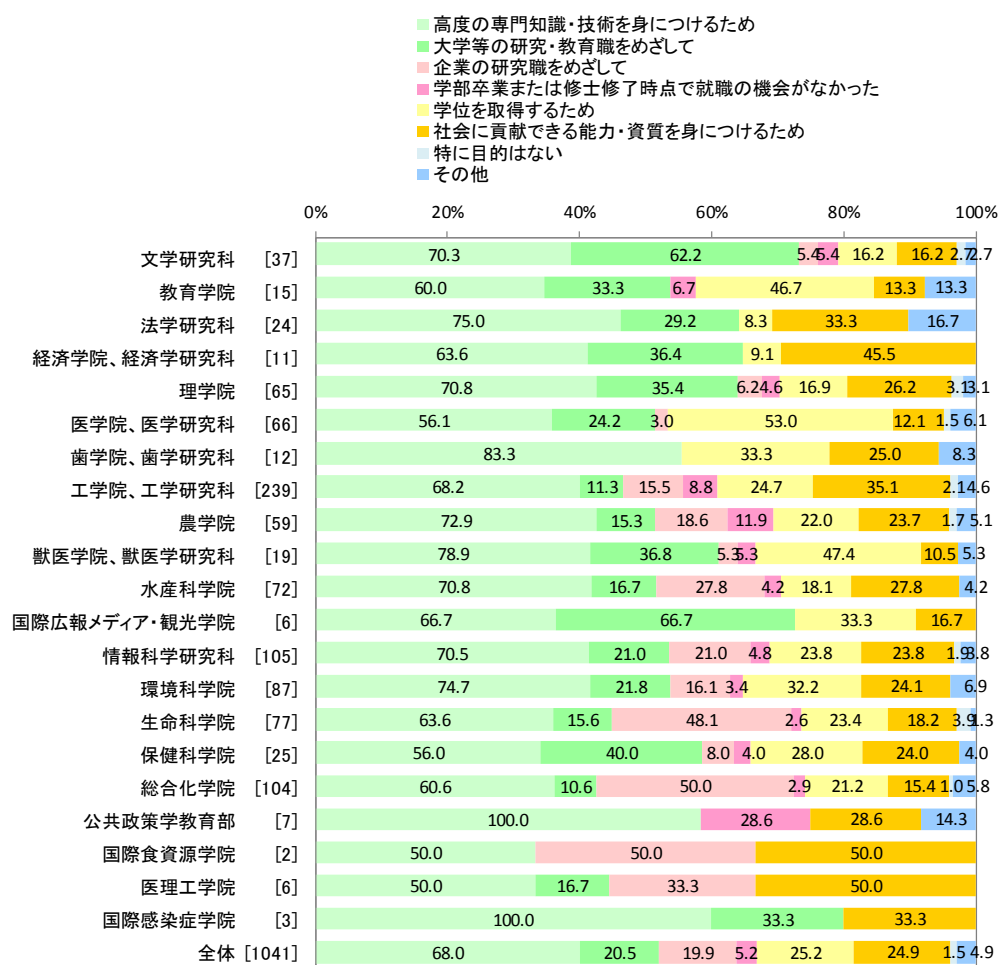
注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。
過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

H 北大の大学生活

大学院入学の目的

- 大学院入学の目的をみると、「高度の専門知識・技術を身につけるため」(68.0%) が最も多い。それ以外に、「学位を取得するため」(25.2%)、「社会に貢献できる能力・資質を身につけるため」(24.9%)、「大学等の研究・教育職をめざして」(20.5%)、「企業の研究職をめざして」(19.9%)が多い。
- 研究科等別にみると、各研究科ともに「高度の専門知識・技術を身につけるため」が最も高い。文学研究科、国際広報メディア・観光学院は「大学等の研究・教育職をめざして」の比率も高い。

■ 大学院入学の目的(研究科等別・2 つまで) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)

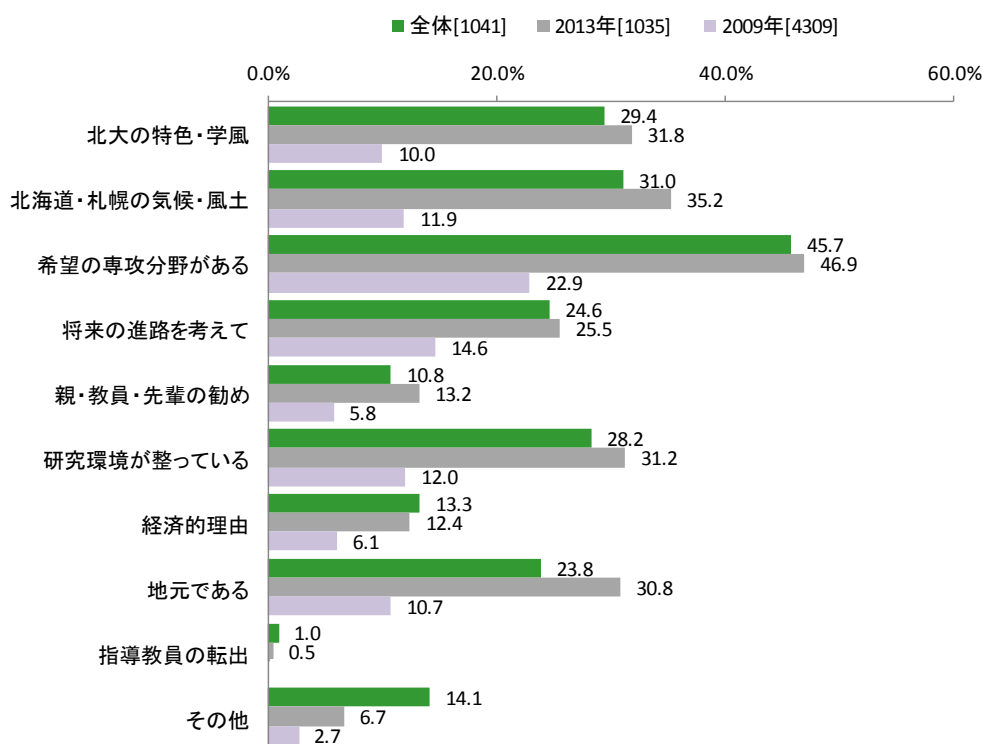


注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

北大大学院の志望理由と志望順位

- 北大大学院を志望した理由は、「希望の専攻分野がある」(45.7%)が最も高く、次いで、「北海道・札幌の気候・風土」(31.0%)、「北大の特色・学風」(29.4%)、「研究環境が整っている」(28.2%)、「将来の進路を考えて」(24.6%)が多い。2013年調査と比べても、傾向に大きな違いは見られない。

北大大学院を志望した理由(3つまで)



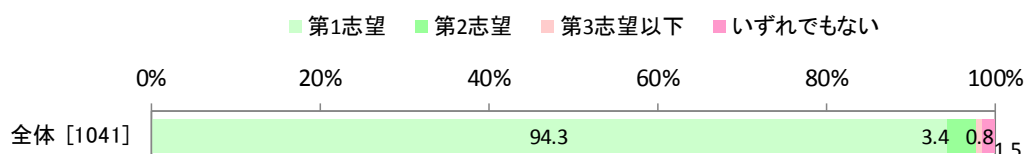
注)「指導教員の転出」は、前回調査(2013年)からの新選択肢である。

注)過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

北大大学院の進学時の志望順位

- 北大大学院の進学時の志望順位は、大半が「第1志望」(94.3%)で志望通りの進学である。

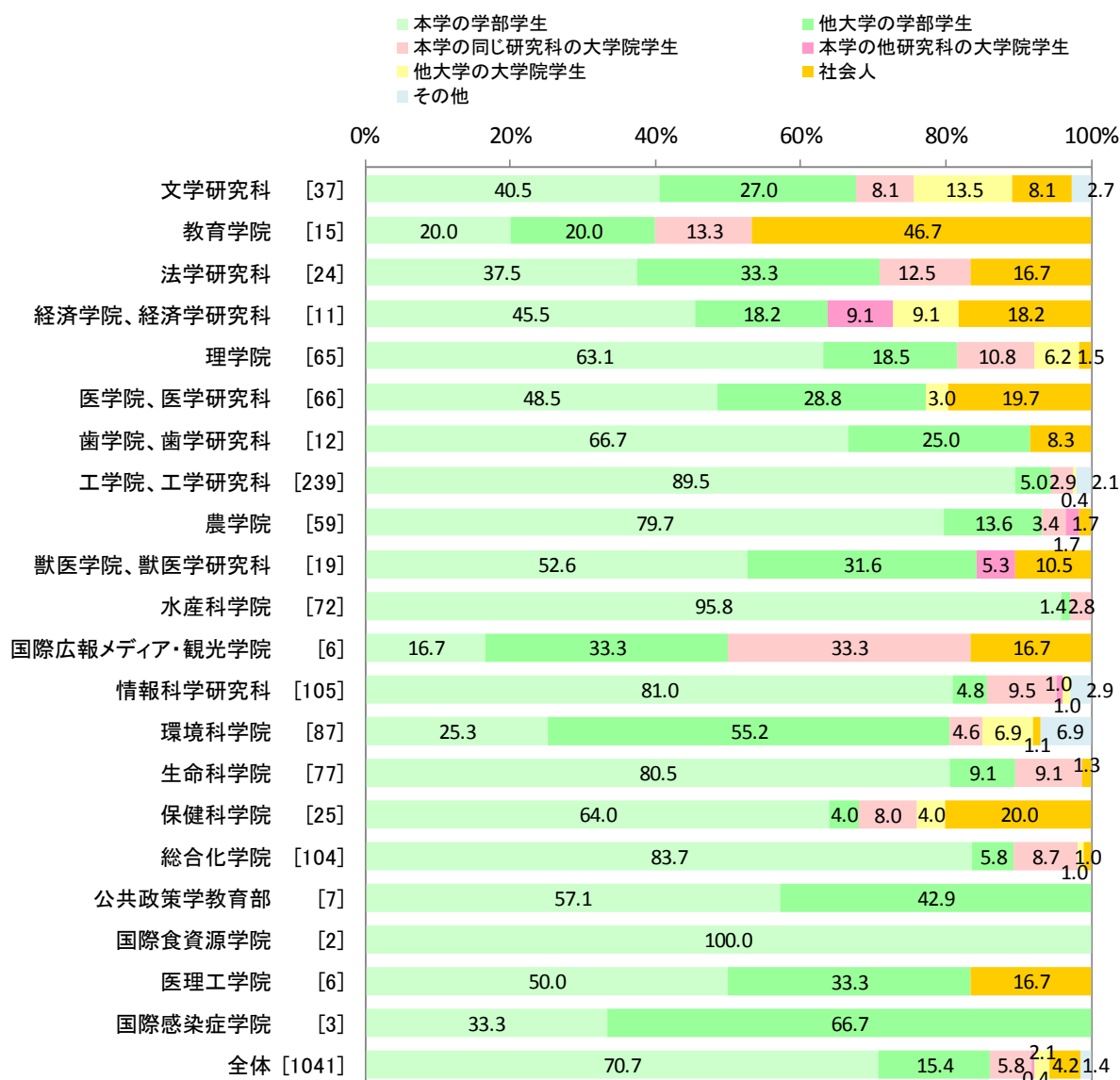
北大大学院の進学時の志望順位



出身大学等

- 大学院入学前の出身大学等は、「本学の学部学生」が70.7%を占めている。「他大学の学部学生」は15.4%である。
- 「本学の学部学生」が多い研究科は、水産科学院、工学院・工学研究科、総合化学院、情報科学研究科、生命科学院、農学院である。「他大学の学部学生」が多い研究科等は、環境科学院、法学研究科である。

■ 大学院入学前の出身大学等(研究科等別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



大学生生活の満足度

- 大学生生活の平均満足度は3.6点（最大5点満点）であり、2009年調査（3.5点）、2013年調査（3.6点）と比べて、大きくは変わらない。
- 研究科等別では、最も平均満足度が高いのは、3.9点の環境科学院である。一方、最も平均満足度が低いのは、3.2点の水産科学院である。
- 全体として、満足度の高い項目は、「北大・札幌の生活環境」（4.1点）、「指導教員との関係」（3.9点）である。一方、満足度が低いのは、「食堂・売店等のサービス」（3.2点）、「窓口の対応」（3.3点）である。

■ 大学生生活の満足度(研究科等別)

(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

	授業	教育研究用施設・設備	その他の施設・設備	北大・札幌の生活環境	食堂・売店等のサービス	図書館	指導教員との関係	窓口の対応	平均
文学研究科 [37]	3.9	3.4	3.4	4.0	3.2	3.8	4.0	3.0	3.6
教育学院, 教育学研究科 [15]	3.8	3.5	3.5	3.7	3.1	3.6	4.3	3.7	3.6
法学研究科 [24]	4.0	3.3	3.3	4.3	3.2	3.3	4.3	3.9	3.7
経済学研究科 [11]	3.7	2.6	3.0	4.4	3.5	3.5	4.1	3.5	3.5
理学院 [65]	3.5	3.8	3.6	4.3	3.4	3.9	4.2	3.4	3.8
医学研究科 [66]	2.9	3.4	3.2	4.0	3.4	3.5	3.5	3.2	3.4
歯学研究科 [12]	2.6	2.9	2.8	4.0	3.1	3.6	3.5	2.9	3.2
工学院, 工学研究科 [239]	3.4	3.5	3.3	4.2	3.2	3.6	3.8	3.2	3.5
農学院 [59]	3.3	3.4	3.2	4.4	2.9	3.7	3.6	3.2	3.5
獣医学研究科 [19]	3.5	4.0	3.6	4.1	3.0	3.6	3.6	3.4	3.6
水産科学院 [72]	3.5	3.4	3.1	3.1	2.6	3.1	3.5	3.3	3.2
国際広報メディア・観光学院 国際広報メディア研究科 [6]	3.8	4.0	3.7	4.2	3.5	3.8	3.8	3.5	3.8
情報科学研究科 [105]	3.4	3.8	3.7	4.3	3.5	3.7	3.9	3.2	3.7
環境科学院 [87]	3.9	3.8	3.7	4.3	3.6	3.9	4.3	3.8	3.9
生命科学院 [77]	3.4	3.5	3.5	4.2	3.1	3.6	3.8	3.2	3.5
保健科学院 [25]	3.8	3.3	3.4	4.4	3.2	3.7	4.0	3.5	3.7
総合化学院 [104]	3.3	3.6	3.3	4.1	3.1	3.8	3.7	3.3	3.5
公共政策学教育部 [7]	3.4	3.7	3.7	4.6	3.3	3.6	4.0	4.1	3.8
国際食資源学院 [2]	4.0	3.0	3.0	4.0	3.5	3.0	4.5	4.0	3.6
医理工学院 [6]	4.0	3.8	3.8	4.0	3.7	4.0	4.5	3.7	3.9
国際感染症学院 [3]	2.7	4.0	3.3	4.0	2.3	2.7	4.3	3.0	3.3
全体 [1041]	3.5	3.5	3.4	4.1	3.2	3.6	3.9	3.3	3.6
2013年 [1035]	3.5	3.7	3.5	4.2	3.4	3.8	3.9	3.1	3.6
2009年 [1500]	3.0	3.4	3.3	4.2	*	*	3.7	3.2	3.5

(点)

注1) 「大学生生活の満足度」は、2009年調査時からの新規設問である。

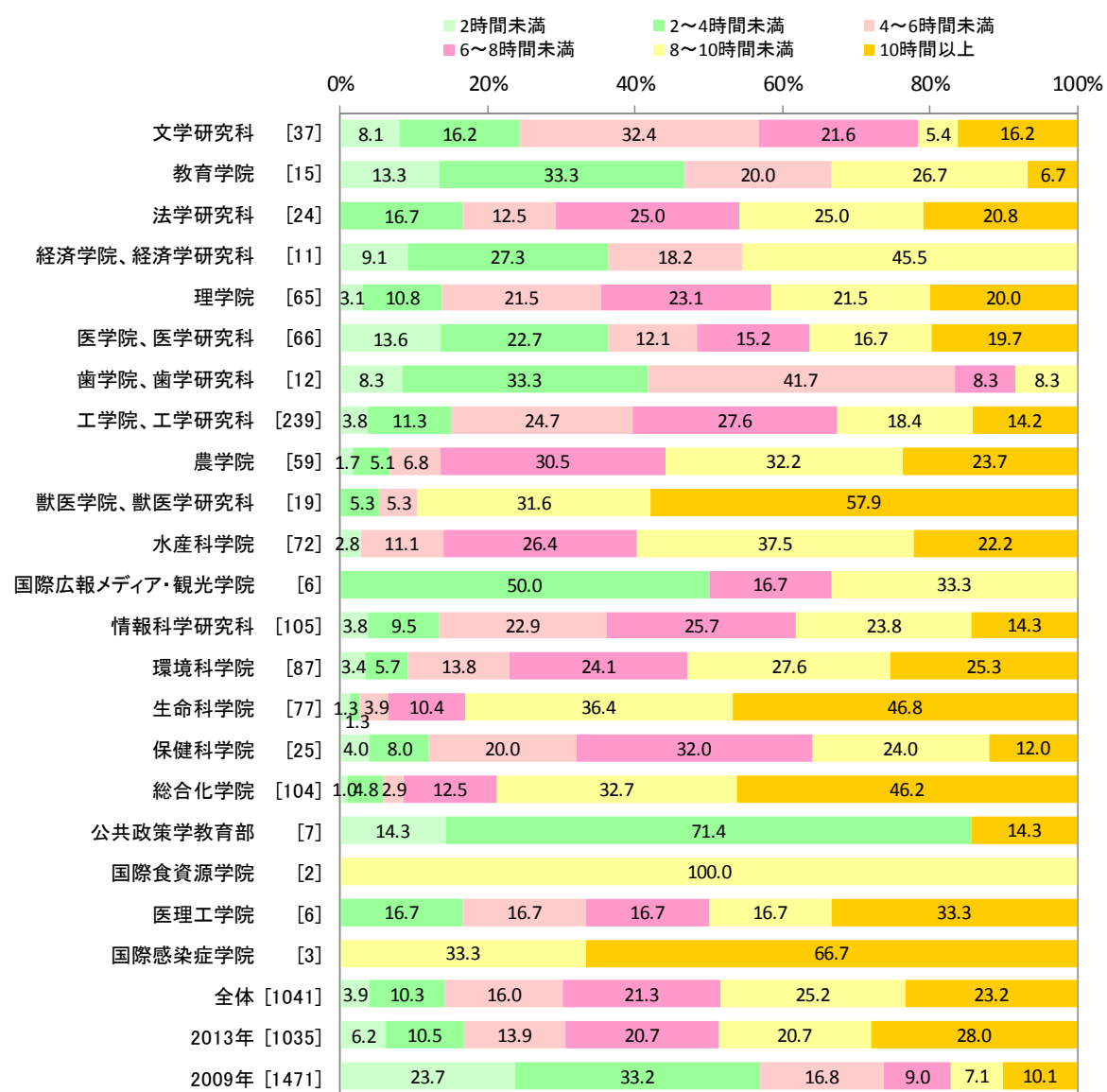
注2) 加重平均値の算出は、5：満足、4：まあ満足、3：普通、2：少し不満、1：不満

注3) 「食堂・売店等のサービス」「図書館」は前回調査（2013年）からの新選択肢である。

一日の平均研究・学習時間

- 一日の平均研究・学習時間は、「8～10 時間未満」(25.2%)、「10 時間以上」(23.2%)、「6～8 時間未満」(21.3%) が中心である。
- 研究科等別にみると、一日の平均研究・学習時間が短いのは、医学院・医学研究科である。一方、8 時間以上の比率が高いのは、生命科学院、総合化学院である。

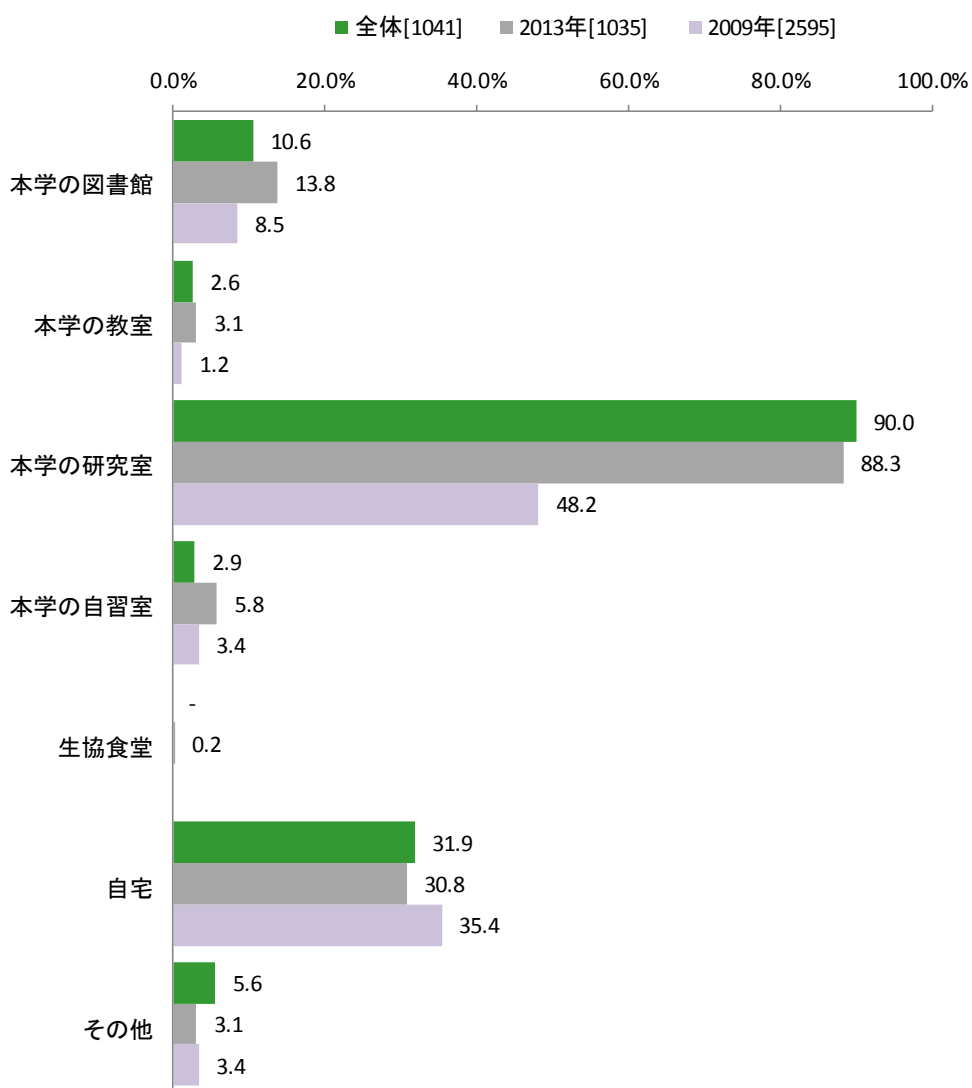
■ 一日の平均研究・学習時間(研究科等別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



研究・学習を行う場所

- 研究・学習を行う場所は、大半が「本学の研究室」(90.0%)を利用している。一方、「自宅」が31.9%で、約3割が学内以外でも自習を行っていることがわかる。

■ 研究・学習を行う場所(2つまで)



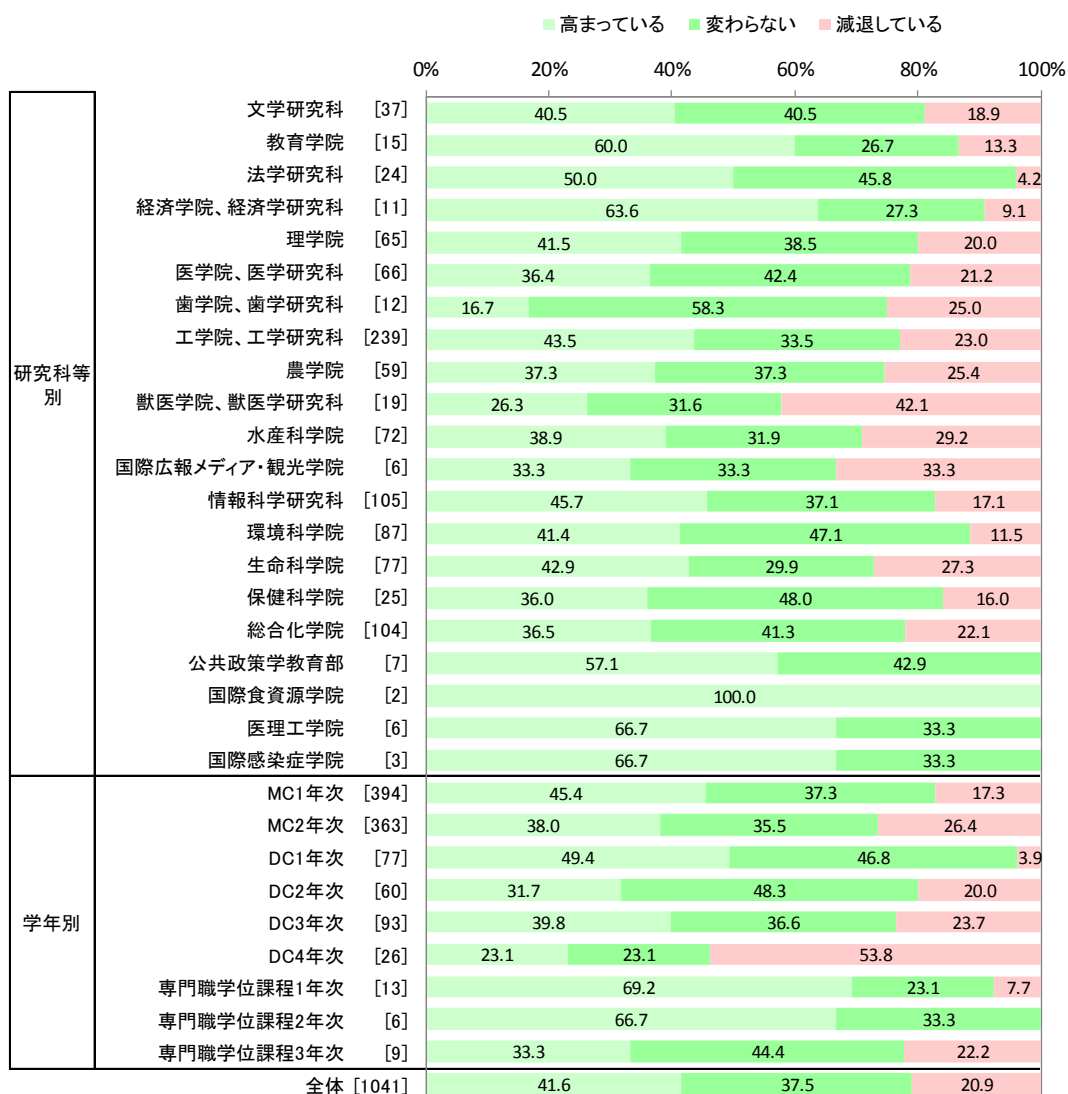
注1) 2009年調査時からのデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

注2) 「生協食堂」は、前回調査時(2013年)からの新規選択項目である。

入学後の研究意欲

- 入学後の研究意欲が「高まっている」と回答した学生は全体の41.6%で、研究意欲は高い水準を維持している。
- 研究科等別では、学習意欲が「高まっている」と回答した割合が高いのは、法学研究科である。一方、「減退している」と回答した割合が高いのは獣医学院・獣医学研究科である。
- 学年別では、各課程において、1年次よりも2年次以降で学習意欲が「高まっている」と回答する比率が低下傾向にあることがわかる。

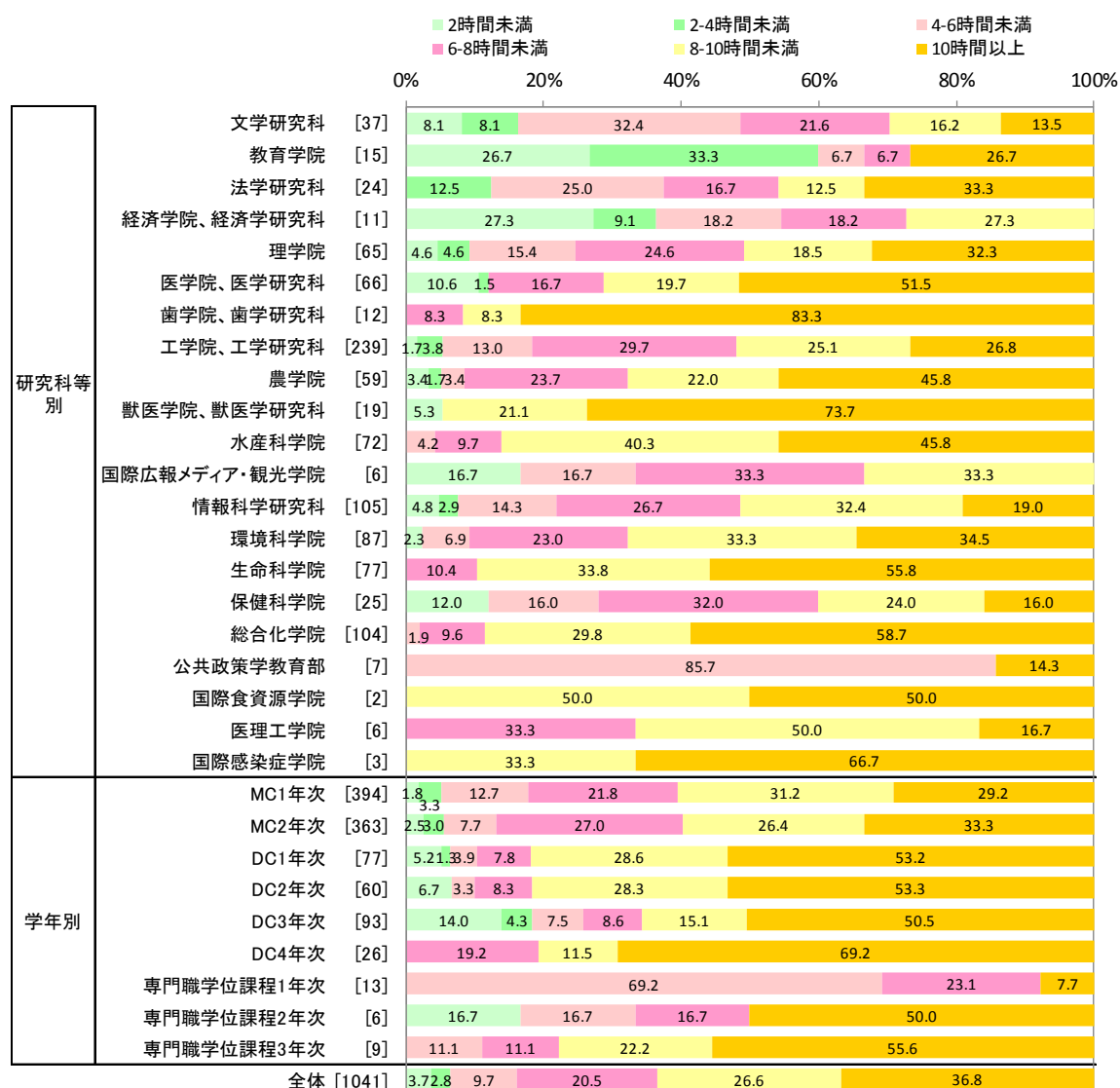
■ 入学後の研究意欲(研究科等別／学年別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



大学で過ごす一日の平均時間

- 大学で過ごす一日の平均時間は、「10時間以上」(36.8%)が最も多く、「8～10時間未満」(26.6%)を合わせると「8時間以上」大学で過ごす比率は63.4%を占める。
- 研究科等別では、医学院・医学研究科、獣医学院・獣医学研究科、生命科学学院、総合化学院は「10時間以上」の比率が半数以上を占める。
- 学籍別にみると、博士（後期）課程は修士課程よりも「10時間以上」の比率が高い。

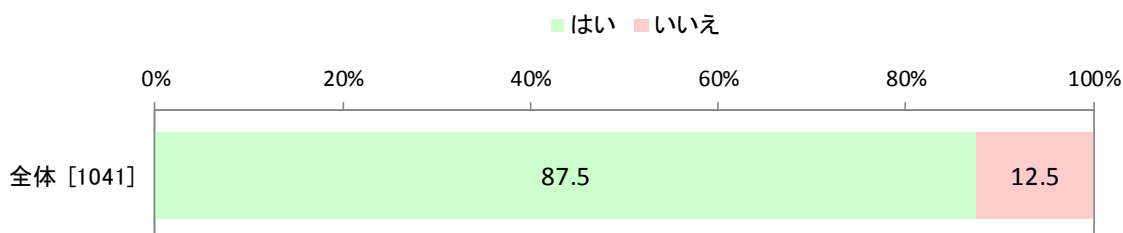
■ 大学で過ごす一日の平均時間(研究科等別／学年別)(※回答数が少ない研究科等は参考程度)



対人関係

- 全体の87.5%の学生が仲の良い友人が「いる」と回答している。
- その友人との関係性は、「同じ研究科等の友人」が74.9%と最も高く、次いで、「サークル等の仲間」(32.4%)、「学部時代の友人」(27.4%)、「中学・高等学校時代の友人」(22.2%)と続く。

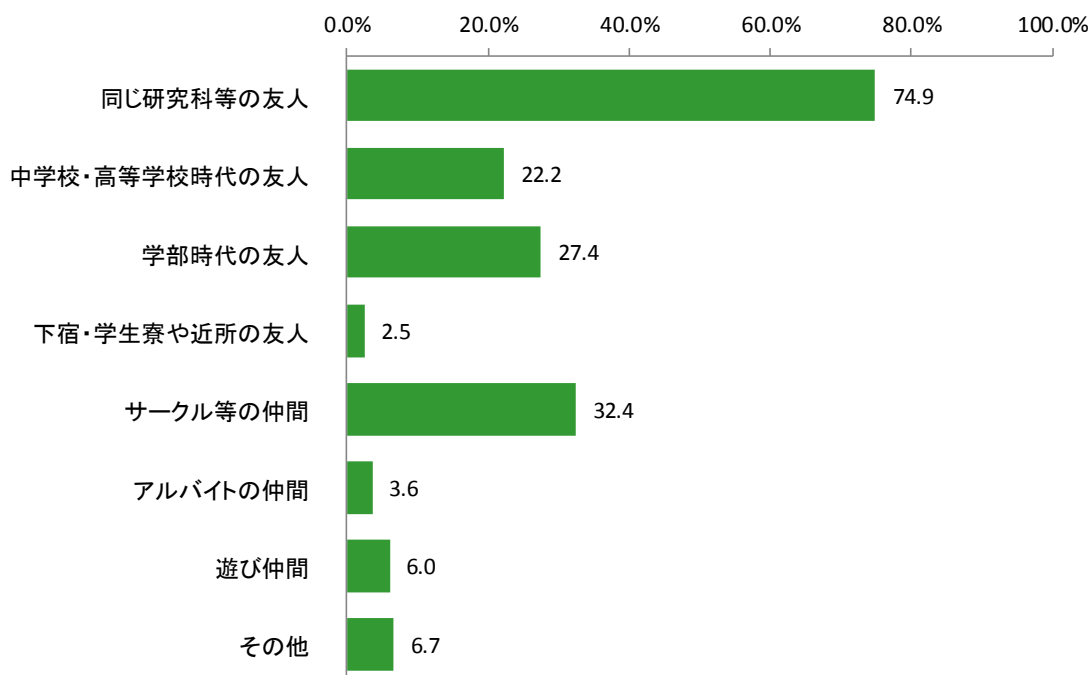
■ 仲の良い友人の有無



■ 友人との関係(2 つまで)

[911]

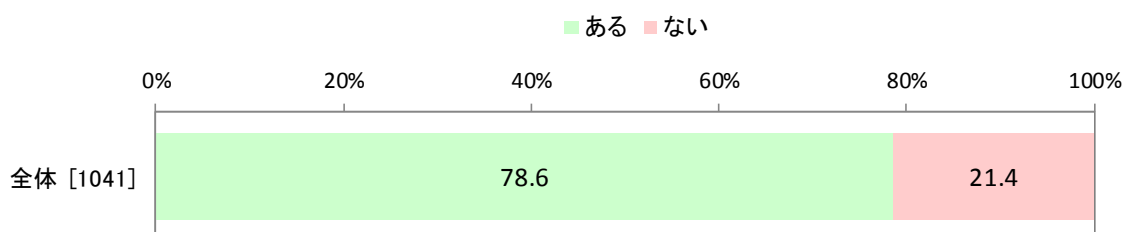
※仲の良い友人がいる者ベース



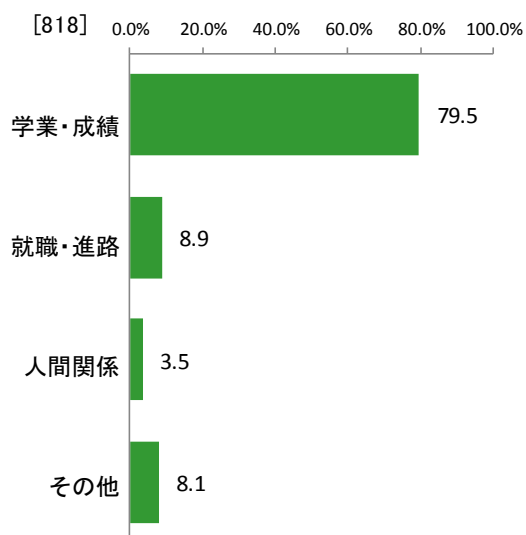
教員との関係

- 教員との会話・相談機会をみると、全体の78.6%の学生が教員との会話・相談機会が「ある」と回答しており、会話・相談機会が「ない」と回答した学生の割合は21.4%に留まっている。
- 教員との会話・相談機会が「ある」と回答した学生の教員との相談内容は、「学業・成績」が79.5%と圧倒的である。
- 一方、教員との会話・相談機会が「ない」と回答した学生の教員に相談しない理由は、「なんとなく話しにくい」(43.0%)が最も多い。次いで、「話しても仕方がない」(25.1%)や「必要がない」(16.1%)などである。

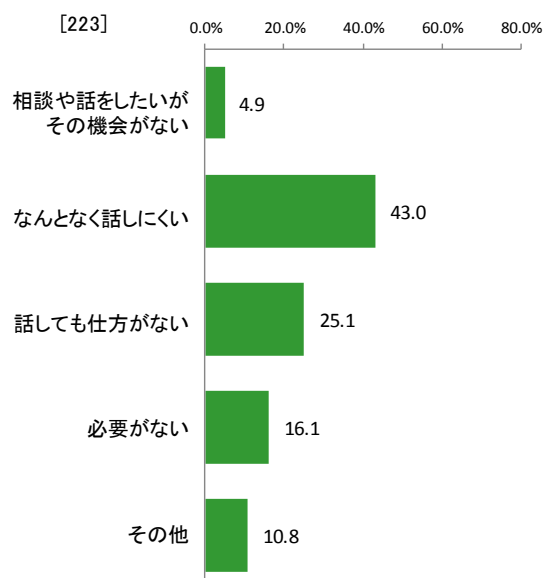
■ 教員との会話・相談機会



■ 教員との相談内容 ※教員との相談者ベース



■ 教員に相談しない理由 ※教員との非相談者ベース

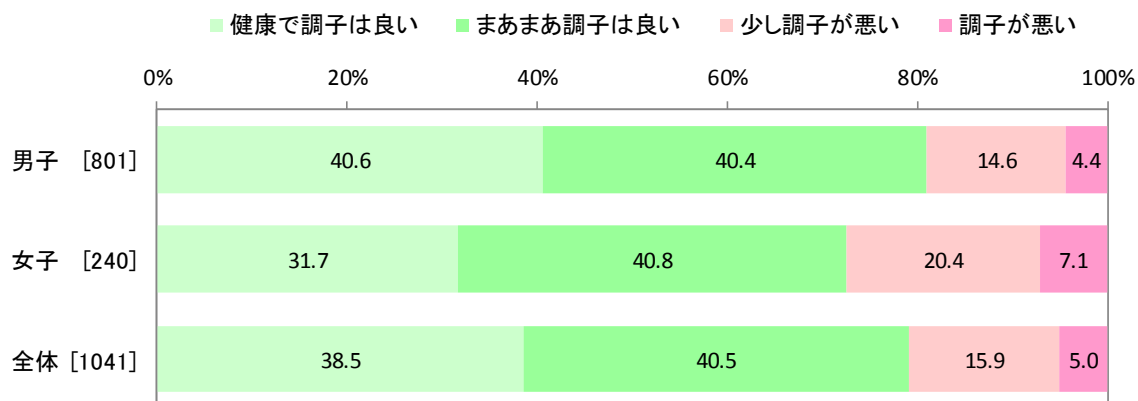


健康状態

身体の調子と通院状況

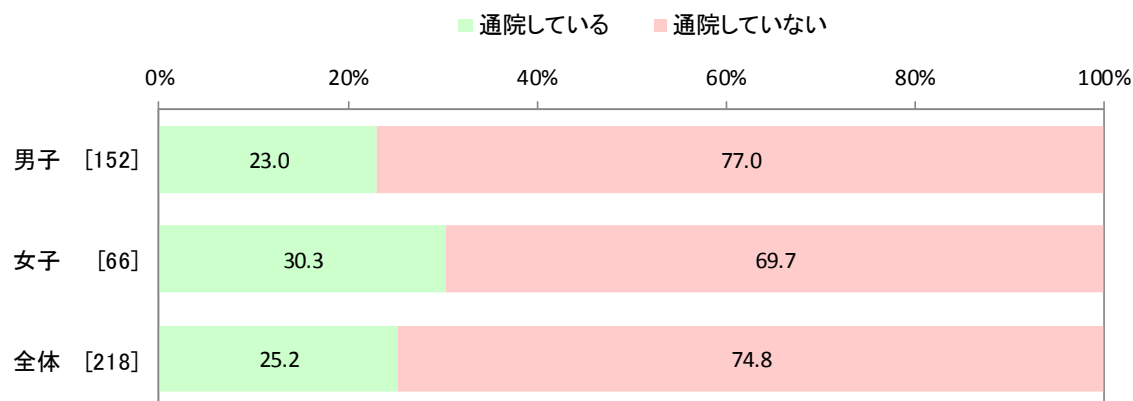
- 身体の調子については、全体で「健康で調子は良い」が38.5%であり、「まあまあ調子は良い」(40.5%)を合わせると、「調子は良い」と回答した学生が79.0%となるため、概ね体調は良好であるとみられる。
- 男女別では、女子の方が「少し調子が悪い」「調子が悪い」の比率が多い。
- 身体の調子が悪い学生のうち、25.2%の学生が通院しており、通院していない学生が74.8%を占めている。
- 男女別では、比較的女子学生の方が通院意識が高いものの、3割程度に留まる。

■ 身体の調子(男女別)



■ 通院状況(男女別)

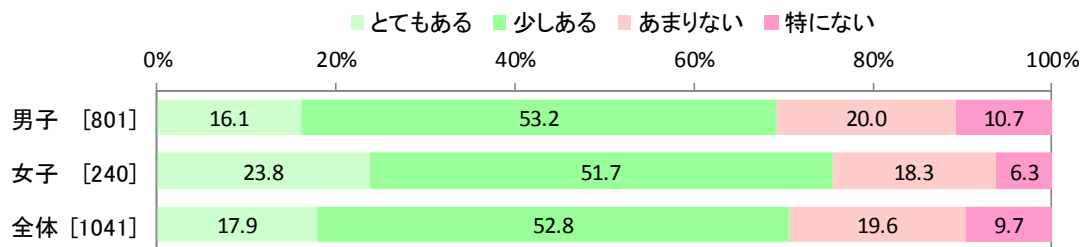
※身体の調子が悪い者ベース



悩み・不安

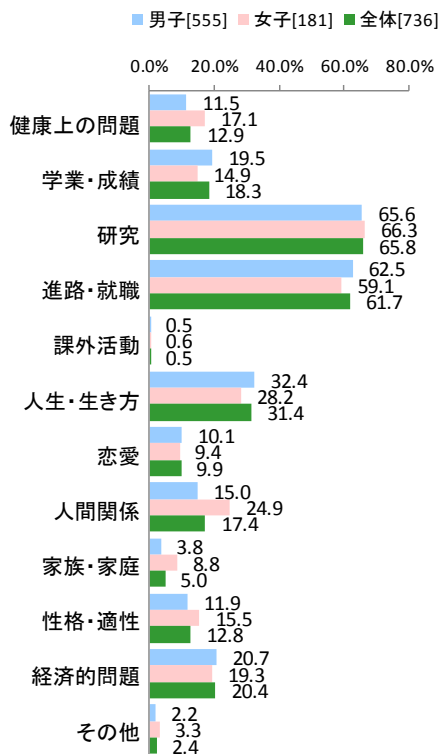
- 悩み・不安が「とてもある」と回答した学生は17.9%、「少しある」(52.8%)を合わせると、悩み・不安が「ある」学生は70.7%に達し、「あまりない」(19.6%)、「特にない」(9.7%)を合わせた「悩み・不安がない」学生(29.3%)を上回っている。
- 悩み・不安が「ある」と回答した学生の原因は、「研究」(65.8%)が最も多く、次いで「進路・就職」(61.7%)と続く。
- 悩み・不安の相談相手は、「北大の友人・先輩」(52.4%)が最も多く、次いで「家族」(36.7%)、「その他の友人・知人」(25.3%)である。「家族」や「その他の友人・知人」に相談している比率は女子学生の方が顕著に高い。

■ 悩み・不安の有無(男女別)



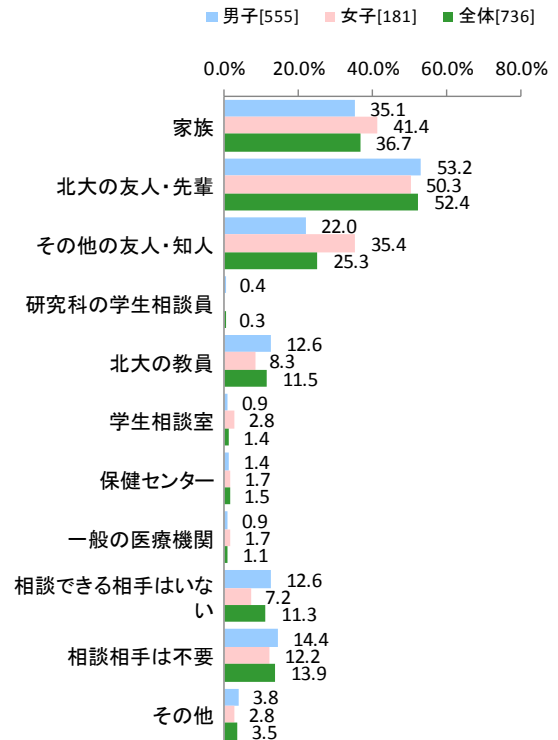
■ 悩み・不安の原因(男女別・3つまで)

※悩み・不安がある者ベース



■ 悩み・不安の相談相手(男女別・3つまで)

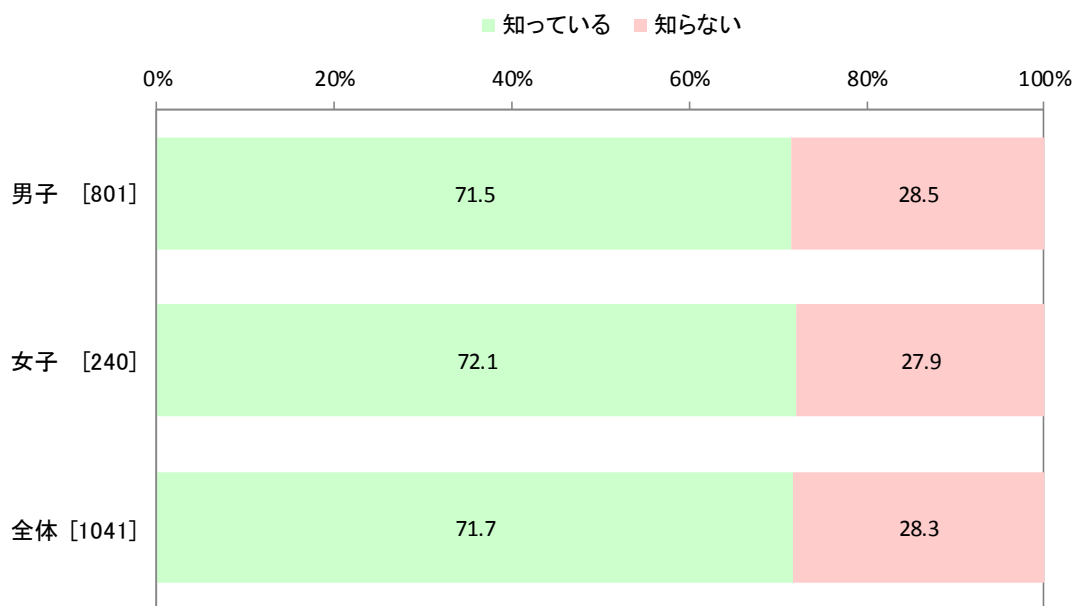
※悩み・不安がある者ベース



カウンセリングサービスの認知状況

- カウンセリングサービスの認知率は71.7%である。
- 男女の差はほとんどない。

■ カウンセリングサービスの認知状況(男女別)

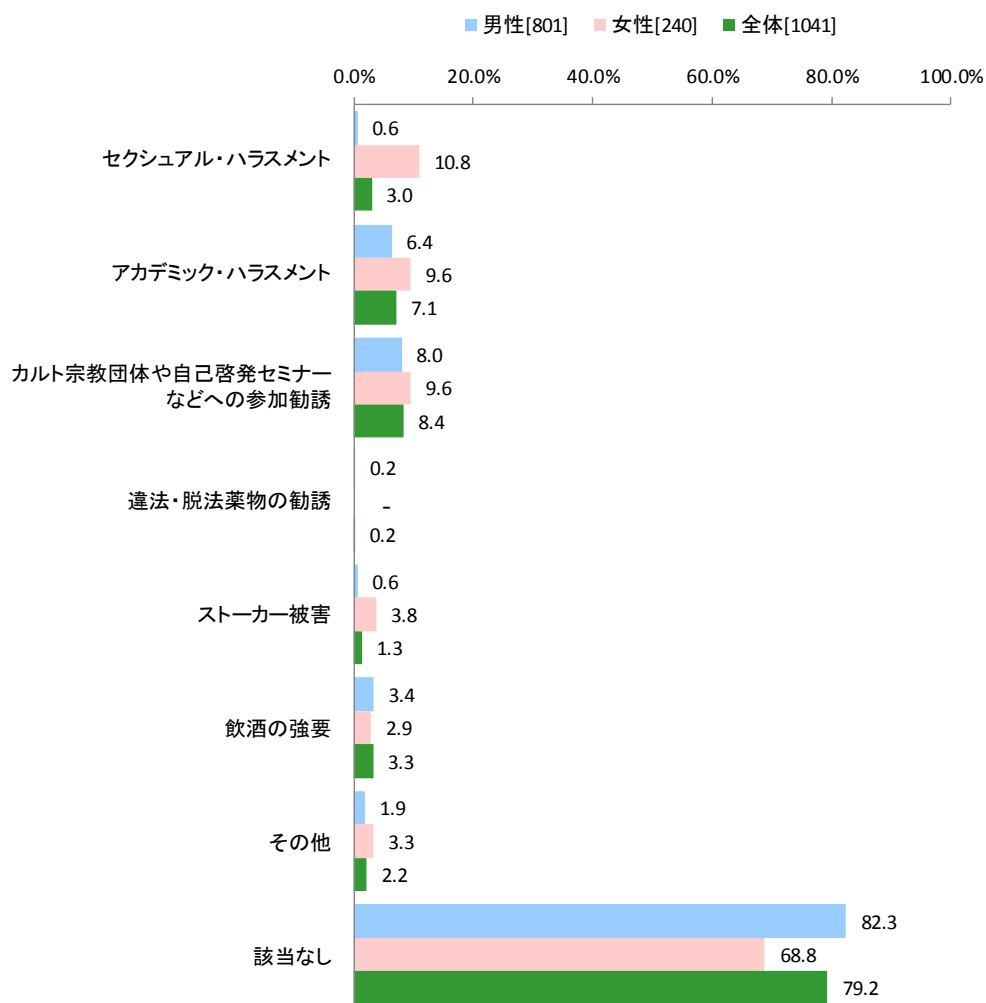


J ハラスメント及びカルト宗教団体等の被害状況

自身のハラスメント等の被害経験

- 自身のハラスメント等の被害経験がある学生は20.8%であり、その内容は、「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」が8.4%、「アカデミック・ハラスメント」が7.1%である。
- 「セクシュアル・ハラスメント」は、女子学生が男子学生に比べて被害を受ける割合が10.8%と高くなっている。

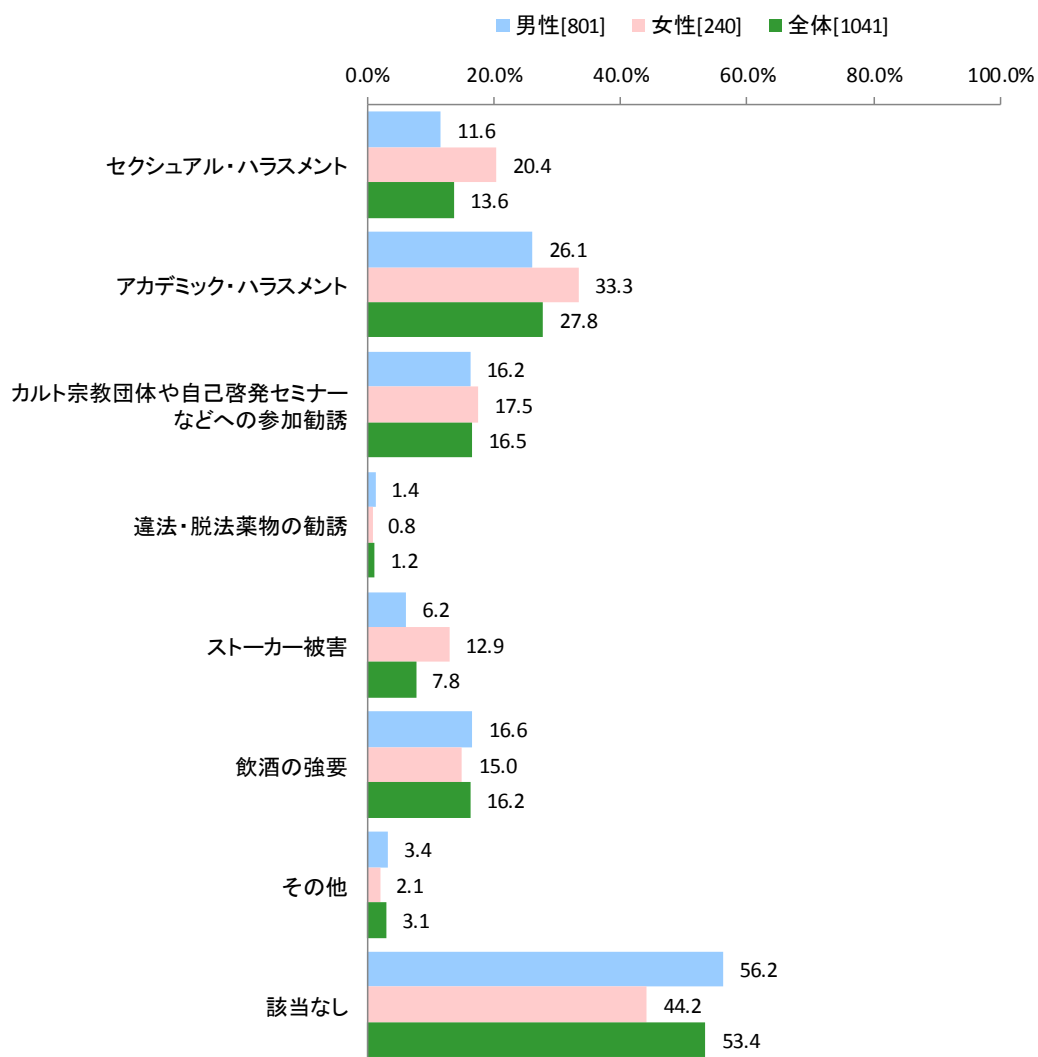
■ 自身のハラスメント等の被害経験(男女別・複数回答可)



他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験

- 他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験がある学生は46.6%で、その内容は「アカデミック・ハラスメント」(27.8%)が最も多く、次いで「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」(16.5%)、「飲酒の強要」(16.2%)、「セクシュアル・ハラスメント」(13.6%)と続く。
- 男女別では、「セクシュアル・ハラスメント」「アカデミック・ハラスメント」「ストーカー被害」は男子学生より女子学生の方が被害を見聞きする割合が高い。
- 自身の被害経験より他人の被害を見聞きした経験の方が高いことがわかる。

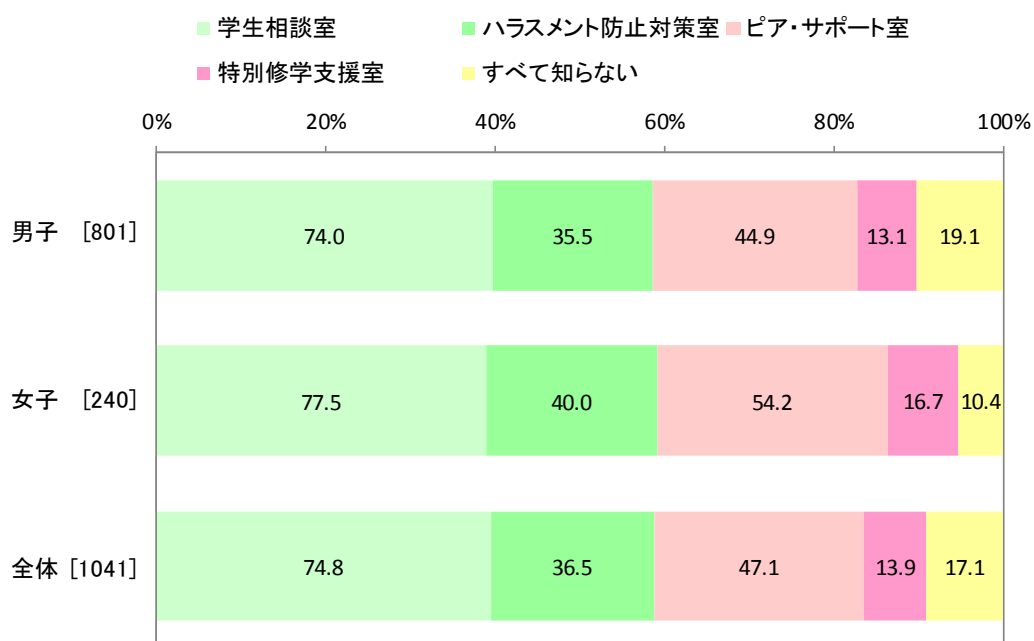
■ 他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験(男女別・複数回答可)



学生相談窓口の認知状況

- 学生相談窓口の認知率は、「学生相談室」(74.8%)が最も多く、次いで、「ピア・サポート室」(47.1%)、「ハラスメント防止対策室」(36.5%)、「特別修学支援室」(13.9%)と続く。それぞれの学生相談窓口によって認知度合いが異なっていることがわかる。
- 男女別では、男子学生よりも女子学生の方が様々な学生相談窓口の存在を認知している傾向がみられる。

■ 学生相談窓口の認知状況(男女別・複数回答可)

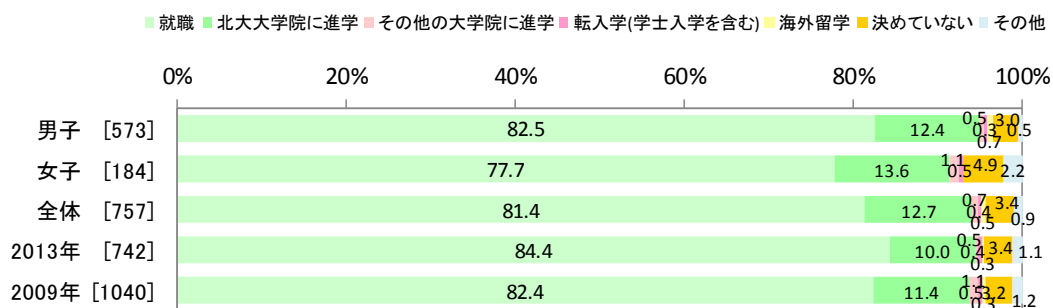


K 進路の希望

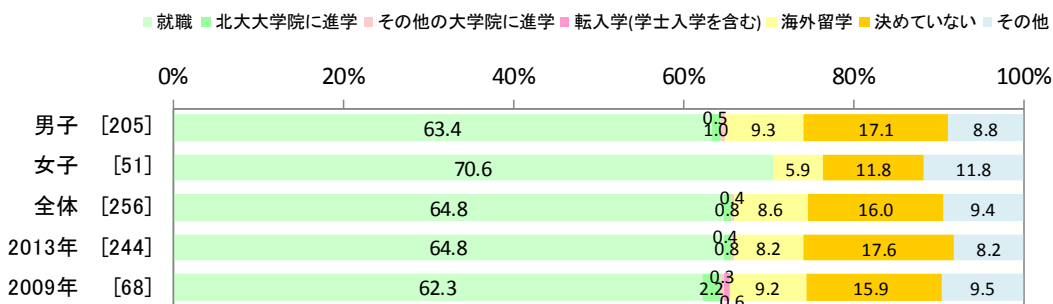
修了後の進路希望(全体)

- 修了後の進路希望は、修士課程で「就職」(81.4%)が最も多く、次いで、「北大大学院に進学」が12.7%と続く。
- 博士(後期)課程では、「就職」が64.8%で、1割程度が「海外留学」を希望している。また、16.0%は「決めていない」という回答だった。

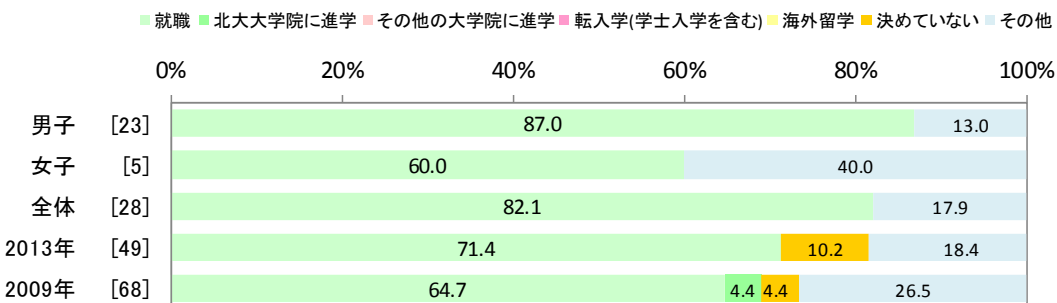
■ 修了後の進路希望(修士課程・男女別)



■ 修了後の進路希望(博士(後期)課程・男女別)



■ 修了後の進路希望(専門職学位課程・男女別)

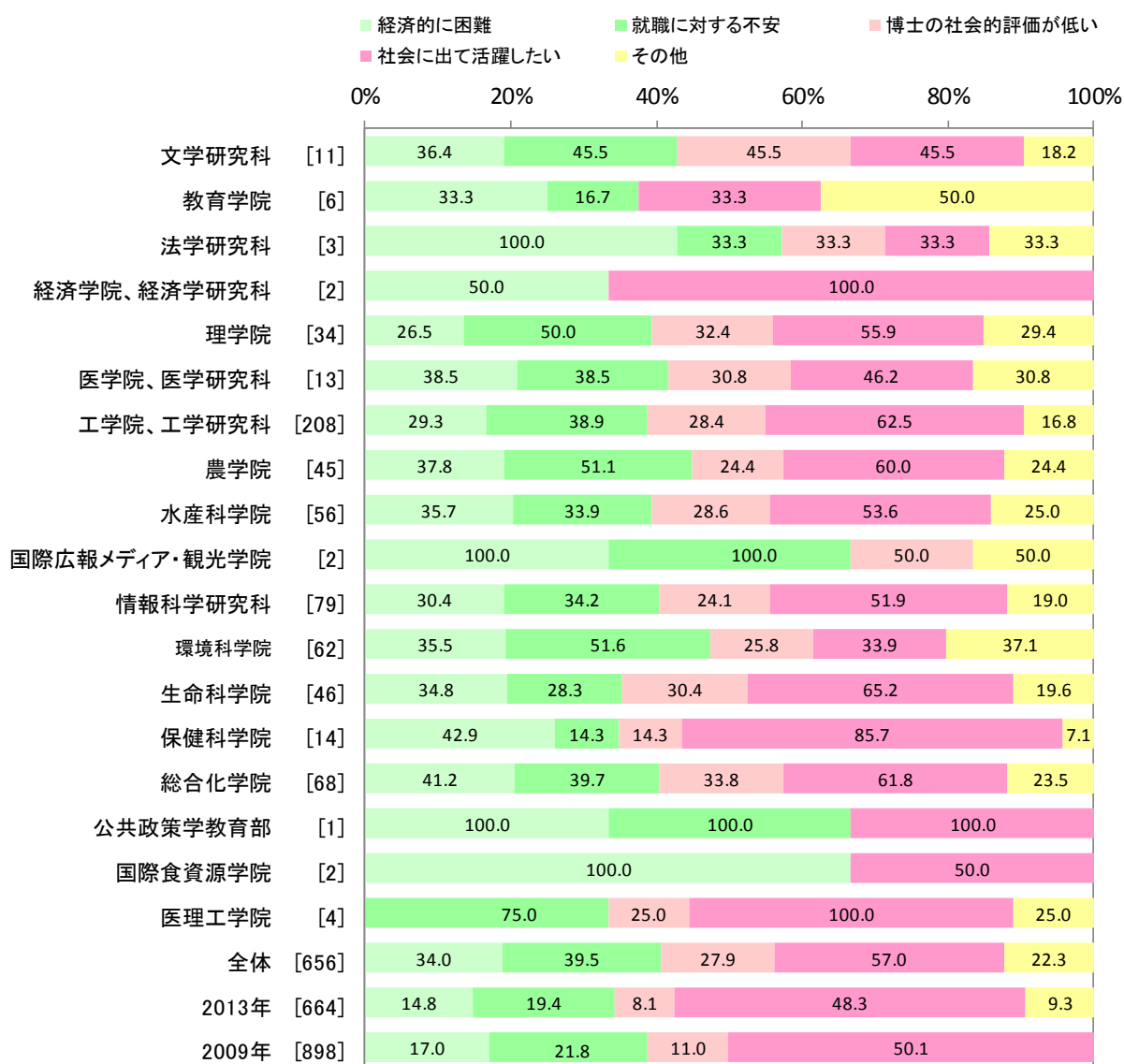


大学院(博士(後期)課程)に進学しない理由

- 大学院(博士(後期)課程)に進学しない理由は、「社会に出て活躍したい」(57.0%)が最も多く、次いで「就職に対する不安」(39.5%)、「経済的に困難」(34.0%)、「博士の社会的評価が低い」(27.9%)と続く。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 大学院(博士(後期)課程)に進学しない理由(修士課程・研究科等別)(複数回答可)

※博士(後期)課程非進学者ベース



注) 今回調査は複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

希望職種(修士課程)

- 研究科によって傾向は異なるが、修士課程の理系は、「企業の技術・研究職」を希望する比率が高い。一方、文系は研究科によって異なる傾向にある。
- 博士（後期）課程は、「大学・官公庁の教育・研究職」及び「企業の技術・研究職」を希望する比率が高い。医学院・医学研究科は「専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）」の比率が高い。
- 専門職学位課程は、「専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）」を希望する割合が高い。

希望職種(修士課程・研究科等別・3つまで)

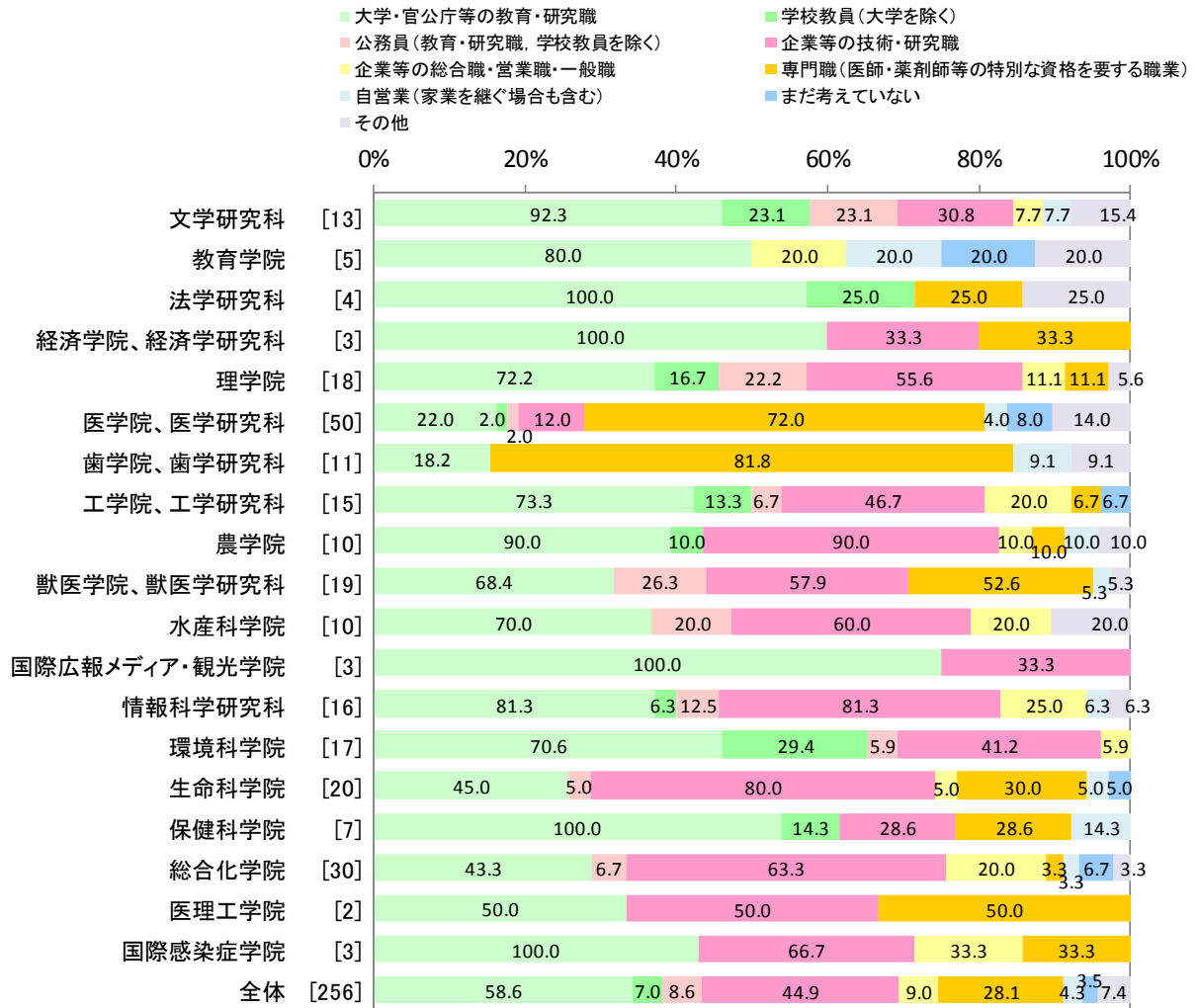
(※回答数が少ない研究科等は参考程度)



注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

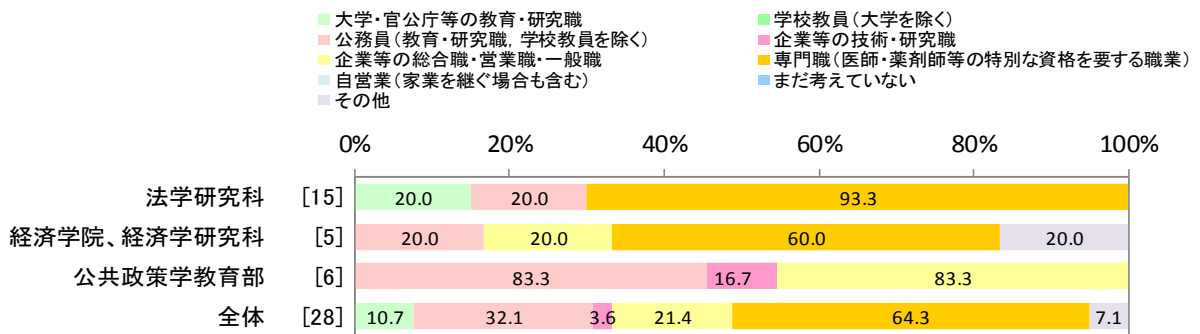
希望職種(博士(後期)課程/専門職学位課程)

希望職種(博士(後期)課程・研究科等別・3 つまで) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

希望職種(専門職学位課程・研究科等別・3 つまで)

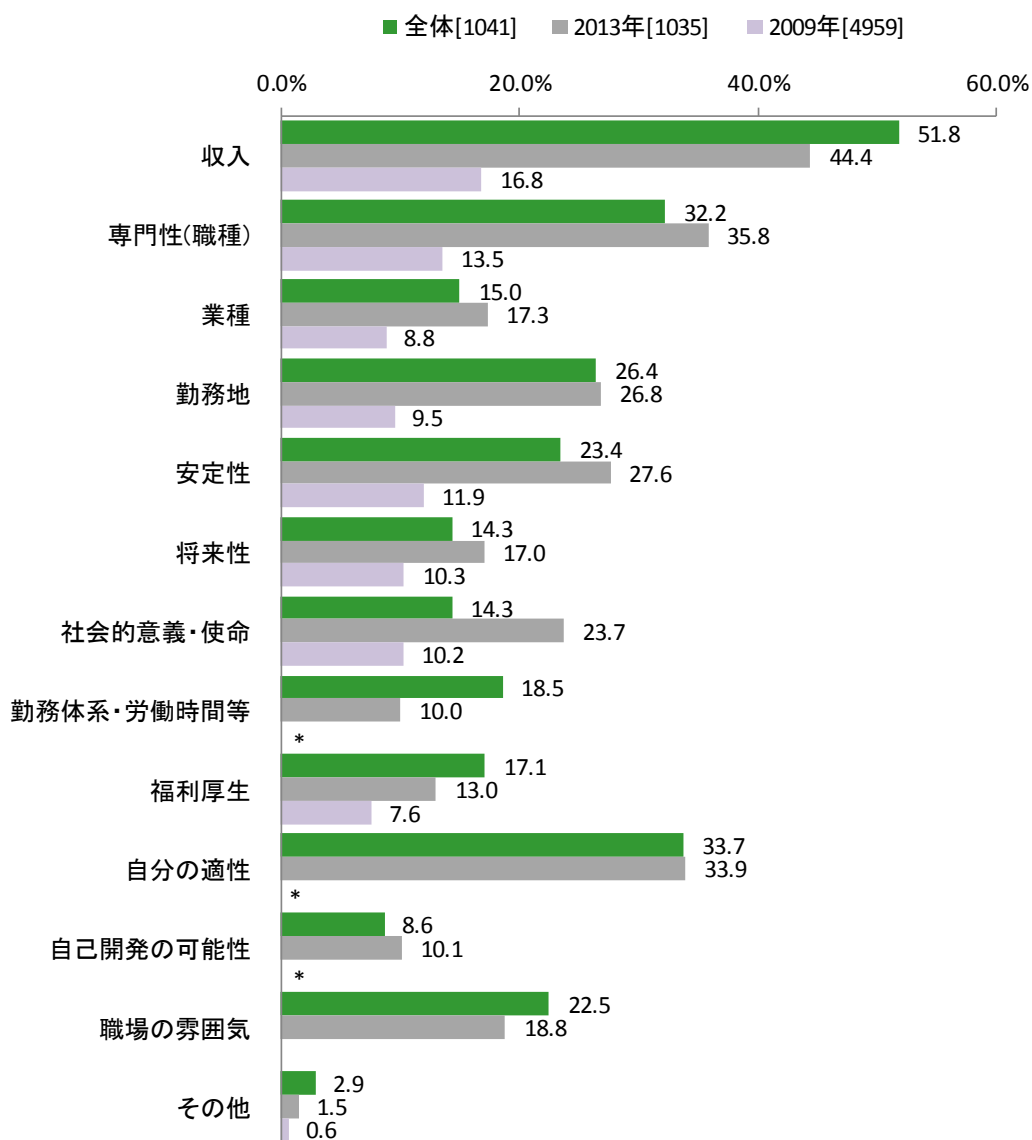


注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

就職で重要視すること(全体)

- 就職で重要視することは、「収入」(51.8%)が最も多く、次いで、「自分の適性」(33.7%)、「専門性(職種)」(32.2%)、「勤務地」(26.4%)、「安定性」(23.4%)が上位を占める。「収入」は過去調査よりも増加している。

■ 就職で重要視すること(全体:3つまで)



注1) 過去調査時(2009年)は、1-5位の累計を掲載。「*」印は前回調査(2013年)からの新選択肢。

注2) 過去調査時(2009年)のデータは、回答の合計を100%とする延べ数値である。

就職で重要視すること(修士課程)

- 「収入」「自分の適性」「勤務地」「専門性(職種)」を重要視する比率が高く、課程によって差はあるがその傾向はほぼ共通している。

■ 就職で重要視すること(修士課程・研究科等別・3つまで)

(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

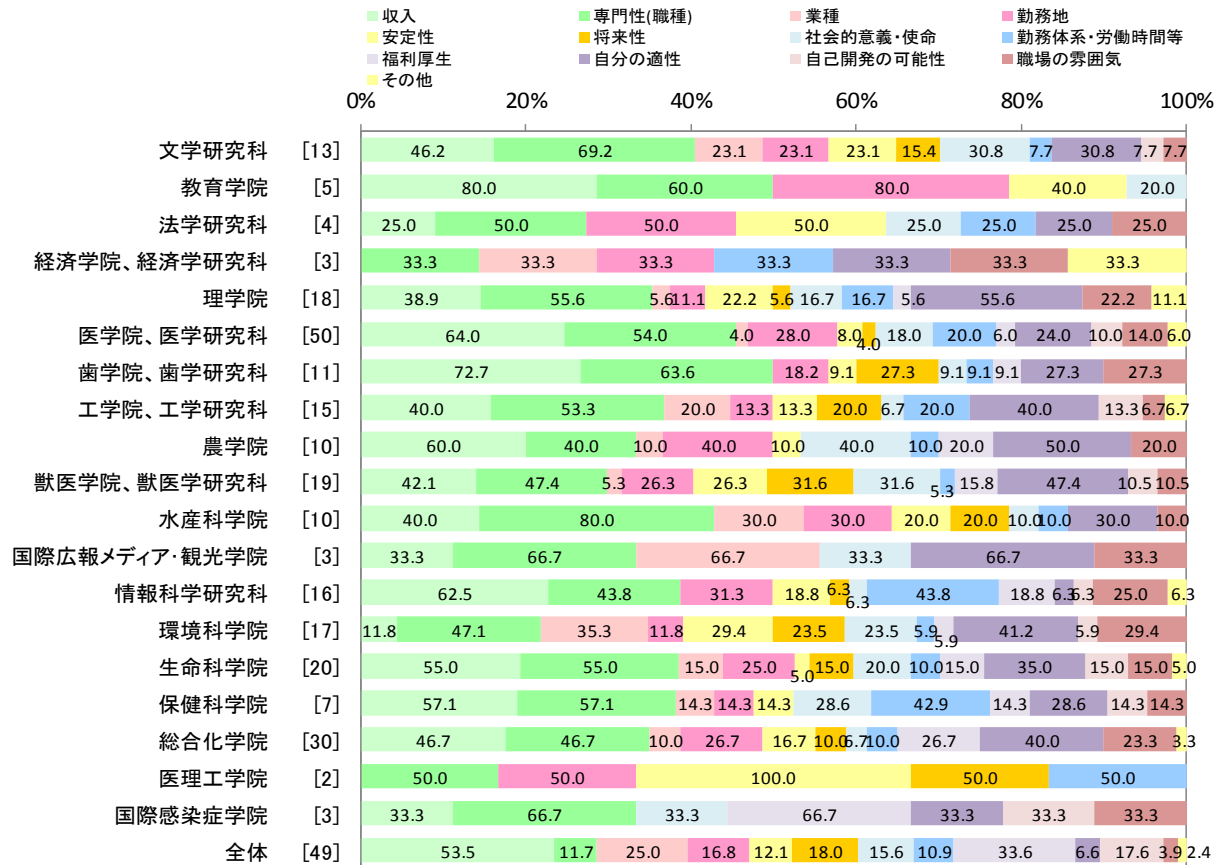


注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

就職で重要視すること(博士(後期)課程／専門職学位課程)

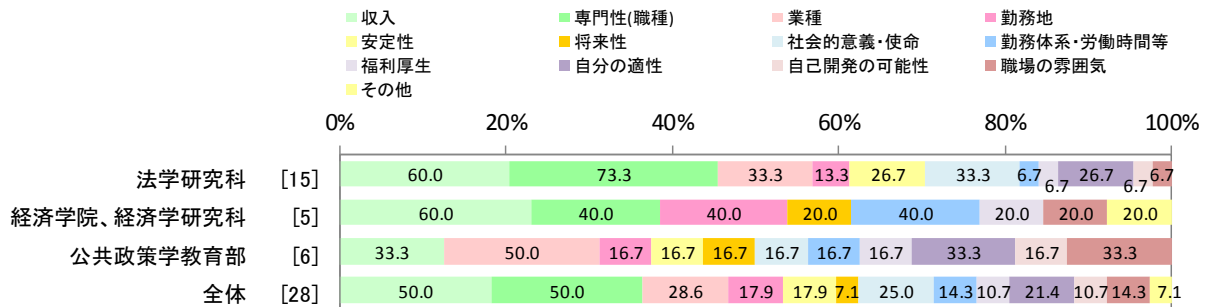
- 博士(後期)は「収入」「自分の適性」「業種」を重要視する比率が高い。課程によって差があり様々である。
(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 就職で重要視すること(博士(後期)課程・研究科等別・3 つまで)



注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

■ 就職で重要視すること(専門職学位課程・研究科等別・3 つまで)



就職希望地域

- 就職希望地域をみると、全体では「関東」(42.1%)、「札幌」(32.2%)が多い。それ以外では、「国内ならどこでもよい」(18.0%)、「国内国外を問わない」(16.0%)と続く。
- 出身地別にみると、地元志向が強いのは「札幌」(55.6%)、「関東」(61.3%)、「近畿」(51.4%)である。一方、地元志向が弱いのは「中国」(25.8%)、「四国」(23.1%)。「九州・沖縄」(12.1%)で、地元志向が強い出身地と比べると異なる傾向を示している。

■ 就職希望地域(出身地別・2つまで)

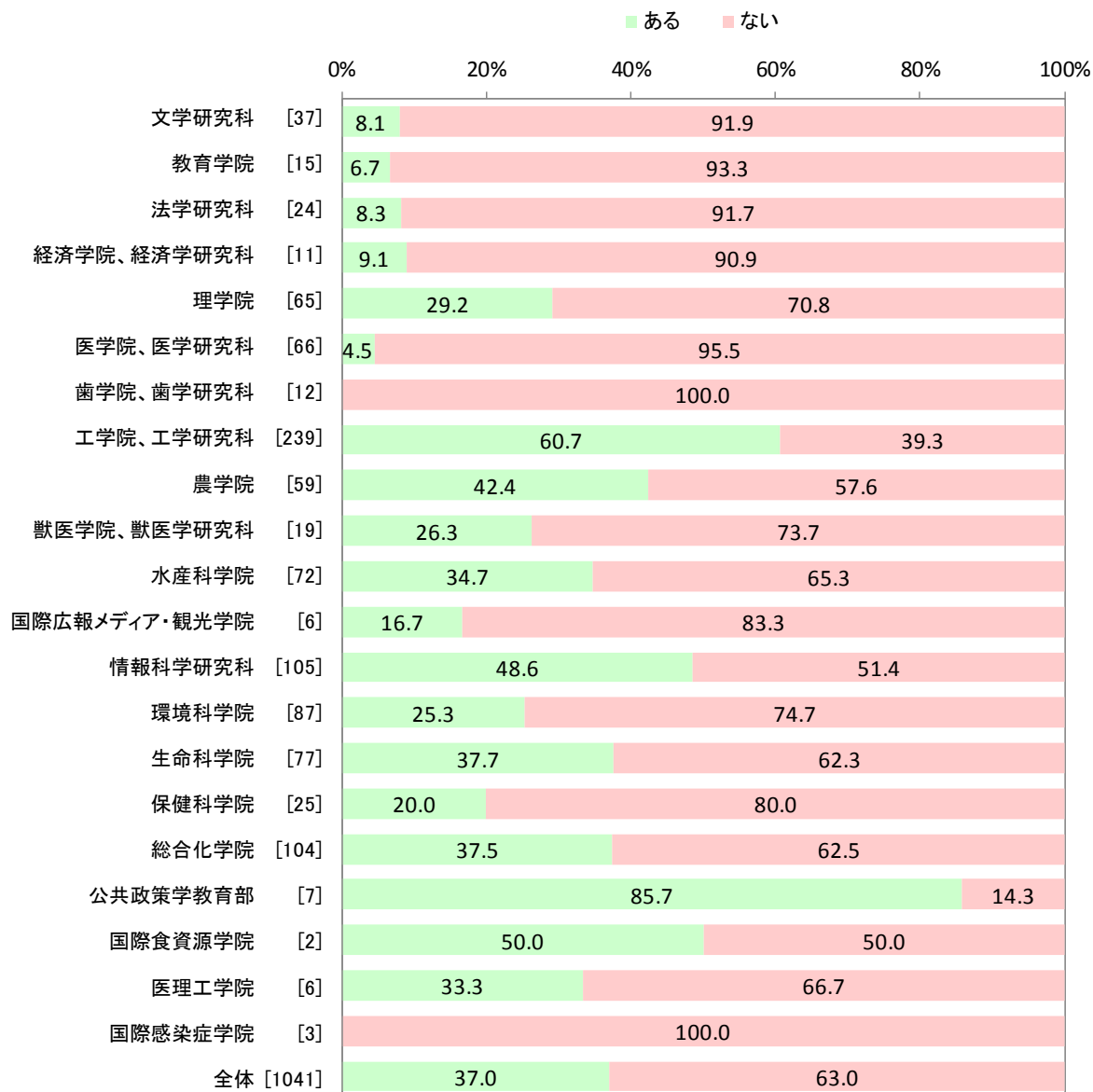


注) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。
過去調査時(2009年)のデータは、1-3位の累計であり、回答の合計を100%とする延べ数値である。

インターンシップへの参加経験

- 全体の37.0%がインターンシップへの参加経験が「ある」と回答している。
- 研究科等別では、工学院・工学研究科、情報科学研究科、農学院の参加経験の比率が高い。

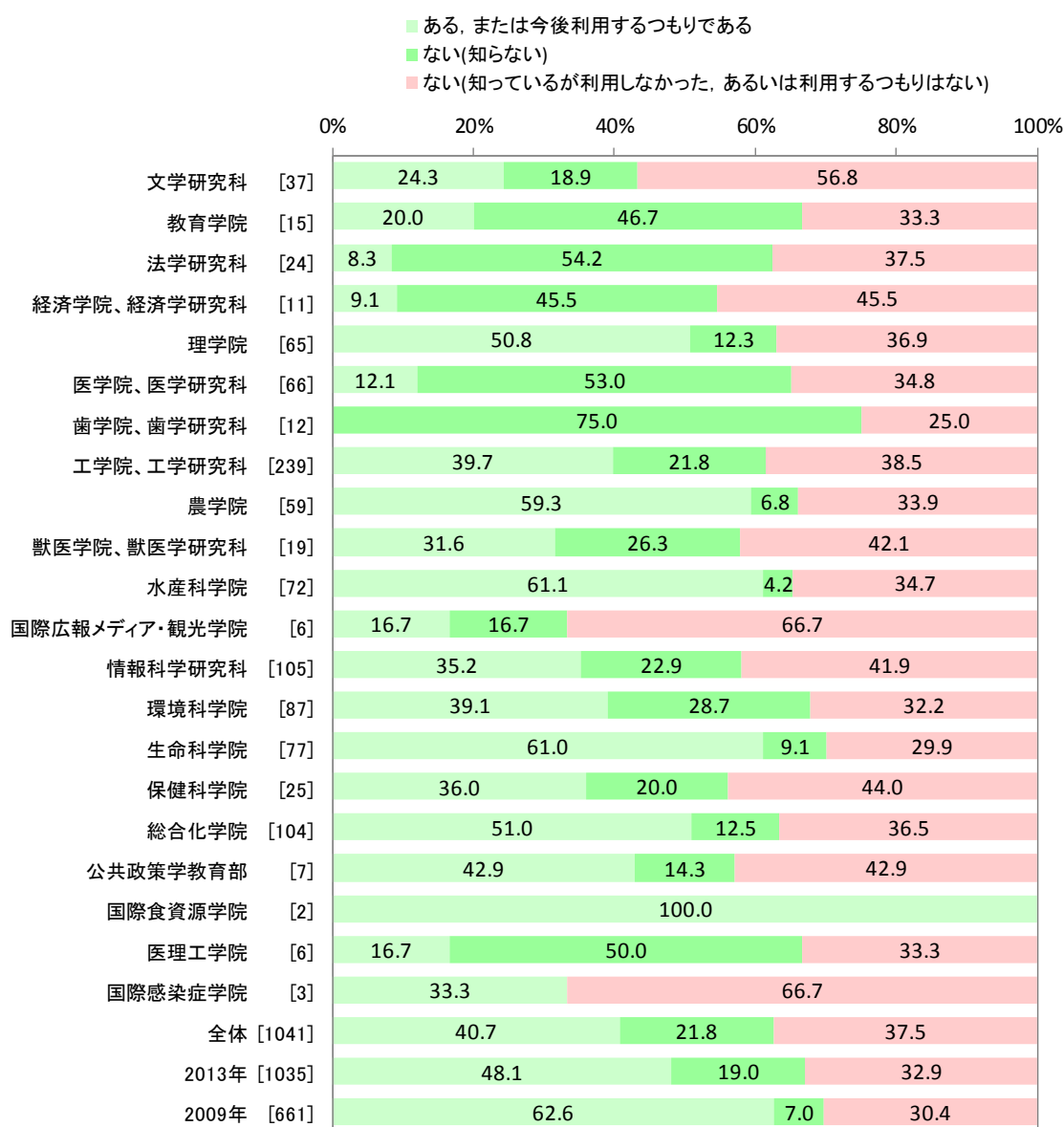
■ インターンシップへの参加経験(研究科等別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



キャリアセンターの利用状況

- キャリアセンター等の利用経験が「ある、または今後利用するつもりである」が全体の40.7%を占める。「ない(知っているが利用しなかった、あるいは利用するつもりはない)」(37.5%)を含めた認知率は78.2%である。2009年調査以来、認知・利用経験ともに減少しつつある。
- 研究科等別では、キャリアセンターの利用経験が「ある、または今後利用するつもりである」の比率が高いのは、水産科学院、生命科学院、農学院、総合化学院、理学院である。

■ キャリアセンターの利用状況(研究科等別) (※回答数が少ない研究科等は参考程度)



付録

**学生生活実態調査
調査項目**

調査対象学生への協力依頼文書

平成 29 年 11 月

学生の皆さんへ

北海道大学 学生委員会

平成 29 年度 学生生活実態調査のお願い

このたび、下記により学生生活実態調査を実施することとなりました。

この調査は、北海道大学学生の生活実態や本学に対する期待・要望などを把握し、学生の生活・修学・進路などの支援体制の充実を図るための基礎資料を得るとともに、入学前の学生への広報活動に活用することを目的として定期的に行っているものです。

本年度の実施にあたり、調査対象学生を無作為に抽出しましたところ、あなたに回答をお願いすることになりましたので、ご協力をよろしくお願いいたします。

回答にかかる時間は、15 分～20 分程度（自由記述欄を除く）です。

なお、質問の中に家族の収入や自分の 1 ヶ月の収支について概数をお聞きするものがありますので、関連資料をあらかじめ用意しておくことと回答しやすいかもしれません。

記

【調査基準日】平成 29 年 11 月 1 日（水）現在の状況を入力願います。

【調査期間】平成 29 年 11 月 1 日（水）～11 月 15 日（水）

【回答方法】

- 1) インターネットに接続されているパソコン、スマートフォンもしくは携帯電話で以下の調査サイトにアクセスする。

学部生用調査 URL: <https://r10.to/hvEP4X>

院生用調査 URL: <https://r10.to/hvNAw9> ※異なる URL をクリックしますと、エラーの表示がされます。

- 2) 学生番号を入力する。
- 3) 【推奨環境】を確認し、画面の指示に従って回答する。
- 4) 「質問は以上で終了です。アンケートを閉じてください。ご回答いただき、ありがとうございました。」の表示がされたら、調査終了です。閉じるボタンを押して、終了してください。
※回答を途中で中断する場合は、6 時間以内であれば再開することができます。
「アンケート開始画面」を閉じてしまうと、最初からの回答となりますので、ご注意ください。

【その他】

○個人情報について

- ・回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、皆さんの回答が他の人に知られることはありません。
- ・ログインには学生番号を使用しますが、個人情報と紐づけられることはありませんので、回答者が特定されることはありません。

○調査結果について

- ・調査結果は、受験生向け冊子「とっっても北大生」の作成に活用されるほか、学生生活実態調査報告書として平成 30 年度中に公表する予定です。
- ・皆さまからいただいた意見は、速やかに関係部署に届けます。すぐに対応できる事項とできない事項がありますが、長期的には大学の施策立案を検討する際に参考にしています。
- ・調査結果を利用した制度の見直しの事例として、奨学金・授業料免除制度の見直し（授業料の 4 分の 1 免除の新設、フロンティア奨学金制度の創設）、附属図書館のサービス向上（本館への空調設備の設置、休日の開館時間の延長）などがあります。

【問合せ先】 学務部学生支援課課外活動支援担当 TEL: 011-706-7469

調査票(学部学生用)

1. 基本事項について

- Q1 性別 (ひとつだけ)
1. 男
 2. 女
- Q2 入学年度 (※編入生は編入学年度) (ひとつだけ)
1. 平成29年度(2017年度)
 2. 平成28年度(2016年度)
 3. 平成27年度(2015年度)
 4. 平成26年度(2014年度)
 5. 平成25年度(2013年度)
 6. 平成24年度(2012年度)
 7. 平成23年度(2011年度)
 8. 平成22年度(2010年度)
 9. 平成21年度以前(2009年度以前)
- Q3 所属学部 (ひとつだけ)
1. 文学部
 2. 教育学部
 3. 法学部
 4. 経済学部
 5. 理学部
 6. 医学部
 7. 歯学部
 8. 薬学部
 9. 工学部
 10. 農学部
 11. 獣医学部
 12. 水産学部
 13. 総合教育部
- Q4 学年(※留年の場合:5年目3年生の場合は「3年」を選択) (ひとつだけ)
1. 1年
 2. 2年
 3. 3年
 4. 4年
 5. 5年 (医学部・歯学部・薬学部・獣医学部のみ)
 6. 6年 (医学部・歯学部・薬学部・獣医学部のみ)
- Q5 高校卒業後もしくは大学入学受験資格を得た後、北大に入学するまでの年数 (ひとつだけ)
1. 0年
 2. 1年
 3. 2年
 4. 3年
 5. 4年
 6. 5年以上

2. 家庭状況について

- Q6 実家の所在地はどこですか。
1. 札幌
 2. 北海道(札幌を除く)
 3. 東北
 4. 関東
 5. 信越・北陸
 6. 東海
 7. 近畿
 8. 中国
 9. 四国
 10. 九州・沖縄
 11. 海外
- Q7 あなたの生活や勉学の費用を主として負担している人(主たる家計支持者)の職業又は収入源は何ですか(複数ある場合は、収入の多い方を選んでください) (ひとつだけ)
1. 商・工・サービス業(自営)
 2. 農・林・水産業(自営)
 3. 専門的職業(医師・薬剤師・弁護士・芸術家など)
 4. 教員(小・中・高, 大学, 各種学校, 予備校, 塾, 幼稚園を含む)
 5. 公務員(教員を除く)
 6. 団体・法人職員(教員を除く)
 7. 会社員(自営以外, 管理職を含む)
 8. 会社役員
 9. 不動産・利子・配当・年金などの収入
 10. パート・内職などの臨時職
 11. その他
- Q8 平成28年1月～12月の家庭の同一生計の家族の年間総収入(税込/同居・別居を問わず生計を一にする者全員の収入)はどのくらいですか (ひとつだけ)
1. 300万円未満
 2. 300～500万円未満
 3. 500～700万円未満
 4. 700～1000万円未満
 5. 1000～1500万円未満
 6. 1500万円以上

3. ライフスタイルについて

Q9 住居の種別は次のどれですか。(ひとつだけ)

- | | |
|------------------|-----------|
| 1. 自宅 | 5. その他の寮 |
| 2. アパート・マンション | 6. 親戚・知人宅 |
| 3. 下宿(食事付き)・学生会館 | 7. シェアハウス |
| 4. 北大学生寮 | 8. その他 |

Q10 あなたが占有している部屋の広さは何平方メートルですか。

(共同で利用している場合は一人あたりとして計算してください)(ひとつだけ)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 5平方メートル(3畳)以下 | 4. 13平方メートル(8畳)以下 |
| 2. 8平方メートル(4.5畳)以下 | 5. 16平方メートル(10畳)以下 |
| 3. 10平方メートル(6畳)以下 | 6. 16平方メートル(10畳)超 |

Q11 【学生寮に入っていない人】 学生寮に入りたいですか。(ひとつだけ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q12 【学生寮に入りたい人(Q11で「はい」と答えた人)】

学生寮に入りたい理由は何ですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 経済的理由 | 5. 寮の雰囲気にあこがれる |
| 2. 今の住居が通学に不便 | 6. 寮に友人がいる |
| 3. 友人がほしい | 7. その他 |
| 4. 勉学に専念できる | |

Q13 【学生寮に入りたい人(Q11で「いいえ」と答えた人)】

学生寮に入りたい理由は何ですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 部屋が狭い | 4. 勉学に専念できない |
| 2. 食事がいい | 5. 住居を移すのが面倒 |
| 3. 集団生活がわずらわしい | 6. その他 |

Q14-a~b 以下のそれぞれ時期の主な通学手段は何ですか。

(乗継の場合は、最も距離の長い区間の手段を選んでください)(ひとつだけ)

a. 普段(春~秋)について

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 徒歩 | 4. オートバイ・スクーター |
| 2. 自転車 | 5. 自動車 |
| 3. 公共交通機関(地下鉄・バス・市電・JR) | 6. その他 |

b. 冬季について

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 徒歩 | 4. オートバイ・スクーター |
| 2. 自転車 | 5. 自動車 |
| 3. 公共交通機関(地下鉄・バス・市電・JR) | 6. その他 |

Q15a~b 通学時間はどのくらいですか。(ひとつだけ)

a. 普段(春~秋)の片道について

- | | | |
|-------------|--------------|-----------------|
| 1. 10分未満 | 3. 20~30分未満 | 5. 1時間~1時間30分未満 |
| 2. 10~20分未満 | 4. 30分~1時間未満 | 6. 1時間30分以上 |

b. 冬季の片道について

- | | | |
|-------------|--------------|-----------------|
| 1. 10分未満 | 3. 20~30分未満 | 5. 1時間~1時間30分未満 |
| 2. 10~20分未満 | 4. 30分~1時間未満 | 6. 1時間30分以上 |

Q16a~c 食事は主にどうしていますか。(ひとつだけ)

a. 朝食について

- | | |
|----------------|-----------------------------------|
| 1. 自宅(自宅通学者のみ) | 6. 弁当持参 |
| 2. 自炊 | 7. 売店(コンビニ, ファーストフード, 弁当屋等を含む)で購入 |
| 3. 学内の食堂 | 8. 食べない |
| 4. 学外の食堂 | 9. その他 |
| 5. 下宿(食事付き) | |

b. 昼食について

- | | |
|----------------|-----------------------------------|
| 1. 自宅(自宅通学者のみ) | 6. 弁当持参 |
| 2. 自炊 | 7. 売店(コンビニ, ファーストフード, 弁当屋等を含む)で購入 |
| 3. 学内の食堂 | 8. 食べない |
| 4. 学外の食堂 | 9. その他 |
| 5. 下宿(食事付き) | |

c. 夕食について

- | | |
|----------------|-----------------------------------|
| 1. 自宅(自宅通学者のみ) | 6. 弁当持参 |
| 2. 自炊 | 7. 売店(コンビニ, ファーストフード, 弁当屋等を含む)で購入 |
| 3. 学内の食堂 | 8. 食べない |
| 4. 学外の食堂 | 9. その他 |
| 5. 下宿(食事付き) | |

Q17 学内の食堂を1週間にどの程度利用していますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. ほぼ毎日 | 3. 週1~2回 | 5. 利用しない |
| 2. 週3~4回 | 4. ときどき | |

4. 経済状況について

Q18 あなたの1ヶ月の平均収入はどのくらいですか(仕送り・アルバイト・奨学金等すべての収入の合計。ただし、授業料等の学校納付金を除く)。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 5万円未満 | 3. 7~9万円未満 | 5. 11~13万円未満 |
| 2. 5~7万円未満 | 4. 9~11万円未満 | 6. 13~15万円未満 |
| | | 7. 15万円以上 |

Q19 あなたの1ヶ月あたりの家庭からの援助(授業料等の学校納付金は除く)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q20 あなたの1ヶ月あたりの奨学金(複数の団体から受給している場合は、その合計)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q21 あなたの1ヶ月あたりのアルバイト収入はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q22 あなたの1ヶ月あたりの預貯金切り崩しはどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q23 あなたの1ヵ月あたりのその他の収入（家族以外の援助、配当金など）はどのくらいですか。（ひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q24 あなたの1ヶ月の平均支出はどのくらいですか。
（家賃・光熱水料等も含める。ただし、授業料等の学校納付金を除く）。（ひとつだけ）

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 5万円未満 | 3. 7～9万円未満 | 5. 11～13万円未満 |
| 2. 5～7万円未満 | 4. 9～11万円未満 | 6. 13～15万円未満 |
| | | 7. 15万円以上 |

Q25 あなたの1ヵ月当たりの住居費・光熱水費（電気料、水道料、暖房費、家賃等、毎月支払うもの）はどのくらいですか。（ひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q26 あなたの1ヵ月当たりの食費（材料費、外食費等）はどのくらいですか。（ひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q27 あなたの1ヵ月当たりの修学費（教科書、参考書、実習費、文房具代等。
ただし、授業料等の学校納付金を除く）はどのくらいですか。（ひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q28 あなたの1ヵ月当たりの教養・娯楽費（課外活動費、旅行費、交際費、スポーツ・各種娯楽費用等）はどのくらいですか。（ひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q29 あなたの1ヵ月当たりの衣料費はどのくらいですか。（ひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q30 あなたの1ヵ月当たりの交通費（通学・アルバイトに要する交通費、ガソリン代等）はどのくらいですか。（ひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q31 あなたの1ヵ月当たりの通信費（携帯電話、インターネット等）はどのくらいですか。（ひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q32 あなたの1ヵ月当たりのその他の支出（理・美容代，化粧品代，医療費，国民年金保険料，貯金等）はどのくらいですか。（ひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q33 現在の自分の経済状態をどのように感じていますか。（ひとつだけ）

- | | | |
|------------|-------|-----------|
| 1. 十分余裕がある | 3. 普通 | 4. やや苦しい |
| 2. やや余裕がある | | 5. 非常に苦しい |

5. アルバイトについて

Q34 現在，どの程度アルバイトをしていますか。（ひとつだけ）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. ほとんど毎日定期的に | 4. 長期休業期間中のみ重点的に |
| 2. 週何日か定期的に | 5. 必要に応じてときどき |
| 3. 日曜日などの休日に限って | 6. 全くしていない |

Q35 【アルバイトをしている人】 どんなアルバイトをしていますか。主なものを2つまで選んでください。（2つまで）

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. 家庭教師 | 5. コンビニ・スーパー等小売店店員 |
| 2. 学習塾講師 | 6. 飲食店店員 |
| 3. 一般事務 | 7. 肉体労働 |
| 4. 調査・研究補助 | 8. その他 |

Q36 【アルバイトをしている人】 1週間平均何時間くらいアルバイトをしていますか。（ひとつだけ）

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 5時間未満 | 5. 20～25時間未満 |
| 2. 5～10時間未満 | 6. 25～30時間未満 |
| 3. 10～15時間未満 | 7. 30時間以上 |
| 4. 15～20時間未満 | |

Q37 【アルバイトをしている人】 アルバイトをする主な理由は何ですか。（ひとつだけ）

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 家庭の経済的負担を軽減するため | 4. 家族からできるだけ自立したいため |
| 2. 学業を継続するため | 5. 社会経験のため |
| 3. 小遣い・臨時の支出のため | 6. その他 |

Q38 【アルバイトをしている人】 アルバイトの収入は何に使いましたか。

主なものを2つまで選んでください。（2つまで）

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 衣料・雑貨等 | 7. 課外活動費 |
| 2. 食費 | 8. 耐久消費財（家具・家電等）購入費 |
| 3. 住居費（家賃・光熱水料を含む） | 9. 旅行費 |
| 4. 授業料 | 10. 技術・資格等取得の費用 |
| 5. 修学費 | 11. 預貯金 |
| 6. 娯楽・レジャー費 | 12. その他 |

Q39 【現在アルバイトをしていない人(Q23で「全くしていない」と答えた人)】

アルバイトをしていない主な理由は何ですか。（ひとつだけ）

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 必要がない（経済的に余裕がある） | 3. やりたいが，時間的余裕がない |
| 2. やりたいが，見つからない | 4. その他 |

6. 奨学金・授業料免除等について

Q40 授業料免除(平成29年度前期分)を申請しましたか。(ひとつだけ)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 申請し、前期分全額免除された | 4. 申請したが、不許可だった |
| 2. 申請し、前期分半額免除された | 5. 申請しなかった |
| 3. 申請し、前期分4分の1免除された | |

Q41 現在、奨学金を受けていますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|----------|-------------------|------------|
| 1. 受けている | 2. 応募したが、受けられなかった | 3. 応募しなかった |
|----------|-------------------|------------|

Q42 【奨学金を受けている人(Q41で「受けている」と答えた人)】

現在受けている奨学金の種類を選んでください(複数受けている場合は、すべて選んでください)。(いくつでも)

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 日本学生支援機構(1種) | 4. 民間団体 |
| 2. 日本学生支援機構(2種) | 5. その他 |
| 3. 地方公共団体 | |

7. 課外活動・ボランティア活動について

Q43 現在、サークル等に入っていますか。主なものを1つだけ選んでください。(ひとつだけ)

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 北大公認の文化系団体に加入している | 5. 学外の団体に加入している |
| 2. 北大公認の運動系団体に加入している | 6. 以前加入していたが、現在は加入していない |
| 3. 北大非公認の文化系団体に加入している | 7. 学内外のいずれの団体にも加入したことがない |
| 4. 北大非公認の運動系団体に加入している | |

Q44 【サークル等に入っている人】 1週間平均何時間くらい活動していますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| 1. 2時間未満 | 3. 5～10時間未満 | 5. 15～20時間未満 |
| 2. 2～5時間未満 | 4. 10～15時間未満 | 6. 20時間以上 |

Q45 入学後にボランティア活動をしたことがありますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|---------|------------|
| 1. したことがある | 2. している | 3. したことがない |
|------------|---------|------------|

Q46 【Q45において「したことがある」「している」と答えた人】 その内容はどのようなものですか。

主なものを3つまで選んでください。(3つまで)

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1. 公共施設での活動 | 7. 社会福祉に関する活動 |
| 2. 青少年健全育成に関する活動 | 8. 保健・医療・衛生に関する活動 |
| 3. 体育・スポーツ・文化に関する活動 | 9. 交通安全に関する活動 |
| 4. 学習活動に関する指導、助言、運営協力などの活動 | 10. 自主防災活動や災害救援活動 |
| 5. 自然・環境保護に関する活動 | 11. 募金活動、チャリティーバザー |
| 6. 国際交流・協力に関する活動 | 12. その他 |

Q47 本学にボランティア活動相談室があるのを知っていますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-----------|------------------|---------|
| 1. 利用している | 2. 知っているが利用していない | 3. 知らない |
|-----------|------------------|---------|

8. 学生生活について

Q48a~h 以下の項目にそれぞれの程度満足していますか。(ひとつだけ)

a. 授業について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

b. 教育研究用施設・設備について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

c. その他の施設・設備について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

d. 北大ならびに札幌の生活環境について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

e. 食堂・売店等のサービスについて

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

f. 図書館（電子ジャーナル等のサービスを含む）について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

g. 教員との関係について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

h. 窓口の対応について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

Q49 自習時間は1日平均どのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|------------|----------|
| 1. 1時間未満 | 3. 2~3時間未満 | 5. 4時間以上 |
| 2. 1~2時間未満 | 4. 3~4時間未満 | |

Q50 自習を行っている場所はどこですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

- | | | |
|-----------|-----------|--------|
| 1. 本学の図書館 | 4. 本学の自習室 | 7. その他 |
| 2. 本学の教室 | 5. 生協食堂 | |
| 3. 本学の研究室 | 6. 自宅 | |

Q51 【1・2年生のみ】ラーニングサポート室を知っていますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-----------|------------------|---------|
| 1. 利用している | 2. 知っているが利用していない | 3. 知らない |
|-----------|------------------|---------|

Q52 入学時と比べて学習意欲はどうですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1. 高まっている | 2. 変わらない | 3. 減退している |
|-----------|----------|-----------|

Q53 授業の出席率はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 90%以上 | 3. 50~70%未満 | 5. 10~30%未満 |
| 2. 70~90%未満 | 4. 30~50%未満 | 6. ほとんど欠席 |

Q54 大学で過ごす時間は1日平均何時間ですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 1. 2時間未満 | 3. 4~6時間未満 | 5. 8~10時間未満 |
| 2. 2~4時間未満 | 4. 6~8時間未満 | 6. 10時間以上 |

Q55 仲の良い友人はいますか。(ひとつだけ)
1. いる 2. いない

Q56 【Q55で「いる」と答えた人】
それはどのような友人ですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)
1. 同じ学部・学科・研究科等の友人 5. アルバイトの仲間
2. 中学校・高等学校時代の友人 6. 遊び仲間
3. 下宿・学生寮や近所の友人 7. その他
4. サークル等の仲間

Q57 教員と親しく話したり、相談したりすることがありますか。(ひとつだけ)
1. ある 2. ない

Q58 【Q57で「ある」と答えた人】その内容はどのようなものですか。主なものを1つだけ選んでください。
(ひとつだけ)
1. 学業・成績 3. 人間関係
2. 就職・進路 4. その他

Q59 【Q57で「ない」と答えた人】その主な理由はどのようなものですか。
主なものを1つだけ選んでください。(ひとつだけ)
1. 相談や話をしたいがその機会がない 4. 必要がない
2. なんとなく話しにくい 5. その他
3. 話しても仕方がない

9. 健康について

Q60 最近、身体の調子はどうですか(風邪、けが、虫歯などの一過性のものは除く)。(ひとつだけ)
1. 健康で調子は良い 3. 少し調子が悪い
2. まあまあ調子は良い 4. 調子が悪い

Q61 【Q60で「少し調子が悪い」「調子が悪い」と答えた人】
継続的に治療を受けるため、病院に通院をしていますか。(ひとつだけ)
1. はい 2. いいえ

Q62 現在、悩みや不安がありますか。(ひとつだけ)
1. とてもある 3. あまりない
2. 少しある 4. 特にない

Q63 【悩みや不安がある人(Q62で「とてもある」「少しある」と答えた人)】
悩みや不安の原因と思うものは何ですか。主なものを3つまで選んでください。(3つまで)
1. 健康上の問題 5. 人生・生き方 9. 性格・適性
2. 学業・成績 6. 恋愛 10. 経済的問題
3. 進路・就職 7. 人間関係 11. その他
4. 課外活動 8. 家族・家庭

Q64 【悩みや不安がある人(Q62で「とてもある」「少しある」と答えた人)】
悩みや不安についての相談相手は誰ですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)
1. 家族 7. ピア・サポート室
2. 北大の友人・先輩 8. 保健センター
3. その他の友人・知人 9. 一般の医療機関
4. 学部の学生相談員 10. 相談できる相手はいない
5. 北大の教員(学生相談員以外) 11. 相談相手は不要(自分で解決)
6. 学生相談室 12. その他

Q65 保健センターで健康相談やカウンセリングを受けられることを知っていますか。(ひとつだけ)
1. はい 2. いいえ

10. ハラスメント, カルト宗教等について

Q66 入学後, 学内外で被害にあったことがあるものについて, 該当するものをすべて選んでください。(いくつでも)

1. セクシュアル・ハラスメント
2. アカデミック・ハラスメント
(教員やティーチングアシスタントから, その立場を利用した学業上の嫌がらせや不利益を受けること)
3. カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘
4. 違法・脱法薬物の勧誘
5. ストーカー被害
6. 飲酒の強要
7. その他
8. 該当なし

Q67 入学後, 学内外で他の人が被害にあったのを見たり聞いたりしたことがあるものについて, 該当するものをすべて選んでください。(いくつでも)

1. セクシュアル・ハラスメント
2. アカデミック・ハラスメント
(教員やティーチングアシスタントから, その立場を利用した学業上の嫌がらせや不利益を受けること)
3. カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘
4. 違法・脱法薬物の勧誘
5. ストーカー被害
6. 飲酒の強要
7. その他
8. 該当なし

Q68 以下の学生相談窓口のうち, 知っているものをすべて選んでください。(いくつでも)

1. 学生相談室
2. ハラスメント防止対策室
3. ピア・サポート室
4. 特別修学支援室
5. すべて知らない

11. 進路について

Q69 学部卒業後, どのような進路を希望していますか。(ひとつだけ)

1. 就職
2. 北大大学院に進学
3. その他の大学院に進学
4. 転入学(学士入学を含む)
5. 海外留学
6. 決めていない
7. その他

Q70 将来, どのような職業に就きたいですか。主なものを3つまで選んでください。(3つまで)

1. 大学・官公庁等の教育・研究職
2. 学校教員(大学を除く)
3. 公務員(教育・研究職, 学校教員を除く)
4. 企業等の技術・研究職
5. 企業等の総合職・営業職・一般職
6. 専門職(医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業)
7. 自営業(家業を継ぐ場合も含む)
8. まだ考えていない
9. その他

Q71 学部卒業後あるいは大学院修了後の就職に際して, 重要視するものは何ですか。

主なものを3つまで選んでください。(3つまで)

1. 収入
2. 専門性(職種)
3. 業種
4. 勤務地
5. 安定性
6. 将来性
7. 社会的意義・使命
8. 勤務体系・労働時間等
9. 福利厚生
10. 自分の適性
11. 自己開発の可能性
12. 職場の雰囲気
13. その他

Q72 学部卒業後あるいは大学院修了後の就職希望地域は次のうちどこですか。

主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

1. 札幌
2. 北海道内(札幌を除く)
3. 東北
4. 関東
5. 信越・北陸
6. 東海
7. 近畿
8. 中国
9. 四国
10. 九州・沖縄
11. 国内ならどこでもよい
12. 海外
13. 国内国外を問わず, どこでもよい

Q73 インターンシップに参加したことがありますか。(ひとつだけ)

1. ある
2. ない

Q74 【3・4年生のみ】キャリアセンターを利用したことがありますか。(ひとつだけ)

1. ある, または今後利用するつもりである
2. ない(知らない)
3. ない(知っているが利用しなかった, あるいは利用するつもりはない)

12. 自由記述

北海道大学に対する今後の期待・要望等がありましたら具体的に記入してください。

Q75 教育・授業に関すること

Q76 施設・設備に関すること

Q77 学生支援(経済支援・課外活動支援・就職支援等)に関すること

Q78 食堂・売店等のサービスに関すること

Q79 その他

Q80 最後に, 学生生活実態調査に対する意見・要望がありましたら具体的に記入してください

調査票(大学院学生用)

1. 基本事項について

Q1 性別 (ひとつだけ)

1. 男 2. 女

Q2 年齢(平成29年11月1日時点) (ひとつだけ)

1. 21-24歳 3. 30-39歳 5. 50-59歳
2. 25-29歳 4. 40-49歳 6. 60歳以上

Q3 現在在籍している課程の入学年度

(※編入生は編入入学年度, 博士後期課程の学生は博士後期課程の入学年度) (ひとつだけ)

1. 平成29年度(2017年度) 4. 平成26年度(2014年度) 7. 平成23年度(2011年度)
2. 平成28年度(2016年度) 5. 平成25年度(2013年度) 8. 平成22年度(2010年度)
3. 平成27年度(2015年度) 6. 平成24年度(2012年度) 9. 平成21年度以前(2009年度以前)

Q4 所属研究科, 学院又は教育部 (ひとつだけ)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 文学研究科 | 12. 国際広報メディア・観光学院 |
| 2. 教育学院 | 13. 情報科学研究科 |
| 3. 法学研究科 | 14. 環境科学院 |
| 4. 経済学院、経済学研究科 | 15. 生命科学院 |
| 5. 理学院 | 16. 保健科学院 |
| 6. 医学院、医学研究科 | 17. 総合化学院 |
| 7. 歯学院、歯学研究科 | 18. 公共政策学教育部 |
| 8. 工学院、工学研究科 | 19. 国際食資源学院 |
| 9. 農学院 | 20. 医理工学院 |
| 10. 獣医学院、獣医学研究科 | 21. 国際感染症学院 |
| 11. 水産科学院 | |

Q5 学年 (※留年の場合: DC5年目の場合は「DC3」を選択) (ひとつだけ)

1. MC1年次 7. 専門職学位課程1年次
2. MC2年次 8. 専門職学位課程2年次
3. DC1年次 9. 専門職学位課程3年次
4. DC2年次
5. DC3年次
6. DC4年次 (医学研究科・歯学研究科・獣医学研究科・生命科学院 (臨床薬学専攻) のみ)

2. 志望動機について

Q6 大学院入学の目的は何ですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

1. 高度の専門知識・技術を身につけるため 5. 学位を取得するため
2. 大学等の研究・教育職をめざして 6. 社会に貢献できる能力・資質を身につけるため
3. 企業の研究職をめざして 7. 特に目的はない
4. 学部卒業, 修士修了時点で就職機会がなかった 8. その他

Q7 北大大学院を選んだ理由は何ですか。主なものを3つまで選んでください。(3つまで)

1. 北大の特色・学風 6. 研究環境が整っている
2. 北海道・札幌の気候・風土 7. 経済的理由
3. 希望の専攻分野がある 8. 地元である
4. 将来の進路を考えて 9. 指導教員の転出
5. 親・教員・先輩の勧め 10. その他

Q8 北大大学院は進学先として第何志望でしたか。(ひとつだけ)

1. 第1志望 3. 第3志望以下
2. 第2志望 4. いずれでもない

Q9 現在の大学院入学前の出身大学等についてお答えください。(ひとつだけ)

1. 本学の学部学生 5. 他大学の大学院学生
2. 他大学の学部学生 6. 社会人
3. 本学の同じ研究科の大学院学生 7. その他
4. 本学の他研究科の大学院学生

3. 家庭状況について

Q10 実家の所在地はどこですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|---------------|----------|-----------|
| 1. 札幌 | 5. 信越・北陸 | 9. 四国 |
| 2. 北海道(札幌を除く) | 6. 東海 | 10. 九州・沖縄 |
| 3. 東北 | 7. 近畿 | 11. 海外 |
| 4. 関東 | 8. 中国 | |

Q11 主な家計支持者は誰ですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------|--------|----------|
| 1. 父 | 3. 本人 | 5. 兄弟・姉妹 |
| 2. 母 | 4. 配偶者 | 6. 祖父母 |
| | | 7. その他 |

Q12 あなたの生活や勉学の費用を主として負担している人(主たる家計支持者)の職業又は収入源は何ですか。(複数ある場合は、収入の多い方を選んでください)。(ひとつだけ)

1. 商・工・サービス業(自営)
2. 農・林・水産業(自営)
3. 専門的職業(医師・薬剤師・弁護士・芸術家など)
4. 教員(小・中・高, 大学, 各種学校, 予備校, 塾, 幼稚園を含む)
5. 公務員(教員を除く)
6. 団体・法人職員(教員を除く)
7. 会社員(自営以外, 管理職を含む)
8. 会社役員
9. 不動産・利子・配当・年金などの収入
10. パート・内職などの臨時職
11. 奨学金
12. 日本学術振興会特別研究員給与
13. その他

Q13 平成28年1月～12月の同一生計の家族の年間総収入

(税込/同居・別居問わず生計を一にする者全員の収入)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|----------------|-----------------|------------------|
| 1. 300万円未満 | 3. 500～700万円未満 | 5. 1000～1500万円未満 |
| 2. 300～500万円未満 | 4. 700～1000万円未満 | 6. 1500万円以上 |

4. ライフスタイルについて

Q14 住居の種別は次のどれですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------------|-----------|-----------|
| 1. 自宅 | 4. 北大学生寮 | 7. シェアハウス |
| 2. アパート・マンション | 5. その他の寮 | 8. その他 |
| 3. 下宿(食事付き)・学生会館 | 6. 親戚・知人宅 | |

Q15 あなたが占有している部屋の広さは何平方メートルですか。

(共同で利用している時は一人あたりとして計算してください)。(ひとつだけ)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 5平方メートル(3畳)以下 | 4. 13平方メートル(8畳)以下 |
| 2. 8平方メートル(4.5畳)以下 | 5. 16平方メートル(10畳)以下 |
| 3. 10平方メートル(6畳)以下 | 6. 16平方メートル(10畳)超 |

Q16 【学生寮に入っていない人】 学生寮に入りたいですか。(ひとつだけ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q17 【学生寮に入りたい人(Q16で「はい」と答えた人)】

学生寮に入りたい理由は何ですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1. 経済的理由 | 3. 友人がほしい | 5. 寮の雰囲気にあこがれる |
| 2. 今の住居が通学に不便 | 4. 勉学・研究に専念できる | 6. 寮に友人がいる |
| | | 7. その他 |

Q18 【学生寮に入りたいくない人(Q16で「いいえ」と答えた人)】

学生寮に入りたいくない理由は何ですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 部屋が狭い | 4. 勉学・研究に専念できない |
| 2. 食事が無い | 5. 住居を移すのが面倒 |
| 3. 集団生活がわずらわしい | 6. その他 |

Q19a~b 以下のそれぞれ時期の主な通学手段は何ですか。

(乗継の場合は、最も距離の長い区間の手段を選んでください)。(ひとつだけ)

a. 普段(春~秋)について

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 徒歩 | 4. オートバイ・スクーター |
| 2. 自転車 | 5. 自動車 |
| 3. 公共交通機関 (地下鉄・バス・市電・JR) | 6. その他 |

b. 冬季について

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 徒歩 | 4. オートバイ・スクーター |
| 2. 自転車 | 5. 自動車 |
| 3. 公共交通機関 (地下鉄・バス・市電・JR) | 6. その他 |

Q20a~b 通学時間はどのくらいですか。(ひとつだけ)

a. 普段(春~秋)の片道について

- | | | |
|-------------|--------------|-----------------|
| 1. 10分未満 | 3. 20~30分未満 | 5. 1時間~1時間30分未満 |
| 2. 10~20分未満 | 4. 30分~1時間未満 | 6. 1時間30分以上 |

b. 冬季の片道について

- | | | |
|-------------|--------------|-----------------|
| 1. 10分未満 | 3. 20~30分未満 | 5. 1時間~1時間30分未満 |
| 2. 10~20分未満 | 4. 30分~1時間未満 | 6. 1時間30分以上 |

Q21a~c 食事は主にどうしていますか。(ひとつだけ)

a. 朝食について

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1. 自宅 (自宅通学者のみ) | 6. 弁当持参 |
| 2. 自炊 | 7. 売店(コンビニ, ファーストフード, 弁当屋等を含む)で購入 |
| 3. 学内の食堂 | 8. 食べない |
| 4. 学外の食堂 | 9. その他 |
| 5. 下宿(食事付き) | |

b. 昼食について

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1. 自宅 (自宅通学者のみ) | 6. 弁当持参 |
| 2. 自炊 | 7. 売店(コンビニ, ファーストフード, 弁当屋等を含む)で購入 |
| 3. 学内の食堂 | 8. 食べない |
| 4. 学外の食堂 | 9. その他 |
| 5. 下宿(食事付き) | |

c. 夕食について

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1. 自宅 (自宅通学者のみ) | 6. 弁当持参 |
| 2. 自炊 | 7. 売店(コンビニ, ファーストフード, 弁当屋等を含む)で購入 |
| 3. 学内の食堂 | 8. 食べない |
| 4. 学外の食堂 | 9. その他 |
| 5. 下宿(食事付き) | |

Q22 学内の食堂を1週間にどの程度利用していますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. ほぼ毎日 | 3. 週1~2回 | 5. 利用しない |
| 2. 週3~4回 | 4. ときどき | |

5. 経済状況について

Q23 あなたの1カ月の平均収入はどのくらいですか。

(仕送り・アルバイト・奨学金等すべての収入の合計。ただし、授業料等の学校納付金を除く)。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 5万円未満 | 3. 7～9万円未満 | 5. 11～13万円未満 |
| 2. 5～7万円未満 | 4. 9～11万円未満 | 6. 13～15万円未満 |
| | | 7. 15万円以上 |

Q24 あなたの1ヵ月あたりの家庭からの援助(授業料等の学校納付金は除く)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q25 あなたの1ヵ月あたりの奨学金(複数の団体から受給している場合は、その合計)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q26 あなたの1ヵ月あたりのアルバイト収入はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q27 あなたの1ヵ月あたりの預貯金切り崩しはどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q28 あなたの1ヵ月あたりのその他の収入(家族以外の援助、配当金など)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q29 あなたの1ヶ月の平均支出はどのくらいですか。

(家賃・光熱水料等も含める。ただし、授業料等の学校納付金を除く)。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 5万円未満 | 3. 7～9万円未満 | 5. 11～13万円未満 |
| 2. 5～7万円未満 | 4. 9～11万円未満 | 6. 13～15万円未満 |
| | | 7. 15万円以上 |

Q30 あなたの1ヵ月当たりの住居費・光熱水費(電気料、水道料、暖房費、家賃等、毎月支払うもの)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q31 あなたの1ヵ月当たりの食費(材料費、外食費等)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3～5万円未満 | 9. 11～13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5～7万円未満 | 10. 13～15万円未満 |
| 3. 5千～1万円未満 | 7. 7～9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1～3万円未満 | 8. 9～11万円未満 | |

Q32 あなたの1ヵ月当たりの修学費(教科書, 参考書, 実習費, 文房具代等。ただし, 授業料等の学校納付金を除く)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q33 あなたの1ヵ月当たりの教養・娯楽費(課外活動費, 旅行費, 交際費, スポーツ・各種娯楽費用等)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q34 あなたの1ヵ月当たりの衣料費はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q35 あなたの1ヵ月当たりの交通費(通学・アルバイトに要する交通費, ガソリン代等)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q36 あなたの1ヵ月当たりの通信費(携帯電話, インターネット等)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q37 あなたの1ヵ月当たりのその他の支出

(理・美容代, 化粧品代, 医療費, 国民年金保険料, 貯金等)はどのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. なし | 5. 3~5万円未満 | 9. 11~13万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 5~7万円未満 | 10. 13~15万円未満 |
| 3. 5千~1万円未満 | 7. 7~9万円未満 | 11. 15万円以上 |
| 4. 1~3万円未満 | 8. 9~11万円未満 | |

Q38 この1年間(平成28年11月~平成29年10月)における研究旅費(学会参加費, 調査旅費等)の総額はいくらくらいでしたか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1. なし | 4. 10~15万円未満 | 7. 25~30万円未満 |
| 2. 5万円未満 | 5. 15~20万円未満 | 8. 30万円以上 |
| 3. 5~10万円未満 | 6. 20~25万円未満 | |

Q39 現在の自分の経済状態をどのように感じていますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|-------|-----------|
| 1. 十分余裕がある | 3. 普通 | 4. やや苦しい |
| 2. やや余裕がある | | 5. 非常に苦しい |

6. アルバイトについて

Q40 現在、どの程度アルバイトをしていますか。(ひとつだけ)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. ほとんど毎日定期的に | 4. 長期休業期間中のみ重点的に |
| 2. 週何日か定期的に | 5. 必要に応じてときどき |
| 3. 日曜日などの休日に限って | 6. 全くしていない |

Q41 【アルバイトをしている人】

どんなアルバイトをしていますか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 家庭教師 | 6. 飲食店店員 |
| 2. 学習塾講師 | 7. 肉体労働 |
| 3. 一般事務 | 8. ティーチングアシスタント, リサーチアシスタント |
| 4. 調査・研究補助(リサーチ・アシスタントを除く) | 9. その他 |
| 5. コンビニ・スーパー等小売店店員 | |

Q42 【アルバイトをしている人】 1週間平均何時間くらいアルバイトをしていますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1. 5時間未満 | 3. 10～15時間未満 | 5. 20～25時間未満 |
| 2. 5～10時間未満 | 4. 15～20時間未満 | 6. 25～30時間未満 |
| | | 7. 30時間以上 |

Q43 【アルバイトをしている人】 アルバイトをする主な理由は何ですか。(ひとつだけ)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 家庭の経済的負担を軽減するため | 4. 家族からできるだけ自立したいため |
| 2. 学業・研究を継続するため | 5. 社会経験のため |
| 3. 小遣い・臨時の支出のため | 6. その他 |

Q44 【アルバイトをしている人】

アルバイトの収入は何に使いましたか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 雑貨(衣料等) | 7. 課外活動費 |
| 2. 食費 | 8. 耐久消費財(家具・家電等)購入費 |
| 3. 住居費(家賃・光熱水料を含む) | 9. 旅行費 |
| 4. 授業料 | 10. 技術・資格等取得の費用 |
| 5. 修学費 | 11. 預貯金 |
| 6. 娯楽・レジャー費 | 12. その他 |

Q45 【現在アルバイトをしていない人(Q40で「全くしていない」と答えた人)】

アルバイトをしていない主な理由は何ですか。(ひとつだけ)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 必要がない(経済的に余裕がある) | 3. やりたいが、時間的余裕がない |
| 2. やりたいが、見つからない | 4. その他(OA入力) |

7. 奨学金・授業料免除等について

Q46 授業料免除(平成29年度前期分)を申請しましたか。(ひとつだけ)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 申請し、前期分全額免除された | 4. 申請したが、不許可だった |
| 2. 申請し、前期分半額免除された | 5. 申請しなかった |
| 3. 申請し、前期分4分の1免除された | |

Q47 現在、奨学金を受けていますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|----------|-------------------|------------|
| 1. 受けている | 2. 応募したが、受けられなかった | 3. 応募しなかった |
|----------|-------------------|------------|

Q48 【奨学金を受けている人】

現在受けている奨学金の種類を選んでください(複数受けている場合は、すべて選んでください)。(いくつでも)

- | | | |
|-----------------|-----------|--------|
| 1. 日本学生支援機構(1種) | 3. 地方公共団体 | 5. その他 |
| 2. 日本学生支援機構(2種) | 4. 民間団体 | |

Q49 現在、日本学術振興会特別研究員の給与を受けていますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|----------|-------------------|------------|
| 1. 受けている | 2. 応募したが、受けられなかった | 3. 応募しなかった |
|----------|-------------------|------------|

8. 研究活動について

Q50a~b 所属している以下の学会はそれぞれいくつですか。(ひとつだけ)

a. 日本の学会について

- | | |
|------------|---------|
| 1. 所属していない | 3. 2つ |
| 2. 1つ | 4. 3つ以上 |

b. 国際学会について

- | | |
|------------|---------|
| 1. 所属していない | 3. 2つ |
| 2. 1つ | 4. 3つ以上 |

Q51a~b 大学院入学後、これまで何回、日本や海外の研究集会・学会等で発表(口頭発表、ポスター発表を含む)しましたか。(ひとつだけ)

a. 日本の研究集会・学会等(日本で開催された国際学会を除く。第一報告者に限る)について

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1. 0回 | 3. 2回 | 5. 4回以上 |
| 2. 1回 | 4. 3回 | |

b. 海外の研究集会・国際学会等(国際学会には日本で開催されたものを含む。第一報告者に限る)について

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1. 0回 | 3. 2回 | 5. 4回以上 |
| 2. 1回 | 4. 3回 | |

Q52 これまでに執筆した論文は何本ありますか(筆頭著者に限る)。(ひとつだけ)

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1. 0本 | 3. 2本 | 5. 4本 |
| 2. 1本 | 4. 3本 | 6. 5本以上 |

Q53 あなたの研究にとって最も有用な外国語について、どの程度マスターしていますか。(ひとつだけ)

1. 読み書き、会話や討論など、ほとんど不自由を感じない
2. 読み書きには不自由しないが、会話は苦手である
3. 読み書きは苦手であるが、会話には不自由しない
4. 読むのはなんとかなるが、作文と会話は苦手である
5. すべてが苦手である

Q54 大学院入学後、海外での調査研究の経験がありますか。(ひとつだけ)

1. ある
2. ない

Q55 大学院入学後、海外留学の経験がありますか。(ひとつだけ)

1. ある
2. ない

Q56 大学院在学期間中、海外留学の機会があれば希望しますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------------|--------------|--------------------|
| 1. 留学したい | 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば留学したくない |
| 2. どちらかといえば留学したい | | 5. 留学したくない |

Q57 【留学したい人】留学期間はどのくらいを希望しますか。(ひとつだけ)

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 1ヵ月未満 | 3. 半年未満 | 5. 1年以上 |
| 2. 3ヵ月未満 | 4. 1年未満 | |

Q58 あなたの研究・学業を進める上で、大学に要望することは何ですか。

主なものを3つまで選んでください。(3つまで)

1. 奨学金の額や採用枠の拡大
2. 研究施設・設備の充実
3. 安全設備の充実
4. 図書館・情報基盤センターなどの共用施設の開館時間の延長や利用規定の拡大
5. 研究旅費(学会旅費・調査旅費)などの補助
6. ティーチングアシスタントやリサーチアシスタントの採用枠の拡大
7. 国内外の他大学との研究交流
8. 官公庁・企業との研究交流
9. 大学院学生用の学生寮設置
10. 授業料、入学料免除枠の拡大
11. その他

9. 学生生活について

Q59a~h 以下の項目にそれぞれの程度満足していますか。(ひとつだけ)

a. 授業について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

b. 教育研究用施設・設備について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

c. その他の施設・設備について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

d. 北大ならびに札幌の生活環境について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

e. 食堂・売店等のサービスについて

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

f. 図書館（電子ジャーナル等のサービスを含む）について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

g. 指導教員との関係について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

h. 窓口の対応について

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 1. 満足 | 3. 普通 | 4. 少し不満 |
| 2. まあまあ満足 | | 5. 不満 |

Q60 研究・自習時間は1日平均どのくらいですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 1. 2時間未満 | 3. 4~6時間未満 | 5. 8~10時間未満 |
| 2. 2~4時間未満 | 4. 6~8時間未満 | 6. 10時間以上 |

Q61 研究・学習を行っている場所はどこですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| 1. 本学の図書館 | 3. 本学の研究室 | 5. 生協食堂 |
| 2. 本学の教室 | 4. 本学の自習室 | 6. 自宅 |
| | | 7. その他 |

Q62 入学時と比べて研究意欲はどうですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1. 高まっている | 2. 変わらない | 3. 減退している |
|-----------|----------|-----------|

Q63 大学で過ごす時間は1日平均何時間ですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 1. 2時間未満 | 3. 4~6時間未満 | 5. 8~10時間未満 |
| 2. 2~4時間未満 | 4. 6~8時間未満 | 6. 10時間以上 |

Q64 仲の良い友人はいますか。(ひとつだけ)
1. いる 2. いない

Q65 【Q64で「いる」と答えた人】

それは主にどのような友人ですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)
1. 同じ研究科等の友人 5. サークル等の仲間
2. 中学校・高等学校時代の友人 6. アルバイトの仲間
3. 学部時代の友人(同じ研究科等の友人を除く) 7. 遊び仲間
4. 下宿・学生寮や近所の友人 8. その他

Q66 教員と親しく話したり、相談したりすることがありますか。(ひとつだけ)
1. ある 2. ない

Q67 【Q66で「ある」と答えた人】

その内容はどのようなものですか。主なものを1つだけ選んでください。(ひとつだけ)
1. 学業 3. 人間関係
2. 就職・進路 4. その他

Q68 【Q66で「ない」と答えた人】

その理由はどのようなものですか。主なものを1つだけ選んでください。(ひとつだけ)
1. 相談や話をしたいがその機会がない 4 必要がない
2. なんとなく話にくい 5 その他
3. 話しても仕方がない

10. 健康について

Q69 最近、身体の調子はどうですか(風邪、けが、虫歯などの一過性のものは除く)。(ひとつだけ)
1. 健康で調子は良い 3. 少し調子が悪い
2. まあまあ調子は良い 4. 調子が悪い

Q70 【Q69で「少し調子が悪い」「調子が悪い」と答えた人】

継続的に治療を受けるため、病院に通院をしていますか。(ひとつだけ)
1. はい 2. いいえ

Q71 現在、悩みや不安がありますか。(ひとつだけ)

1. とてもある 3. あまりない
2. 少しある 4. 特にない

Q72 【悩みや不安がある人(Q71で「とてもある」「少しある」と答えた人)】

悩みや不安の原因と思うものは何ですか。主なものを3つまで選んでください。(3つまで)
1. 健康上の問題 5. 課外活動 9. 家族・家庭
2. 学業・成績 6. 人生・生き方 10. 性格・適性
3. 研究 7. 恋愛 11. 経済的問題
4. 進路・就職 8. 人間関係 12. その他

Q73 【悩みや不安がある人(Q71で「とてもある」「少しある」と答えた人)】

悩みや不安についての相談相手は誰ですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)
1. 家族 7. ピア・サポート室
2. 北大の友人・先輩 8. 保健センター
3. その他の友人・知人 9. 一般の医療機関
4. 研究科の学生相談員 10. 相談できる相手はいない
5. 北大の教員(学生相談員以外) 11. 相談相手は不要(自分で解決)
6. 学生相談室 12. その他

Q74 保健センターで健康相談やカウンセリングを受けられることを知っていますか。(ひとつだけ)

1. はい 2. いいえ

11. ハラスメント, カルト宗教等について

Q75 大学院入学後, 学内外で, 他の人が被害にあったのを見たり聞いたりしたことがあるものについて, 該当するものをすべて選んでください。(いくつでも)

1. セクシュアル・ハラスメント
2. アカデミック・ハラスメント
(教員やティーチングアシスタントから, その立場を利用した学業上の嫌がらせや不利益を受けること)
3. カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘
4. 違法・脱法薬物の勧誘
5. ストーカー被害
6. 飲酒の強要
7. その他
8. 該当なし

Q76 大学院入学後, 学内外で被害にあったことがあるものについて, 該当するものをすべて選んでください。(いくつでも)

1. セクシュアル・ハラスメント
2. アカデミック・ハラスメント
(教員やティーチングアシスタントから, その立場を利用した学業上の嫌がらせや不利益を受けること)
3. カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘
4. 違法・脱法薬物の勧誘
5. ストーカー被害
6. 飲酒の強要
7. その他
8. 該当なし

Q77 以下の学生相談窓口のうち, 知っているものをすべて選んでください。(いくつでも)

1. 学生相談室
2. ハラスメント相談室
3. ピア・サポート室
4. 特別修学支援室
5. すべて知らない

12. 進路について

Q78 現在の課程修了後, どのような進路を希望していますか。(いくつでも)

1. 就職
2. 北大大学院(博士後期課程)に進学
3. その他の大学院(博士後期課程)に進学
4. 転入学(学士入学・他大学大学院修士課程への入学を含む)
5. 海外留学
6. 決めていない
7. その他

Q79 【修士課程在籍者で博士後期課程に進学を希望しない者のみ回答】

大学院(博士後期課程)に進学しない理由は何ですか。(いくつでも)

1. 経済的に困難
2. 就職に対する不安
3. 博士の社会的評価が低い
4. 社会に出て活躍したい
5. その他

Q80 将来, どのような職業に就きたいですか。主なものを3つまで選んでください。(3つまで)

1. 大学・官公庁等の教育・研究職
2. 学校教員(大学を除く)
3. 公務員(教育・研究職, 学校教員を除く)
4. 企業等の技術・研究職
5. 企業等の総合職・営業職・一般職
6. 専門職(医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業)
7. 自営業(家業を継ぐ場合も含む)
8. まだ考えていない
9. その他

Q81 大学院修了後の就職に際して, 重要視するものは何ですか。主なものを3つまで選んでください。(3つまで)

1. 収入
2. 専門性(職種)
3. 業種
4. 勤務地
5. 安定性
6. 将来性
7. 社会的意義・使命
8. 勤務体系・労働時間等
9. 福利厚生
10. 自分の適性
11. 自己開発の可能性
12. 職場の雰囲気
13. その他

Q82 大学院修了後の就職希望地域は次のうちどこですか。主なものを2つまで選んでください。(2つまで)

- | | | |
|----------------|----------|--------------------|
| 1. 札幌 | 5. 信越・北陸 | 9. 四国 |
| 2. 北海道内(札幌を除く) | 6. 東海 | 10. 九州・沖縄 |
| 3. 東北 | 7. 近畿 | 11. 国内ならどこでもよい |
| 4. 関東 | 8. 中国 | 12. 海外 |
| | | 13. 国内外を問わず、どこでもよい |

Q83 大学院入学後、インターンシップに参加したことがありますか。(ひとつだけ)

1. はい
2. いいえ

Q84 大学院入学後、大学の就職支援制度(キャリアセンターやS-cubic等)を利用したことがありますか。(ひとつだけ)

1. ある、または今後利用するつもりである
2. ない(知らない)
3. ない(知っているが利用しなかった、あるいは利用するつもりはない)

13. 自由記述

北海道大学に対する今後の期待・要望等がありましたら具体的に記入してください。

Q85 教育・授業に関すること

Q86 施設・設備に関すること

Q87 学生支援(経済支援・研究支援・就職支援等)に関すること

Q88 食堂・売店等のサービスに関すること

Q89 その他

Q90 最後に、学生生活実態調査に対する意見・要望がありましたら具体的に記入してください